

差出人ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條 通常爲替ノ差出人拂渡郵便局所又ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ振出及拂渡郵便局所名、爲替證書記號番號、爲替金額及拂渡又ハ拂戻ヲ受ケムトスル郵便局所名ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且ツ通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

第三十六條 通常爲替ノ受取人拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ振出及拂渡郵便局所名、爲替證書記號番號、爲替金額及拂渡ヲ受ケムトスル郵便局所名ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且ツ通常爲替證書ヲ呈示スヘシ

第三十七條 前二條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替一口ニ付金六錢ヲ納付スヘシ

第三十八條 郵便局所ニ於テ拂渡又ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ認可スルトキ又ハ既ニ爲替金ノ拂渡若ハ拂戻ヲ爲シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ請求者ニ通知ス

第三章 電信爲替

第三十九條 電信爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ電信爲替振出請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ差出人及受取人ノ宿所氏名ニ片假名文字ヲ附記シ之ニ爲替金及爲替料ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ電信爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

人及受取人ノ宿所氏名ニ片假名文字ヲ附記シ之ニ爲替金及爲替料ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ電信爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

第四十條 電信爲替ハ振出郵便局所ニ於テ電信ニ依リ爲替金額、受取人ノ宿所氏名及差出人ノ氏名ヲ拂渡郵便局所ニ通報ス但シ電信ヲ取扱ハサル郵便局所ニ在リテハ該通報ハ郵便接續ノ方法ニ依ル

前項ノ通報ハ差出人ニ於テ至急電報ノ取扱又ハ郵便接續ノ場合ニ於テ別配達ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別ニ其ノ料金トシテ至急電報ノ取扱ニ對シテハ金四十錢別配達ノ取扱ニ對シテハ郵便別配達料ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第四十一條 拂渡郵便局所ニ於テ前條ノ爲替電報ヲ受ケタルトキハ之ニヨリ電信爲替證書ヲ作り之ヲ受取人ニ送達ス

但シ郵便集配事務ヲ取扱ハサル郵便局所ニ於テ拂渡スヘキモノナルトキハ其ノ附近ニ在ル郵便集配事務及郵便爲替事務ヲ取扱フ郵便局所ニ於テ本文ノ手續ヲ爲ス(二十七年通信省令第三十三號ヲ以テ但書追加)

差出人ハ爲替振出ノ際電信爲替證書ノ別配達ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便別配

達料ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第四十二條 第二章ノ規定ハ第十二條乃至第十五條ヲ除クノ外之ヲ電信爲替ニ準用ス

第四章 小爲替

第四十三條 小爲替ノ差出人ハ爲替金及爲替料ヲ郵便局所ニ差出シ小爲替證書及小爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

第四十四條 小爲替ノ差出人ハ小爲替證書相當欄ニ拂渡郵便局所名及受取人ノ宿所氏名ヲ記入スヘシ但シ小爲替證書持參人ヲシテ爲替金ノ拂渡ヲ受ケシメムトスルトキ又ハ隨意ノ郵便局所ニ於テ其ノ拂渡ヲ受ケシメムトスルトキハ受取人宿所氏名又ハ拂渡郵便局所名ノ記入ヲ省略スルコトヲ得

第四十五條 小爲替ノ差出人拂渡郵便局所又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變更シ若ハ其ノ指定ヲ取消サムトスルトキハ小爲替證書及小爲替金受領證書ヲ郵便局所ニ呈示シ其ノ認可ノ證印ヲ受クヘシ

第四十六條 小爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ小爲替證書ニ宿所氏名ヲ記載シ調印ノ上之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

第四十七條 小爲替證書ニシテ左ノ事項判明ナラサルモノハ毀損汚斑シタルモノトス

- 一 爲替金額
- 一 爲替證書ノ記號番號
- 三 受取人及拂渡郵便局所ノ指定欄
- 四 爲替證書ノ日附

第四十八條 小爲替證書亡失ノ場合ニ於テハ其ノ發行ノ日ヨリ百五十日ヲ經過シタル後ニ非サレハ爲替金ノ拂戻ヲ爲サス但シ相當保證人ヲ立テ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十九條 第二十二條乃至第二十四條第二十六條第三十條第二項及第三十一條ノ規定ハ之ヲ小爲替金ノ拂渡及拂戻ニ又第三十四條第三十五條及第三十八條ノ規定ハ小爲替金拂戻郵便局所ノ變更ニ之ヲ準用ス但シ第三十條第二項ノ場合ニ於テハ尙差出人ノ宿所ヲ記入スヘシ又第三十條第二項第三十一條及第三十五條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ小爲替一口ニ付金三錢ヲ納付スヘシ

第五章 再度證書

第五十條 郵便爲替ノ差出人又ハ受取人郵便爲替證書有

效期間經過ノ爲再度證書ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ再度證書請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證書ヲ受取ルヘシ
前項ノ請求書ニハ有効期間經過ノ郵便爲替證書ヲ添附差出スヘシ

第五十一條 郵便爲替ノ差出人郵便爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル爲再度證書ヲ請求セムトスルトキハ郵便爲替金受領證書ヲ差出シ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

郵便爲替ノ受取人前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ相當保證人ヲ立テ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十二條 前二條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付通常爲替又ハ電信爲替ハ金六錢小爲替ハ金三錢ヲ納付スヘシ

第五十三條 再度證書ノ請求者再度證書發行ノ通知ヲ受ケタルトキハ再度證書請求書ノ受領證書ヲ其ノ指定シタル郵便局所ニ差出シ再度證書ノ交付ヲ受クヘシ

第五十四條 小爲替證書ノ亡失ニ因ル再度證書ノ請求ニ對シテハ其ノ發行ノ日ヨリ百五十日ヲ經過シタル後ニ非サレハ再度證書ヲ發行セス但シ相當保證人ヲ立テ請

第七章 郵便爲替金居宅拂

第六十條 郵便爲替ノ差出人又ハ受取人ハ爲替金ノ居宅拂ヲ請求スルコトヲ得但シ差出人ハ爲替振出後ニ於テ又ハ小爲替受取人ノ爲ニ本條ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス郵便爲替金ノ居宅拂渡ヲ取扱フヘキ郵便局所及區域ハ別ニ之ヲ告示ス

第六十一條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付通常爲替又ハ電信爲替ハ金四錢小爲替ハ金二錢ヲ納付スヘシ

第六十二條 郵便爲替振出ノ際爲替金居宅拂ヲ請求シタル郵便爲替證書ニハ郵便局所ニ於テ相當證印ヲ押捺ス

第六十三條 郵便爲替ノ受取人爲替金ノ居宅拂ヲ請求セムトスルトキハ其ノ宿所氏名、郵便爲替種別、證書記號番號及爲替金額ヲ記載シタル居宅拂請求書ヲ作リ之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

前項請求書ハ無料郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該請求書封入ノ郵便物封皮ニ爲替事務ト明記スヘシ

第六十四條 郵便爲替金居宅拂ハ差出人ノ請求ニ係ルト

求スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六章 郵便爲替金拂渡通知

第五十五條 郵便爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際郵便又ハ電信ニ依ル郵便爲替金拂渡通知ヲ請求スルコトヲ得小爲替差出人前項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ宿所氏名ヲ申出ツヘシ

第五十六條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第五十七條 郵便爲替金拂渡通知ノ請求アル郵便爲替證書ニハ郵便局所ニ於テ相當證印ヲ押捺シ且小爲替ナルトキハ證書餘白ニ差出人ノ宿所氏名ヲ記入ス

第五十八條 郵便爲替ノ受取人郵便ニ依ル拂渡通知ヲ要スル爲替金ヲ受取ルトキハ郵便爲替金拂渡通知書ニ記名調印スヘシ

第五十九條 拂渡郵便局所ニ於テ拂渡通知ヲ要スル郵便爲替金ヲ拂渡シタルトキハ郵便ニ依ルモノハ前條ノ通知書ヲ差出人ニ送付シ電信ニ依ルモノハ電報ニ依リ振出郵便局所ヲ經テ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

キハ其ノ拂渡郵便局所ニ通常爲替振出請求書又ハ爲替電報ノ到着シタル日ヨリ又受取人ノ請求ニ係ルトキハ居宅拂請求書受附ノ日ヨリ遅クモ三日以内ニ之ヲ爲ス但シ第二十二條ノ事故アリテ本條ノ期間内ニ拂渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ受取人ニ通知ス

第六十五條 郵便爲替ノ受取人不在其ノ他ノ事故ニ依リ居宅拂ヲ了スルコト能ハサルトキハ第二回拂渡月日ヲ豫告シ更ニ其ノ豫告日ニ於テ第二回ノ居宅拂ヲ爲ス

第六十六條 郵便爲替ノ受取人拂渡郵便局所ノ郵便爲替金居宅拂取扱區域外ニ轉居シタルトキ郵便爲替證書ノ效用ヲ失ヒタルトキ又ハ第二回居宅拂ノ場合ニ於テ前條ノ事故ニ依リ爲替金ノ拂渡ヲ了スルコト能ハサルトキハ爲替金居宅拂ノ請求ハ其ノ效ヲ失フ

第六十七條 郵便爲替ノ受取人ハ自己又ハ差出人ニ於テ爲替金ノ居宅拂ヲ請求シタルトキ雖拂渡郵便局所ニ就キ爲替金ノ拂渡ヲ受クルコトヲ妨ケス

第六十八條 本章ノ規定ハ郵便爲替金拂戻ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

第六十九條 本規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十八年(九月)農商務省告示第二十號郵便爲替細則
同二十年(六月)逓信省告示第十七號郵便小爲替規定
同三十二年(十一月)逓信省令第五十一號郵便爲替金居
宅拂規則ハ之ヲ廢止ス

●郵便振替貯金規則 (明治三十九年一月 逓信省令第三號)

- 第一章 總則
- 第二章 口座加入及脱退
- 第三章 拂込及拂出
- 第一節 總則
- 第二節 拂込
- 第三節 拂出

郵便振替貯金規則

第一章 總則

第一條 振替計算ノ爲ニスル郵便貯金ハ之ヲ郵便振替貯金ト稱ス

第二條 郵便振替貯金ハ左ノ取扱ヲ爲スモノトス

- 一 加入者又ハ加入者以外ノ者ヨリ當該加入者ノ口座ニ對スル現金又ハ所定ノ證券ニ依ル拂込ヲ受入ルルコト
- 二 加入者ノ請求ニ依リ加入者口座相互間ニ於テ貯金ノ振替受拂ヲ爲スコト

三 加入者ノ請求ニ依リ加入者又ハ加入者以外ノ者ニ當該口座ノ貯金ヨリ現金ノ拂渡ヲ爲スコト

第三條 振替貯金ノ振替計算事務ハ郵便爲替貯金管理所ニ於テ之ヲ取扱フ

第四條 振替貯金ニ對シテハ口座受入ノ翌月ヨリ口座拂出ノ前月マテ之ニ利子ヲ付ス但シ基本預金及一圓未満ノ端數ニ對シテハ利子ヲ計算セス

第五條 加入者ノ請求ニ依リ現金拂渡ノ爲當該口座ノ貯金ヲ拂出ストキハ左ノ割合ニ依ル料金を其ノ口座ヨリ差引徴收ス此ノ場合ニ於テハ前條ノ料金ハ之ヲ徴收セス

第六條 加入者ノ請求ニ依リ現金拂渡ノ爲當該口座ノ貯金ヲ拂出ストキハ左ノ割合ニ依ル料金を其ノ口座ヨリ差引徴收ス此ノ場合ニ於テハ前條ノ料金ハ之ヲ徴收セス

第九年逓信省令第五十號ヲ以テ條中改正

十圓迄 五錢
五十圓迄 十錢
百圓迄 十五錢

第二章 口座加入及脱退

第九條 振替貯金ノ口座ニ加入セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル加入請求書ヲ調製シ之ニ基本預金二十圓ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ基本預金ニ對スル受領證ヲ受取ルヘシ但シ官公署ヨリ加入請求ノ場合ニ於テハ基本預金ノ拂込ヲ要セス

- 一 加入者ノ住所氏名
- 二 加入者ノ職業
- 三 拂込書及拂出書用紙ノ所要數量

第十條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ請求ヲ承認シタルトキハ請求人ニ對シ其ノ口座番號ヲ通知シ且印鑑票用紙ヲ送付ス

第十一條 加入者印章ヲ變更シタルトキハ印鑑票用紙ノ交付ヲ郵便爲替貯金管理所ニ請求スヘシ此ノ場合ニ於

第十二條 加入者印章ヲ變更シタルトキハ印鑑票用紙ノ交付ヲ郵便爲替貯金管理所ニ請求スヘシ此ノ場合ニ於

五百圓迄 三十錢
千圓迄 五十錢

第七條 國庫ノ計算ニ屬スル官署ノ口座ニ對シテハ前二條ノ料金ヲ徴收セス

第七條ノ二 振替貯金ノ口座ハ讓受人ニ於テ當該口座ニ屬スル一切ノ權利及義務ヲ承繼スル場合ニ限リ之ヲ讓渡スコトヲ得

前項ニ依リ讓渡ヲ爲サムトスルトキハ讓渡人及讓受人連署ノ上口座ノ名義書換ヲ郵便爲替貯金管理所ニ請求スヘシ

郵便爲替貯金管理所ニ於テ前項ノ請求ヲ承認シタルトキハ當該口座ノ名義ヲ書換ヘタル上讓受人ニ對シ其ノ旨ヲ通知シ且印鑑票用紙ヲ送付ス

讓受人前項印鑑票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ相當事項ヲ記載シ且振替貯金ニ關シ使用スヘキ印章ヲ鮮明ニ押捺シ免料書留郵便ニ依リ速ニ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ (三十九年逓信省令第二十九號ヲ以テ追加)

第八條 郵便貯金規則第六條、第七條、第十五條、第十七條、第二十四條、第四十一條ノ規定ハ之ヲ振替貯金ニ準用ス

テハ其ノ請求書ニ記名調印ノ上之ヲ郵便局所ニ差出シ且其ノ書用紙及最近ニ送付ヲ受ケタル受拂通知票ノ呈票又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ正當加入者タルコトヲ證明スヘシ

郵便爲替貯金管理所ヨリ印鑑票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ前條ノ例ニ依リ記載調印シ之ヲ同所ニ送付スヘシ

第十二條 加入者口座ヨリ脱退セムトスルトキハ適宜ノ用紙ヲ以テ脱退請求書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

加入者前項ノ請求ヲ爲シタル後ハ貯金ノ拂出ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ公示シ公示ノ日ヨリ少クモ一箇月ヲ經過シタル後ニ於テ脱退者ノ口座ヲ決算シ基本預金及貯金殘額ニ對シテハ振替貯金拂出證書ヲ調製シ之ヲ脱退者ニ送達ス此ノ場合ニ於テハ基本預金以外ノ貯金殘額ニ對シ第六條ノ割合ニ依ル料金ヲ其ノ貯金ヨリ差引徵收ス但シ拂出スヘキ金額千圓ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ對シ五百圓迄毎二十五錢ヲ加徵ス

ハ之ヲ其ノ拂込人ニ返戻ス

第三章 拂込及拂出

第一節 通則

第十四條 振替貯金ノ口座ニ對スル拂込及拂出ハ拂込書及拂出書用紙ヲ使用スヘシ

拂込書用紙ハ郵便局所ニ於テ必要ニ應シ當該拂込入ニ無料ニテ之ヲ交付ス

拂出書用紙ハ郵便爲替貯金管理所ニ於テ其ノ相當欄ニ加入者ノ口座番號及住所氏名ヲ印刷シ當該加入者ニ之ヲ賣捌クモノトス

加入者ハ自己ノ口座ニ對スル拂込ノ用ニ供スル爲豫メ自己ノ口座番號及住所氏名ヲ印刷シタル拂込書用紙ノ賣渡ヲ郵便爲替貯金管理所ニ請求スルコトヲ得

前二項ニ依リ賣捌ク用紙ノ價格ハ別ニ之ヲ告示ス其ノ賣捌ニ係ル用紙代金ハ第九條ノ場合ヲ除クノ外當該加入者ノ口座ヨリ差引徵收ス(三十九年通信省令第二十九號ヲ以テ改正)

第十五條 拂込書及拂出書ニハ其ノ相當欄ニ拂込人及拂出人ニ於テ相手加入者ニ對スル通信文ヲ記載スルコトヲ得但シ現金ノ拂渡ヲ請求スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 拂込書及拂出書ニ表示スル金額ハ其ノ字體ヲ

正確ニ記載シ一二三十ノ數字ハ壹貳叁拾ノ文字ヲ用フヘシ

第十七條 拂込書拂出書ニシテ前條ノ規定ニ違反シタルモノ、毀損汚斑ノ爲不判明トナリタルモノ又ハ其ノ記載事項ヲ塗抹改竄シタル痕跡アルモノハ郵便官署ニ於テ之ヲ受理セス但シ金高及日附ヲ除クノ外他ノ記載事項ノ誤記ニ對シ當該拂込人又ハ拂出人ニ於テ證明ヲ押捺シテ之ヲ訂正シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ加入者ノ口座ニ對シ受入又ハ拂出ヲ爲シタルトキハ其ノ受拂高及現在高ヲ表示スル受拂通知票ヲ調製シ即日之ヲ當該加入者ニ發送ス

前項ノ貯金現在高ニハ基本預金ヲ算入ス

第二節 拂込

第十九條 振替貯金ノ口座ニ對シ現金ノ拂込ヲ爲サムトスル者ハ拂込書用紙ニ依リ其ノ拂込票及拂込通知票ニ拂込ヲ受クヘキ加入者ノ口座番號及氏名、拂込金額、拂込人ノ住所氏名及拂込年月日ヲ記載シ之ニ現金ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ其ノ受領票ヲ受取ルヘシ(三十九年通信省令第二十九號ヲ以テ改正)

第二十條 郵便局所ニ於テ前條ノ拂込金ヲ受領シタルト

キハ其ノ拂込書ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付ス

郵便爲替貯金管理所ニ於テハ前項ノ拂込書ニ依リ當該加入者ノ口座ニ拂込金ヲ記入シ拂込通知票ハ當日ノ受拂通知票ト共ニ之ヲ加入者ニ送付ス

第二十一條 郵便爲替貯金、郵便取立金取立濟通知書及中央金庫ニ於テ拂渡スヘキ仕拂命令券ハ第十九條ノ例ニ準シ之ヲ振替貯金ニ拂込ムコトヲ得但シ郵便取立金取立濟通知書ニ依リ拂込ム場合ハ取立金送達料ニ相當スル郵便切手ヲ其ノ通知書ニ貼付スヘシ

第二十二條 加入者ハ郵便取立金ノ拂渡ヲ受クヘキ郵便局所ニ對シ豫メ自己ノ口座ニ其ノ取立金ノ振替拂込ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拂込書用紙ノ相當數量ヲ當該局所ニ差出シ置クヘシ

前項ノ郵便局所ニ於テハ郵便取立金到着ノ都度加入者ノ請求ヲ待タズ直ニ之ヲ當該口座ニ振替拂込ノ手續ヲ爲シ其ノ取立金送達料ハ當該加入者ノ口座ヨリ差引徵收ス

第三節 拂出

第二十三條 加入者ハ郵便爲替貯金管理所ヨリ最近送付ニ係ル受拂通知票ニ表示セル貯金現在高ヲ超過セサル限度ニ於テ之ヲ拂出ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 加入者自己ノ貯金ヲ拂出シ之ヲ他ノ加入者ノ口座ニ振替ヘムトスルトキハ拂出書用紙ニ依リ其ノ拂出票及拂出通知票ニ拂出金額、振替拂込ヲ受クヘキ加入者ノ口座番章及氏名等ヲ記載シ調印ノ上免料普通郵便ニ依リ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第二十五條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條拂出書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ氏名印影ヲ印鑑票ニ對照シ相違ナキヲ確メタル上當該口座ヨリ貯金拂出ノ手續ヲ爲シ更ニ指定加入者ノ口座ニ之ヲ受入レ拂出通知票ハ當日ノ受拂通知票ト共ニ之ヲ拂込ヲ受ケタル加入者ニ送付ス

第二十五條ノ二 振替貯金ノ口座ニ加入セル銀行ハ其ノ貯金ヲ日本銀行ニ於ケル自行ノ當座勘定口ニ振替ノ爲メ第二十四條ノ手續ニ準シ之ヲ拂出ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拂出票及拂出通知票ノ指定受取人欄ニ日本銀行當座勘定口ノ文字ヲ記載スヘシ

前項ノ拂出ニ對シテハ金高ニ拘ラス一口ニ付金二錢ヲ當該加入銀行ノ口座ヨリ差引徴收ス

第二十五條ノ三 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ第二十五條ノ例ニ依リ口座拂出ノ手續ヲ爲シタル上各銀行ノ請求ヲ取纏メ其ノ總額ニ對シ

日本銀行ハ支拂フヘキ振替貯金拂出證書ヲ調製シ各銀行ヨリ提出セル拂出通知票ト共ニ之ヲ日本銀行ニ送付ス

日本銀行ニ於テ前項拂出證書ニ對スル拂出金ノ拂渡ヲ受ケタルトキハ之ヲ當該各銀行ノ當座勘定口ニ振替受入ルルモノトス

第二十六條 加入者自己ノ貯金ヲ拂出シ自ラ其ノ現金ヲ受領シ若ハ他人ニ之ヲ拂渡サムトスルトキハ拂出票及拂出通知票ニ拂出金額、現金受領者ノ住所氏名及拂渡郵便局所名ヲ記載シ尙現金拂ノ文字ヲ附記シ調印ノ上免料普通郵便ニ依リ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第二十七條 前條ノ現金拂出書一枚ノ金額ハ千圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十八條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ現金拂出書ノ送付ヲ受ケタルトキハ第二十五條ノ例ニ依リ口座拂出ノ手續ヲ爲シタル上振替貯金拂出證書ヲ調製シ之ヲ現金受取人ニ送達シ拂出通知票ハ之ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス

第二十九條 受取人前條拂出證書ニ對スル現金ノ拂渡ヲ受ケムトスルトキハ其ノ相當ノ部ニ記名調印ノ上之ヲ

●郵便振替貯金ノ拂込ニ私製ノ拂込書用紙ヲ使用スルコトヲ得ルノ件

(明治三十九年二月逓信省令六號)

前項ノ用紙ハ郵便爲替貯金管理所發行ノモノト同様ニシテ其相當欄ニ加入者ノ住所氏名及口座番號ヲ印刷シタルモノナルコトヲ要ス但シ其裏面餘白ニハ通信文ノ性質ヲ有セサル廣告其ノ他ノ事項ヲ印刷スルコトヲ得

●電信法 (明治三十三年三月法律第五十九號)

- 第一條 電信及電話ハ政府之ヲ管掌ス
- 第二條 左ニ掲クル電信又ハ電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ私設スルコトヲ得
 - 一 一邸宅内若ハ一構内ニ於テ専用ニ供スル爲施設スルモノ
 - 二 鐵道業其ノ他電信電話ノ専用ヲ必要トスル事業ノ爲施設スルモノ
 - 三 公共團體ノ事務執行ノ爲一市區町村内若ハ鄰接市區町村間ニ於テ公署相互間又ハ一郡市區内ニ於テ公署ト第一次監督官廳トノ間ニ市設スルモノ
 - 四 電報送受ノ目的ヲ以テ一人ノ専用ニ供スル爲電信

●拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

拂渡郵便局所ハ受取人ニ左ノ事項ヲ尋問シ拂出通知票ニ記載シタル事項ト符合スルヲ認メ現金ヲ交付ス

- 一 拂出人ノ住所氏名
- 二 受取人ノ住所氏名

第三十條 加入者ハ東京郵便局ヲ拂渡局ニ指定シ局待拂ノ拂出書ヲ振出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拂出書ニ局待拂ノ文字ヲ附記スヘシ (三十九年逓信省令第六號ヲ以テ條中改正)

前項ノ郵便局ニ於テハ拂出書ニ對シ相當調査ノ上受取人ニ即時現金ヲ交付ス

第三十一條 局待拂拂出書ハ其ノ日附ヨリ起算シ一週間ヲ經過シタルモノハ郵便局所ニ於テ之ヲ受理セス

第三十二條 振替貯金拂出證書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日附ヨリ起算シ三十日トス

第三十三條 郵便貯金規則第六十五條乃至第七十六條ノ規定ハ之ヲ振替貯金ニ準用ス

附則

第三十四條 本規則ハ明治三十九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

官署トノ間ニ施設スルモノ

五 一市區町村内若ハ鄰接市區町村間ニ於テ又ハ電信ノ連絡ナク且第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ於テ一人又ハ一營業ノ専用ニ供スル爲施設スルモノ

第三條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ電信又ハ電話ニ依ル通信ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第五條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ於テ之ヲ停止スルコトヲ得

第六條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用車馬等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ難キ場合ニ於テ塙壁又ハ柵欄ナキ宅地田畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ

損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第七條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ電信又ハ電話ノ工夫配達人若ハ吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ政府ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第八條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ工夫及配達人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第九條 政府ハ電信又ハ電話ノ用ニ供スル爲鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ使用シ必要アルトキハ建物ノ建築又ハ改築ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十條 政府カ鐵道用地内ニ電信線又ハ電話線ヲ施設シタルトキハ使用料ヲ支給ス

第十一條 電信若ハ電話専用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得

前項専用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受ルコトナシ

第十二條 電信又ハ電話取扱ニ關シ電信官署又ハ電話官署ニ對シテ無能力者ノ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十三條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十四條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限り發信人ノ請求ニ因リ其ノ送達ヲ停止スルコトヲ得

第十五條 宛所ニ配達シ又ハ受信人ニ交付シ得サル電報ハ之ヲ公示シ其ノ公示ノ日ヨリ三十日間ニ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ棄却ス

第十六條 電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ發信人ニ對シ其ノ電報ニ用キタル祕辭隱語ノ説明ヲ求ムルコトヲ得發信人若其ノ説明ヲ拒ミタルトキハ其ノ電報ノ取扱ヲ拒絶ス

第十七條 電信又ハ電話ニ關スル料金及電信又ハ電話ニ依ル通信ノ取扱ニ必要ナル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 電信又ハ電話ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第十九條 發信人ニ於テ前納スヘキ電信ニ關スル料金ニ不足アルトキハ受信人ヨリ其ノ不足額ノ二倍ノ料金ヲ

徴收ス

第二十條 電信又ハ電話ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月内ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ依リテ消滅ス

第二十一條 電信又ハ電話ニ關スル料金ノ不納金額ハ電信官署又ハ電話官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收ス

前項ノ不納金額ニ付電信官署又ハ電話官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十二條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務又ハ氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第二十三條 電信又ハ電話ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第二十四條 電信又ハ電話ノ取扱ニ關シテハ政府ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第二十五條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ對シ其ノ事實アリタル日ヨリ三箇月間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第二十六條 電信官署若ハ電話官署ノ賠償又ハ報酬ニ關

スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十七條 權利ナクシテ電信若ハ電話ヲ施設シタル者又ハ權利ヲ失ヒタル後主務官署ノ指定シタル期間内ニ私設ノ電信若ハ電話ヲ撤去セサル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ電信線又ハ電話線及電信又ハ電話ノ機器ヲ沒收ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ電信又ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス
第一項ノ電信又ハ電話ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第三條第一項ニ依ル場合ヲ除クノ外私設ノ電信若ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シタル者又ハ其ノ施設者ニアラスシテ之ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第二十九條 第三條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ電信若ハ電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第九條第一項ノ場

合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ用地、建物ノ使用ヲ拒ミ若ハ建物ノ建築改築ヲ爲ササル者ハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第六條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第七條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第八條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ理由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第三十一條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信ノ秘密ヲ侵シタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
第三十二條 不正ノ手段ヲ以テ電信又ハ電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十三條 自己若ハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ虛偽ノ電報ヲ發シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ場合ニ於テ電信爲替ニ要スヘキ電報ニ係ルトキハ輕懲役ニ處ス
電信事務ニ從事スル者前二項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十四條 電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル電信又ハ電話ノ用紙ニ貼用シタル郵便切手ヲ剝脱シタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲ササルモノニ關シテハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷ス

第三十五條 電信官署ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ知リテ之ヲ受取リタル者又ハ其ノ傳送配達ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
電信事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十六條 電信若ハ電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ其ノ通信ノ取扱ヲ拒絕シ又ハ其ノ傳送ヲ遲延セシメタルトキハ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十七條 電信線又ハ電話線其ノ他電信又ハ電話ノ機器建造物ヲ毀損シ若ハ通信ヲ障礙シタル者ハ一月以上

五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
過失ニ因リ通信ヲ障礙シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 電信線若ハ電話線ノ建築修理又ハ線路ノ巡視測量ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三十九條 電信、電話ノ線條若ハ其ノ支持物ニ物品ヲ懸ケ若ハ擲チ又ハ之ニ動物若ハ舟筏ヲ繋キ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ科料ニ處ス

電信又ハ電話線路ノ測量標ヲ毀棄汚穢シタル者亦同シ
第四十條 主務官署ノ指定シタル水底電信線路若ハ水底電信線路ノ區域内ニ於テ船舶ヲ繋留シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ水底電信線若ハ水底電話線ノ號標ニ舟筏ヲ繋キ又ハ其ノ號標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

水底電信線若ハ水底電話線ノ布設若ハ修理ノ爲其ノ位置ヲ示スヘキ浮標又ハ其ノ布設若ハ修理ニ從事スル船舶ヨリ主務官署ノ指定シタル距離以内ニ於テ前項ノ所爲ヲ爲シ若ハ航行シタル者亦同シ
第四十一條 第三十二條ヲ除クノ外前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ

例ニ照シテ處斷ス

第四十二條 法人ノ業務ニ關シ其ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス但シ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキ場合ニ於テハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告トス

法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第四十三條 公衆通信又ハ第三條第一項ニ依リ現ニ軍事通信ノ用ニ供スル私設ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第九條ヲ除クノ外本法中政府ノ施設ニ係ル電信又ハ電話ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十四條 電信又ハ電話ニ非スト雖通報信號ヲ爲スモニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十五條 帝國外國間ニ於ケル電信ニ關シ別ニ法令條約又ハ特許ノ條款ニ明文アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附則

第四十六條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

電信條例ハ之ヲ廢止ス

●電報規則

(明治三十三年九月遞信省令第四十六號)

- 第一章 總則
- 第二章 電報書法
- 第三章 字數及語數計算
- 第四章 料金
- 第五章 電報差出
- 第六章 電報託送
- 第七章 電報運送
- 第八章 尋問改正及停止
- 第九章 閱覽正寫
- 第十章 特別電報
- 第十一章 至急電報
- 第十二章 返信料前納電報
- 第十三節 照校電報

- 第四節 受信電報
- 第五節 追尾電報
- 第六節 再送電報
- 第七節 同文電報
- 第八節 外國郵送電報

第一章 總則

第一條 電報ヲ別テ左ノ三種トス

- 一 官報
- 二 局報
- 三 私報

第二條 官報トハ官廳及地方自治體ノ公信並外國ノ首長皇族大臣陸海軍將帥、公使、領事ヨリ發スル電報ヲ云フ但シ商人ニシテ領事ノ事務ヲ扱フ者ヨリ發スル電報ハ官報發出ノ資格アル者ニ宛テ且官用ニ關スルモノニ非サレハ之ヲ官報ト爲サス

國庫金取扱ニ關シ金庫ヨリ發スル電報並戰時事變ニ際シ日本赤十字社又ハ軍事輸送ノ爲政府ノ使用ニ供スル船舶若ハ鐵道ノ所有者ヨリ發スル電報ハ遞信大臣ノ承認ヲ經テ官報ト爲スコトヲ得官報發送ノ資格ナキモノト雖受取タル官報ヲ呈示シ其ノ返信ヲ官報トシテ發送

スルコトヲ得

第三條 局報トハ電信事務ニ關シ電信局所相互間ニ往復スル電報ヲ云フ

前項ノ外電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務ニ關シ電信電話又ハ郵便官署相互間ニ往復スル電報ハ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルモノニ限り局報ト爲スコトヲ得郵便爲替金郵便貯金及郵便取立金ノ取扱ニ要スル資本ノ受授ニ關シ金庫相互間ニ往復スル電報亦同シ氣象報告ニ關シ中央氣象臺又ハ地方測候所其ノ他ノ觀測所間ニ往復スル電報ハ遞信大臣ノ承認ヲ經テ局報ト爲スコトヲ得

第四條 私報トハ官報及局報ヲ除クノ外諸般ノ電報ヲ云フ

第五條 電報ハ左ノ順序ニ依リ送達スヘシ

- 一 至急官報
- 二 至急局報
- 三 至急私報
- 四 官報
- 五 局報
- 六 私報

第六條 同一順位ノ電報ハ受付ノ順序ニ依リ傳送シ中繼

及著信局所ニ於テハ受信ノ前後ニ依リ之ヲ傳送配達ス

第七條 發信人又ハ受信人ハ電信局所ノ要求アルトキハ其ノ本人ニ相違ナキコトヲ證明スヘシ

第二章 電報書法

第八條 電信ノ記載方ヲ別テ和文歐文ノ二トス其ノ各電報ニ用ウヘキ文字及記號ハ左ニ掲クルモノニ限ル但シ同一電報中ニ在リテハ特ニ明文アル場合ノ外和文電報ニ用ウヘキ文字記號ト歐文電報ニ用ウヘキ文字記號トヲ混用スルコトヲ得ス

一 和文電報ニ用ウヘキモノ片假名

イ ロ ハ ニ ホ ヘ ト チ

リ ス ル ヲ ヲ カ ヲ ヲ タ レ ツ ヲ ネ ナ ラ ム ウ キ ノ オ ク ヤ

マ ケ フ コ エ テ ア サ キ ユ ミ シ エ ヒ モ セ ス ン

ハ (濁點)
○ (半濁點)

Vertical lines representing the telegraph code for the characters listed above.

數字

一 二 三 四 五 六 七 八 九 ○

記號

長音

句讀點

新章

括弧 ()

小括弧 「 」

歸除線 /

二 歐文電報ニ用ウヘキモノ

羅馬字

△

Vertical lines representing the telegraph code for the symbols and numbers listed above.

P Ö O Ñ N M L K J I H G F E E D C H C B Á Á Ä

9 8 7 6 5 4 3 2 1 亞刺比亞數字 Z Y X W V Ü U T S R Q

第九條 電報ニ用ウル指定事項ノ略符號ハ左ノ如シ

記號	0
終點	.
讀點	,
小讀點	;
重點	:
問標	?
感符	!
略符	'
新章	//
連續點	-
括弧	()
傳倒	"
句讀	"
字下線	-
歸除線	/

指定事項 和文略符號 歐文略符號

至急	ツナ	UR
至急親展	ウニ	UR
返信料前納	ナツ	UR
返信至急	ナツ	UR

第十條 電報ニ用ウル語辭ハ普通辭祕辭隱語ノ三種トス

第十一條 普通辭トハ和文電報ニ於テハ日本語歐文電報ニ於テハ羅句語又ハ歐洲國語ニシテ其ノ意味ノ通解シ

返信照校	ナ	ム	ニ	ム	R	FC
照校	ム	ニ	ム	ム	F	CP
電報受信報知	ツ	ニ	ム	ム	F	CP
郵便受信報知	ツ	ニ	ム	ム	F	SP
追尾	チ	ラ	ム	ム	R	FS
再送	ナ	チ	ム	ム	R	FM
同文	ム	ヨ	ム	ム	F	MA
同文連名	ヨ	イ	ム	ム	F	NA
外國郵送	ツ	タ	ム	ム	P	NR
留置	ム	ナ	ム	ム	F	RF
別使配達	ム	ホ	ム	ム	X	RF
解船配達	ハ	ホ	ム	ム	B	DF
別使料電報報知	マ	ム	ム	ム	X	DF
別使料郵便報知	マ	ム	ム	ム	X	MF
書留郵便配達	ツ	ナ	ム	ム	P	BR
無絨配達	ナ	レ	ム	ム	R	RO
局待	ナ	ム	ム	ム	R	OF
親展	ニ	カ	ム	ム	O	TL

易キモノヲ云フ

羅馬字ヲ以テ記載シタル日本語、電報新書又ハ電報新編ニ依リ記載シタル數字ノ聯集及商標又ハ記號トシテ用キタル文字若ハ數字ハ之ヲ普通辭ト見做ス

第十二條 隱語トハ普通辭ヲ普通ノ意味以外ニ用キ其ノ意味ノ通解シ難キモノヲ云フ

歐文ノ隱語ハ一聯綴十字以下ノモノヲ用キ日耳曼、英吉利、西班牙、佛蘭西、荷蘭、伊太利、葡萄牙及羅甸ノ國語中ヨリ採擇スルコトヲ要ス但シ固有名詞ハ萬國電信總理局刊行ノ隱語集ニ掲載スル者ノ外隱語トシテ之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十三條 祕辭トハ文字又ハ數字ノ孤立若ハ聯集ニシテ其ノ意味ノ通解シ難キモノヲ云フ

前項ノ外普通辭及隱語ニ非サル語辭ハ之ヲ祕辭ト見做ス
歐文ノ祕辭ハ一聯集中文字ト數字トヲ混用スルコトヲ得ス

第十四條 濁點及半濁點ハ片假名ニ附記スルノ外之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十五條 和文記號ハ片假名又ハ數字歐文記號ハ羅馬字又ハ亞刺比亞數字ニ直接ニ附隨セシムル場合ノ外用ウ

ルコトヲ得ス但シ小括弧ハ第十六條ノ場合ノ外之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十六條 和文電報ニハ商標其ノ他片假名ヲ以テ顯明シ難キモノニ限リ羅馬字又ハ亞刺比亞數字及歐文記號ヲ插入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ小括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

第十七條 羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報ハ十五字ヲ超エテ聯記シ又ハ一語句ノ中間ニ於テ分割記載スルコトヲ得ス但シ名稱ヲ示ス語ハ之ニ附屬スル助字ト共ニ數字ノ多少ニ拘ハラズ一箇ヲ一聯集トシテ記載スルコトヲ得

二箇以上ノ名稱聯合シタルモノ又ハ名稱ニ他ノ語句ヲ附加シタルモノト雖普通一名稱トシテ用キラルルモノハ前項但書ノ例ニ據リ記載スルコトヲ得

第十八條 羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報中ニ外國語又ハ亞刺比亞數字ヲ混用スルトキハ其ノ外國語又ハ亞刺比亞數字ヲ日本語ト聯記スルコトヲ得ス

第十九條 電報ノ受信人名ハ同一ノ家ニ宛テタル場合ニ限リ之ヲ連記スルコトヲ得

第二十條 受信人ノ居所氏名ハ簡明ニ記載スヘシ若其ノ地名ニシテ著明ナラサルカ又ハ他ニ類似ノモノアルト

第二十五條 發信人ノ記載シタル指定事項ノ略符號判然セサルモノハ其ノ略符號ヲ電報トシテ取扱フヘシ

略符號ヲ以テ指定スヘキ事項ヲ普通辭ニテ記載シタルモノアルトキハ電信局所ニ於テ之ニ相當スル略符號ニ改書スヘシ

第二十六條 發信人ハ其ノ居所氏名ヲ賴信紙ノ端末ニ記載スヘシ但シ其ノ記載ナキモノト雖電信局所ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ受付發送スルコトアルヘシ

第三章 字數及語數計算

第二十七條 電報中左ニ記載スルモノハ字數又ハ語數ニ算入ス

- 一 本文
- 二 歐文電報ノ受信人居所氏名
但シ第二十一條第二項ニ依リ記入シタル著信ノ電信局所名ヲ除ク
- 三 和文電報ニ連記シタル第二以下ノ受信人氏名並遂書シタル追尾電報又ハ再送電報ノ第二以下ノ居所
- 四 傳送ヲ要スル發信人居所氏名
- 五 指定事項
- 六 第二號乃至第四號ノ居所氏名ニ附屬スル語字

キハ國名又ハ郡區名ヲ附記スヘシ

和文電報ノ居所中不必要ト認ムモノアルトキハ電信局所ニ於テ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十一條 受信人ノ居所氏名ハ第八十六條ニ依リ登記ヲ受ケタル略號ヲ以テ記載スルコトヲ得但シ略號ノ外必ス著信地名ヲ附記スヘシ

一市區町村内ニ二箇以上ノ電信局所アル場合ハ著信地名ノ前ニ尙著信ノ電信局所名ヲ記入シ括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

略號ノ登記ヲ受ケタル人ノ家ニ在ル者ニ宛テタル電報ニハ其ノ略號ニ「方」氣付又ハ之ニ相當スル文字ヲ附記シテ其ノ略號ヲ使用スルコトヲ得

第二十二條 電報ノ本文ハ之ヲ記載セサルコトヲ得

第二十三條 發信人ハ自己ノ居所氏名ノ傳送ヲ要スルトキハ賴信紙中本文ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ但シ其ノ居所氏名ヲ送達紙ノ外部ニ表ハサストスルトキハ和文電報ニ在リテハ受信人名所ノ下ニ歐文電報ニ在リテハ受信人名所ノ前ニ之ヲ記載スヘシ

第二十四條 電報ニ記載シタル文字ヲ加除改正シタルトキハ電信局所ニ於テ相當ノ證明ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十八條 和文ノ數字及記號ハ其ノ一箇ヲ片假名一字ニ計算ス但シ括弧及小括弧ハ各之ヲ片假名二字ニ計算ス

濁點半濁點ヲ附シタル文字ハ之ヲ片假名二字ニ計算ス
第二十九條 和文電報中ニ用キタル羅馬字、亞刺比亞數字及歐文記號ハ其ノ一字又ハ一箇ヲ片假名一字ニ計算ス但シ括弧、轉倒句讀及字下線ハ各之ヲ片假名二字ニ計算ス

第三十條 歐文ノ普通辭ハ一語ノ聯綴十五字ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十五字ヲ超エルモノハ十五字毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十一條 歐文電報中ニ用キタル亞刺比亞數字ハ其ノ聯綴五箇ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ五箇ヲ超エルモノハ五箇迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十二條 歐文電報中羅馬字又ハ亞刺比亞數字ノ孤立シタルモノハ之ヲ一語ニ計算ス

第三十三條 歐文電報中羅馬字ヲ以テ聯記シタル祕辭ハ數字ノ例ニ依リ之ヲ計算ス
第三十四條 普通辭及隱語ヲ混用シタル歐文電報中ノ普通辭ハ一語ノ聯綴十字ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十字ヲ超エルモノハ十字迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十五條 第十七條及第十八條ノ規定ニ違ヒ記載シタル語辭ハ數字ノ例ニ依リ之ヲ計算ス

第三十六條 歐文電報中第十一條ニ規定シタル國語ニシテ其ノ用法ニ違ヒ聯綴若ハ省略シタルモノハ相當ノ聯綴方ニ依リ其ノ語數ヲ計算ス

府縣名、國名其ノ他ノ地名、船名、羅馬字ヲ以テ記載シタル數目及字典ニ依リ證明シ得ヘキ聯綴語ハ發信人ノ記載スル所ニ從ヒ其ノ語數ヲ計算ス

第三十七條 歐文電報中左ノ文字及記號ハ其ノ一字又ハ一箇ヲ數字一箇ニ計算ス
一 順序數ヲ示ス爲ニ亞刺比亞數字ニ附加シタル羅馬字

二 商標、祕辭又ハ亞刺比亞數字ノ聯集中ニ用キタル諸點及歸除線

第三十八條 歐文電報中連續點ヲ以テ繋キタル語及略符ヲ以テ分チタル語ハ其ノ每分語ヲ一語ニ計算ス但シ其連續點及略符ハ之ヲ字數ニ算入ス

第三十九條 歐文電報中ニ用キタル終點、讀點、小讀點、重點、商標、威符、新章、括弧、轉倒句讀及字下線ハ各之ヲ一語ニ計算ス

第四十條 歐文電報ノ指定事項ニ用キタル略符號ハ各之ヲ一語ニ計算ス其ノ略符號ニ數字ヲ附記シタルモノ亦同シ

第四章 料金

第四十一條 通常電報料ハ別ニ規定アル場合ノ外左ノ如シ

一 市區町村内ニテ發受スル電報料

一 和文 片假名十五字以内 金十錢

二 歐文 五字以内ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ増ス

一語ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ増ス

前項以外ノ電報料

一 和文 片假名十五字以内 金二十錢

二 歐文 五字以内 金二十五錢

一語ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス

第四十二條 電報ハ特ニ規定アル場合ノ外其ノ字數又ハ語數ニ應シテ電報料ヲ課ス但シ和文電報ニシテ字數ニ算入スヘキ文字記載ナキモノト雖十五字以内ノ電報料ヲ課ス

第四十三條 第三條ニ規定シタル局報ハ無料トス但シ課金局報ハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 特別電報料其ノ他特殊ノ取扱ニ關スル料金ハ別章ニ於テ之ヲ定ム

第四十五條 電報ニ關スル料金ハ發信ノ際郵便切手ヲ頼信紙ニ貼付シテ納ムヘシ但シ特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニアラス

第四十六條 電報ニ關スル料金ニ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ(四十年通則省令第三十九號ヲ以テ改正)

第四十七條 左ノ電報ニ關スル料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ據リ郵便切手ヲ以テ納付シタルモノハ郵便切手通貨ヲ以テ納付シタルモノハ通貨ヲ以テ之ヲ還付ス

一 電信局所ノ過失ニ因リ受信人ニ到達セサルカ又ハ郵便ニテ到達シ得ヘキ時日ヨリ遅レテ到達シタル電報ノ料金但シ第九十七條ニ依リ送達シタルモノヲ除ク

二 電信局所ノ過失ニ因リ照校電報ニ誤謬ヲ生シ且用辨ヲ闕キタルモノノ料金但シ尋問ノ電報ニ依リ校正シ得タルモノヲ除ク

三 電信局所ノ過失ニ依リ徵收シタル過納及誤納ノ電報料金

四 發信人ノ請求ニ依リ配達前停止シタル電報ニ對シ前納シタル返信料、受信電報料及配達料

五 電報直配達區域内ニテ配達シタル電報又ハ別使解船若ハ書留郵便ヲ以テ配達ヲ爲ササリシ電報ニ對シ發信人ノ前納シタル配達料

六 返信料前納證書ヲ以テ發送シタル電報ノ料金前納額ニ滿タサルトキハ其ノ殘餘ノ料金

七 第一百十四條ノ場合ニ於テ和文十五字歐文五語ノ通常電報料ヲ控除シタル前納ノ返信料金

八 返信料前納電報ニ對シ返信料前納證書ヲ發行セザリシトキ又ハ返信料前納電報ヲ配達シ能ハスシテ發行シタル證書ノ使用期間ヲ過キタルトキ若ハ交付シタル返信料前納證書ヲ其ノ使用期間ニ使用セザリシトキハ前納シタル返信料金

九 發信局所ニ於テ發送前ニ返還シタル電報ノ料金

第四十八條 電報ニ關スル料金還付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル電信局所ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ料金納付ノ日ヨリ六十日間トス

第四十九條 電報ニ關スル料金ノ還付ヲ請求スルトキハ不達ニ係ルモノハ著信局所又ハ受信人ノ證明書、誤謬又ハ遲延ニ係ルモノハ其ノ電報送達紙、返信料前納書

ヲ使用セザリシモノハ其ノ證書ヲ請求書ニ添付スヘシ

第五十條 同文電報ノ内一通若ハ數通ノ料金ヲ還付スルトキハ原信電報料ヲ併セ之ヲ總通數ニテ除算シ其得數ヲ以テ還付スヘキ一通ノ額トス

第五十一條 二名以上ノ發信人ヨリ差出シタル電報ニ關スル料金還付ハ其ノ内ノ一名ニ之ヲ爲スヘシ

第五十二條 受信人ニ於テ電報ニ關スル料金ノ追納ヲ要スル電報ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ追納ヲ要スル電報ニシテ居所不明其ノ他ノ事故ニ因リ之ヲ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ發信人ヨリ其ノ料金ヲ徵收ス

第五十三條 電報ニ關スル料金ヲ追納スヘキ發信人又ハ受信人カ二名以上ナルトキハ其ノ内ノ一名ヨリ之ヲ徵收スヘシ

第五章 電報差出

第五十四條 電報ヲ發送セムトスルトキハ特ニ規定アル場合ノ外電信局所ニ之ヲ差出スヘシ

第五十五條 郵便ニ依リ電報ヲ差出ストキハ其ノ封筒ノ表面ニ「電報在中」ト記載スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ普通郵便ニ限リ無料トナスコトヲ得

第五十六條 電報局所ニ電報受付函ノ設置アルトキハ電

報取扱時間外ニ限リ發信人ハ之ニ電報ヲ差入ルルコトヲ得(三十六年通信令第五十四號ヲ以テ改正)

第五十七條 左ニ掲クル電報ノ配達ヲ受ケタル者ハ配達ノ時ヨリ五分間以内ニ其ノ電報配達人ニ依リテ電報ヲ差出スコトヲ得

一 返信料前納電報

二 局待電報

三 別使配達電報

四 解船配達電報

第五十八條 豫納金ノ納付ヲ要スル電報ハ第五十五條乃至第五十七條ニ依リ差出スコトヲ得ス

第五十九條 第五十五條及第五十七條ニ依リ差出シタル電報ハ電信局所ニ到着シタル時ヲ以テ受付時刻ト爲ス電報取扱時間外ニ到着シタル前項ノ電報及第五十六條ニ依リ差出シタル電報ハ總テ次ノ取扱開始ノ時ヲ以テ受付時刻ト爲ス但シ電信局所ニ於テ特ニ時間ヲ定メス取扱ヲ爲スヘキ電報ヲ第五十七條ニ依リ差出シタル場合ハ前項ノ例ニ依ル(三十六年通信令第五十四號ヲ以テ改正)

第六十條 書法其ノ他ノ規定ニ違背スル爲發送シ得サル電報アルトキハ其ノ事由ヲ發信人ニ通知スヘシ

第六十一條 發信人ハ特ニ電報ノ著信局所ヲ指定シ差出

スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ指定事項トシテ其ノ局所名ヲ記載スヘシ

第六十二條 電報ヲ電信局所又ハ郵便局所ニ留置カムトスルトキハ其ノ局所ヲ肩書シ且留置ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十三條 發信局所ニ在リテ返信ヲ待ツコトヲ受信人ニ知ラシメムトスル電報ハ局待ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十四條 受信人以外ノ者ノ披見ヲ憚ル電報ハ親展ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十五條 封緘セズシテ受信人ニ配達スヘキ電報ハ無絨配達ノ符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十六條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十七條 別使配達料ハ著信局所ヨリ三里以内ハ金二十錢トシ三里ヲ超ユルトキハ二里以内毎ニ金二十五錢ヲ増ス

島嶼ニ宛テタルモノノ別使配達料ハ里程ニ拘ラス金二十錢トシ其ノ配達實費之レニ超過シタルトキハ實費額ニ依ル

第六十八條 別使ヲ以テ配達スベキ電報ハ發信ノ際其ノ

配送料ノ最少額ヲ納付スヘシ
著信局所ヨリ三里ヲ超ユル場合ニ於テ發信人ハ其ノ里程ヲ豫定シ之ニ對スル配送料ヲ納付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別使配達略符號ノ次ニ其ノ里程ヲ指定スヘシ

前二項ニヨリ納付シタル配送料ニ不足アルトキハ其ノ不足額ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

第六十九條 受信人ノ追納スヘキ別使配送料ヲ發信人ニ於テ納付セムトスルトキハ別使料電報報知又ハ別使料郵便報知ノ略符號ヲ以テ指定シ電報報知ヲ要スルモノハ和文電報十五字ニ相當スル通常料金郵便報知ヲ要スルモノハ金三錢ヲ増納スヘシ
發信人ハ前項ノ追納料金ニ充ツル爲電信局所ノ指示スル相當金額ヲ豫納スヘシ其ノ豫納金ハ著信局所ノ報知ニ依リ精算ス

第七十條 艦船ニ宛テタル電報ニシテ解船ヲ以テ配達スヘキモノハ解船配達ノ符號ヲ以テ指定シ其ノ配送料トシテ金二十錢ヲ納ムヘシ

第七十一條 艦船ニ宛テタル電報ニシテ別使配達及解船配達ヲ要スル場合ニ於テ發信人カ其ノ一方ノミヲ指定シタルトキハ其ノ不足料金ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

第七十七條 前條ニ依リ發スル電報ニシテ其ノ發受局所所在ノ市區町村内ニテ配達シ又ハ該局所ニ於テ前條ノ電話加入者若ハ電信區話ノ施設者ニ送達スルモノハ一市區町村内ニテ發受スルモノト見做シテ料金ヲ課ス

前條ニ依リ受クヘキ電報ニシテ其ノ發受局所所在ノ市區町村内ニ在ル電信局所ヘ賴信スルモノ亦同シ

第七十八條 電線託送電報發受者ノ納ムヘキ電報ニ關スル料金ハ毎月取纏メ翌月二十日迄ニ其ノ發受局所ニ納付スヘシ但シ一二等郵便電信局電信局ニ在リテハ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第七十九條 郵便電信局電信局ニ連接スル電信電話施設者其ノ施設ノ權利ヲ失ヒタルトキ又ハ之ヲ廢止シタルトキハ未納ノ電報料金ヲ即納スヘシ

第七十六條 ノ届出ヲ爲シタル電話加入者加入ヨリ除名セラレタルトキ又ハ電線託送電報ノ發受ヲ廢止シタルトキハ發受局所ニ之ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用ス

第八十條 電線託送電報發受者電報ニ關スル料金又ハ私設電信規則第二十條ノ料金ヲ納付セザルトキハ其ノ滯納ノ期間電線託送電報ヲ發受スルコトヲ得ス

ヘシ

第七十二條 書留郵便ヲ以テ配達スヘキ電報ハ書留郵便配達ノ略符號ヲ以テ指定シ其ノ配送料トシテ金七錢ヲ納ムヘシ

第七十三條 發信人ハ電報差出ノ日ヨリ三日以内ニ限リ其ノ納付料金額ヲ記入シタル電報ノ受取證書ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ受取證書料トシテ受取證書一通毎ニ金三錢ヲ納付スヘシ

電報ノ受取證書ニハ其ノ受取證書料ニ當ル郵便切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第七十四條 發信人ハ一通毎ニ金五錢ヲ納付シテ未ダ傳送セザル電報ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第六章 電線託送

第七十五條 電話加入者ハ別ニ告示スル電信局所ニ豫メ届出テ其ノ使用ニ屬スル電話機ニ依リ電報ヲ發受スルコトヲ得

第七十六條 電話加入者ノ使用ニ屬スル電話又ハ郵便電信局電信局ニ連接スル電信電話ヲ以テ電報ヲ發受スルトキハ其ノ電話加入者又ハ電信電話ノ施設者ハ電線託送料トシテ電報一通毎ニ金三錢ヲ納ムヘシ

第七章 電報配達

第八十一條 電信局所（配達事務ヲ取扱ハサルモノヲ除ク）ヨリ陸上一里以内及其ノ局所所在ノ市區内ヲ電報直配達區域トス但シ必要ト認ムルトキハ其ノ區域ヲ制限シ又ハ其ノ電域外ノ地ヲ區域内ニ編入スルコトアルベシ（三十八年逓省信令第十四號ヲ以テ條中改正）

第八十二條 電報直配達區域内ニ配達スル電報ハ配達料ヲ要セス

第八十三條 電報直配達區域外ニ配達スル電報ニシテ配達方ノ指定ナキモノハ無料ノ普通郵便ヲ以テ送達スヘシ

配達方ノ指定アル電報ト雖受信人移轉等ノ爲更ニ其ノ電報直配達區域外ニ配達スルトキ亦同シ

第八十四條 電報直配達區域外ニ居住スル者ハ電信局所ニ請求シテ別使ノ解船又ハ書留郵便ヲ以テ自己ニ宛テタル配達方指定ナキ電報ノ配達ヲ受クルコトヲ得但シ之ヲ受ケタルトキハ其ノ配達料ヲ納ムヘシ

第八十五條 別使配達電報ノ受信人ハ其ノ電報受取紙ニ捺印又ハ手署シテ直ニ之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ

第八十六條 受信人自己ノ居所氏名ノ略號ヲ常用セムト

シ又ハ電報ヲ受取ルヘキ者若ハ電報ノ配達場所ヲ特定セムトスルトキハ著信局所ニ請求シテ其ノ略號又ハ配達先ノ登記ヲ受クルコトヲ得

第八十七條 受信人電報ノ配達ヲ待タズ著信局所ニ於テ之ヲ受取ラムトスルトキハ其ノ著信局所ニ請求シテ局渡證券ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第八十八條 局渡證券ノ所持人著信局所ニ於テ電報ヲ受取ラムトスルトキハ其ノ時時局渡證券ヲ示スヘシ

著信局所ニ於テハ局渡證券ヲ所持スル者ヲ正當受信人ト見做シテ電報ヲ交付スヘシ

第八十九條 局渡證券ヲ交付シタル者ニ宛テタル電報ト雖著信ノ際證券ヲ所持スル者出頭セサルトキハ之ヲ配達ニ付スヘシ

第九十條 局渡證券ノ交付ヲ受ケタル者其ノ證券ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨交付ヲ受ケタル局所ヘ届出ツヘシ此ノ證券ハ其ノ報告ヲ受ケタル時ヨリ其效ヲ失フ局渡證券ヲ亡失シタル者ハ更ニ證券ヲ請求スルコトヲ得

第九十一條 局渡證券不用ニ屬シタルトキハ其ノ交付ヲ受ケタル局所ニ之ヲ返還スヘシ

第九十二條 略號又ハ配達先ノ登記及局渡證券ニ關スルコトヲ得其ノ請求期間ハ發信ノ時ヨリ七十二時間トス

受信人ハ既ニ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ要スルトキハ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ電報ヲ受取リタル時ヨリ七十二時間トス

第九十九條 發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問ニ要スル電報料ヲ納ム且返信ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第一百條 發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ノ改正又ハ停止ヲ請求スルトキハ其ノ通知ニ要スル電報料ヲ納ムヘシ若其ノ返信ヲ望ムトキハ之ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第一百一條 尋問改正又ハ停止ノ爲發信人ノ豫納シタル電報料ハ返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ精算ス

第一百二條 改正電報ニシテ其ノ原信配達後著信局所ニ到達シタルトキハ其ノ事由ヲ受信人ニ通知スヘシ

第一百三條 受信人ニ於テ其ノ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問及返信ニ要スル電報料ヲ假納スヘシ

假納ノ電報ハ尋問及返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ收納ス但シ電信事務上ノ誤謬ニ因リ尋問ヲ爲スニ至リタル場合ハ之ヲ還付ス

料金并其ノ納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

第九十三條 受信人名ヲ連記シタル電報ハ其ノ内ノ一名ニ配達スヘシ

第九十四條 電報ノ誤達ヲ受ケタル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ直ニ之ヲ著信局所ニ返付スヘシ此ノ場合ニ於テハ無料郵便物トシテ郵便ニ付スルコトヲ得其ノ電報ヲ開封シタル者ハ更ニ封緘シ尙其ノ事由ヲ付記スヘシ

第九十五條 受信人ニ交付シ能ハサル電報ハ著信局所ニ保管シ置キ其ノ受信人ノ居所氏名ヲ記載シテ少クトモ七日間之ヲ其ノ局所前ニ揭示スヘシ

第九十六條 電信局所留置電報ハ其ノ留置局所ニ到着シタル日ヨリ三日以内ニ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ前條ノ例ニ依リ之ヲ揭示スヘシ

第九十七條 發信人又ハ受信人ハ其ノ不達ニ歸シタル電報ノ送達ヲ發信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ電報差出ノ日ヨリ六十日間トス

第八章 尋問改正及停止

第九十八條 發信人ハ既ニ差出シタル電報ニ關シ尋問、改正又ハ停止ヲ要スルトキハ之ヲ發信局所ニ請求スル

第一百四條 本章ニ依リ往復スル電報ハ課金局報トス

第九章 閱覽正寫

第一百五條 發信人又ハ受信人ハ電報ノ閱覽又ハ正寫ヲ請求スルコトヲ得但シ請求人ニ於テ該電報搜索上必要ナル事項ヲ示ササルトキハ其請求ニ應セサルコトアルヘシ

第一百六條 電報ノ閱覽正寫ハ發信ニ在リテハ其ノ發信局所著信ニ在リテハ其ノ著信局所ニ請求スヘシ

第一百七條 電報ノ閱覽又ハ正寫ヲ請求スル者ハ閱覽料トシテ電報一通ニ付金三錢正寫料トシテ和文ハ二百字以内毎ニ金五錢歐文ハ五十語以内毎ニ金十錢ヲ納ムヘシ電報ノ正寫ニハ其正寫ニ當ル郵便切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第十章 特別電報

第一節 至急電報

第一百八條 通常電報ニ先チテ傳送ヲ要スル電報ハ至急ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第一百九條 至急電報料ハ左ノ如シ
官報 通常電報料ノ二倍

私報 通常電報料ノ三倍

第二節 返信料前納電報

第一百十條 電報ノ返信ヲ受ケムトスル者ハ其ノ返信ノ電報料ヲ前納スルコトヲ得其ノ電報ニハ左ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

一 返信料前納ノ略符號

通常電報料ヲ前納スルトキ

二 返信至急ノ略符號

至急電報料ヲ前納スルトキ

三 返信照校ノ略符號

照校電報料ヲ前納スルトキ

和文十五字歐文五語ヲ超エテ返信料ヲ前納スルトキハ前項略符號ノ次ニ其ノ字數又ハ語數ヲ付記スヘシ

第一百十一條 返信料前納電報ヲ配達スルトキハ返信料前納アルコトヲ證明スル爲著信局所ニ於テ返信用紙ニ左ノ事項ヲ記入シ返信料前納證書トシテ電報ト共ニ之ヲ受信人ニ交付スヘシ

一 返信料前納ノ金額

二 受信人名

三 發信局所名、發信年月日及發信番號

四 證書發行ノ年月日

第一百十二條 返信料前納證書ノ使用期間ハ其ノ證書發行ノ日ヨリ三十日間トス此ノ期間ヲ過クルトキハ使用ノ效ヲ失フ

第一百十三條 返信料前納電報ノ返信用紙ニ記載シテ差出ス電報ハ證書記載ノ金額ニ相當スル料金納付済ノモノトシ何レノ電信局所ニ於テモ之ヲ受付發送スヘシ

若其ノ電報ノ料金ニシテ證書記載ノ金額ノ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル郵便切手ヲ返信用紙ニ貼付スヘシ

第一百十四條 受信人返信料前納證書ヲ受領スルコトヲ拒ムトキハ其證書ヲ使用シ著信局所ヨリ發信局所ニ其ノ旨課金局報ヲ以テ報知シ更ニ之ヲ發信人ニ通知スヘシ

第一百十五條 居所不明其ノ他ノ事故ニ依リ返信料前納證書ヲ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ之ヲ著信局所ニ保管ス

著信局所ニ保管シ置キタル返信料前納證書ハ其ノ使用期間ニ受信人ヨリ請求スルトキ又ハ該期間滿了後三十日以内ニ發信人ヨリ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第三節 照校電報

第一百十六條 發信人ハ電報ノ照本ヲ請求スルコトヲ得其ノ電報ニハ照校ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第十七條 照校電報ハ通信ノ際送受兩局所間ニ於テ其ノ全部ヲ復校正スルモノトス

第一百十八條 照校料ハ通常電報料ノ四分ノ一トス

第四節 受信電報

第一百十九條 發信人ハ電報ノ受信人ニ到達シタル日時ノ報知ヲ受クルコトヲ得其ノ電報ハ受信電報トシ左ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

一 電報受信報知ノ略符號

電報ヲ以テ報知ヲ受クルトキ

一 郵便受信報知ノ略符號

郵便ヲ以テ報知ヲ受クルトキ

第一百二十條 電報受信報知料ハ一通毎ニ和文ハ十五字歐文ハ五語ノ通常料金トシ郵便受信報知料ハ一通毎ニ金三錢トス

第一百二十一條 受信電報ヲ受取リタル者ハ電報受取紙ニ受取時刻ヲ記入シ捺印又ハ手摺シテ直ニ之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ但シ郵便電報又ハ電話ヲ以テ其ノ送付ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一百二十二條 受信電報ノ發信人ニハ受信人ノ電報ヲ受取リタル日時ヲ報知スヘシ但シ之ヲ送達スルニ郵便ヲ以テシタルトキハ郵便ニ付託セシ日時電報又ハ電話ヲ

以テシタルトキハ送信セシ日時ヲ報知スヘシ

第一百二十三條 電報受信報知ノ日時ハ局報ヲ以テ郵便受信報知ノ日時ハ郵便ヲ以テ著信局所ヨリ發信局所ヘ宛テ通知シ發信局所ヨリ更ニ之ヲ發信人ニ報知ス

第一百二十四條 電報直配達區域外ニ居住スル發信人別使解船又ハ書留郵便ヲ以テ受信日時ノ報知ヲ受ケムトスルトキハ賴信紙ノ餘白ニ其ノ旨ヲ記載シ相當ノ配達料ヲ納付スヘシ

第一百二十五條 受信人ニ於テ受信電報ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受信人ニ配達シ能ハサルトキハ日時報知ノ代トシテ第一百二十三條及第一百二十四條ノ例ニ依リ其ノ事由ヲ發信人ニ報知スヘシ

第五節 追尾電報

第一百二十六條 發信人電報ノ追尾傳送ヲ要スルトキハ追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第一百二十七條 追尾電報ノ發信人ハ追尾スヘキ第二以下ノ居所ヲ逐次ニ記載シ又ハ全ク記載セサルコトヲ得

第一百二十八條 追尾電報ハ受信人ノ居所分明ナル限り之ヲ追送スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ居所ヲ逐書シタルモノハ其ノ經過スル毎ニ之ヲ消除ス

第二百二十九條 追尾電報ノ追尾ニ關スル料金ハ追尾一回
毎ニ新ニ電報ヲ差出シタルモノトシテ計算シ之ヲ受信
人ヨリ徵收スヘシ

第三百十條 左ニ掲クル電報ハ追尾電報トシテ發送スル
コトヲ得ス

- 一 別使料電報報知ヲ要スル電報
- 二 別使料郵便報知ヲ要スル電報
- 三 返信料前納電報
- 四 受信電報
- 五 同文電報
- 六 外國郵送電報

第六節 再送電報

第三百十一條 受信人ノ居所異動等ノ場合ニ於テ其新居
所ヘ電報ノ再送ヲ要スルトキハ受信人又ハ宛所ノ者ヨ
リ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得

第三百十二條 留置電報著信局所ニ保管シ置キタル電報
又ハ一旦配達ヲ了リタル電報ノ再送請求ノ期間ハ著信
ノ時ヨリ七十二時間トス

第三百十三條 一旦配達ヲ了リタル電報ノ再送ヲ請求ス
ルトキハ其ノ電報送達紙ヲ差出スヘシ若返信料ヲ前納
シタルモノナルトキハ其ノ返信料前納證書ヲ返戻スヘ
シ

第七節 同文電報

第三百十四條 發信人ハ一市區町村内又ハ著信局所ヲ同ク
スル地方ニ居住スル數人又ハ數箇所ヘ宛テ同文ノ電報
ヲ差出サムトスルトキハ同文電報ト爲スコトヲ得

第三百十一條 同文電報ハ同文ノ略符號ヲ以テ指定シ同
文ノ通數ヲ付記スヘシ但シ其ノ通數ハ十通ヲ超ユルコ
トヲ得ス

同文電報ニシテ其ノ各通ニ各受信人名ヲ連記シ配達ス
ヘキモノハ前項ノ略符號ニ代フル同文連名ノ略符號ヲ
以テスヘシ

第三百十二條 同文電報ノ原信ヲ除キタル各通ノ字數又
ハ語數ハ總テ之ヲ原信ニ併算ス

第三百十三條 同文電報ニハ原信ヲ除キ其ノ他一通毎ニ
同文料トシテ和文ハ金十錢歐文ハ金十五錢ヲ課ス

第三百十四條 至急電報、照校電報又ハ受信電報ヲ同文
電報トナストキハ原信ニ各相當ノ略符號ヲ併記シ其至
急又ハ照校ノ料金ハ原信一通ニ對シテ之ヲ納メ受信報
知料ハ同文ノ通數ニ應シテ之ヲ納ムヘシ

第三百十五條 前條ノ外同文電報ニ他ノ電報ノ指定事項
ヲ併用セムトスルトキハ一通毎ニ其ノ相當略符號ヲ記
載スヘシ

第三百十四條 電報ノ再送ヲ請求スルモノハ其ノ再送ス
ヘキ電報ニ記載シアル指定ノ事項ノ削除ヲ請求シ又ハ
第三百十條ニ掲クル電報ノ指定事項ヲ除クノ外必要ナ
ル指定事項ノ記入ヲ請求スルコトヲ得

第三百十五條 返信料前納電報受信電報、又ハ別使料ノ
報知ヲ要スル電報ヲ再送スルトキハ其ノ指定事項ヲ削
除スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三百十四條ノ例ニ依リ返信
料前納證書ヲ使用シ又ハ受信報知若ハ別使料報知ノ代
トシ電報再送ノ旨ヲ發信人ニ報知スヘシ

第三百十六條 電報ヲ再送スルトキハ電信局所ニ於テ再
送電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第三百十七條 電報ヲ再送スルトキハ其ノ請求者ヲ再送
電報ノ發信人ト看做ス

第三百十八條 再送電報ノ再送ニ關スル料金ハ第二百十
九條ノ例ニ依リ計算徵收ス

第三百二十七條及第三百二十八條ノ規定ハ再送電報ニ準用
ス

第三百二十九條 同文電報ハ之ヲ再送スルコトヲ得ス但シ
同文電報ノ指定ヲ削除シ一通ノ電報トシテ再送ヲ請求
スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八節 外國郵船電報

第三百十六條 外國ヘ郵送スヘキ電報ニハ外國郵送ノ略
符號ヲ以テ指定シ其著信局所名ヲ付記スヘシ

第三百十七條 外國郵送電報ノ郵送料ハ一通ニ付金二十
錢トス

第三百十八條 外國郵送電報ハ在清國及在韓國本邦郵便
局所在地ニ宛テタルモノノ外歐文電報ニ限ル

附 則
第三百十九條 此規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ
施行ス

明治十八年(五月)布達第七號電信取扱規則同二十三年
(三月)遞信省令第三號歐文電報略號常用料金額及其ノ
納付手續同年(八月)遞信省令第十七號電報局渡規則同
年(十一月)遞信省令第二十一號電報配達人ニ電報差出
方ヲ依頼スル規程同二十七年(七月)遞信省令第五號著
信局所ヲ指定スル規程同三十年(十二月)遞信省令第三
十三號電話依托電報規則其ノ他此ノ規則ニ抵觸スル規
定ハ之ヲ廢止ス

第三百十條 此ノ規則ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外電
線ニ依リ帝國外國間ニ往復スル電報ニ適用セス

第十七類 勸業

第一章 勸業

- 日本大博覽會開設の件……………一
- 日本大博覽會事務局官制……………一
- 府縣聯合共進會褒賞授與規程……………二
- 產業組合法……………二
- 產業組合法施行規則……………一

第二章 農業

- 農會法……………一三
- 農會令……………一三
- 農會令施行規則……………一八
- 農會補助金交付規則……………一九
- 府縣農事試驗場規程……………二〇
- 馬匹去勢法……………二一
- 馬匹去勢獎勵費取扱手續……………二二

目次

- 三歳若シハ四歳牡馬ノ去勢獎勵金下附ノ件……………二二
- 種牡馬検査法……………二三
- 種牡馬検査法施行規則……………二三
- 産婆獎勵規程……………二七
- 牝馬臨時貸下規程……………二八
- 種牡牛検査法……………三〇
- 種牡牛検査法施行規則……………三一
- 種牛牧場種牛拂下規程……………三三
- 種畜種付規則……………三五
- 種牡牛馬種付料ニ關スル件……………三八
- 種禽種卵拂下規程……………三八
- 種禽及種卵ノ拂下代金納付ノ件……………四一
- 種豚種付料ニ關スル件……………四一
- 肥料取締法……………四二
- 肥料取締法施行規則……………四二
- 害蟲驅除豫防法……………四四

- 害虫驅除豫防法取扱手續……………四六
- 蠶病豫防法……………四七
- 蠶病豫防法施行規則……………四九
- 蠶病豫防心得……………五八
- 蠶病豫防費國庫補助規則……………六〇
- 明治四十年桑園増殖奨勵費交附規則……………六一
- 生絲検査所法……………六二
- 生絲検査所法施行細則……………六二
- 生絲検査規程……………六四
- 茶業組合規則……………六五
- 産牛馬組合法……………六八
- 産牛馬組合法施行規則……………六九

第三章 漁業

- 漁業法……………七〇
- 漁業法施行規則……………七三
- 漁業組合規則……………八四

- 漁業法施行規則ニ依ル魚業ノ名稱九一
- 漁業ニ關スル手数料ノ件……………九七
- 漁業ニ關シ差出ス申請書ニ要スル手数料ノ件……………九八
- 水産組合規則……………九八

第四章 特許 意匠 商標 實用新案

- 特許法……………九九
- 特許施行細則……………一〇六
- 意匠法……………一二一
- 意匠法施行細則……………一二三
- 商標法……………一二八
- 商標法施行細則……………一三一
- 特許意匠及商標ニ關スル手数料……………一三九
- 特許意匠又ハ商標ニ關シ差出ス請求書申請書ニ要スル手数料……………一四〇
- 實用新案法……………一四一

- 實用新案法施行規則……………一四七
- 實用新案ニ關スル手数料ノ件……………一五九
- 實用新案ニ關シ差出ス請求書ニ要スル手数料ノ件……………一六〇

第十七類 勸業

第一章 勸業

●日本大博覽會開設ノ件 (明治四十年三月勅令第百三號)

日本大博覽會ヲ明治四十五年四月一日ヨリ同年十月三十一日迄東京府下ニ開設ス

●日本大博覽會事務局官制 (明治四十年三月勅令第百三號)

第一條 日本大博覽會事務局ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ日本大博覽會ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第二條 日本大博覽會事務局ニ總裁一人ヲ置ク

總裁ハ皇族中ヨリ勅ニ依リ之ヲ命ス

第三條 日本大博覽會事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

副總裁 一人

會長 一人

事務總長 一人 勅任

理事官 專任四人 奏任 [内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得]

技師 專任五人

書記 專任二十人 判任

技手 專任七人

第四條 副總裁ハ農商務大臣ヲ以テ之ニ充ツ總裁ヲ輔ケ所部ノ職員ヲ統督シ局務ヲ總判ス

會長ハ總裁又ハ副總裁ノ命ヲ承ケ日本大博覽會ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

事務總長ハ會長ヲ輔ケ部下ノ職員ヲ監督シ局務ヲ掌理ス

理事官及理事官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五條 副總裁ハ其ノ本官ノ待遇ヲ受ケ會長ハ親任官ノ待遇ヲ受ク

理事官ハ奏任官ノ待遇ヲ受ク但シ勅任官又ハ勅任官タルシ者ニシテ理事官タル者ハ勅任官ノ待遇ヲ受ク

第六條 會長及理事官ハ高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ選定シ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條 重要ノ事項ヲ審議調査セシムル爲メ學識又ハ經驗アル者ヲ選定シ評議員百十人ヲ置クコトヲ得

評議員ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

農商務大臣ハ緊急ノ事項ヲ審議セシムル爲評議員中ヨリ七人ノ特別委員ヲ置クコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●府縣聯合共進會褒賞授與規程

(明治三十六年十一月農商務省訓令第十四號)

第一條 數府縣聯合シテ地方重要物産及其ノ生産ニ關スル事項ノ共進會ヲ開設シ褒賞ノ給與ヲ請求スルトキハ農商務大臣ハ優等ト認ムル出品ニ對シ出品人ニ褒賞ヲ授與ス

前項ノ請求ハ前年度五月限り共進會主催地地方長官ヨリ其ノ規則書ヲ添へ農商務大臣ニ提出スヘシ

第二條 褒賞ハ左ノ四種トス

- 一等賞金牌
- 二等賞銀牌
- 三等賞銅牌
- 四等賞褒狀

第三條 審査長、審査官及審査員ハ農商務大臣之ヲ命ス但シ審査員ニ對スル經費ハ聯合府縣ノ負擔トス

●産業組合法 (明治三十三年三月法律第三十四號)

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ産業組合トハ組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル爲左ノ目的ヲ以テ設立スル社團法人ヲ謂フ

一 組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト(信用組合)

二 組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ賣却スルコト(販賣組合)

三 産業又ハ生計ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合ニ賣却スルコト(購買組合)

四 組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ組合員ヲシテ産業ニ必要ナル物ヲ使用セシムルコト(生産組合)

第二條 産業組合ノ組織ハ無限責任、有限責任及保證責任ノ三種トス

無限責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル組合ニ於テ組合員ノ全員カ連帶無限ノ責任ヲ負擔シ、有限責任組合ニ在リテハ組合員ノ全員カ其ノ出資額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔シ、保證責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ其ノ出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス

第三條 産業組合ノ住所ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ

在ルモノトス

第四條 産業組合ノ名稱中ニハ其ノ組織及目的ヲ示スヘキ文字ヲ用ウヘシ

産業組合ニ非シテ其ノ名稱中ニ産業組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第五條 産業組合ニハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及商法施行法中商人ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 産業組合ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス産業組合ニシテ登記ヲ受クルトキハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登録稅ヲ納ムヘシ但シ組合員名稱ノ記載ニ付テハ登録稅ヲ課セス

第二章 設立

第七條 産業組合ハ七人以上ニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第八條 組合ノ設立者ハ定款ヲ作り之ヲ主タル事務所所在地ノ地方長官ニ差出シ設立ノ許可ヲ請フヘシ

第九條 定款ニハ本法ニ規定アルモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載シ設立者之ニ署名捺印スヘシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 組織

四 事務所

五 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

六 第一回拂込ノ金額

七 剩餘金處分及損失分擔ニ關スル規定

八 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

九 組合員タル資格ニ關スル規定

十 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

十一 組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定

十二 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

信用組合ノ區域ハ市町村ノ區域以內ニ於テ之ヲ定メ定款中ニ記載スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ此ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

第十條 産業組合ハ其ノ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス

第十一條 出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムヘシ

第十二條 組合カ其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク各組合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第十三條 前條ノ拂込アリタルトキハ二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第十四條 登記スヘキ事項左ノ如シ

第九條第一號乃至第五號及第十二號ニ掲ケタル事項

二 設立許可ノ年月日

三 理事及監事ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十五條 組合ハ其ノ設立ノ登記ノ申請ト共ニ組合員名簿ヲ其ノ主タル事務所所在地ノ裁判所ニ差出スヘシ

組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 各組合員ノ氏名、住所

二 各組合員ノ出資口數

三 各組合員ノ拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日

四 出資各口ノ取得ノ年月日

五 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額

第十四條第二項ノ規定ハ組合員名簿ノ記載ニ之ヲ準用ス

裁判所ニ差出シタル組合員名簿ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ登記ト看做ス但シ前項第三號事項ニ付テハ定款ヲ以テ期日ヲ定メ一事業年度内一回又ハ數回ニ取纏メテ期日後二週間内ニ記載ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 組合員ニシテ總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ違背スト認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ其ノ決議ノ取消ヲ地方長官ニ請求スルコトヲ得

第四章 管理

第二十五條 産業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立ノ當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十六條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 理事又ハ監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條 理事及監事ノ選任及解任ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ハ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 理事ハ定款及總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 理事ハ通常總會ノ會日ヨリ一週間前ニ財産

得

第十六條 民法第四十五條第二項、第三項、第四十七條及第四十八條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス但シ同規定中一週トアルヲ二週間トス

第三章 組合ノ權利義務

第十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

組合員ノ有スヘキ出資口數ハ十口ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條 組合員ハ組合ニ拂込ムヘキ出資額ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條 組合員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

組合員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓受ケムトスルトキハ加入ノ例ニ依ルヘシ

第二十條 組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第二十一條 持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十二條 新ニ組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負擔ス

第二十三條 組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ理事ニ請求スルコトヲ得

(三十九年法律第四十五號ヲ以テ但書追加)

目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 理事ハ前條第一項ニ掲ケタル書類及監事ノ意見書ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第三十二條 民法第四十四條第一項、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第六十條及第六十一條第一項ノ規定ハ産業組合ノ理事ニ之ヲ準用ス

第三十三條 監事ハ理事其ノ他組合ノ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三十四條 民法第五十九條ノ規定ハ産業組合ノ監事ニ之ヲ準用ス

第三十五條 組合カ理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合ト理事トノ間ノ訴訟ニ付テモ亦同シ

第三十六條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十七條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス但シ組合員ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スヘシ

第三十八條ノ一 民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス

第三十八條ノ二 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ラシムヘキ總會ヲ設クルコトヲ得
總會ニ關スル規定ハ前項ノ總會ニ之ヲ準用ス但シ總會ニ於テ解散及合併ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス
(同條ヲ以テ本條追加)

第三十九條 定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ルヘシ第二十條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス
定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受ク様ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第四十條 組合カ出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目録及貸借對照表ヲ作ルヘシ
組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

第四十一條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得

第四十二條 前二條ノ規定ハ保證責任組合カ組合員ノ保證金額ヲ減少スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 組合員カ其ノ出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ之ニ配當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツヘシ

第四十四條 組合ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス
剩餘金配當ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
(同上ヲ以テ文中改正)

第四十五條 組合ハ第五十三條ノ場合ヲ除クノ外持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得ス

第四十六條 組合ハ定款ヲ以テ定メタル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第四十七條 組合ノ事業年度ハ一箇年トス
第四十八條 組合ハ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ債權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

第五章 加入及脱退
第四十九條 無限責任組合ニ加入セムトスル者ハ總組合

員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五十條 定款ヲ以テ組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得但シ六箇月前ニ其ノ豫告ヲ爲スヘシ
前項ノ豫告期間ハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ二箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十一條 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

一 組合員タル資格ノ喪失

二 死亡

三 破産

四 禁治産

五 除名

第五十二條 除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

除名ハ總會ノ決議ニ依ル但シ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第五十三條 脱退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第五十四條 脱退シタル組合員ノ持分ハ其ノ脱退ヲ組合員名簿ニ記載シタル事業年度ノ終ニ於ケル組合財産ニ依リテ之レヲ定ム但シ定款ノ定ムル所ニ依リ脱退當時

ノ財産ニ依リテ之レヲ定ムルコトヲ得
(同條ヲ以テ但書追加)

第五十五條 持分ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ但シ前條但書ノ場合ニ於テ脱退ノ時ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ(同上)

持分拂戻ノ請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二箇年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第五十六條 持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ脱退シタル組合員ハ其ノ負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムヘシ

第五十七條 脱退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完済スル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂戻ヲ停止スルコトヲ得

第五十八條 無限責任組合及保證責任組合ニ在リテハ脱退シタル組合員ハ脱退前ノ組合債權者ニ對シ其ノ脱退ヲ組合名簿ニ記載シタル後二箇年間責任ヲ負擔ス
前項ノ規定ハ特別ノ契約ヲ以テ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ妨ケス

前二項ノ規定ハ持分ヲ讓渡シタル組合員ニ之ヲ準用ス

第六章 監督

第五十九條 産業組合ハ主務大臣、地方長官及郡長之ヲ監督ス

第六十條 監督官應何時ニテモ理事ヲシテ組合ノ事業ニ
關スル報告ヲ爲サシメ又ハ組合ノ事業及財産ノ狀況ヲ
検査シ其ノ他必要ナル命令ヲ發シ及處分ヲ行フ

第六十一條 組合ノ事業又ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ
事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲カ
定款若ハ法令ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アルト
キハ主務大臣又ハ地方長官ハ總會ノ決議ヲ取消シ、理
事、監事若ハ清算人ノ改選ヲ命ジ、組合ノ事業ヲ停止
シ又ハ組合ノ事業ヲ解散スルコトヲ得

第七章 解散

第六十二條 組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
 - 二 總會ノ決議
 - 三 組合ノ合併
 - 四 組合員カ七人未滿ニ減シタルトキ
 - 五 組合ノ破産
- 第二十八條ノ規定ハ解散及合併ノ決議ニ之ヲ準用ス無
限責任組合ノ合併ニ付テハ總會組合員ノ同意アルコトヲ
要ス

第六十三條 組合カ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合
ヲ除クノ外二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登

記ヲ爲スヘシ

第六十四條 第四十條及第四十一條ノ規定ハ合併ノ場合
ニ之ヲ準用ス

第六十五條 合併ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ
其ノ效力ヲ生セス

第六十六條 組合カ合併ヲ爲シタルトキハ二週間内ニ各
事務所ノ所在地ニ於テ合併後存続スル組合ニ付テハ變
更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル組合ニ付テ
ハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル組合ニ
付テハ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十七條 合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ消滅
シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第六十八條 組合ハ總會組合員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變
更スルコトヲ得

組合カ組織變更ニ因リ組合員ノ責任ヲ減少スルトキハ
第四十條及第四十一條ニ定メタル手續ヲ爲スヘシ

第六十九條 民法第七十條ノ規定ハ產業組合ノ解散ニ之
ヲ準用ス

第八章 清算

第七十條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一
ノ權利義務ヲ有ス

第七十一條 清算人ハ就職後遲滞ナク組合財産ノ現況ヲ
調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ作り之ヲ總會ニ提出シ

テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十二條 清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必
要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合財産ヲ分配スル
コトヲ得ス

第七十三條 清算事務カ終リタルトキハ清算人ハ遲滞ナ
ク決算報告書ヲ作り之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求
ムヘシ

第七十四條 清算人ノ解任アリタルトキハ二週間内ニ各
事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲シ且之ヲ地方長官
ニ届出ツヘシ

第七十五條 民法第七十三條乃至第八十三條ノ規定ハ產
業組合ノ清算ニ之ヲ準用ス但シ同規定中一週間トアル
ハ二週間トス

第九章 罰則

第七十六條 組合ノ理事、監事又清算人ハ左ノ場合ニ於
テハ五圓以上三百圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 本法ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ
登記ヲ爲シタルトキ
- 二 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ

隠蔽シタルトキ

三 第二十九條第一項及第三十條第一項ノ規定ニ違背
シ又ハ第二十九條第一項第三十條第一項ニ掲ケタ
ル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記
載ヲ爲シタルトキ若ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱
覽ヲ拒ミタルトキ

四 第十條、第四十一條、第四十三條乃至第四十六條
第四十八條又ハ第七十二條ノ規定ニ違背シタルト
キ

五 第六十條ノ報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他監
督官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ

六 民法第七十九條ノ期間内ニ債權者ニ辨償ヲ爲シタ
ルトキ

七 民法第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ
爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

八 民法第七十條又ハ八十一條ノ規定ニ違背シタルト
キ

第七十七條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條
ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

第七十九條 産業組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第八十條 各登記ニ産業組合登記簿ヲ備フ

第八十一條 組合設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

- 一 定款
- 二 地方長官ノ許可書又ハ其ノ認證アル謄本
- 三 第五條第二號及第五號ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面

第八十二條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且地方長官ノ認可ヲ要スルモノニ付テハ其ノ認可書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ

前二項ノ規定ハ組合員名簿ノ記載ノ申請ニ之ヲ準用ス

第八十三條 出資一口ノ金額又ハ組合員ノ責任ノ減少ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 地方長官ノ認可書又ハ其ノ認證アル謄本
- 二 第四十條第二項ニ依ル催告ヲ爲シタルコト若シ異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲

シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面

第八十四條 組合ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且組合カ總會ノ決議ニ因リテ解散シタルトキハ總會ノ決議録ヲ添附スヘシ

第八十五條 合併ニ因ル解散ノ登記申請書ニハ第八十三條ニ掲ケタル書面ヲ添附スヘシ

第八十六條 第八十一條第一項ノ規定ハ出資一口ノ金額又ハ組合員ノ責任ヲ減少、組合ノ解散及組合ノ合併ニ因ル變更、設立又ハ解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條 本法ノ規定ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ組合員名簿ニ記載シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十八條 非訟事件手續法第百三十六條乃至第百三十八條、第百四十一條乃至第百五十一條、第百五十四條乃至第百五十八條、第百六十三條乃至第百六十五條及第百七十五條乃至第百七十七條ノ規定ハ産業組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

第八十九條 本法ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊

豆七島ニ於テハ東京府知事、北海道ニ於テハ支廳長、沖繩縣ノ區ニ於テハ區長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

第九十條 北海道ニ於ケル産業組合ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

●産業組合法施行規則 (明治三十三年七月 農商務省令第六十號)

第一條 出資一口ノ金額ニ五十圓ヲ超ユルコトヲ得ス但特別ノ理由アルトキハ此限ニ在ラス

第二條 第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第三條 準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス

第四條 組合カ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徴收スルトキハ其金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルルコトヲ要ス脱退シタル組合員ニ對シ其持分ノ一部ヲ拂戻スヘキコトヲ定メタルトキハ其殘額ニ付キ亦同シ

第四條ノ二 總代会ハ千五百人以上ノ組合員ヲ有スル組合ニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス

總代会ヲ設ケムトスルトキハ定款中ニ總代ノ選任及解任ノ方法、員數並任期ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ要ス(三十九年農商務省令第十號ヲ以テ本條追加)

シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面

第八十四條 組合ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且組合カ總會ノ決議ニ因リテ解散シタルトキハ總會ノ決議録ヲ添附スヘシ

第八十五條 合併ニ因ル解散ノ登記申請書ニハ第八十三條ニ掲ケタル書面ヲ添附スヘシ

第八十六條 第八十一條第一項ノ規定ハ出資一口ノ金額又ハ組合員ノ責任ヲ減少、組合ノ解散及組合ノ合併ニ因ル變更、設立又ハ解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條 本法ノ規定ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ組合員名簿ニ記載シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十八條 非訟事件手續法第百三十六條乃至第百三十八條、第百四十一條乃至第百五十一條、第百五十四條乃至第百五十八條、第百六十三條乃至第百六十五條及第百七十五條乃至第百七十七條ノ規定ハ産業組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

第八十九條 本法ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊

第五條 理事及ヒ監事ハ定款ノ規定又ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第六條 組合ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但特別ノ理由アルトキハ此限ニ在ラス

第七條 理事ハ總會ノ承認ヲ經タル後遲滞ナク産業組合法第三十條第一項ニ掲ケタル書類ヲ地方長官ニ差出スコトヲ要ス

第八條 組合ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 組合員ノ數及ヒ出資口數ノ異動
- 二 出資拂込ノ總額及ヒ剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其總額
- 三 借入金及ヒ其償還
- 四 準備金及ヒ各種ノ積立金
- 五 總會ノ決議
- 六 事業ノ狀況及損益ノ計算(全上リ以テ本號改正)
- 七 信用組合ニ在リテハ貸付シ又ハ償還ヲ受ケタル金額及件數、受入又ハ拂戻シタル貯金額及貯金ヲ爲シタル組合員數並貯金及貸付金ノ利率、販賣組合ニ在リテハ受入又ハ販賣シタル物ノ種目別ノ數量及價額、購買組合ニ在リテハ購買又ハ賣却シタル

物ノ種目別ノ數量及價額、生産組合ニ在リテハ生産シタル物ノ種目別ノ數量又ハ加工若ハ使用ノ功程ヲ表示スヘキ事項(全上)

- 八 組合員ノ職業別ノ數及ヒ出資口數
- 九 保證責任組合ニ在リテハ保證金額
- 十 處務ノ要件

第九條 理事ハ毎年總會ノ決議ヲ經テ左ノ事項ヲ地方長官ニ報告スルコトヲ要ス

- 一 一事業年度ニ於テ借入ルルコトヲ得ヘキ最高金額
- 二 信用組合ニ在リテハ一事業年度ニ於テ一組合員ニ貸付スルコトヲ得ヘキ最高金額

第十條 出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議録財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ添付スルコトヲ要ス

第十一條 剩餘金ノ配當ハ持分ノ全部又ハ取扱ヒタル物ノ數量價額若ハ事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 合併ノ認可申請書ニハ第十條ニ掲ケタル書類ノ外合併契約書及ヒ合併後存續スル組合又ハ合併ニ因

リテ設立スル組合ノ定款ヲ添付スルコトヲ要ス

第十三條 組織變更ノ認可申請書ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添付シ組合員ノ責任ヲ減少スルトキハ尙ホ第十條ニ掲ケタル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第十四條 郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フヘキ者カ産業組合法第六十條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ハントスルトキハ地方長官ノ指揮ヲ請フコトヲ要ス

第十五條 地方長官カ産業組合法第六十條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタルトキハ直チニ其旨ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第十六條 組合カ産業組合法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日ヲ地方長官ニ届出ルコトヲ要ス但組合員名簿ニ爲シタル記載ハ此限ニ在ラス

第十七條 組合ヨリ地方長官ニ差出スヘキ書類ハ郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ經由スルコトヲ要ス

第十八條 本則ハ産業組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本則ハ明治三十三年勅令第二百五十五號ニ依リ設立スル産業組合ニハ之ヲ適用セス

第二章 農業

●農會法 (明治三十二年六月法律第百三號)

第一條 農會ハ農事ノ改良發達ヲ計ル爲メニ設立スルモノトス

第二條 農會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 農商務大臣ハ其ノ定ムル所ノ條件ヲ具備スル農會ニ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第四條 農會ニ補助スル金額ハ北海道又ハ一府縣ヲ通シテ一箇年四千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 農會補助ノ爲メ國庫ヨリ支出スル金額ハ一箇年十五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

附 則

第六條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

●農會令 (明治三十八年十月勅令第百二十五號)

第一條 農會ハ市町村農會、郡農會、北海道農會及府縣農會トス

本令ニ依リ設立シタル農會ニ非サレハ前項ニ掲ケタル名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第二條 農會ハ法人トス

農會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 市町村農會ノ區域ハ市町村ノ區域ニ依リ郡農會ノ區域ハ郡ノ區域ニ依リ北海道農會又ハ府縣農會ノ區域ハ北海道又ハ府縣ノ區域ニ依ル但シ東京府農會ニ在リテハ小笠原島及伊豆七島ヲ除ク

特別ノ事由アルトキハ市町村農會ノ區域ハ前項ノ區域ニ依ラサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市農會ニ在リテハ地方長官、町村農會ニ在リテハ郡長ノ許可ヲ經テ其ノ區域ヲ定ムヘシ但シ市ノ區域ノ一部ヲ加ヘテ町村農會ノ區域ト爲サムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

市ト郡トノ區域ニ涉リテ市町村農會ノ區域ノ設定アリタルトキハ第一項郡農會ノ區域モ亦自ラ之ニ伴ヒ變更アリタルモノトス

北海道ニ於テハ數郡ヲ以テ一郡農會ノ區域ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ北海道廳長官ノ許可ヲ經テ其ノ區域ヲ定ムヘシ

第四條 市町村農會ハ其ノ區域内ニ於テ國及公共團體ヲ除クノ外耕地牧場又ハ原野ヲ所有スル者及農業ヲ營ム者ヲ以テ之ヲ組織シ郡農會ハ其ノ區域内ノ町村農會ヲ以テ之ヲ組織シ北海道農會又ハ府縣農會ハ其ノ區域内

ノ郡農會及市農會ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 市町村農會ヲ設立スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 設立者ノ數第四條ノ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ナルコト

二 其ノ區域内ニ於テ設立者ノ占有又ハ所有スル耕地及牧場ノ面積カ私用ニ供スル耕地及牧場ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト

北海道、沖繩縣、小笠原島及伊豆七島ニ於テハ前項第二號ノ條件ヲ要セス

第六條 郡農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數其ノ區域内ノ町村總數ノ三分ノ二以上タルコトヲ要ス

府縣農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數其ノ區域内ノ郡市總數ノ三分ノ二以上タルコトヲ要ス

北海道ニ於ケル郡農會及北海道農會ヲ組織スヘキ農會ノ數ハ農商務大臣之ヲ定ム

第七條 農會成立シタルトキハ第四條ニ依リ當該農會ヲ組織スヘキ者ハ總テ其ノ農會ニ加入シタルモノト看做ス

第八條 農會ノ設立者ハ會則ヲ定メ市町村農會ニ在リテハ五名以上ノ委員、其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ會長ヨリ之ヲ行政廳ニ差出シ農會設立ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 會則ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 名稱並北海道農會、府縣農會及郡農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ名稱

二 事業

三 事務所

四 役員ノ職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定

五 會議ニ關スル規定

六 會費ノ分賦收入ニ關スル規定

七 財産ニ關スル規定

八 處務及會計ニ關スル規定

九 會則ノ變更ニ關スル規定

十 解散ニ關スル規定

會則ノ變更ハ行政廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十條 總會ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員、北海道農會、府縣農會及郡農會ニ在リテハ其ノ農會ヲ組織スル農會ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス農會ノ代表者ハ一農會ニ付一名トス

農會ニハ會則ノ定ムル所ニ依リ副代表者一名ヲ置クコトヲ得

非サルモノハ會則ノ定ムル所ニ從ヒ會長ニ於テ書面ニ依リ會員又ハ代表者ノ意見ヲ徵シ總會ノ招集ニ代フルコトヲ得

第十六條 農會ハ農事ニ功勞アル者又ハ農事ニ關シ學識經驗アル者ヲ名譽會員ト爲スコトヲ得

名譽會員ハ議決權ヲ有セス

第十七條 農會ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

會長 一名

副會長 一名

前項ノ外役員トシテ評議員及幹事ヲ置クコトヲ得

評議員及幹事ノ員數ハ會則ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ評議員ハ市町村農會ニ在リテハ七名、北海道農會、府縣農會及郡農會ニ在リテハ五名、幹事ハ二名ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條 會長、副會長及評議員ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員中、其ノ他ノ農會ニ在リテハ代表者中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉スヘシ但シ會長及副會長ハ名譽會員中ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ妨ケス

幹事ハ市町村農會ニ在リテハ會員中、其ノ他ノ農會ニ在リテハ代表者中ヨリ會長之ヲ選任ス但シ名譽會員中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ケス

トヲ得副代表者ハ代表者事故アルトキ之ヲ代理ス

第十一條 代表者及副代表者ハ總會ニ於テ役員中ヨリ之ヲ選舉ス但シ役員中ヨリ選舉スルコト能ハサル場合ニ於テ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員中、其ノ他ノ農會ニ在リテハ其ノ總會ヲ組織スル代表者中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

名譽會員中ヨリ選舉セラレタル役員ハ前項ノ代表者及副代表者タルコトヲ得ス

代表者及副代表者ノ任期ハ事業年度ニ從ヒ三箇年トス但シ補闕ノ爲選舉セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十二條 代表者及副代表者ハ其ノ任期滿了ノ場合ト雖後任者ノ就任スル迄其ノ職務ヲ行フモノトス

第十三條 總會ノ決議カ法令若ハ會則ニ違背シ公益ヲ害シ又ハ事業ノ執行上不適當ナリト認ムルトキハ會長ハ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得

第十四條 總會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ招集スル暇ナシト認ムルトキハ會長ハ專決處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ總會ノ承認ヲ求ムヘシ

第十五條 總會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニシテ重要ノ事項ニ

第十九條 會長ハ會務ヲ總理シ農會ヲ代表ス
副會長ハ會長ノ事務ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得
評議員ハ會長ノ諮問ニ應ジ及會務執行ノ狀況ヲ監査スルモノトス

幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ會務ヲ掌ル

第二十條 農會ノ經費ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員ノ負擔トシ其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ負擔トス

市町村農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ物件ヲ以テ經費ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得
市町村ハ必要ト認ムルトキハ監督官廳ノ許可ヲ得テ市町村農會ニ補助ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 農會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第二十二條 農會ハ毎年總會ニ於テ經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ議決シ二月末日迄ニ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ
經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ變更セムトスルトキハ

總會ノ議決ヲ經テ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 農會ハ毎年六月三十日迄ニ前年度ノ經費ノ決算、財産及會務ノ狀況ヲ會員又ハ農會ニ公示シ且之ヲ行政廳ニ報告スヘシ

第二十四條 農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農事ニ關スル報告書ヲ作り之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十五條 農會ハ農事ノ改良發達ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

農會ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

第二十六條 行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ農會ノ狀況若ハ書類ヲ検査シ又ハ農會ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 農會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違背スルトキ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムトキハ北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣其ノ他ノ農會ニ在リテハ地方長官ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
一 決議ノ取消
二 役員ノ解職
三 事業ノ停止
四 解散

解職セラレタル役員ハ二箇年間役員タルコトヲ得ス

第二十八條 農會ニ於テ解散ヲ議決シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二十九條 行政區劃ノ變更アリタルトキハ農會ノ區域モ亦自ラ變更アリタルモノトス

農會ノ屬スル地方區域他ニ合併又ハ分割セラレタルトキハ其ノ農會ハ解散ス

第三十條 前條ノ場合ニ於テ新地方區域内ニ既設ノ農會存立セザルトキ舊農會ノ會員タリシ者並其ノ占有者ハ所有スル耕地及牧場ノ面積又ハ舊農會ヲ組織セシ農會ノ數第五條若ハ第六條ノ條件ニ該當スルトキハ直ニ新地方區域ニ依リ農會ヲ設立シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ行政廳ニ於テ假ニ會則ヲ定メ假役員及ヒ代表者ヲ選任シテ役員及代表者ノ選任アル迄會務ヲ處理セシムヘシ

第一項ニ依リ設立シタル農會ハ會則ヲ議決シ設立ノ時ヨリ二箇月以内ニ行政廳ノ認可ヲ申請スヘシ

第三十一條 第三條第二項ノ場合ニ於テ郡長又ハ地方長官ノ許可ヲ經テ設立シタル農會ニシテ特別ノ事由消滅シタルトキハ郡長又ハ地方長官ハ其ノ許可ヲ取消スヘシ

農會ハ前項ノ取消ニ因リテ解散ス此ノ場合ニ於テハ前條ノ規程ヲ準用ス

第三十二條 農會ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙存續スルモノト見做ス

第三十三條 農會解散シタルトキハ會長及副會長其ノ清算人ト爲ル但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ノ決議ヲ以テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行政廳清算人ヲ選任ス清算人關ケタルトキ亦同シ

第三十四條 清算人ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メテ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

清算人ハ農會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十五條 行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ清算及財産處分方法ノ變更又ハ清算人ノ解職ヲ命スルコトヲ得

第三十六條 清算力結了シタルトキハ清算人ハ農會ニ屬スル帳簿其ノ他ノ書類及清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ行政廳ニ届出ツヘシ

第三十七條 第八條、第九條第二項、第二十二條、第二十三條、第二十八條、第三十條第二項及第三項、第三十三條第二項、第三十四條第一項、第三十五條及第三

十六條ノ行政廳ハ町村農會ニ在リテハ郡長、市農會及郡農會ニ在リテハ地方長官、北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣トス

附 則

第三十八條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ既設ノ農會ニシテ第五條又ハ第六條ノ條件ヲ具備スルニ至ラサルモノニ關シテハ第七條ノ規定ヲ適用セス（十月二十八日發布）

第三十九條 既設ノ農會ハ明附三十九年二月末日迄ニ本令ニ依リ總會ヲ開クヘシ其ノ總會ヲ開クニ至ル迄尙從前ノ規定ヲ適用ス

前項ノ總會ニ於テハ會則ノ變更ヲ議決シ其ノ議決シタル會則ニ依リ直ニ代表者、現ニ代表者ニシテ役員タル者ニ代ハルヘキ役員並會則ニ於テ評議員及副代表者ヲ置キタルモノニ在リテハ評議員及副代表者ヲ選舉スヘシ

現ニ代表者タル者及代表者ニシテ役員タル者ノ任期ハ新任者ノ就職スル日迄トス

●農會令施行規則

（明治三十八年十一月農商務省第二十四號）

第一條 農會設立ノ許可申請書ニハ農會令第五條又ハ第六條ニ定メタル條件ヲ具備スルコトヲ證スル書面ヲ添

六條ニ定メタル條件ヲ具備スルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二條 農會設立ノ許可アリタルトキハ遲滞ナク經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ議決シ行政廳ノ認可ヲ申請シ且役員代表者及副代表者ヲ置キタルモノニアリテハ副代表者ヲ選舉スヘシ農會令第三十條第三項ノ規定ニ依リ會則ノ認可アリタルトキ亦同ジ

第三條 經費ノ豫算及分賦收入ノ方法又ハ會則ノ變更認可申請書ニハ其ノ變更ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第四條 農會ニ於テ會則ノ施行又ハ事業ノ執行ニ關スル規定ヲ設ケタルトキハ其ノ都度行政廳ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第五條 役員又ハ清算人ノ選任又ハ解任アリタルトキハ遲滞ナク其ノ氏名ヲ行政廳ニ届出ツヘシ

第六條 市町村農會ノ會員ハ代理人ニ依リ議決權ヲ行フコト得但シ會員ニ非サレハ代理人タルヲコトヲ得ス

第七條 農會令第二十六條又ハ第二十七條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲シタルトキハ郡長ハ地方長官ニ地方長官ハ農商務大臣ニ其ノ事由ヲ具シテ遲滞ナク之ヲ報告スヘシ

第八條 農會ノ設立又ハ解散アリタルトキハ郡長ハ地方長官ニ地方長官ハ農商務大臣ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ農會ノ區域ニ變更アリタルトキ亦同シ

第九條 農會ノ設立又ハ解散アリタルトキハ行政廳ハ之ヲ告示スヘシ第十條ニ依リ届出ヲ受ケタルトキ亦同シ

第十條 既設農會令第五條又ハ第六條ノ條件ヲ具備スルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添附シテ遲滞ナク其ノ旨ヲ行政廳ニ届出ツヘシ其ノ條件ヲ具備スルニ至リタルトキ亦同シ

第十一條 前條ノ規定ニ依リ届出ヲ受ケタルトキハ郡長ハ地方長官ニ、地方長官ハ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條 農會令中郡トアルハ島司ヲ置キタル島嶼、市トアルハ北海道、沖繩縣ノ區、町村トアルハ町村組合及町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル町村ニ準スヘキ地ヲ包含ス

農會令及本則ノ規定ニ依リ郡長ノ行フベキ伊豆七島中島司ヲ置カサル島嶼ニ於テハ東京府知事、北海道ニ於テハ支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

第十三條 農會ヨリ書面ヲ農商務大臣ニ差出ストキハ地方長官ヲ經由スヘシ

●農會補助金交付規則

（明治三十三年三月農商務省令第二號）

第一條 明治三十二年法律第百三號農會法ニ規定セル補助金ハ本則ニ依リ之ヲ交付ス

第二條 補助金ハ北海道農會及ヒ府縣農會ニ之ヲ交付ス但シ農商務大臣必要ト認ムトキハ府縣農會ニ加入ヲ要セサル郡農會ニ之ヲ交付スルコトヲ得

（三十八年農商務省令第二十五號ヲ以テ但書改正）

第三條 補助金ノ交付ヲ受ケタル北海道農會又ハ府縣農會ハ必要ナリト認ムルトキハ其農會ヲ組織スル農會ニ補助金ヲ支給スルコトヲ得（全上ヲ以テ但書改正）

第四條 農會ガ補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ二月末日迄ニ地方長官ヲ經由シ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

- 一 補助ヲ受ケムトスル年度ノ事業方法書
- 二 申請ノ理由ヲ記載シタル書面

郡農會ニ在リテハ前項書類ノ外其ノ農會ノ收支豫算書及財産目錄ヲ添附スルコトヲ要ス（全上ヲ以テ改正）

第五條 補助金ハ月割ヲ以テ計算シ毎年四月及ヒ十月ニ各半年分ヲ交付ス

第六條 補助金ノ交付ヲ受ケタル農會ハ前年度ノ經費及

ヒ會務ノ狀況ヲ記載シタル書面ヲ調製シ六月三十マテニ地方長官ヲ經山シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第七條 農會カ其事業ヲ停止シタルトキハ農商務大臣ハ補助金交付ノ指令ヲ取消シ又ハ補助金額ヲ減少スルコトヲ得

第八條 農會カ解散シタルトキハ農商務大臣ハ既ニ交付シタル補助金ヲ還納セシムルコトヲ得

附 則

第九條 本則ハ農會法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 明治三十三年度ノ補助金ハ第四條ノ申請期限及ヒ第六條ノ交付期月ニ拘ハラス之ヲ交付ス

●府縣農事試驗場規程 (明治三十二年八月農務省令第二十號)

第一條 本規程ニ於テ府縣農事試驗場ト稱スルハ府縣ノ費用ヲ以テ設立スル農事試驗場ヲ謂フ

第二條 府縣農事試驗場ハ一府縣一箇所ヲ限り設立スルコトヲ得但分場ヲ設クルコトヲ妨ケス

第三條 府縣農事試驗場ハ其府縣内ノ農産ノ増殖改良ニ關スル事項ニ付キ試驗ヲ行フ

府縣農事試驗場ハ毎年一回以上試驗ノ成績ニ關スル報

告書ヲ發行スルコトヲ要ス

第四條 府縣農事試驗場ハ左ノ業務ヲ行フコトヲ得

一 巡回講話、短則講習

二 種苗、蠶種、種禽、種豚等ノ配付

三 土壤、肥料、農産物等ノ分析

四 種苗、肥料等ノ鑑定

五 模範農事

第五條 府縣農事試驗場ハ農商務大臣ノ指定シタル事項ニ付キ試驗又ハ調査ヲ爲スコトヲ要ス

第六條 府縣農事試驗場ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス分場ヲ設ケントスルトキ亦同シ

一 名稱及ヒ位置

二 業務ノ項目

三 試驗用地ノ種類及ヒ其面積

四 建物ノ種類及其坪數

五 職員ノ職名、其員數及ヒ俸給額

六 收支豫算書

第七條 府縣農事試驗場ノ收支豫算書ハ每會計年度前三十日ヲ限り地方長官ヨリ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス但國庫ノ補助ヲ受クル府縣農事試驗場ニ付テハ此限

ニ在ラス

前條第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ地方長官ハ毎年三月三十一日ニ於テ現存スル事項ヲ翌月中ニ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス

第八條 府縣農事試驗場前年度ノ業務功程ハ地方長官ヨリ毎年五月限リ之ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス府縣農事試驗場ノ試驗成績報告書ハ之ヲ發行スル毎ニ地方長官ヨリ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第九條 府縣農事試驗場又ハ其分場ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

附 則

第十條 本規程ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 本規程施行前ニ設立シタル府縣農事試驗場ニ付テハ地方長官ハ明治三十二年十月三十一日マテニ第六條ニ掲ケタル事項ヲ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス

●馬匹去勢法 (明治三十四年四月法律第二十三號)

第一條 牡馬ニハ去勢ヲ行フ但シ種牡馬ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 牡馬ニシテ種牡馬タルヘキ資質アリト認めタル

モノニハ頭數ヲ限り去勢ノ施行ヲ猶豫ス

疾病又ハ發育不全ニ因リ去勢ヲ行フニ堪ヘスト認めタルモノ若ハ學術研究ノ爲メ行政官廳ノ許可ヲ得タルモノニハ去勢ノ施行ヲ猶豫スルコトヲ得

第三條 牡馬ノ去勢年齡ハ明ケ三歲トス

去勢ハ春期又ハ夏期ニ於テ之ヲ行フ

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル牡馬ニハ去勢年齡ニ拘ハラズ去勢ヲ施行ス但シ明ケ十五歲以上ノモノハ此ノ限ニ在ラス

一 去勢ノ施行ヲ猶豫シ其ノ他已ヲ得スシテ去勢ヲ施行スルコトヲ得サリシ牡馬ニシテ其ノ事由消滅シタルモノ

二 去勢年齡ヲ經過シタル牡馬ニシテ本法施行後本法ヲ施行セサル島嶼ヨリ牽キ入レ又ハ外國ヨリ輸入シタルモノ

三 本法施行ノ際去勢年齡ヲ經過シタルモノヲ除クノ外種牡馬ニシテ検査合格ノ證明ノ效力ヲ失ヒタルモノ

第五條 牡馬ニシテ去勢施行ノ爲斃死シ又ハ從來ノ用途ヲ變更若ハ廢止スルノ已ムヲ得サルニ至リタルトキハ償金ヲ與フヘシ

第六條 去勢施行ノ費用ニ關スル規定並前條償金ノ査定ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 牡馬ノ去勢ノ施行ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 本法ハ種牡馬検査法ヲ施行セサル島嶼ニハ之ヲ施行セス

馬匹去勢獎勵費取扱手續

(明治三十七年六月 農商務省訓令第六號)

北海道廳 府縣 沖繩縣 ヲ除ク

第一條 農商務大臣ハ馬匹去勢獎勵費仕拂概算額ヲ定メ北海道廳長官府縣知事ニ其ノ仕拂ヲ委任ス

第二條 北海道廳長官府縣知事ハ前條仕拂概算額以內ニ於テ其ノ管内ノ馬匹去勢獎勵金受領者ニ交付スヘキ金額ノ仕拂命令ヲ發スヘシ

第三條 北海道廳長官府縣知事ニ於テ第一條ノ仕拂概算額ニ不足ヲ生スト認ムルトキハ其ノ事由及金額ヲ具シ追加仕拂ノ委任ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ

第四條 北海道廳長官府縣知事ニ於テ第一條ノ仕拂委任ヲ受ケタル金額ニ剩餘ヲ生シタルトキハ直チニ其ノ金額ヲ農商務大臣ニ申牒スヘシ

第五條 北海道廳長官府縣知事ハ第二條ノ仕拂ヲナシタトキハ第一號書式ニ依リ支出明細書ヲ調製シ翌月十五日マテニ其ノ廳ヲ發シ農商務大臣ニ差出スヘシ

第六條 第二條ノ仕拂ニ對シ誤拂若クハ過渡アルトキハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ歲入ノ取扱ヲナシタル後第二號書式ノ報告書ヲ調製シ其ノ都度農商務大臣ニ差出スヘシ

三歳若ハ四歳牡馬ノ去勢獎勵

金下付ノ件 (明治三十九年四月 農商務省令第十三號)

明ケ三歳若ハ明ケ四歳ノ牡馬ニシテ地方長官ノ指定シタル方法ニ依リ去勢ヲ行ヒタル馬匹ノ所有者ニハ每一頭獎勵金三圓ヲ下付スヘシ

前項馬匹ニシテ去勢施術ノ爲斃死シ若ハ廢疾トナタルトキハ其ノ所有者ニ金三十圓以內ノ損失手當ヲ下付スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ沖繩縣及種牡馬検査法ヲ施行セサル島嶼ニハ之ヲ適用セス

種牡馬検査法

(明治三十年三月 法律第十二號)

第一條 牡馬ハ此ノ法律ニ依リ毎年検査ヲ受ケ合格シタルモノニアラサレハ種付ケニ使用スルコトヲ得ス(三十二年法律第九十二號改正ニ依ル)

第二條 検査ニ合格シタル種牡馬ニハ軀肢ノ一部ニ烙印シ其ノ所有者ニ證明書ヲ下付スヘシ

第三條 證明書ノ效力ハ滿一箇年トス但地方ノ狀況ニ依リ此ノ年限ニ依ラサルコトヲ得

(三十二年法律第九十二號ヲ以テ但書追加)

前項期限内ト雖疾病其ノ他ノ事故ニ因リ種牡馬ニ不適當ナリト認メタルトキハ證明ノ效力ヲ停止シ若ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第四條 検査ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス

第五條 此ノ法律ハ官廳所有ノ種牡馬ニ適用セス

第六條 學術研究ノ爲種牡馬ヲ種付ケニ使用セムトスル者アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經特ニ其ノ種付ケヲ許可スルコトアルヘシ

第七條 検査ニ合格セサル牡馬又ハ證明ノ效力ヲ失ヒ若ハ停止セラレタル種牡馬ヲ種付ケニ使用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 種牡馬検査ノ標準及方法検査委員ノ組織其ノ他此ノ法律施行ノ爲必要ノ規程ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九條 北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ因リ農商務大臣ハ當分ノ内島嶼ニ限リ此ノ法律ヲ施行セサルコトヲ得

(三十二年法律第九十二號ヲ以テ追加以下條下ク)

附 則

第十條 此ノ法律施行以前ニ與ヘタル種牡馬ノ免許ハ其ノ免許期限間效力ヲ有スルモノトス

第十一條 此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

種牡馬検査法施行規則

(明治三十九年十月 月令第八號)

第一條 種牡馬ノ検査ヲ受ケムトスル者ハ地方長官ニ願出ツヘシ

第二條 種牡馬ノ検査ハ馬政長官二名以上ノ検査委員ヲシテ之ヲ行ハシム其ノ期日及場所ハ馬政長官ノ通告ニ依リ地方長官之ヲ告示ス

検査委員ハ馬政官、種馬牧場長、種馬育成所長、種馬所長又ハ馬政局技師及北海道廳府縣官吏ヲ以テ組織シ馬政局官吏ニ在リテハ馬政長官、北海道廳府縣官吏ニ在リテハ地方長官之ヲ命ス但シ北海道廳府縣官吏ヨリ命スヘキ検査委員ノ數ハ馬政長官之ヲ定ム

北海道廳府縣ノ管下ニ屬スル島嶼及沖繩縣ニ於ケル種
牡馬ノ検査ハ馬政長官前二項ノ規定ニ依ラス之ヲ行フ
コトヲ得

第二條ノ二 前條ノ検査期日經過後外國ヨリ輸入シ若ハ
他府縣ヨリ牽入レタル牡馬又ハ疾病ニ罹リ検査期日ニ
検査ヲ受ケサル牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ馬政長官ノ
許可ヲ得テ種馬所ニ牽付ケ臨時検査ヲ受クルコトヲ得
但シ種馬所ノ設ナキ地方ニ在リテハ地方廳ニ牽付ケ檢
査ヲ受クルコトヲ得

前項種馬所ニ於ケル検査ハ馬政長官ノ命シタル検査委
員、地方廳ニ於ケル検査ハ地方長官ノ命シタル検査委
員之ヲ行フ(明治四十年閣令第四號ヲ以テ追加)

第三條 種牡馬検査ノ標準ハ左ノ如シ

- 一 年齢滿三歲以上
 - 二 體格及性質善良ナルモノ
 - 三 遺傳性缺點ナキモノ
- 馬政長官ハ地方ノ狀況ニ依リ前項各號ノ外必要ト認ム
ル標準ヲ定ムルコトヲ得

第四條 検査ニ合格シタル種牡馬ハ其ノ前肢左蹄ニ烙印
シ且第一號書式ニ依リ其ノ所有者又ハ管理者ニ證明書
ヲ下付ス

第五條 證明書ノ有效區域ハ一馬政管區トス但シ馬政長
官必要ト認ムルトキハ其ノ區域ヲ限定スルコトヲ得
馬政長官ハ地方ノ狀況ニ依リ滿五箇年以内效力ヲ有ス
ル證明書ヲ下付スルコトヲ得

第六條 馬政長官又ハ地方長官ハ検査ニ合格シタル種牡
馬ニシテ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ種牡馬ニ不適當ナリ
ト認ムルモノアルトキハ其ノ證明ノ效力ヲ停止シ又ハ
之ヲ取消スコトヲ得

第七條 左ノ場合ニ於テハ種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ
三十日以内ニ證明書ヲ地方長官ニ返納スヘシ

一 證明書ノ有効期間滿了シタルトキ

二 種牡馬斃死シタルトキ

三 種牡馬ノ用ヲ廢シタルトキ

四 前條ニ依リ證明ヲ取消サレタルトキ

第八條 種牡馬ノ種付ヲ爲ストキハ其ノ所有者又ハ管理
者ハ證明書ヲ携帶スヘシ

證明書ハ職權アル官吏又ハ牝馬所有者若ハ管理者ヨリ
其ノ閱覽ヲ請求スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 證明書ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ種牡
馬ノ所有者又ハ管理者ハ地方長官ニ届出テ證明書ノ更
正ヲ受クヘシ但シ種牡馬ノ所有權ヲ移轉シタルトキハ

相續又ハ遺贈ニ依ル場合ヲ除クノ外讓渡人ノ連署ヲ要
ス

證明書ノ毀損亡失シタル場合ニ於テハ種牡馬ノ所有者
又ハ管理者ハ其ノ旨地方長官ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ
於テハ第二號書式ノ證明書ヲ下付ス

第十條 種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ第三號書式ノ帳簿
ヲ調製シ種付牝馬ノ種類、年齢、毛色、體尺、特徴、
種付年月日及其ノ所有者又ハ管理者ノ住所氏名ヲ記載
スヘシ

第十一條 牝馬所有者又ハ管理者産駒ノ血統證ヲ請求ス
ルトキハ種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ理由ナクシテ之
カ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 種牡馬検査委員検査ヲ結了シタルトキハ其ノ
成績ヲ地方長官ニ報告スヘシ

馬政長官第六條ニ依リ種牡馬證明ノ效力ヲ停止シ又ハ
取消シタルトキハ其ノ旨地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ハ前二項ノ報告ニ依リ種牡馬表ヲ調製シ種牡
馬ノ種類、年齢、體尺、毛色及所有者又ハ管理者ノ住
所氏名ヲ管内ニ告示スヘシ其ノ異同ヲ生シタルトキ亦
同シ

第十三條 馬政長官又ハ地方長官ハ臨時主任官吏ヲシテ

種牡馬ノ狀況、産駒ノ成績及第十條ノ帳簿ヲ検査セシ
ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ種牡馬所有者又ハ管理者ハ其ノ
検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 地方長官種牡馬證明ノ效力ヲ停止シ若ハ取消
シタルトキ又ハ第十二條第三項ノ告示ヲ爲シタルトキ
ハ之ヲ馬政長官ニ報告スヘシ

第十五條 種牡馬ノ所有者又ハ管理者第七條、第八條、

第九條第一項、第十條、第十一條及第十三條第二項ニ
違反シタルトキハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

種牡馬検査法施行細則ハ之ヲ廢止ス

書式第一號 (縦四寸横五寸五分)

種牡馬證明書

所有者(又ハ管理者)住所氏名

種類(名號) 〃 〃 〃

生年月日 〃 〃 〃

體尺 〃 〃 〃

毛色及特徵 〃 〃 〃

使用地 〃 〃 〃

有效期間 自明治 〃 年 〃 月 〃 日 至 〃 年 〃 月 〃 日

一檢査地 〃 〃 〃

右種牡馬タルコトヲ證明ス

明治 〃 年 〃 月 〃 日

北海道廳(府)(縣)第 〃 號

馬政局

裏

檢査年	月	日	檢査官	氏名	印
明治	〃	〃	〃	〃	〃
明治	〃	〃	〃	〃	〃
明治	〃	〃	〃	〃	〃
明治	〃	〃	〃	〃	〃
明治	〃	〃	〃	〃	〃
明治	〃	〃	〃	〃	〃
明治	〃	〃	〃	〃	〃
明治	〃	〃	〃	〃	〃

備考

書式第二號 (縦四寸、横五寸五分)

種牡馬證明書

所有者(又ハ管理者)住所氏名

種類(名號) 〃 〃 〃

生年月日 〃 〃 〃

體尺 〃 〃 〃

毛色及特徵 〃 〃 〃

使用地 〃 〃 〃

有效期間 自明治 〃 年 〃 月 〃 日 至 〃 年 〃 月 〃 日

一檢査地 〃 〃 〃

右種牡馬檢査法施行規則第九條ニ依リ下付ス

明治 〃 年 〃 月 〃 日

北海道廳(府)(縣)第 〃 號

馬政局

裏

檢査年	月	日	檢査官	氏名	印
明治	〃	〃	〃	〃	〃
明治	〃	〃	〃	〃	〃
明治	〃	〃	〃	〃	〃
明治	〃	〃	〃	〃	〃
明治	〃	〃	〃	〃	〃
明治	〃	〃	〃	〃	〃
明治	〃	〃	〃	〃	〃
明治	〃	〃	〃	〃	〃

備考

書式第三號 種牡馬種付簿

明治 〃 年

一種牡馬(名號) 〃 〃 〃

所有者(又ハ管理者)住所 〃 〃 〃 氏名 〃

種類 〃 毛色 〃 生年月日 〃 〃 〃 體尺 〃

種類	毛色	生年月日	體尺	備考
種	毛	年	寸	
類	色	月	分	
		日		

種付月日 〃 〃 〃

種付回数 第一回 〃 第二回 〃 第三回 〃 第四回 〃 第五回 〃

摘要 〃 〃 〃

所有者(又ハ管理者)住所氏名 〃 〃 〃 氏名 〃

備考 摘要欄ニハ産駒ノ生年月日、性又ハ血統書ヲ交付シタルコト等ノ事項ヲ記入スヘシ

産馬獎勵規程 (明治二十九年十月十日閣令第九號)

第一條 北海道廳又ハ府縣ニ於テ馬匹ニ關シ聯合共進會廳府縣共進會又ハ之ニ準スヘキモノヲ開設シタル場合ニ於テ地方長官ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ馬政長官ハ審査長及審査官ヲ命シテ出陳馬匹ヲ審査セシム

第二條 前條ノ場合ニ於テハ馬政長官ハ共進會ニ出陳セラルコトヲ得

第三條 褒賞ヲ分チテ左ノ四等トシ更ニ賞牌ヲ甲乙二種ニ區別シ甲種ハ聯合共進會又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ乙種ハ府縣共進會又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ之ヲ授與ス

- 一 一等賞金牌 甲種 直徑二寸五分
- 一 二等賞銀牌 甲種 直徑二寸五分
- 一 三等賞銅牌 甲種 直徑二寸五分
- 一 四等賞褒狀

賞牌ヲ受ケタル者ニハ併セテ賞金ヲ授與ス

第四條 馬政長官ハ聯合共進會、廳府縣共進會又ハ之ニ準スヘキモノノ開設ニ際シ必要ト認ムルトキハ其ノ開設費ノ幾分ヲ補助スルコトヲ得

第五條 馬政長官ハ民法第三十四條ニ依リ法人タル競馬會ニシテ馬匹改良上有益ト認ムルモノニ於テ褒賞ヲ授與ス

褒賞ハ障礙競走、長距離競走又ハ優勝馬競走ニ付馬政長官ノ指定ニ依リ之ヲ授與ス

第六條 馬政長官ハ民有ノ馬匹ニシテ體格性能優良ナル

第七條 獎勵金ヲ下付スヘキ馬匹ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ中ヨリ之ヲ選定ス

一 馬政管區ヲ通シテ有效ノ種牡馬證明書ヲ得タルモノ

二 官有種牡馬ノ種付検査ニ合格シタル牝馬

三 博覽會共進會又ハ品評會等ニ於テ褒賞ヲ得タル馬

四 前各號ノ外特ニ產馬改良上有效ナリト認メタル馬

第八條 獎勵金ノ下付ヲ受ケタル馬匹ノ所有者ハ獎勵金ヲ受ケタルトキヨリ一箇年以内ニ其ノ馬匹斃死シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ其ノ都度馬政長官ニ報告スヘシ

第九條 前數條ノ外產馬改良上必要ト認ムルトキハ馬政長官ハ團體又ハ個人ニ對シ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得

●牝馬臨時貸下規程 (明治三十九年一月農商務省令第二號)

第一條 馬匹ノ改良及蕃殖ノ爲農商務大臣ハ地方及頭數ヲ指定シテ臨時ニ牝馬ノ貸下ヲ爲ス

第二條 前條ノ貸下ハ左ニ掲クル者ニシテノ地方長官ノ

選定シタル者ニ限り之ヲ爲ス

一 產業組合又ハ產馬組合聯合會

二 產牛馬組合又ハ產牛馬組合聯合會

三 種畜場

四 縣、郡、縣農會、郡農會

五 產馬業ニ經驗ヲ有シ身元確實ナル者

第三條 前條ニ依リ地方長官ノ選定ヲ受ケタル者ハ地方長官ヲ經由シテ第一號書式ノ願書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第四條 貸下ノ許可ヲ得タル者ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ

第二號書式ノ借受書ヲ差出シテ馬匹ヲ受領スヘシ

前項馬匹ハ地方長官之ヲ指定ス但シ其ノ指定ニ對シ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五條 借受者貸下牝馬ニ付管理人ヲ置キ又ハ之ヲ廢止シタルトキハ其ノ都度地方長官ニ報告スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

地方長官必要ト認ムルトキハ前項管理人ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第六條 借受者ハ明治三十九年ニ於テ一頭四十四明治四十年ヨリ向五ヶ年間毎年一頭三十二圓ノ貸下料ヲ四月及十月ノ二回ニ納付スヘシ(四十年開令第一號ヲ以テ改正)

前項ノ貸下料ハ地方長官ノ發スル納入告知書ニ依リ納付スヘシ

第七條 前條期間ヲ經過シタルトキハ貸下牝馬ハ借受者ノ所有ニ歸ス

第八條 借受者貸下牝馬ニ種付ヲ爲サムトスルトキハ種付前其ノ種牡馬ニ付監督種馬所長又ハ種馬牧場長ノ認可ヲ受クヘシ但シ監督種馬所長又ハ種馬牧場長ナキトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 借受者ハ第三號書式ノ蕃殖帳簿ヲ備置キ產駒ニ關スル狀況ヲ記載スヘシ

第十條 貸下牝馬分曉シタルトキ又ハ產駒斃死シタルトキハ其ノ都度地方長官ニ報告スヘシ

第十一條 貸下牝馬ノ產駒ハ借受者ノ所得トス

第十二條 產駒ハ明ケ二歳ニ至ラサレハ賣却スルコトヲ得ス但シ特ニ地方長官ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 貸下牝馬ニ斃死又ハ其ノ他ノ事故ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ地方長官ヲ經由シテ速ニ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ斃死ノ場合ニ於テハ獸醫ノ檢案書ヲ添付スヘシ

第十四條 貸下牝馬蕃殖成績不良ナルトキ又ハ老衰セリ

ト認ムルトキハ借受者ハ之ヲ返納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ既納ノ貸下料ハ之ヲ還付セス

第十五條 貸下牝馬ノ借受返納其ノ他ニ要スル一切ノ費用ハ借受者ノ負擔トス

第十六條 貸下牝馬ニ付テハ農商務大臣、地方長官、種馬所長及種馬牧場長之ヲ監督ス

第十七條 農商務大臣、地方長官、種馬所長又ハ種馬牧場長ハ部下ノ官吏ヲシテ臨時貸下牝馬及其ノ產駒ノ狀況並第九條ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得

借受者ハ陸軍官憲ノ要求アルトキハ何時ニテモ前項ノ検査ヲ受クヘキモノトス

第十八條 地方長官種馬所長又ハ種馬牧場長ハ貸下牝馬ニ關シ必要ト認ムルトキハ借受者ニ命令ヲ發スルコトヲ得

第十九條 借受者ニ於テ本規程若ハ第十八條ニ基ク命令ニ違背シ又ハ検査ヲ拒ミタルトキハ貸下牝馬ノ返納ヲ命スルコトヲ得

第二十條 借受者故意又ハ怠慢ニ依リ貸下牝馬ニ損害ヲ與ヘタルトキハ相當ノ價額ヲ賠償セシムヘシ

第一號書式

牝馬貸下願

一牝馬

右馬匹改良蕃殖ニ供シ度候間貸下相成度此段相願候也

年月日

住所

右借受者 氏名(又ハ團體代表者)印

農商務大臣宛

第二號書式

牝馬借受書

一牝馬

但シ別紙明細表ノ通り

右馬匹改良蕃殖ノ爲貸下相成候ニ就テハ牝馬臨時貸下規程ハ勿論左記ノ各項遵守可致萬一違背致候節ハ何時返納ノ命セラレ候共聊異存無之御指定ノ期日及場所ニ添付返納可仕借受書如此候也

年月日

住所

右借受者 氏名(又ハ團體代表者)印

農商務大臣宛

一 官廳ノ指揮ニ従ハ常ニ衛生ニ注意シ誠實ニ飼養管理可致事

二 貸下牝馬ハ其ノ蕃殖ノ用ニ供スヘキ事

三 農商務若ハ陸軍官憲又ハ地方長官ノ要求アルトキハ何時ニテモ飼養地ヨリ約六里以内ノ御指定地ニ産駒ト共ニ自費ニテ牽出シ御検査ヲ受クヘキ事

四 疾病ニ罹リ又ハ負傷シタルトキハ速ニ獸醫ノ治療ヲ受クルコト

第三號書式(四十年閣令第一號ヲ以テ本表改正)

母馬名

種類	年次	第一	第二	第三	第四	第五	第六
類年	齡毛	色身	幹	借受年月	飼育地	借受者	住所氏名

事項	種馬名	種別	年毛色	種別	産駒					
					第一	第二	第三	第四	第五	第六
種付	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日
分	産	胸	毛	性	名	種	別	年	毛	色
事	故	月	日	色	種	別	年	毛	色	種
寶	却	地	賣	方	價	日				
備	考									

(備考)

一 一頁毎ニ母馬一頭及其ノ産駒ヲ記載ス

二 事故トハ略死撲殺等ヲ云フ

三 借受者ニ於テ管理人ヲ附キタルトキハ其ノ住所氏名ヲ附記スヘシ

●種牡牛検査法(明治四十四年四月法律第四十二號)

第一條 牡牛ハ本法ニ依リ検査ヲ受ケ合格シタルモノニ

非サレハ種付ケニ使用スルコトヲ得ス

第二條 検査ニ合格シタル種牡牛ニハ體ノ一部ニ烙印シ其ノ所有者ニ證明書ヲ下付ス

第三條 證明ノ效力ハ滿一箇年トス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

前項期間内ト雖疾病其ノ他ノ事故ニ因リ種牡牛ニ不適當ナリト認メタルトキハ證明ノ效力ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

第四條 検査ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス

第五條 本法ハ官廳所有ノ種牡牛ニ之ヲ適用セス

第六條 學術研究ノ爲牡牛ヲ種付ケニ使用セムトスル者アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經特ニ其種付ヲ許可スルコトヲ得

第七條 検査ニ合格セサル牡牛又ハ證明ノ效力ヲ失ヒ若ハ停止セラレタル種牡牛ヲ種付ケニ使用シタルモノハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 種牡牛検査ノ標準ハ農商務大臣之ヲ定ム

附 則

第九條 本法ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ當分ノ内島嶼ニ限リ本法ヲ施行セサルコトヲ得

第十一條 本法施行前ニ與ヘタル牡牛ノ免許ハ其ノ免許期間效力ヲ有ス

●種牡牛検査法施行規則

(明治四十年六月農商務省令第十七號)

第一條 種牡牛ノ検査ヲ受ケムトスル者ハ地方長官ニ願出ツヘシ

第二條 種牡牛ノ検査ハ地方長官毎年一回之ヲ行フ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ臨時検査ヲ行フコトヲ得

前項ノ検査ハ地方長官産牛業ニ經驗アル者及所屬官吏タル獸醫ノ中ヨリ各一人以上ノ検査員ヲ命シ之ヲ行フ但シ臨時検査ノ場合及島嶼ニ於テハ検査員一人ヲ以テ検査ヲ行フコトヲ得

第三條 種牡牛検査ノ標準ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 年齡十八箇月以上ナルコト

一 高サ四尺以上ナルコト

一 體格強健ニシテ性質善良ナルコト

一 惡質ノ疾病又ハ惡癖ナキコト

地方長官ハ前項ノ標準ニ依リ検査合格ノ資格ヲ定ムヘシ

地方長官ハ地方ノ狀況ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ
第一項第二號ノ標準ニ依ラサルコトヲ得

第四條 検査ニ合格シタル種牡牛ハ其ノ左角ニ烙印シ同
時ニ所有者又ハ管理者ニ別記様式ノ證明書ヲ下付ス但
シ左角ナキ牛ニ付テハ前肢蹄ニ烙印ス

第五條 證明書ハ其ノ道府縣限リ有效トス

地方長官ハ特ニ優良ト認ムル種牡牛ニ限リ滿三箇年以
内ニ於テ證明書ノ有効期間ヲ伸長スルコトヲ得

第六條 左ノ場合ニ於テハ種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ
三十日以内ニ證明書ヲ地方長官ニ返納スヘシ

一 證明書ノ有効期間滿了シタルトキ

一 種牡牛斃死シタルトキ

一 種牡牛ノ用ヲ廢シタルトキ

一 種牡牛検査法第三條第二項ニ依リ證明ヲ取消サレタ
ルトキ

第七條 種牡牛ノ種付ヲ爲ストキハ其ノ所有者又ハ管理
者ハ證明書ヲ携帯スヘシ

證明書ハ當該官吏又ハ種付ヲ受ケムトスル牝牛ノ所有
者若ハ管理者ヨリ其ノ閱覽ヲ請求スルトキハ之ヲ拒ム
コトヲ得ス

第八條 種牡牛ノ所有者又ハ管理者ノ異動ヲ生シ又ハ其

ノ住所、氏名ヲ變更シタル場合ニ於テハ種牡牛ノ所有
者又ハ管理者ハ地方長官ニ届出テ證明書ノ書換ヲ受ク
ヘシ但シ種牡牛ノ所有者ニ異動アリタルトキハ譲渡人
ノ連署ヲ要ス

證明書ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ種牡牛ノ所有者又
ハ管理者ハ之ヲ地方長官ニ届出テ其ノ再渡ヲ受クヘシ
但シ毀損ニ因リ再渡ヲ受クル場合ニハ原證明書ヲ返納
スヘシ

第九條 種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ帳簿ヲ調製シ種付
ケテ受ケタル牝牛ノ種類、年齢、毛色、高サ、特徴、
種付ケ年月日及其ノ所有者又ハ管理者ノ住所、氏名ヲ
記載スヘシ

第十條 牝牛ノ所有者又ハ管理者ニ於テ其ノ仔牛ノ血統
證明ヲ請求スルトキハ種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ正當
ノ事由ヲクシテ之カ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 地方長官ハ證明書ヲ下付シタル種牡牛ニ付其
ノ種類、年齢、毛色、高サ及所有者又ハ管理者ノ住所
氏名ヲ管内ニ告示スヘシ第六條第一號乃至第四號ノ場
合又ハ第八條ニ依リ證明書ヲ書換又ハ再渡シタル場合
亦同シ

第十二條 地方長官ハ當該官吏ヲシテ種牡牛ノ狀況、仔

牛ノ成績及第九條ノ帳簿ヲ調査セシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ種牡牛及仔牛ノ所有者又ハ管理者
ハ其ノ調査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 地方長官ハ第二條第一項又ハ前條ニ依リ行ヒ
タル検査又ハ調査ノ成績及狀況ヲ検査又ハ調査ヲ終
了シタル日ヨリ三十日以内ニ農商務大臣ニ報告スヘ
シ

第十四條 第六條第七條第二項第八條乃至第十條又ハ第
十二條第二項ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附 則

本則ハ明治四十年七月一日ヨリ施行ス

別記様式

表

種號	種牡牛證明書
所有者(管理)	住所氏名
種類	名號
年齢	
毛色	
高サ	
特徴	
種牡牛タルコトヲ證ス	
年月日	
道府縣	

裏

検査年月日	検査員
及有効期間	官氏名印

●種牛牧場種牛拂下規程

(明治三十九年三月 農商務省令第五號)

第一條 種牛ヲ拂受ケムト欲スル者ハ別記書式ニ依リ隨
時種牛牧場長ニ拂下願書ヲ提出スヘシ

第二條 前條ノ出願アリタルトキハ種牛牧場長ハ現ニ拂
下クヘキ種牛ノ種類、性、生年月、特徴及拂下代價ヲ
出願人ニ通シ期間ヲ定メ拂受希望ノ種牛ヲ撰擇指定シ
テ之ヲ届出テシムヘシ

出願人ニ於テ指定期間内ニ前項ノ届出ヲ爲ササルトキ
ハ出願ハ其ノ效力ヲ失フ

第三條 種牛牧場長ハ第一條ニ依ル種牛拂下願書受理後
滿三箇月ヲ經過スルモ尙ホ拂下クヘキ種牛ナキトキハ
願書ヲ出願人ニ返付スヘシ

第四條 種牛牧場長出願ヲ許可シタルトキハ代金納付ノ
期限及種牛引渡ノ期間ヲ指定シ拂下許可證ヲ下付スヘ
シ

第五條 拂受人正當ノ事由ヲクシテ前條指定期限迄ニ拂
下代金ヲ納付セサルトキハ拂下ノ許可ハ其ノ效力ヲ失
フ

第六條 拂受人種牛ノ引渡ヲ請求スルトキハ拂下許可證

及代金納付ノ證書ヲ種牛牧場長ニ呈示スヘシ
 拂受人前項ノ書面ヲ呈示セサルトキト雖種牛牧場長ニ
 於テ其ノ拂下許可ヲ受ケ且拂下代金ヲ納付シタル者ナ
 ルコトヲ認メタルトキハ引渡ヲ爲スコトヲ得
 種牛牧場長ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時タリトモ拂
 受人ニ通知シテ種牛引渡ノ期間ヲ變更スルコトヲ得
 第七條 拂受人引渡期間内ニ引渡ヲ請求セサルトキハ期
 間後一頭ニ付一日金五十錢ノ罰ヲ以テ飼養費ヲ引渡請
 求ノ際納付スヘシ

第八條 拂受人引渡期間後二週内ニ引渡ヲ請求セサル
 トキハ拂下ノ許可ハ其效力ヲ失フ此場合ニ於テハ既納
 ノ代金ハ之ヲ還付セシム
 第九條 引渡前ニ於テ拂下ノ目的タル種牛カ滅失シ又ハ
 痲疾ニ罹リタルトキハ拂受人ノ請求ニ依リ代金ヲ還付
 スヘシ
 拂受人ハ隠レタル瑕疵ノ事由トシテ拂下許可ノ取消代
 金ノ減額又損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十條 種牛牧場長ハ拂受人ニ種牛引渡ノ際其血統證ヲ
 交付スヘシ
 第十一條 拂受人又ハ拂下種牛ノ所有者ハ管理者ハ左ノ
 各號ヲ遵守スヘシ

一 拂受ケタル種牛ヲ讓渡シ若クハ貸付ケタルトキハ
 讓受人又ハ借受人ノ住所氏名若クハ名稱及其事由ヲ
 具シ三十日以内ニ種牛牧場長ニ届出ツヘシ
 二 拂受ケタル種牛斃死若クハ逸走シ又ハ之ヲ屠殺シタ
 ルトキハ其事由ヲ具シ三十日以内ニ種牛牧場長ニ
 届出テ同時ニ血統證ヲ返納スヘシ
 三 前年ニ於ケル拂受種牛ノ交尾繁殖ノ狀況、子牛ノ
 生育、改良ノ成績等ヲ毎年一月三十一日迄ニ種牛
 牧場長ニ報告スヘシ
 四 牛ノ飼養管理及改良上ニ關シ農商務大臣又ハ種牛
 牧場長ヨリ諮問アリタルトキハ速ニ之ニ答申スヘ
 シ

附 則

明治三十五年農商務省告示第百五十八號種牛拂下規程ハ
 之廢止ス

(別紙書式)

種牛拂下願
 一 何何種 種牛(牝) 頭
 一 同 同 同
 右種牛牧場種牛拂下規程ヲ遵守シ牛ノ改良繁殖ニ從事致度候間御拂下
 相成度此段相願候也
 種牛職業

年月日 氏 名 又名稱
 何何種牛牧場長宛

●種畜種付規則

(明治四十年五月農務省第十三號)

第一條 左ニ掲クル資格ヲ有スル牝牛又ハ牝豚ノ所有者
 又ハ管理者ハ種牛牧場ニ種牝牛又ハ種牝豚ノ種付ヲ出
 願スルコトヲ得

一 牝牛ニ在リテハ年齢滿二歳以上牝豚ニ在リテハ年
 齡滿十箇月以上ナルコト

一 牝牛ニ在リテハ身幹四尺以上ニ達シ又ハ體格均稱
 宜シキモノナルコト

一 惡質ノ疾病又ハ惡癖ナキコト
 一 體格優等、體質健全ナルコト

前項ノ出願ヲ爲サムトスル者ハ第一號様式ニ依ル願書
 ヲ種牛牧場長ニ差出スヘシ

第二條 種付ヲ行フ種牛牧場並種付ヲ行フヘキ種牝牛及
 種牝豚ノ種類ハ農商務大臣之ヲ告示ス

第三條 第一條ノ出願アリタルトキハ種牛牧場長ハ期日
 及場所ヲ定メ出願人ヲシテ牝牛又ハ牝豚ヲ牽付ケシメ

第一條第一項各號ノ事項ヲ検査シ検査ニ合格シタル牝
 牛又ハ牝豚ニ付種付合格證ヲ交付スヘシ

前項ノ期日及場所ニ牝牛又ハ牝豚ヲ牽付ケサルトキハ
 出願ハ其ノ效力ヲ失フ

種付合格證ハ牝牛ニ在リテハ百日間牝豚ニ在リテハ五
 十日間有效トス

種付ヲ受ケヘキ牝牛又ハ牝豚カ種付合格證下付後第一
 條第一項ノ資格ヲ喪失シタルトキハ種付合格證ハ其ノ
 效力ヲ失フ

第四條 種牛牧場長ハ前條第一項ノ検査ニ合格シタル牝
 牛又ハ牝豚ニ付種付ヲ行フヘキ日時及場所ヲ定メ之ヲ
 出願人ニ通告スヘシ

第五條 牝牛又ハ牝豚ニ付種付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ
 其ノ承繼人ハ種付ヲ受ケル際種付合格證ヲ携帶シ之ヲ
 當該吏員ニ示スヘシ

第六條 牝牛又ハ牝豚第一回ノ種付ヲ以テ受胎セセサル
 場合ニ於テハ第一回種付ノ日ヨリ牝牛ニ在リテハ六十
 日以内牝豚ニ在リテハ三十日以内ニ於テ第二回ノ種付
 ヲ請求スルコトヲ得

第九條ニ依リ種付施行ヲ延期シタル日數ハ前項ノ期間
 ニ之ヲ算入セス

第三條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ種付合
 格證ノ有効期間ヲ經過シタルモノノ外牝牛又ハ牝豚ノ

検査ヲ行ハス

第七條 種付ヲ受クル者ハ第一回ノ種付ヲ受ケムトスル際種付料トシテ牝牛ニ在リテハ一頭ニ付金三四牝豚ニ在リテハ一頭ニ付金二四ヲ納付スヘシ

前條ニ依ル第二回ノ種付ニ付テハ種付料ヲ要セス

第八條 種付料ヲ納付セントスル者ハ第二號様式ニ依ル納付書ニ種付料ニ相當スル收入印紙ヲ貼付シ之ヲ種牛牧場長ニ差出スヘシ

前項ノ納付アリタルトキハ種牛牧場長ハ其ノ適法ナルコトヲ認メタル後納付書ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印ヲ押捺スヘシ

既納ノ種付料ハ之ヲ還付セス其過剩アル場合亦同シ

第九條 種牛牧場長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ検査又ハ種付ノ施行ヲ延期スルコトヲ得

一 種牛牧場ニ於テ指定ノ期日ニ検査又ハ種付ヲ施行スルコト能ハサルトキ

一 牝牛若ハ牝豚ノ飼養地又ハ其ノ附近又ハ牽付ノ際經過スヘキ地方ニ於テ獸畜傳染病ノ發生又ハ流行スルトキ

一 種牡牛若ハ種牡豚又ハ検査若ハ種付ヲ受クヘキ牝牛若ハ牝豚ノ疾病傷痕其ノ他ノ事由ニ因リ検査又

ハ種付ヲ行フコト能ハス又ハ種付ニ害アリト認めタルトキ

一 疾病又ハ傷痕ニ因リ牝牛又ハ牝豚ヲ牽付クルコト能ハサルトキ

検査又ハ種付ヲ受クル者其ノ牝牛又ハ牝豚カ前項第三號又ハ第四號ニ該當スル爲其ノ延期ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ検査又ハ種付ヲ受クヘキ期日ヲ豫定シテ種牛牧場長ニ届出ツヘシ

第四條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 種牛牧場長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ種付ノ許可ヲ取消スコトヲ得

一 種付ヲ行フヘキ期日及場所ニ牝牛又ハ牝豚ヲ牽付ケサル者

一 第七條ニ依リ種付料ヲ納付セサル者

一 種付ヲ受クヘキ者種付施行ニ付異議ヲ述ヘ又ハ當該吏員ノ指揮ニ從ハサル者

第十一條 種牡牛又ハ種牡豚ノ斃死、疾病其ノ他已ムラ得サル事由ニ依リ種付ヲ行フコト能ハサルトキハ種牛牧場長ハ種付ヲ受クヘキ者ノ同意ヲ得テ種牡牛又ハ種牡豚ノ種類ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ種付ヲ受クヘキ者種牡牛又ハ種牡豚

ノ種類ノ變更ニ同意セサルトキハ種付ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十二條 種付ヲ受ケタル者ハ種付ニ因リ生シタル損害ニ對シ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條 牝牛又ハ牝豚ニ種付ヲ受ケタル者又ハ其ノ承繼人ハ其ノ仔牛又ハ仔豚ニ付血統證ノ下付ヲ種牛牧場長ニ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ種牛牧場長ノ指定ニ從ヒ仔牛又ハ仔豚ノ検査ヲ受クヘシ

第十四條 種付ヲ受ケタル牝牛若ハ牝豚又ハ其ノ仔牛若ハ仔豚ノ所有者又ハ管理者ハ遲滞ナク左記ノ事項ヲ種牛牧場長ニ届出ツヘシ

一 牝牛又ハ牝豚ノ分娩前之ヲ讓渡シタルトキハ其ノ年月日、讓受人ノ氏名、住所、牝牛又ハ牝豚斃死シタルトキハ其ノ年月日及事由

一 牝牛又ハ牝豚分娩シタルトキハ生産ニ在リテハ其ノ年月日、仔牛ノ性毛色又ハ仔豚ノ數及性、死産ニ在リテハ其ノ年月日、數、性及事由

一 仔牛又ハ仔豚ヲ讓渡シタルトキハ其ノ年月日、價額、讓受人ノ氏名、住所、仔牛又ハ仔豚斃死シタルトキハ其ノ年月日及事由

第十五條 種牛牧場長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對

シ種付出願ヲ許可セサルコトヲ得

一 種付ヲ受ケタル牝牛若ハ牝豚又ハ其ノ仔牛若ハ仔牛ノ飼養其ノ他ノ管理ヲ怠リタル者

一 第十條ニ依リ種付ノ許可ヲ取消サレタル者

一 前條ノ届出ヲ怠リタル者

第十六條 種牡牛ノ種付ハ種牛牧場吏員各地ニ出張シテ之ヲ行フコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル種牛牧場長ノ職務ハ出張吏員ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第十七條 前條ノ場合ニ於テ種付ヲ行フヘキ期間、場所及種牡牛ノ種類並願書差出期間及場所等ハ豫メ之ヲ公告スヘシ

第十八條 第十六條第一項ノ場合ニ於テ第七條第一項ニ依リ納付スヘキ種付料ハ金五圓トス

第十九條 明治三十七年農商務省令第二號ハ之ヲ廢止ス第一號様式一

種牡牛種付願	名號
一 何種牝牛	生年月
産地	身幹
毛色	
血統	母種
	毛色
	産地

右種畜種付規則ヲ遵守致候間何種種牡牛ノ種付御許可相成度此段相願候也

年月日
種牛牧場長宛
住所
所有者又ハ
管理者氏
名印

第一號様式ノ二

種牛牧場長宛種付願
一何種牝豚

毛色 生年月
産地
血統
右種畜種付規則ヲ遵守致候間何種種牡豚ノ種付御許可相成度此段相願候也

年月日
住所
所有者又ハ
管理者氏
名印

第二號様式

種牡牛(豚)種付料納付書

一金何圓也
収入
印紙

但シ何種種牡牛(豚)種付料
右納付候也

住所

年月日
種牛牧場長宛
住所
所有者又ハ
管理者氏
名印

注意
一 收入印紙ハ消印スヘカラス

●種牡牛馬種付料ニ關スル件(明治三十九年五月勅令第四百四號)

種馬所種馬牧場及種牛牧場ノ保管ニ屬スル種牡牛馬ノ種付ヲ受クル者ハ種付料ヲ納付スヘシ
種付料ヲ納付スヘキ種牡牛馬及其ノ種付料ハ主務大臣之ヲ定ム
種付料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●種禽種卵拂下規程(明治四十年三月農務省令第一號)

第一條 種禽及種卵ヲ拂受ケムント欲スル者ハ第一號様式ノ願書ノ願書ニ依リ種牛牧場長ニ出願スヘシ

第二條 拂下クヘキ種禽及種卵ノ種類ハ農商務大臣之ヲ告示ス

第三條 拂下クヘキ種禽及種卵ノ代金左ノ如シ
一 種禽(孵化後三箇月以上 三箇月未満ノモノ) 一羽ニ付 金一圓五十錢以內

一同 孵化後三箇月以上 四箇月未満ノモノ 同 金二圓五十錢以內

一同 孵化後四箇月以上ノモノ 同 金三圓乃至七圓

一種卵 一箇ニ付 金十五錢以內

第四條 出願者一人ニ拂下クヘキ種禽及種卵ハ一回ニ付各一種類トシ種禽ニ在リテハ雄一羽雌二羽ヲ種卵ニ存リテハ六箇ヲ超ユルコトヲ得ス

種牛牧場長ハ政府ノ設立シタル學校及農事試驗場、道廳、府縣、郡、市町村又ハ之ニ準スヘキモノ又ハ其ノ設立シタル學校、農事試驗場、農事講習所、種畜場及農會ノ出願其ノ他公益事業ノ爲必要ナリト認メタル出願ニ對シテハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五條 種牛牧場長出願ヲ許可シタルトキハ種禽及種卵ノ種類、數量、代金及其ノ納付期限並引渡ノ期間ヲ指定シ之ヲ出願者ニ通知スヘシ

出願者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ代金納付期限迄ニ拂下代金ニ相當スル收入印紙ヲ第二號様式ニ依ル納付書ニ貼付シ消印ヲ爲サスシテ之ヲ納付スヘシ但シ郵便ニ附スルトキハ書留ニテ差出スヘシ

種牛牧場長納付書ヲ收受シタルトキハ之ヲ調査シ種禽及種卵ノ引渡ト同時ニ納付書ノ紙面ト貼付印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印ヲ押捺スヘシ

第六條 拂受人前條第二項ニ依リ代金ヲ納付シタルトキハ種禽及種卵ノ引渡期間内ニ第三號様式ニ依ル受領書ヲ差出シ其ノ引渡ヲ受クヘシ

第七條 拂受人種禽及種卵ノ輸送ヲ受ケムト欲スルトキハ第三號様式ニ依ル種禽及種卵ノ受領書ト共ニ第四號様式ニ依ル託送請求書ヲ差出スヘシ

前項輸送ニ要スル荷送費及運搬費ハ拂受人ノ負擔トシ輸送ヲ引受ケタル者ニ之ヲ支拂フヘシ

輸送ヲ引受ケタル者ニ種禽及種卵ノ交付ヲ爲シタルトキハ引渡ヲ了シタルモノトス

第八條 拂受人ハ何等ノ事由ヲ問ハス納付期限迄ニ拂下代金ヲ納付セス又ハ引渡期間内ニ種禽及種卵ノ引渡ヲ受ケサルトキハ拂下ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第九條 種牛牧場長ニ於テ必要ト認メタルトキハ拂受人ニ通知シテ引渡ノ期間ヲ變更スルコトヲ得

第十條 拂受人ハ引渡ヲ受ケタル後ニ於テ種禽及種卵ノ疾病、斃、死、損傷又ハ瑕疵ヲ發見シタルトキハ代金ノ返又ハ減額、代物ノ交付又ハ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第十一條 拂受人ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一 前年ニ於ケル種禽及種卵ノ孵化、蕃殖及

發育ノ狀況ヲ記載シタル報告書ヲ毎年一月三十一日迄ニ種牛牧場長ニ差出スヘシ

二 家禽ノ飼養、管理及改良ニ關シ農商務大臣又ハ種牛牧場長ヨリ諮問アリタルトキハ速ニ答申スヘシ

第一號様式ノ一

種禽拂下願

一第一番望

一何種 種禽 雄 孵化後何箇月 一羽

一同 同 雌 同 同 二羽

右何種ノ拂下ヲ受ケルコト能ハザルトキハ次ノ種禽ヲ拂下ケラレタシ

一第二番望

一何種 種禽 雄 孵化後何箇月 一羽

一同 同 雌 同 同 二羽

前同斷

以下前項ニ準シ順次之ヲ記載スヘシ

右種禽種卵拂下規程ヲ遵守致候間御拂下相成度此段相願候也

住所職業

年月日

氏 名印

種牛牧場長宛

注意

一 種禽種卵拂下規程第七條ニ依リ種禽ノ輸送ヲ受ケムト欲スルトキハ其ノ旨願書ニ記載スヘシ

一 種禽種及種卵ヲ同時ニ拂受ケムト欲スルトキハ願書ヲ別ニ調製スヘシ

第一號様式ノ二

種卵拂下願

一第一番望

一何種 種卵 何箇

右何種ノ拂下ヲ受ケルコト能ハザルトキハ次ノ種卵ヲ拂下ケラレタシ

一第二番望

一何種 種卵 何箇

前同斷

以下前項ニ準シ順次之ヲ記載スヘシ

右種禽種卵拂下規程ヲ遵守致候間御拂下相成度此段相願候也

住所職業

年月日

氏 名印

種牛牧場長宛

注意

一 種禽種卵拂下規程第七條ニ依リ種卵ノ輸送ヲ受ケムト欲スルトキハ其ノ旨願書ニ記載スヘシ

一 種禽及種卵ヲ同時ニ拂受ケムト欲スルトキハ願書ハ各別ニ調製スヘシ

第二號様式

種禽(又ハ種卵)拂下代金納付書

一何箇何十錢也

明治何年何月第何號ヲ以テ拂下許可相成候種禽何羽(又ハ種卵何箇)ノ拂下代金トシテ納付候也

年月日

住所

氏 名印

種牛牧場長宛

種牛牧場長宛

收入印紙貼付

注意

一 拂下代金納付書ハ種卵トニ付各別ニ調製シ收入印紙モ各別ニ貼付スヘシ

一 收入印紙ハ消印スヘカラス

第三號様式

拂下種禽(又ハ種卵)受領書

一何種 種禽 雄 孵化後何箇月 何羽

一同 同 雌 同 同 同

又ハ

一何種 種卵 何箇

右正ニ受領候也

住所

種牛牧場長宛 拂受人 何 某印

年月日

注意

一 受領書ハ種禽ト種卵トニ付各別ニ調製スヘシ

第四號様式

託送請求書

一何種 種禽 何羽

又ハ

一何種 種卵 何箇

右ハ明治何年何月第何號ヲ以テ拂下許可相成候處種禽種卵拂下規程第

七條ニ依リ輸送相受度候間御所ニ於テ適當ト御認メノ送業者ヲシテ荷造費運搬費等總テ到着拂下以テ輸送セラルレ度此段請求候也

住所

種牛牧場長宛 拂受人 何 某印

年月日

種牛牧場長宛

注意

一 託送請求書ハ種禽ト種卵トニ付各別ニ調製スヘシ

●種禽種卵ノ拂下代金納付ノ件

(三十九年勅令第三百十六號)

種牛牧場ノ保管ニ屬スル種禽及種卵ノ拂下代金ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●種豚種付料ニ關スル件 (三十九年勅令第三百七十號)

種牛牧場ノ保管ニ屬スル種豚ノ種付ヲ受ケル者ハ種付料ヲ納付スヘシ

種付料ヲ納付スヘキ種豚及其ノ種付料ハ主務大臣之ヲ定ム

種付料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●肥料取締法 (明治三十二年四月 法律第九十七號)

- 第一條 此ノ法律ニ於テ肥料ト稱スルハ農産物ノ肥養ニ供スル物料ヲ謂フ
- 第二條 肥料ヲ製造販賣シ又ハ之ヲ販賣セムトスル者ハ地方長官(東京府ハ警視總監)ノ免許ヲ受クヘシ
- 第三條 地方長官(東京府ハ警視總監)ハ何時タリトモ官吏ヲ派シテ肥料ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得
- 前項ニ依リ臨檢ヲ爲ス官吏ハ其ノ證書ヲ携帶スヘシ
- 第四條 肥料ノ製造販賣者又販賣者ハ前條ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ検査ノ爲必要ナル肥料ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第五條 第二條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第六條 第四條ニ違背シタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第七條 肥料ヲ偽造若ハ他ノ物料ヲ混和シテ販賣シ又ハ情ヲ知テ之ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ肥料ハ沒收ス
- 第八條 第四條ニ違犯シ又ハ第七條ノ刑ニ處セラレタル

者ハ行政廳ニ於テ其ノ營業ヲ停止シ若ハ禁止スルコトヲ得

第九條 此ノ法律施行ノ爲必要ナル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附 則

第十條 此ノ法律施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●肥料取締法施行規則 (明治三十四年五月 農商務省令第五號)

- 第一條 肥料ノ製造販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ地方長官(東京府ハ警視總監以下倣之)ニ差出スヘシ
 - 一 製造場及ヒ販賣所ノ位置
 - 二 肥料ノ名稱
 - 三 原料ノ種類
 - 四 肥料ノ製造方法
- 肥料ノ販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ販賣所ノ位置及ヒ肥料ノ名稱ヲ記載シタル願書ヲ地方長官ニ差出スヘシ
- 第一項及ヒ第二項ニ掲ケタル事項ヲ變更セントスルトキハ其認可ヲ受クヘシ(全上ヲ以テ項中改正)
- 前二項ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ行商ヲ爲サムトスル

- トキハ行商鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ但シ雇人其ノ他ノ從業者ヲシテ行商ヲ爲サシムル場合ニ於テハ各之ヲ携帶セシムヘシ(三十九年農商務省令第二十四號ヲ以テ追加)
- 第二條 免許ヲ受ケタル者其氏名、住所ヲ變更シ又ハ其營業ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ其旨ヲ届出ヘシ相續ノ場合ニ於テモ亦同シ
- 第三條 左記ノ肥料並第四條ニ依リ地方長官ノ指定シタル肥料ヲ製造販賣シ又ハ輸入販賣スル者ハ保證票ヲ肥料ノ各容器又ハ各個ノ外部ニ附スヘシ
 - 一 過磷酸石灰、重過磷酸石灰、沈澱磷酸石灰、硝酸鹽類アンモニア鹽類、其ノ他理化學的方法ニ依リ製造シタル肥料
 - 二 骨粉、骨炭末、骨灰、肉粉、乾血「トーマス」燐肥及特ニ粉碎シタル肥料
 - 三 菜種油粕、綿實油粕、胡麻油類荏油粕及落花生油粕
 - 四 二種以上ノ肥料ヲ調合シテ製造シタル肥料

- 前項第二號ノ主成分量ハ窒素ニ在リテハ全窒素及硝酸性又ハ「アンモニア」性窒素ノ量トシ磷酸ニ在リテハ全磷酸水ニ溶解スル磷酸及枸橼酸「アンモニア」ニ溶解スル磷酸ノ量トス
- 保證票ニハ第一項ニ規定シタル事項ノ外他ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ス但シ商標及商號ハ此ノ限ニ在ラス(同上ヲ以テ本條追加)
- 第三條ノ三 前二條ノ規定ハ容器ヲ變更シ又ハ改造シテ肥料ヲ販賣スル者ニ之ヲ準用ス保證票喪失シ又ハ著シク毀損シタル場合亦同シ(全上)
- 第四條 第三條ニ掲ケサル肥料ト雖モ保證票ヲ附セシムルノ必要アリト認メタルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ指定スルコトヲ得(全上ヲ以テ改正)
- 第五條 製造販賣又ハ販賣ヲ營業トスル者ハ各販賣所ニ帳簿ヲ備ヘ肥料ヲ製造シ讓受ケ又ハ讓渡ス毎ニ其ノ名稱、數量、價額、年月日及相手方ノ氏名住所ヲ記載スヘシ
- 前項ノ帳簿ハ之ニ最終ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ二箇年間之ヲ保存スヘシ(條中改正)
- 第六條 製造販賣又ハ販賣ヲ營業トスル者ハ毎年一月三十一日迄ニ各販賣所ニ於テ前年中ニ販賣シタル肥料ノ

名稱別ノ數量及價額ヲ其ノ販賣所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ
前項ノ届出ハ肥料ヲ製造又ハ輸入シテ販賣スル者ニ在リテハ其ノ製造又ハ輸入ニ係ルモノト否トヲ區分シテ之ヲ爲スヘシ

製造販賣者、販賣者其ノ營業ヲ廢止スルトキハ第二條ノ届出ト同時ニ第一項ノ事項ヲ届出ヘシ(全上)

第七條 検査ノ爲メ必要ナル肥料又ハ其ノ原料ヲ採取セントスルトキハ製造販賣者又ハ販賣者ノ立會ヲ以テ之ヲ爲ズヘシ(同上條中改正)

採取シタル肥料又ハ其ノ原料ハ二分シ之ヲ各別ノ容器ニ密封シ之ニ肥料ノ名稱、製造販賣者又ハ販賣者又ハ販賣者ノ氏名、採取ノ年月日及ヒ場所ヲ記載シ官吏及ヒ立會人之ニ記名封印スヘシ(全上ヲ以テ條中改正)

第八條 検査ノ爲メ採取スヘキ肥料ノ總量ハ一種ニ付キ一貫以下トス

第九條 肥料ノ検査ニ從事スル官吏ハ何時ニテモ第五條ノ帳簿ヲ検査スルコトヲ得

第十條 第一條第三項、第四項、第一條ノ二、第二條、第三條、第三條ノ二、第三條ノ三、第五條若ハ第六條ニ違背シタル者又ハ帳簿ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十五

圓以下ノ罰金ニ處ス(全上ヲ以テ改正)

第十一條 保證票ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者又ハ他人ノ保證票若ハ他人ノ保證票ヲ有スル容器ナルコトヲ知テ之ヲ他ノ肥料ニ使用シタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス(全上ヲ以テ追加)

附 則

第十二條 本則ハ肥料取締法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(第十一條追加ニヨリ本條中改正)

第十三條 肥料取締法施行前ヨリ肥料ヲ製造販賣シ又ハ之ヲ販賣スル者其營業ヲ繼續セントスルトキハ其施行ノ後二週間内ニ本則第一條ノ願書ヲ差出スヘシ(全上)

● 害虫驅除豫防法 (明治二十九年三月法律第十七號)

第一條 此ノ法律ニ於テ害虫ト稱スル農作物ヲ害スル各種ノ害虫ヲ謂フ

第二條 驅除豫防スヘキ害虫ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム (三十五年法律第九號ヲ以テ本法中府縣知事ヲ地方長官ニ改ム)

認可ヲ經タル種類以外ノ害虫發生シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ地方長官ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務

大臣ニ具申スヘシ

第三條 害虫田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ヲシテ該作人ヨリ其ノ費用ヲ徵收セシムルコトヲ得其ノ費用ノ徵收ニ關シテ市制第百二條及町村制第百二條ヲ適用ス

第四條 害虫蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ害虫田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得

第五條 地方長官ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ市町村ニ命シテ夫役ヲ市町村全部又ハ一部ノ田畑ノ作人及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得

夫役害虫ノ種類ニ依リテ田又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得
夫役ノ賦課ハ段別又ハ地價ヲ以テ準率ト爲スヘシ
夫役ハ各別ノ率ニ據リ小作人、自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得
本條ノ場合ニ於テハ市制第百二十三條及町村制第百二

十七條ヲ適用セス

第六條 地方長官ハ驅除豫防ノ爲必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物、藥料、刈株、雜草ヲ拔棄若ハ燒棄スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス
第七條 驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第八條 土地所有者、管理者又ハ使用者ハ官吏及其ノ指揮ヲ承クル者ノ其ノ地ニ入り驅除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得

第九條 地方長官又ハ郡長ハ必要ナル場合ニ於テハ北海道地方費府縣稅(地方稅)又ハ郡費ヲ以テ第三條、第四條、第六條ノ費用ヲ補助シ若ハ驅除豫防ニ必要ナル器具ヲ給與シ又ハ貸與スルコトヲ得 (三十五年法律第九號ヲ以テ條中改正)

第十條 害虫以外ノ動物又ハ微菌ト雖農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得(同上)

第十一條 第三條ノ場合ニ於テ地方長官ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條 第六條及第八條ニ依レル官吏若ハ其ノ指揮ヲ承クル者ノ行為ヲ妨害スル者ハ二回以上二十四以下ノ罰金又ハ十一日以上二十日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十三條 本法中市町村ニ關スル規定ハ北海道ノ區町村沖繩縣ノ區町村及市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル市町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス (三十五年法律第九號ヲ以テ改正)

第十四條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

● 害蟲驅除豫防法取扱手續

(明治二十九年三月農商務省訓令第六號)

第一條 害蟲驅除豫防法第二條第一項ニ依リ驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ニ付キ本大臣ノ認可ヲ請フトキハ各害蟲ニ付キ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 名稱、方言
- 二 主ナル被害農作物ノ種類
- 三 驅除豫防ノ方法

害蟲驅除豫防法第二條第二項ノ場合ニ於テモ本條ノ事記載シタル項ヲ書面ヲ添フヘシ

第二條 害蟲驅除豫防法ノ施行ニ係ル命令ヲ發布シタルトキハ其都度本大臣ニ報告スヘシ (三十二年農商務省訓令第一

八號ヲ以テ改正)

第三條 害蟲一市町村以上ニ蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ隣接市町村ニ於テ同時ニ驅除豫防ヲ行フヘシ

第四條 害蟲隣接府縣ニ蔓延セシトスルノ處アルトキハ其旨ヲ關係府縣ニ急報スヘシ

第五條 二府縣以上ニ跨リ害蟲蔓延シタルトキハ關係府縣ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ議定シ施行區域ヲ定メ驅除ヲ行フヘシ此場合ニ於テハ府縣知事ハ其ノ區域及第一條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ直ニ其ノ旨ヲ本大臣ニ具申スヘシ

第六條 害蟲驅除豫防法第十條ニ依リ蟲類以外ノ動物ニ對シ該法律ノ適用ニ付キ本大臣ノ認可ヲ請フトキハ本令第一條第一項ノ規定ヲ適用ス

第七條 害蟲發生シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ本大臣ニ急報スヘシ

第八條 害蟲蔓延シ若クハ蔓延ノ兆アリテ市町村費ヲ以テ之カ驅除豫防ヲ行フトキハ其ノ都度直ニ左ノ事項ヲ本大臣ニ報告スヘシ

- 一 害蟲ノ種類
- 二 郡市町村名

三 被害農作物ノ種類及被害見積段別

第九條 毎年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害蟲驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニ依リ翌年四月三十日マテニ本大臣ニ報告スヘシ (表式略ス)

● 蠶病豫防法 (明治三十八年二月 法律第二十二號)

第一條 本法ニ於テ蠶病ト稱スルハ微粒子病、軟化病、硬化病、膿病及蠶蛆病ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ蠶種製造者ト稱スルハ他人ニ讓渡スルノ目的ヲ以テ蠶種ヲ製造スル者ヲ謂フ

蠶種製造者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ蠶種製造ノ届出ヲ爲スヘシ此ノ届出ヲ爲ササル者ハ蠶種製造者ト看做サス

第三條 蠶種製造者、養蠶者、生絲製造又ハ生繭ノ賣買若ハ殺蛹乾繭ニ従事スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ病蠶、蠶蛆及其ノ蛹ヲ滅殺シ其ノ他蠶病豫防ノ爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ

主務大臣ハ學術研究ノ爲養蠶、生絲製造又ハ殺蛹乾繭ヲ爲ス者ニ對シ前項ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

第四條 蠶種製造者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ蠶室及蠶具ノ消毒ヲ行フヘシ

第五條 蠶種製造者ハ検査合格ノ原種ヨリ産出シタル繭ヲ用ウルニ非サレハ蠶種ヲ製造スルコトヲ得ス

第六條 蠶種製造者ハ左ニ掲クル繭ヲ以テ蠶種ヲ製造スルコトヲ得ス

- 一 二蠶以上合同シテ作りタル繭
- 二 繭屑片薄ナル繭又ハ形狀ヲ失スル繭
- 三 繭屑ノ量繭ノ全量百ニ對シ一化性ニ在リテ八十、二化性ニ在リテハ七、多化性ニ在リテハ六ニ達セサルモノ

蠶兒ノ發育不良ニシテ收購ノ最著シク減少シタルモノ

第五條 蠶種製造者ニ非サル者ノ飼育シタル蠶兒ヨリ産出シタル繭

第七條 蠶種製造者ハ原種ヲ複製ニスヘシ

第八條 蠶種製造者ハ蠶種製造用ノ蠶兒ト同一ノ飼育時期ニ於テ製絲用ノ蠶兒ヲ飼育スルコトヲ得ス

蠶種製造者ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ蠶兒ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第九條 蠶種製造者ハ同一飼育時期ニ於テ他ノ蠶種製造

者又ハ養蠶者ト同一ノ建物又ハ蠶具ヲ共用スルコトヲ得ス

第十條 蠶種製造者ハ收購後ニ於テ掃殺及繭、産卵後ニ於テ原種ニ在リテハ出殻繭、母蛾及卵、越年スル製絲用種ニ在リテハ出殻繭及卵、越年セサル製絲用種ニ在リテハ出殻繭ノ検査ヲ受クヘシ但シ越年セサル製絲用種ニ在リテモ卵ノ検査ヲ受ケシムルコトヲ得

第十一條 主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ本法中蠶種製造者ニ關スル規定ノ全部又ハ一部ヲ自家用又ハ學術研究ノ爲蠶種ヲ製造スル者ニ適用スルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ第十條ノ検査ニ合格シタル蠶種ニ證明ヲ附シ不合格ノ蠶種ヲ燒棄スヘシ

第十三條 検査合格ノ證明ナキ蠶種及其ノ蠶種ヨリ産出シタル蠶兒ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ學術研究ノ爲製造シタル蠶種ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ検査合格ト看做サレタルモノ及其ノ蠶種ヨリ産出シタル蠶兒ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 本法ヲ施行セサル地又ハ外國ニ於テ製造シタル蠶種ハ學術研究ノ爲主務大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ヲ移入又ハ輸入スルコトヲ得ス

第十五條 錯誤ニ因リ又ハ本法ノ規定ニ違反シテ爲シタル

ル検査合格ノ證明ハ行政廳ニ於テ之ヲ取消スヘシ

第十六條 當該吏員ハ蠶病豫防ニ關ルル狀況ヲ臨檢シ検査ノ爲無償ニテ物品ヲ收去シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ吏員ハ其ノ證明ヲ携帶スヘシ

第十七條 當該吏員ハ自己、同一籍内ニ在ル者又ハ同居者ニ對シ前條ノ臨檢及第十條ノ検査ヲ行フコトヲ得

第十八條 蠶病豫防事務ノ費用ハ府縣ノ負擔トシ沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス但シ國庫ハ其ノ半額以内ヲ補助スルコトヲ得(三十九年法律第五十三號ヲ以テ但書追加)

第十九條 (同上ヲ以テ削除)

第二十條 府縣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ蠶病豫防ノ爲必要ナル吏員ヲ置クヘシ

第二十一條 詐偽ノ所爲ヲ以テ第十條ノ検査ヲ受ケタル者又ハ第八條第二項、第十三條若ハ第十四條ノ規定ニ違背シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル蠶種蠶兒及繭ハ之ヲ沒收シ既ニ讓渡シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス

第二十二條 當該吏員ハ本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲アリタルトキハ二年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十三條 第三條第一項、第四條乃至第六條、第八條

第一項、第九條又ハ第十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル當該吏員ノ指示ニ從ハス若ハ其ノ職務執行ヲ妨ケタル者ハ罰前項ニ同シ其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪併發ノ例ヲ用弗ス

第二十五條 當業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ應用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 當業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者雇人其ノ他從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十七條 前二條ノ場合ニ於テハ禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十八條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法

又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附 則

第二十九條 本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

蠶種検査法ハ之ヲ廢止ス

第三十條 本法ハ命令ヲ以テ指定スル地ニ之ヲ施行セス

第三十一條 本法中府縣ニ關スル規定ハ北海道ニ於テハ之ヲ北海道地方費ニ準用ス

蠶病豫防法施行規則

(明治三十八年二月 農商務省令第七號)

第一條 蠶病豫防法第二條第二項ノ届書ハ様式第一號ニ依リ地方長官ノ定ムル規定ニ從ヒ毎年蠶種ヲ製造スル場所所在地ヲ管轄スル地方長官ニ差出スヘシ但シ掃殺收購又ハ産卵ノ場所所在地カ二以上ノ地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ各地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ業務ヲ他人ニ代理セシムルトキハ之ヲ届出テ又ハ其ノ氏名住所ヲ前項ノ届書ニ記載スヘシ

第二條 生絲製造者又ハ生繭ノ賣買若ハ殺師乾繭ニ従事スル者ハ様式第二號ニ依リ地方長官ノ定ムル規定ニ從ヒ毎年其ノ旨ヲ生繭ヲ集散又ハ保存スル場所所在地ヲ管轄スル地方長官ニ届出ツヘシ

前條第一項但書及第二項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ自己ノ飼育シタル蠶兒ヨリ産出シタル生繭ヲ以テ生絲ヲ製造スル者又ハ其ノ繭ヲ賣渡シ若ハ殺繭乾繭スル者ニ之ヲ適用セズ

第三條 前二條ノ當業者死亡シ、中途廢業シ又ハ届出ノ事項ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其ノ最初届ヲ爲シタル地方長官ニ之ヲ届出ツヘシ
前項死亡ノ場合ニ於ケル届出ハ其ノ相續人ヨリ之ヲ爲スヘシ

第四條 蠶種製造者、養蠶者、生絲製造者又ハ生繭ノ賣買者ハ殺繭乾繭ニ從事スル者蠶蛆又ハ其ノ蛹ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ壓殺、熱殺又ハ水殺スヘシ

第五條 蠶種製造者又ハ養蠶者蠶兒ノ四齡以後ニ於テ病蠶若ハ斃蠶ヲ發見シタルトキ又ハ斃蛹若ハ裸蛹ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ燒棄シ又ハ熱湯「フオルマリ」若ハ石灰水中ニ投入シ死籠繭又ハ薄皮繭ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ乾燥シ又ハ熱湯中ニ投入シテ其ノ病源ヲ滅殺スヘシ(四十年農商務省令第九號ヲ以テ條中改正)

第六條 蠶兒飼育中多數ノ病蠶ヲ生シ蠶病蔓延ノ虞アル場合ニ於テハ蠶種製造者又ハ養蠶者ハ健蠶ヲ他ニ移シ

病蠶及斃蠶ヲ前條ニ規定シタル方法ニ據リ必ス其ノ蠶室ニハ「フオルマリ」ヲ撒布シ蠶具ニ「ハフオルマリ」撒布消毒又ハ蟻酸「アルデヒド」瓦期消毒ヲ行フヘシ(全上)

第七條 蠶種製造者、養蠶者、生絲製造者又ハ生繭ノ賣買者ハ殺繭乾繭ニ從事スル者ハ生繭ヲ集散又ハ保存スル室ニ蠶蛆及其ノ蛹ノ散逸ヲ防クニ足ルヘキ目張ヲ爲シ又ハ澁紙其ノ他緻密ナル目ノ敷物ヲ布キ且室ノ内圍ニ下部ヨリ二寸下ラサル隙板ヲ設クヘシ
但シ繭ノ板障ニ接觸スル場合ニ於テハ其ノ繭高サヨリ二寸以上ヲ保タシムヘシ(同上ヲ以テ但書改正)

第八條 蠶種製造者、養蠶者、生絲製造者又ハ生繭ノ賣買者ハ殺繭乾繭ニ從事スル者蠶蛆又ハ其ノ蛹ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ壓殺、熱殺又ハ水殺スヘシ
蠶若ハ斃蠶ヲ發見シタルトキ又ハ斃蛹若ハ裸蛹ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ燒棄シ又ハ熱湯「フオルマリ」若ハ石灰水中ニ投入シ死籠繭又ハ薄皮繭ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ乾燥シ又ハ熱湯中ニ投入シテ其ノ病源ヲ滅殺スヘシ(四十年農商務省令第九號ヲ以テ條中改正)

第九條 蠶種製造者ハ原種ノ母蛾ヲ除クノ外蠶種製造ニ供用シタル蛾ヲ産卵後直チニ乾燥又ハ燒棄スヘシ

第十條 蠶種製造者ハ養蠶ノ季節毎ニ地方長官ノ定ムル規定ニ從ヒ蠶室ニ付テハ左記第一號又ハ第二號ニ定メタル方法、蠶具ニ付テハ左記各號ノ一ニ定メタル方法ニ依リ消毒ヲ行フヘシ(全上ヲ以テ本條改正)

但シ新築ノ蠶室又ハ新調ノ蠶具ニシテ當該官吏必要ト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス(全上ヲ以テ但書追加)

一 「フオルマリ」撒布消毒
二 蟻酸「アルデヒド」瓦期消毒
三 蒸汽消毒

(同上ヲ以テ第二項削除)
當該官吏前項ノ消毒ヲ完全ナリト認ムルトキハ様式第三號蠶病消毒證ヲ蠶種製造者ニ下付シ不完全ナリト認ムルトキハ更ニ之ヲ行フヘキコトヲ命スヘシ

第十一條 蠶種製造者ハ掃立ノ際蠶室ヲ正確ニ量定スヘシ

第十二條 蠶種製造者止ムヲ得サル事由ニ因リ蠶兒ノ全

部又ハ一部ヲ讓渡シ又ハ讓受ケムトスルトキハ地方長官ノ定ムル規定ニ從ヒ其ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條 蠶種製造者ハ蠶種製造ニ供用シタル蠶紙ヲ再用スルコトヲ得ズ
第十四條 蠶種製造者ハ越年蠶種ニ在リテハ産卵前、不越年蠶種ニ在リテハ第二十七條第一項ノ規定ニ依リ蠶紙ヲ差出ス前ニ一化性、二化性、多化性ノ別及蠶種ノ名稱ヲ蠶紙ノ表面ニ製造者ノ氏名製造ノ場所ヲ其ノ表面又ハ裏面ニ記載スヘシ

越年蠶種ニ在リテハ第十六條第二號ノ検査前、不越蠶種ニ在リテハ産卵後直チニ産卵ノ年月日ヲ蠶紙ノ表面又ハ裏面ニ記載スヘシ

第十五條 蠶種製造者原種ヲ製造スルトキハ縦一尺一寸七分横七寸四分ノ蠶紙ニ内徑一寸三分以上ノ圓環ヲ容ルコトヲ得ヘキ區畫二十八箇ヲ設ケ一母蛾ヲシテ一區ニ産卵セシメ母蛾ト其ノ區トニ同一ノ符號ヲ附スヘシ

第十六條 蠶病豫防法第十條ニ依ル検査ハ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フ
一 收繭後ニ於テ繭ト原種ノ掃殺ノ検査
二 産卵後ニ於テ卵ト出殼繭ノ検査、不越年製絲用種ニ在リテハ出殼繭ノ検査

三 原種ニ在リテハ前二號ニ掲ケタルモノノ外其ノ製造ニ供用シタル母蛾ノ検査

但シ不越年原種ニ在リテハ第三號ノ検査ハ第二號ノ検査前ニ之ヲ行フコトヲ得

第十七條 前條第一號ノ検査及同條第二號ニ依ル卵ト出殻繭ノ検査ハ肉眼ニ依リ對照シテ之ヲ行ヒ同條第二號ニ依ル不越年製絲用種ノ出殻繭ノ検査ハ肉眼ニ依リテ之ヲ行ヒ同條第三號ノ検査ハ顯微鏡ヲ用テ之ヲ行フ但シ地方長官越年製絲用種ノ前條第二號ノ検査ノ場合ニ於テ病毒存在ノ疑アリト認ムルトキハ製絲用種検査合格ノ證印ヲ與フル前顯微鏡ヲ用テ卵ノ検査ヲ行フコトヲ得

第十八條 地方長官必要ト認ムルトキハ不越年製絲用種ノ卵ノ検査ヲ受ケシムルコトヲ得

前項ノ検査ハ肉眼ニ依リ卵ト出殻繭トヲ對照シテ之ヲ行フ

前項検査ノ場合ニ於テ病毒存在ノ疑アリト認ムルトキハ顯微鏡ヲ用テ卵ノ検査ヲ行フコトヲ得

(全上ヲ以テ本條改正)

第十九條 卵ノ顯微鏡検査ハ蠶種一枚ニ付十鏡面ヲ檢シ四鏡面以上ノ微粒子ヲ發見シタルトキハ越年製絲用種

ハ之ヲ不合格トシ不越年製絲用種ハ其ノ検査合格ノ證印ニ様式第九號ノ消印ヲ押捺シ之ヲ不合格トス

(全上ヲ以テ但書追加)

第二十條 第十六條第一號ノ検査、同條第二號ニ依ル越年原種及製絲用種ノ検査並第十八條第二項ノ検査ハ蠶種製造ノ場所ニ付テ之ヲ行ヒ第十六條第三號ノ検査、第十七條但書又ハ第十八條第三項ノ検査並第十六條第二號ニ依ル不越年原種ノ卵ト出殻繭ノ検査ハ蠶病豫防事務所ニ於テ之ヲ行フ(全上ヲ以テ但書追加)

但不越年原種ノ卵ト出殻繭ノ検査ハ地方長官ガ第四十六條ノ手續中ニ之ヲ規定シタル場合ニ限り蠶種製造ノ場處ニ於テ之ヲ行フコトヲ得(全上ヲ以テ但書追加)

第二十一條 蠶種製造者ハ第十六條第一號ノ検査ヲ受ケル前種繭ト爲サムトスルモノヲ選別シ其ノ樹量ト收繭總樹量トヲ量定シ且蠶病豫防法第六條第一號乃至第三號ニ該當スルモノヲ殺滅スヘシ

第二十二條 蠶量一匁ニ對シ收繭ノ量一化性ニ在リテハ一斗五升未滿、二化性ニ在リテハ一斗二升未滿、多化性ニ在リテハ一斗未滿ナルトキハ蠶兒ノ發育不良ニシテ收繭ノ量著シク減少シタルモノト看做ス

第二十三條 蠶種製造者ハ第十六條第一號ノ検査ヲ終ル

迄掃殺及繭ヲ、第十六條第二號ノ検査ヲ終ル迄出殻繭ヲ蠶種製造ノ場所以外ニ搬出スルコトヲ得ス

但シ蠶兒ヲ讓渡シタル場合ニ於テ其ノ蠶兒ノ掃殺ハ此ノ限ニ在ラス(全上)

第二十四條 蠶種製造者ハ蠶種ノ名稱、製造者又ハ製造場所ノ異ナル蠶兒、繭、蛾又ハ卵ヲ混同スルコトヲ得ス但シ第十六條第一號ノ検査ヲ終リタル繭ニシテ種繭ニアラサルモノ、同條第二號ノ検査ヲ終リタル出殻繭及原種ノ母蛾ヲ除クノ外蠶種製造ニ供用シタル蛾ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 第十一條及前條ノ規定ハ蠶種製造者カ製絲用ノ蠶兒ヲ飼育スル場合ニ於テ其ノ蠶兒及繭ニ之ヲ適用セス

第二十六條 第十六條第一號ノ検査ニ合格シタル繭ニ付テハ其ノ繭ヲ生シタル蠶種ノ名稱、製造者又ハ製造場所ノ異ルモノ毎ニ蠶種製造者ニ様式第四號種繭證明書ヲ下付ス

検査ヲ終リタル掃殺ノ臺紙ニハ様式第五號掃殺検査濟ノ印ヲ押捺ス

第二十七條 蠶種製造者不越年蠶種ノ種繭證明書ノ下付ヲ受ケタルトキハ表面ニ産卵セシムヘキ蛾數ヲ記載シ

タル臺紙及種繭證明書ヲ所轄蠶病豫防事務所ニ差出シ原種用ノ印又ハ製絲用種検査合格證印ノ押捺ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ様式第六號原種用ノ印又ハ様式第七號製絲用種検査合格ノ證印ヲ臺紙ノ裏面ニ押捺シ原種用ト製絲用種用トニ區別シ原種用ニ在リテハ臺紙ノ數製絲用ニ種用ニ在リテハ臺紙及母蛾ノ數ヲ種繭證明書ノ餘白ニ記載ス

原種用ノ印、原種用検査合格ノ證印又ハ製絲用種検査合格ノ證印ハ第十六條第二號又ハ第十八條第二項ノ検査ニ合格セサルトキハ現存セサル蠶種ニ付テハ之ヲ無効トシ現存スル蠶種ニ付テハ様式第九號消印ヲ押捺シ之ヲ不合格トス(全上ヲ以テ但書追加)

第二十八條 不越年蠶種ニシテ第十六條第二號、第十八條第二項又ハ第十八條第三項ノ検査ニ合格シタルトキハ種繭證明書ニ様式第八號出殻繭検査濟ノ印ヲ押捺シ蠶種製造ニ供用セザリシ臺紙アルトキハ前條第二項ニ依リ押捺シタル印ニ様式第九號消印ヲ押捺ス

第二十九條 蠶種製造者不越年原種ノ第十六條第二號及第三號ノ検査ヲ受ケムトスルトキハ製造後直チニ原種出殻繭及母蛾ヲ所轄蠶病豫防事務所ニ差出スヘシ

但シ第十六條第二號ノ検査前ニ同條第三號ノ検査ヲ行フ場合ニハ出殻繭ヲ差出スコトヲ要セス(同上ヲ以テ田書追加)

第三十條 越年原種ニシテ第十六條第二號ノ検査ニ合格セス越年製絲用種ニシテ第十六條第二號又ハ第十七條但書ノ検査ニ合格セサルトキハ様式第十號不合格ノ印ヲ蠶種臺紙ノ裏面ニ押捺ス

第三十一條 越年原種ニシテ第十六條第二號ノ検査ニ合格シタルトキハ様式第六號原種用ノ印ヲ、越年製絲用種ニシテ第十六條第二號又ハ第十七條但書ノ検査ニ合格シタルトキハ様式第七號製絲用種検査合格ノ證印ヲ蠶種臺紙ノ裏面ニ押捺シ種繭證明書ニ様式第八號出殻繭検査済ノ印ヲ押捺ス

第三十二條 蠶種製造者越年原種ノ第十六條第三號ノ検査ヲ受ケムトスルトキハ地方長官ノ定ムル期日迄ニ原種及母蛾ヲ所轄蠶病豫防事務所ニ差出スヘシ

第三十三條 越年原種ノ母蛾ノ検査期日ハ毎年九月一日以後ニ於テ地方長官之ヲ定ム但シ地方ノ狀況ニ依リ八月十日迄之ヲ繰上クルコトヲ得

第三十四條 母蛾ノ顯微鏡検査ニ於テ微粒子ヲ發見シタルトキハ様式第十一號有毒ノ印ヲ、微粒子ヲ發見セザ

ルトキハ様式第十二號無毒ノ印ヲ其ノ産殻シタル區ニ押捺シ其ノ有毒印ヲ押捺シタル區ハ之ヲ不合格トス母蛾ノ亡失又ハ混亂シタルモノヲ發見シタルトキハ様式第十三號缺蛾ノ印ヲ其ノ産卵シタル區ニ押捺ス
有毒ノ印又ハ缺蛾ノ印ヲ押捺シタル區ハ之ヲ除去シタル後臺紙ノ裏面ニ様式第十四號原種検査合格ノ證印ヲ押捺ス
蠶種製造者除去セラレタル缺蛾ノ印又ハ有毒ノ印ヲ押捺シタル區ニ無毒ノ印ヲ押捺シタル區ヲ填補セムトスルトキハ所轄蠶病豫防事務所ニ於テ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ繼目ニ様式第十五號繼印ヲ押捺ス
前項ノ場合ニ於テ填補セムトスル無毒ノ印ヲ押捺シタル區方第十六條第三號ノ検査前蠶種臺紙ノ各區ニ化性及蠶種ノ名稱ヲ記載シタルモノナルトキハ填補セラルヘキモノト同一ノ系統製造者及原種製造所ノ製造ニ係リ且同一ノ化性及蠶種ノ名稱ヲ有スル場合ニ限リ所轄蠶病豫防事務所以外ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ繼目ニ様式第五號繼印ヲ押捺ヲ受クヘシ
(同上以テ條中改正)

第三十五條 蠶種臺紙ヲ截斷シテ蠶種ヲ讓渡セムトスル者ハ検査ヲ受クル前臺紙ノ裏面ニ截斷スヘキ部分ヲ區

劃シ其ノ各部分ニ検査合格ノ證印ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ各部分ニ第十四條ノ事項ヲ記載スヘシ

第三十六條 原種ノ製造ニ供用シタル母蛾カ亡失又ハ混亂シタルトキハ其ノ蠶種ニ對シ製絲用種検査合格ノ證印ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方長官病毒存在ノ疑アリト認ムルトキハ顯微鏡ヲ用非テ卵ノ検査ヲ行フコトヲ得
(全上ヲ以テ追加)

第三十七條 種繭證明書カ毀損又ハ亡失シタルトキハ蠶種製造者ハ事由ヲ具シ所轄蠶病豫防事務所ニ其ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得但シ毀損シタル種繭證明書ハ請求書ニ之ヲ添附スヘシ

再下附ノ證明書ニハ様式第十六號再下付ノ印ヲ押捺ス

第三十八條 蠶種製造者カ第十六條第一號ノ検査ニ合格シタル種繭ヲ他人ニ讓渡セムトスル場合ニ於テ其ノ讓受人蠶種製造者ナルトキハ當事者双方連署シ讓渡人ノ所轄蠶病豫防事務所ニ種繭ノ全部讓渡ニ付テハ種繭證明書ノ書換ヲ、一部讓渡ニ付テハ讓渡人ハ種繭證明書ノ書換ヲ、讓受人ハ種繭證明書ノ下付ヲ請求シ其ノ讓受人蠶種製造者ニ非サルトキハ讓渡人ノ所轄蠶病豫防

事務所ニ種繭ノ全部讓渡ニ付テハ種繭證明書ヲ返納シ一部讓渡ニ付テハ其ノ書換ヲ請求スヘシ

前項種繭ノ授受ヲ終リタルトキハ讓受人蠶種製造者ナルトキハ直チニ其ノ旨ヲ所轄蠶病豫防事務所ニ届出ツヘシ

第一項ノ書換又ハ下付ヲ爲シタル場合ニ於テ讓受人蠶種製造者ニシテ讓渡人ト蠶病豫防事務所ノ管轄ヲ異ニスルトキハ蠶病豫防事務所ハ其ノ旨ヲ直チニ讓受人ノ所轄蠶病豫防事務所ニ通知スヘシ

第三十九條 地方長官自家用ノ爲蠶種ヲ製造スル者ニ蠶病豫防法中蠶種製造者ニ關スル規定ヲ適用スルノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ左記各號ニ掲ケタル事項其ノ他必要ナル事項ヲ規定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 蠶種製造ノ届出ヲ爲サシムルコト
- 二 蠶種製造前蠶種ノ臺紙ノ表面ニ自家用ノ文字ヲ記載セシムルコト

第四十條ノ一 學術研究ノ爲蠶種製造、養蠶、生絲製造又ハ殺蛹乾繭ヲ爲サムトスル者ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
學術研究ノ者蠶病豫防法ヲ施行セサル地若ハ外國ヨリ

蠶種ヲ移入若ハ輸入シテ蠶種製造、養蠶、生絲製造又ハ殺蛹乾繭ヲ爲サムトスルトキハ蠶病豫防法第十四條ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス第一項ノ認可ヲ受ケ養蠶、生絲、製造又ハ殺蛹乾繭ヲ爲ス者ニハ本則ヲ適用セス

第四十條ノ二 前條ノ認可ヲ受ムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 一 名稱及所在
- 二 研究ノ目的
- 三 研究ノ方法
- 四 研究ニ従事スル者及之ヲ主管スル者ノ姓名並履歴

(同條ヲ以テ本條追加)

第四十一條 學校、講習所又ハ試験場ニシテ蠶業ニ關スル學識經驗アル職員三名以上ヲ有シ且ツ蟻量十五匁以上ヲ飼育スルニ適當ナル蠶室、蠶具其ノ他ノ設備ヲ有スル者ハ學術研究ノ爲製造シタル原種ヲ農商務大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ配付スルコトヲ得

但シ他人ヨリ譲受ケタル蠶兒又ハ繭ヲ以テ製造シタル原種ニ付テハ此限ニ在ラス

(同條ヲ以テ本條追加)

前項ニ依リ配付スル原種ハ蠶病豫防法第十條ノ検査ニ合格シタルモノト看做ス

第四十二條ノ一 前條ノ認可ヲ受ケムトスル學校、講習所又ハ試験場ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 一 名稱及所在
- 二 蠶業ニ關スル設備
- 三 蠶業ノ製造検査及配付ニ關スル規程
- 四 蠶業ニ關スル職員ノ氏名及履歴

前項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ヲ變更シ又ハ職員ニ異動ヲ生シタルトキハ直チニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

(全上ヲ以テ本條中改正四十條ノ一トス)

第四十二條ノ二 第四十條ノ二第一號乃至第三號若ハ第四十二條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ヲ變更シ又ハ第四十條ノ二第四號ノ研究ニ従事スル者、主管者若チニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

(全上ヲ以テ本條追加)

第四十二條ノ三 農商務大臣必要アリト認ムルトキハ第四十條又ハ第四十一條ノ認可ヲ取消スコトヲ得

(全上ヲ以テ本條追加)

第四十三條 第四十一條第一項ノ認可ヲ受ケタル者ハ毎年一月三十一迄ニ様式第十七號ニ依リ前年ノ成績表ヲ

農商務大臣ニ差出スヘシ

第四十四條 蠶病豫防法第十六條第二項ノ證票ハ様式第十八號ニ依リ

證票ヲ紛失シタルトキハ直チニ之ヲ公示スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ハ無効トス

第四十五條 地方長官ハ毎年五月十五日迄ニ様式第十九號ニ依リ前年度ノ蠶病豫防事務功程表ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第四十六條 地方長官ハ蠶病豫防ニ關スル手續ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十七條 蠶病豫防法及本則ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第四十八條 第二條、第十三條、第二十三條、第二十四條ニ違背シタル者、第十四條第二項不越年蠶種ニ關スル規定ニ違背シタル者又ハ産卵ニ供用セザリシ蠶紙ニシテ第二十八條ノ消印ナキモノヲ他人ニ譲渡シ若ハ情ヲ知リテ譲受ケタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

(全上ヲ以テ本條中改正)

附 則

第四十九條 本則ハ明治三十八年法律第二十二號蠶病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年農商務省令第十七號蠶種検査法施行規則ハ之ヲ廢止ス

第五十條 蠶種検査法施行規則第一條ニ依リ地方長官ノ定ムル期日迄ニ蠶種製造ノ届出ヲ爲シタル者ハ蠶病豫防法第二條第二項ノ届出ヲ爲シタル者ト看做ス

第五十一條 蠶病豫防法第三十條ニ依リ同法ヲ施行セザル地方左ノ如シ

- 北海道廳ノ内 釧路根室千島北見(利尻郡禮文郡)後志ノ内奥尻郡
- 東京府ノ内 伊豆七島及小笠原島
- 沖繩縣

第五十二條 府縣ニ於テ蠶蛆寄生ノ虞ナキ期節ニ蠶種製造、養蠶、生絲製造又ハ生繭ノ賣買若ハ殺蛹乾繭ニ従事スル者ニハ第二條、第七條及第八條ヲ適用セザルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地方長官ハ第四十六條ノ手續中ニ之ヲ規定スヘシ

第五十三條 北海道廳ニ於テ蠶種製造、養蠶、生絲製造又ハ生繭ノ賣買若ハ殺蛹乾繭ニ従事スル者ハ第二條ノ届出、第七條及第八條ノ設備ヲ爲スコトヲ要セス

(様式略ス)

● 蠶病豫防心得

(明治三十八年四月 農商務省告示第七十五號)

第一條 蠶病豫防法施行規則第四條ニ依リ蠶蛆又ハ其ノ

蛹ヲ壓殺、熱殺又ハ水殺スル方法左ノ如シ

一 壓殺ハ形體ヲ破壞スルニ至ルヲ以テ度トスヘシ

二 熱殺ハ左記方法ノ一ヲ選ムヘシ

一 熱湯中ニ投入シ又ハ熱湯ヲ注加スルコト

二 蒸汽ニ接觸セシムルコト

三 華氏百六十度以上ノ火熱若ハ蒸汽熱ニ接觸セシ

メ又ハ燒棄スルコト

三 水殺ハ水ヲ盛リタル容器中ニ投入シ蠶蛆ハ六十時

間以上其ノ蛹ハ百四十四時間以上之ヲ放置スヘシ

第二條 蠶病豫防法施行規則第五條ノ病蠶、斃蠶、斃蛹

又ハ裸蛹ノ滅殺方法及死籠繭又ハ薄皮繭乾燥方法左ノ

如シ

一 「フオルマリン」ヲ用非ル場合ニ在リテハ其ノ稀釋

液(百分中蟻酸「アルデヒド」一分ヲ含有スルモ

ノ)ニ投入シ十二時間以上之ヲ放置スヘシ

二 石灰水ヲ用非ル場合ニ在リテハ生石灰(少量ノ水

ヲ澆ケハ熱ヲ發シテ崩壞スルモノ)一分又ハ生石

灰末(生石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモ

ノ)一分ニ九分以内ノ水ヲ加ヘタルモノニ投入シ

二十四時間以上之ヲ放置スヘシ

三 死籠繭又ハ薄皮繭ノ乾燥ハ火熱又ハ蒸汽熱ヲ用非

生繭量百々ヲ四十々以内ニ至ラシムヘシ

第三條 蠶病豫防法施行規則第六條ノ蠶病ノ蔓延トハ病

勢猖獗ニシテ一時ニ蠶兒ノ過半斃死スル場合ヲ謂フ此

ノ場合ニ於テ蠶室蠶具ニ「フオルマリン」ヲ撒布スル方

法ハ第六條第一號ニ準スヘシ

第四條 蠶病豫防法施行規則第七條第一項但書ノ蠶蛆及

其ノ蛹ノ散逸ヲ防クニ足ルヘキ構造ノ室トハ蠶蛆ノ逸

出シ得ヘキ罅隙ナキモノヲ謂フ蠶蛆及其ノ蛹ノ散逸ヲ

防クニ足ルヘキ容器トハ箱又ハ罐等ニシテ高さ二寸以

上ノ縁ヲ有シ蠶蛆ノ逸出シ又ハ墜落スルノ虞ナキモノ

ヲ謂フ

第五條 蠶病豫防法施行規則第九條ニ依ル蛾ノ乾燥ハ華

氏百六十度以上ノ火熱又ハ蒸汽熱ニ三時間以上之ヲ接

觸セシムヘシ

第六條 蠶病豫防法施行規則第十條ニ依ル蠶室蠶具ノ消

毒方法左ノ如シ

一 「フオルマリン」ヲ以テ蠶室及蠶具ヲ消毒スルニハ

噴霧器ヲ用ユヘシ

漏洩ヲ防ク爲其ノ周圍ヲ密閉スヘシ此ノ場合ニ

於テ氣溫低キトキハ火熱ヲ以テ華氏七十度以上

ニ昇ラシムヘシ

蠶室ノ内面百平方ニ對シ「フオルマリン」稀釋液

(百分中蟻酸「アルデヒド」一分ヲ含有スルモ

ノ)四百二十坵(二合三勺)ヲ撒布スヘシ但

シ充分ニ密閉シ難キ室ニ於テハ「フオルマリン」

撒布ノ量ヲ二倍迄増量スヘシ

「フオルマリン」ヲ撒布スルニハ天井ヨリ欄間、

四壁ニ及ホシ最後床板ニ至リ撒布後尙ホ十五時

間以上之ヲ密閉スルヲ要ス

蠶具ヲ消毒スルニハ氣溫華氏七十度以上ノ溫室

土藏又ハ蠶室內ニ於テ之ヲ行フヘシ

「フオルマリン」稀釋液百分中蟻酸「アルデヒド」

一分ヲ含有スルモノ)ヲ蠶具ニ撒布スルニハ

蠶繭蠶莖及蠶箔ノ類ニ在リテハ一枚毎ニ蠶架ノ

類ニ在リテハ一本毎ニ之ヲ撒布シ交互若ハ箇々

ニ順次堆積シテ相當ノ高さニ至ラハ瓦斯ノ漏洩

ヲ防ク爲菰、莖等ヲ以テ周圍ヲ覆ヒ十五時間以

上之ヲ放置スヘシ

消毒室ノ内面千立方尺ニ對シ蟻酸「アルデヒド」

瓦斯ヲ左ノ割合ニ依リ發散セシメ發散後尙

スルニハ「フオルマリン」蒸發器又ハ其ノ他ノ消毒

器ヲ用ユヘシ

一 蠶室ヲ消毒スルニハ瓦斯漏洩ヲ防ク爲室内ノ間

隙及隙子ハ紙ヲ以テ三重張トシ氣溫低キトキハ

火熱ヲ以テ華氏七十度以上ニ昇ラシムヘシ

蠶室ノ内面千立方尺ニ對シ蟻酸「アルデヒド」

瓦斯六十瓦ヲ發散セシムヘシ

蟻酸「アルデヒド」瓦斯ヲ發散セシムル爲「フオ

ルマリン」ノ蒸發器ヲ行フニハ「フオルマリン」

(百分中蟻酸「アルデヒド」三十五分ヲ含有ス

ルモノ)百六十坵(八勺八才)ニ二倍ノ水ヲ加

ヘ火上ニ消毒器ヲ架シテ之ヲ沸騰シ悉ク蒸發セ

シメタル後尙ホ六時間以上其ノ蠶室ヲ密閉スヘ

シ

二 蠶具ノ消毒ハ第二號ノ一ノ設備ヲ有スル溫室土

藏、厚キ紙帳又ハ蠶室內ニ於テ之ヲ行フヘシ

蠶具ヲ配置スルニハ棚ヲ設ケ蠶箔ノ上ニ蠶莖ノ

厚キモノハ二枚以下、薄キモノハ四枚以下ヲ堆

積スヘシ

六時間以上之ヲ密閉スヘシ
蠟箔及蠶庭
瓦斯量

- 百枚以下 一一五瓦
- 二百枚以下 一三〇
- 三百枚以下 一四五
- 四百枚以下 一六〇
- 五百枚以下 一八〇
- 六百枚以下 一九〇
- 七百枚以下 二〇〇
- 八百枚以下 二二〇

蠶庭ヲ堆積スルノ程度ハ皆川庭四枚ヲ以テ限
度トスヘシ但シ厚庭一枚又ハ蠶網五枚ノ厚ハ
皆川庭二枚ノ厚ニ相當ス

三 蒸汽ヲ以テ蠶具ヲ消毒スルニハ桶箱等ニ蠶具ヲ容
レニニ蒸汽ヲ通シ華氏二百十二度ニ達シタル後尙
ホ三十分間以上同溫度ヲ保タシムヘシ

●蠶病豫防費國庫補助規則

(明治四十年四月農商務省令第六號)

第一條 蠶病豫防法第十八條ニ規定スル補助金ハ本則ニ

依リ之ヲ交付ス

第二條 蠶病豫防費ニ對シ補助ヲ受ケントスル府縣ハ申
請書ニ蠶病豫防ニ關スル經費豫算書ヲ添附シテ前年度
一月三十一日迄ニ差出スヘシ

第三條 補助ヲ受ケタル府縣蠶病豫防ニ關スル經費豫算
ヲ變更シタルトキハ農商務大臣ニ報告スヘシ

第四條 補助金ハ四月及十月ノ二回ニ之ヲ交付ス

第五條 補助金ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ年度經過後三箇
月以内ニ前年度經費決算書ヲ農商務大臣ニ差出スヘ
シ

第六條 補助金ノ交付ヲ受ケタル府縣ノ蠶病豫防ニ關ス
ル經費ノ支出額補助金交付ノ指令ヲ受ケタル當時ニ於
ケル豫算額ニ達セサルトキハ補助金ノ一部ヲ還付セシ
ムルコトアルヘシ

附 則

第七條 明治四十年度ニ於テ經費ノ補助ヲ受ケムトスル
府縣ハ本年四月三十日迄ニ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 明治四十年度第一回補助金ハ五月ニ於テ之ヲ交
付ス

第九條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第十條 本則中府縣ニ關スル規定ハ北海道ニ於テハ之ヲ
北海道地方費ニ準用ス

●明治四十年度桑園増殖獎勵費交付規則

(明治四十年四月農
商務省令第七號)

第一條 桑園増殖ヲ獎勵スル爲本則ノ定ムル所ニ依リ明
治四十年度ニ於テ獎勵費ヲ交付ス

第二條 獎勵費ハ左ノ場合ニ於テ府縣ニ交付ス

- 一 桑種苗ノ無償配付ヲ爲シ又ハ之ヲ目的トシテ其ノ
設備ヲ爲ストキ
 - 二 桑園ノ新設、桑樹ノ植替ニ對シ獎勵金ヲ交付スル
トキ
 - 三 郡、市町村、農會其ノ他ノ團體ニ對シ前二號ニ掲
ケタル事項ノ全部又ハ一部ヲ行フヲ條件トシテ補
助金ヲ交付スルトキ
- 農商務大臣必要ト認ムルトキハ桑種苗ノ有償配付若ハ
之ヲ目的トスル設備ヲ爲シ又ハ其ノ配付若ハ設備ヲ爲
スコトヲ條件トシテ郡、市町村、農會其ノ他ノ團體ニ
補助金ヲ交付スル府縣ニ對シ獎勵費ヲ交付スルコトアル
ヘシ

第三條 獎勵費ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ申請書ニ桑
園増殖獎勵ニ關スル費用ノ豫算及其ノ説明書ヲ添ヘ明
治四十年八月三十一日迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二條第三號ノ場合ニ於テハ郡、市町村、農會其ノ他
ノ團體ノ桑園増殖ニ關スル豫算及施行方法書ヲ添付ス
ヘシ

第四條 獎勵費ノ交付ヲ受ケタル府縣桑園増殖ニ關スル
豫算ヲ變更シタルトキハ農商務大臣ニ報告スヘシ

第五條 獎勵費ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ桑種苗配付ニ關
スル方法又ハ桑園ノ増殖ニ對スル獎勵費交付並其ノ監
督ニ關スル規程ヲ設ケ農商務大臣ニ届出ツヘシ之ヲ變
更シタルトキ亦同シ

第六條 獎勵費ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ明治四十一年五
月三十日迄ニ別記様式ニ依リ桑園増殖施行ノ成績ヲ農
商務大臣ニ報告スヘシ

第七條 獎勵費ノ交付ヲ受ケタル府縣ノ桑園増殖ニ關ス
ル經費ノ支出額獎勵費交付ノ指令ヲ受ケタル當時ニ於
ケル豫算額ニ達セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ交付シ
タル獎勵費ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘ
シ

附 則

第八條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第九條 本則中府縣ニ關スル規定ハ北海道ニ於テハ之ヲ北海道地方費ニ準用ス

●生絲検査所法 (明治二十八年六月法律第三十二號)

第一條 (三十四年法律第六號ヲ以テ削除)
 第二條 本邦製産ノ生絲ヲ賣買スル者ハ内外人ヲ問ハス検査所ニ對シ生絲ノ検査ヲ請求スルコトヲ得但シ検査所料ヲ徴セス
 第三條 生絲検査所ハ農商務大臣ノ所管トシ此ノ法律施行ニ關スル細則ハ同大臣之ヲ定ム
 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●生絲検査所法施行細則 (明治三十七年七月農商務省令第十二號)

第一條 生絲検査所ハ左ノ各號ニ付生絲ノ検査ヲ施行ス
 一 原量
 二 正量
 三 練減
 四 品位
 五 再練

ロ 織度
 ハ 類節
 ニ 強力及伸度
 生絲検査所ハ前項ノ外生絲検査上必要ナル研究調査及生絲整理工養成ヲナス
 第二條 生絲検査所法第二條ニ依リ生絲ノ検査ヲ請求セントスル者ハ甲號雛形ノ請求書ニ生絲ヲ添附シ生絲検査所ニ提出スヘシ但シ第一條第一項第一號又ハ第二號ノ検査ヲ請求スル爲同時ニ四十箇(俵)以上提出セントスル場合ニ在リテハ豫メ請求書ヲ提出スルコトヲ得前項但書ノ場合ニ於テハ生絲ノ搬入ニ付生絲検査所ノ指揮ヲ受クヘシ
 第三條 試験又ハ研究ノ爲製造シタル生絲ノ検査ヲ請求セントスル者ハ製造ノ目的及方法ヲ詳記シタル請求書ニ生絲ヲ添付シ生絲検査所ニ提出スヘシ
 前項ノ検査請求ニ付テハ前條、第四條、第五條及第十條第一項第二項ヲ適用セス
 第四條 検査請求ノ爲メ提出スヘキ生絲ノ數量ハ一件ニ付第一條第一項第一號又ハ第二號ノ検査ニ在リテハ一箇以上、第一條第一項第三號ノ検査ニ在リテハ三本以上、第一條第一項第四號ノ検査ニ三リテハ五本以上ト

第五條 生絲検査所所在地ニ住所又ハ居所ヲ有セサル検査請求者ハ生絲検査所所在地ニ代理人ヲ定メ検査請求ト同時ニ其ノ氏名住所ヲ届出ヘシ
 前項ノ代理人ハ検査請求ニ關シ之ヲ検査請求者ト看做ス
 第六條 検査請求書受理ノ時間ハ午前八時ヨリ午後三時迄トシ土曜日ニ在リテハ午前八時ヨリ正午十二時迄トス但シ必要アリト認ムル場合ニ於テハ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ
 第七條 検査請求ノ爲メ提出シタル生絲ニシテ検査ヲ與フルノ價値ナシト認ムルトキハ生絲検査所ハ其ノ請求ヲ却下スルコトアルヘシ
 第八條 生絲検査所ニ於テ第二條ノ生絲ヲ受理シタルトキハ請求者ニ對シ乙號雛形ノ預書ヲ交付ス
 預書ハ検査請求者ニ於テ前項生絲ノ引渡ヲ受ケタルトキ之ヲ生絲検査所ニ返納スヘシ
 第九條 生絲ノ検査ハ請求書受理ノ順序ニ依リ之ヲ施行ス但シ第二條但書ノ場合ニ在リテハ生絲受預ノ順序ニ依リ之ヲ行フ
 第十條 生絲検査所ニ於テ生絲ノ包装ヲ解キ又ハ之ヲ包

裝スルトキハ検査請求者ハ之ニ立會フコトヲ得
 第十一條 生絲検査所ニ於テ生絲ノ検査ヲ終リタルトキハ検査ノ種類ニ從ヒ丙號雛形ノ檢定證正副二通ヲ検査請求者ニ交付ス
 第一條第一項第一號又ハ第二號ノ検査ノ場合ニ於テハ檢定正證ヲ生絲ノ包装中ニ挿入シ封入スヘシ
 第三條ノ検査ヲ終リタルトキハ検査證明書ヲ検査請求者ニ交付スルコトアルヘシ
 第十二條 生絲検査所ニ於テ検査ヲ終リ又ハ検査請求ヲ却下スヘシト決定シタルトキハ口頭又ハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ検査請求者ニ通知スヘシ
 検査請求者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ生絲ノ引取ヲ爲スヘシ
 第十三條 検査請求者ニ於テ前條第二項ノ引取ヲ爲ササルトキ又ハ生絲検査所ニ於テ必要ト認ムルトキハ生絲ヲ検査請求者ニ返送スヘシ此ノ場合ニ於テ返送ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス
 第十四條 第一條第一項第四號ノ検査ヲ行フ場合ニ於テ線取リタル生絲ハ之ヲ検査請求者ニ還付セス
 第十五條 生絲検査所ハ検査ノ爲提出シタル生絲ニ付不可抗力ニ因リ生シタル損失ノ責ニ任セス(雛形略ス)

(三十七年農商務省令第十三號ヲ以テ丙號難形其四改正)

●生絲検査規程

(明治三十七年十二月農商務省令第三百二十二號)

第一 原量検査

原量検査ハ一件毎ニ生絲ノ全量ヲ秤リ風袋量ヲ控除シ其ノ原量ヲ定ムルモノトス

第二 正量検査

正量検査ハ一件毎ニ生絲六本ヲ採リ之ヲ二區ニ分チテ乾燥シ其ノ無水量ニ依リ一件ノ總無水量ヲ求メ之ニ一割一分ノ公定水分量ヲ加ヘ正量ヲ算定スルモノトス
前項各區ノ水量百分比ニ於テ其ノ差〇・五以上ナルトキハ更ニ三本ヲ採リ其ノ無水量ヲ求メ之ヲ前項二區ノ無水量ニ合算シ前項ト同一ノ方法ニ依リ正量ヲ算定スルモノトス

第三 練減検査

練減検査ハ一件毎ニ生絲二本ヲ採リ之ヲ二區ニ分チテ精練シ其ノ精練前後ノ無水量ヲ比較シ以テ減耗量百分比ヲ求メ其ノ平均ニ依リテ一件ノ練減量ヲ定ムルモノトス
前項各區ノ減耗量百分比ニ於テ其ノ差一以上ナルトキハ更ニ一本ヲ採リ之ヲ精練シ其ノ無水量ヲ求メ之ヲ

前項二區ノ無水量ニ合算シ其ノ平均減耗量百分比ヲ求メ之ニ依リ一件ノ練減量ヲ定ムルモノトス

第四 再練検査

再練検査ハ一件毎ニ生絲五本ヲ採リ一分時間繰ノ回轉數五十回ノ速力ヲ以テ二時間繰返シ絲條ノ切斷數ヲ檢シ以テ工女一人ノ受持數ノ範圍ヲ定ムルモノトス

第五 織度検査

織度検査ハ一件毎ニ生絲五本ヲ採リ各絲長四百五十「メートル」ツ、四口ヲ採リ其ノ一口毎ニ〇・〇五「グラム」ヲ單位トシテ之ヲ秤リ其ノ各口ノ織度ヲ求メ更ニ各口ヲ合同シテ秤リタル總量ニ依リ平均織度ヲ定ムルモノトス

第六 類節検査

類節検査ハ一件毎ニ生絲五本ヲ採リ各二回ツ、絲長五百「メートル」ニ對スル類節ヲ大小ニ分チ其ノ多寡ヲ檢定スルモノトス

第七 強力及伸度検査

強力及伸度検査ハ一件毎ニ生絲五本ヲ採リ各二回ツ、検査シ其ノ平均ニ依リテ之ヲ定ムルモノトス

●茶業組合規則

(明治二十五年十二月農商務省令第四號)

第一章 總則

第一條 此規則中茶業者トアルハ茶ヲ製造シテ販賣シ又ハ茶園ヲ所有シ茶生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者ヲ總稱ス

第二條 茶業者ハ製造ヲ精良ニシ販路ヲ擴張シ賣買ヲ正確ナラシムルノ目的ヲ以テ組合ヲ設ケ之ニ加入スヘシ但農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス(三十二年農商務省令第十七號ヲ以テ全條改正)

第三條 組合ノ設置ハ郡區ノ區畫ニ依ルヘシ若シ一郡區内ニ於テ卒業業者小數ナルトキハ近隣郡區ノ同業者ト合併スルコトヲ得

第四條 郡區ノ狀況ニ依リ茶ヲ製造シテ販賣スル者ト茶園ヲ所有シテ生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者トヲ區別シテ組合ヲ設クルノ必要アルトキハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 組合ノ名稱ハ何(府縣)何(郡區)茶業組合ト稱スヘシ

第六條 組合ハ郡區内便宜ノ場所ニ各組合事務所ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第七條 組合ハ其氣脈ヲ聯通スル爲メ府縣ノ區畫ニ依リ便宜ノ地ニ聯合會議所ヲ設ケ全國便宜ノ地ニ中央會議所ヲ設クヘシ(二十三年農商務省令第三號ヲ以テ本條中改正)

第八條 組合ハ此規則ノ範圍内ニ於テ其業務ニ關シ組合及會議所ノ規約ヲ定ムヘシ

第九條 組合及聯合會議所ノ規約及豫算ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ中央會議所ノ規約及豫算ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ(二十五年農商務省令第五號ヲ以テ本條中追加)

但二府縣以上ノ組合員全部若クハ幾部聯合シテ別ニ規約ヲ設クルノ必要アルトキハ其規約ヲ添へ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ(二十三年農商務省令第一號ヲ以テ但追加)

第二章 組合員

第十條 組合員ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第十一條 組合員ハ組合及會議所ノ規約並ニ二府縣以上ノ聯合組合員ハ其聯合規約ヲ遵守シ且費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス(二十三年農商務省令第一號ヲ以テ本條中追加)

但費用負擔ノ割合及徵收方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 社名若クハ組名ヲ以テ組合員タル者ハ相當ノ代表人ヲ定メ置キ組合ニ關スル一切ノ責ニ任セシムヘシ

第三章 役員

第十三條 各組合事務所ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ部内ノ組合員之ヲ選定シ組長ハ委員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

但組長ヲ選任又ハ改選シタルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ委員ヲ選任又ハ改選シタルトキハ其都度届出ツヘシ(二十五年農商務省令第十五號ヲ以テ修正)

第十四條 組長ハ委員ト協議シテ部内組合ノ取締ヲナシ其他一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第十五條 組長ハ常ニ營業上ノ利害ニ注意シ組合ノ確實ヲ圖ルヘシ

第十六條 組長ハ部内組合中ニ生シタル紛議ヲ仲裁シ及ヒ違約者アルトキハ規約ニ依リ處分スルコトヲ得

但會議所ノ規約ニ違背シタル者ヲ處分シタルトキハ其旨會議所ニ通知スヘシ

第十七條 (二十二年農商務省令第五號ヲ以テ削除)

第十八條 聯合會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ聯合會議ニ關スル事務及ヒ聯合會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第十九條 聯合會議所ノ事務員ハ會議ニ於テ部内組合員中ヨリ之ヲ選定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 聯合會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議ニ列スルコトヲ得

第二十一條 中央會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ中央會議ニ關スル事務及中央會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第二十二條 中央會議所ノ事務員ハ中央會議議員ニ於テ全國組合員中定員倍數ノ候補者ヲ選定シ農商務大臣ノ認定ヲ請フヘシ(二十五年農商務省令第五號ヲ以テ修正)

但時宜ニ依リ組合員外ノ者ト雖トモ選舉スルコトヲ得

第二十三條 中央會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ中央會議ニ列スルコトヲ得

第二十四條 役員ノ任期ハ二箇年トス若シ役員其任ニ適セザルトキハ中央會議所ノ事務員ハ農商務大臣ニ於テ聯合會議所ノ事務員及組合事務所ノ組長ハ地方長官ニ於テ其改選ヲ命スヘシ

但補闕役員ノ任期ハ前任役員ノ任期ニ依ルヘシ(二十五年農商務省令第五號ヲ以テ追加以下順次繰下)

第四章 會議

第二十五條 會議ヲ分テ聯合會議及中央會議トシ聯合會議ハ聯合會議所ニ於テ中央會議ハ中央會議所ニ於テ定時又ハ臨時ニ之ヲ開クヘシ

但中央會議定時會ノ會期ハ二週日以内臨時會期ハ一週日以内トス若會期ヲ延長スルノ必要ヲ生シタルトキハ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ(二十五年農商務省令第十四號ヲ以テ修正)

第二十六條 聯合會議ニ於テハ會議所所在府縣ノ組合ニ關スル事項ヲ議定シ中央會議ニ於テハ全國ノ組合ニ關スル事項ヲ議定スヘキモノトス

第二十七條 聯合會議ノ議員ハ部下各組合員若クハ組合委員之ヲ選定シ中央會議ノ議員ハ聯合會議議員之ヲ選定スヘシ(二十九年農商務省令第六號ヲ以テ本條中追加)

第二十八條 中央會議ノ議員ハ三年以上繼續シテ左ノ資格ノ一ニ該當シ仍引續キ該當スル者ニ限ル(二十五年農商務省令第五號ヲ以テ本條並ニ次條ヲ追加以下順次繰下)

一 茶園一町歩以上ヲ所有シ栽培スルコト

一 製茶五千斤以上ヲ製造スルコト

一 製茶二萬斤以上ヲ賣買スルコト

一 製茶二萬斤以上ヲ賣買スルコト

第二十九條 前條ノ資格ニ該當スル者ナキ地方ニ於テハ其資格ニ最モ近キ者ヲ選出スヘシ

第三十條 聯合會議及中央會議ニ出席スヘキ議員ノ數ハ産額又ハ開港地ハ輸送額ノ多寡ニ從ヒ規約ニ於テ之ヲ定ムヘシ(二十四年農商務省令第二號ヲ以テ本條追加)

第三十一條 議員ノ任期ハ二箇年トス補闕議員ノ任期ハ前任議員ノ任期ニ依ルヘシ(二十五年農商務省令第五號ヲ以テ本條追加以下順次繰下)

第三十二條 會議ノ正副議長ハ議員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

第三十三條 會議ノ正副議長及議員ノ氏名並ニ會議開閉期日其聯合會議ニ係ルモノハ地方廳ニ其中央會議ニ係ルモノハ農商務省ニ届出ツヘシ

第三十四條 農商務大臣ハ中央會議地方長官ハ聯合會議ノ開閉又ハ議員ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第三十五條 會議ハ議員半數以上出席セザレハ當日ノ議事ヲ開クコトヲ得ス

但議員半數以上ノ缺席三日以上ニ涉ルトキハ半數以內ト雖トモ議事ヲ開クコトヲ得

第三十六條 議事ハ出席員過半數ニ依テ決ス可否同數ナ

ルトキハ議長ノ決スル所ニ據ル

第五章 規約

第三十七條 各組合ノ規約ハ其部内組合員中ヨリ委員ヲ選定シテ左ノ事項ニ準シ之ヲ定ム

- 一 違約者處分ノ方法
- 一 經費賦課徵收支出ノ方法
- 一 其他組合ノ情況ニ依リ必要ナル條件

第三十八條 聯合會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ

- 一 聯合會議所ノ位置
- 一 製茶ヲ改良シ販路ヲ擴張スルノ方法
- 一 製造及ヒ販賣上ノ弊害ヲ矯正スルノ方法
- 一 部下ノ組合ニ關スル事務ヲ處辨シ及ヒ紛議ヲ仲裁スルノ方法
- 一 聯合會議議員及ヒ事務員選舉ノ方法
- 一 聯合會議ニ關スル規程
- 一 違約者處分ノ方法
- 一 經費賦課徵收支出ノ方法
- 一 其他地方ノ情況ニ依リ必要ナル條件

第三十九條 中央會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ

中央會議所ノ位置

- 一 全國組合ノ氣脈ヲ聯通スルノ方法
- 一 内外茶業ノ實況ヲ調査シ及ヒ之ヲ報告スルノ方法
- 一 組合ノ位置
- 一 組合員ノ證票
- 一 粗悪不正茶取締ノ方法
- 一 役員選舉ノ方法
- 一 組合入退者取扱ノ方法
- 一 中央會議議員及ヒ事務員選舉ノ方法
- 一 中央會議ニ關スル規程
- 一 經費賦課徵收支出ノ方法
- 一 其他中央會議ニ於テ必要ト認メタル條件

第六章 罰則

第四十條 此規則第二條第九條第十條第十一條ニ違犯シタル者ハ金二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

●産牛馬組合法 (明治三十三年二月 法律第二十號)

- 第一條 牛又ハ馬ノ生産ニ従事スル者ハ本法ニ依リ組合ヲ設置スルコトヲ得
- 第二條 組合ハ牛馬ノ改良及組合員ノ共同ノ利益ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 組合ハ郡市以上ノ區域ニ依リ其ノ地區ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ地區内ニ於テ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ牛ノ生産ニ従事スル者及馬ノ生産ニ従事スル者相合シテ組合ヲ設置セムトスルトキハ各別ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第三條但書ノ場合ニ於テハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ認可ヲ與フヘシ

第五條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ地方又ハ地區ヲ指定シテ組合ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第六條 監督官廳ハ必要ト認ムルトキハ組合ヲシテ種牛馬ノ供給若ハ牛馬ノ系統登錄ヲ爲サシメ又ハ糶場ヲ設ケシムルコトヲ得

第七條 本法ニ規定ナキモノニ付テハ重要輸出品同業組合法第四條但書ヲ除クノ外之ヲ本法ニ準用ス但シ同法第六條乃至第八條、第十一條及第十六條農商務大臣ノ職務ハ地方長官之ヲ行ヒ第九條第十三條及第十五條農商務大臣ノ職務ハ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

附 則

第八條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 重要輸出品同業組合法ノ規定ニ依リ設置シタル産牛馬組合ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ設置シタルモノト看做ス

●産牛馬組合法施行規則 (明治三十三年五月 農商務省令第九號)

- 第一條 産牛馬組合ハ本則ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外重要物産同業組合法施行規則ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 組合ノ名稱ニハ其事業ノ種類ヲ示シ且之ニ組合ナル文字ヲ附スヘシ
- 第三條 地方長官組合又ハ聯合會ノ設置ヲ認可シタルトキハ定款及ヒ報告書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 第四條 重要物産同業組合法施行規則第八條、第十二條並ニ第十七條ノ申請及届出ハ之ヲ地方長官ニ爲スヘシ

附 則

第五條 本則ハ産牛馬組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三章 漁業

● 漁業法 (明治三十四年四月 法律第三十四號)

第一條 本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水産動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ
 本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權ヲ享有スル者ヲ謂フ

第二條 私有水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ適用セズ

第三條 漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區畫シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許ヲ受クヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス
 前項ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ必要ト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ
 前項ノ免許ハ漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ヲ専用セムトスル場合ヲ除クノ外從來ノ慣行アルニ非サレハ之ヲ與ヘス

第五條 漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ノ専用ヲ出願シタルトキハ行政官廳ハ漁業ノ種類ヲ限定シテ免許ヲ與フルコトヲ得
 從來ノ慣行ニ因リ前條ノ免許ヲ出願シタルトキハ行政官廳ハ其ノ慣行ニ因リ漁場ノ區域及漁業ノ種類ヲ定メ之ヲ免許ス

第六條 漁業免許ノ期間ハ二十箇年以内トス但シ第九條第一項ニ依リ免許ヲ停止シタル期間ハ免許期間ニ算入セス
 免許期間ハ免許ヲ受ケタル者ノ申請ニ因リ之ヲ更新スルコトヲ得

第七條 漁業權ハ相續、讓渡、共有及貸付ノ目的ト爲スコトヲ得但シ地先水面専用ノ漁業權ヲ處分スルハ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルコトヲ要ス

第八條 漁業權ハ免許ヲ受ケタル日ヨリ一箇年間漁業ニ従事スル者ナキトキハ行政官廳ニ於テ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得引續キ二箇年間休業シタルトキ亦同シ但シ行政官廳ノ認可ヲ受ケ休業シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 第一項ニ依リ免許ヲ停止シタル期間ハ前項ノ期間ニ算入セス

第九條 行政官廳ハ水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ漁業免許ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

漁業者ニシテ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違背シタルトキ亦前項ニ同シ

第十條 漁場ノ區域又ハ方位ヲ標示スル爲標識ヲ建設セムトスル者ハ他人ノ土地ニ立入り又之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ漁業者ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ
 第十一條 行政官廳ハ漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第十二條 第十條ニ依リ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルカ爲生シタル損失ハ其ノ請求ニ依リ之ヲ補償スヘシ

第十三條 地方長官ハ水産動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲主務大臣ノ認可ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

- 一 水産植物ノ採捕若ハ販賣ニ關スル制限又ハ禁止
- 一 漁具、漁船若ハ採捕ノ方法ニ關スル制限又ハ禁止
- 一 漁業者ノ數又ハ其ノ資格ノ制限
- 一 水産動植物ニ有害ナル物質ノ遺棄ニ關スル制限又

ハ禁止

主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ命令ニハ漁具及漁獲物ノ沒收ニ關スル罰則ヲ設クルコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ遡河漁類ノ通路ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ一定ノ區域内ニ於ケル工作物設置ノ制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得
 工作物ニシテ遡河漁類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所有者ニ除害工事ヲ命スルコトヲ得

第十五條 前條第二項ニ依リ除外工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ハ工作物ノ所有者ニ對シ相當ノ金額ヲ補償スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ申請者之ヲ補償スヘシ

第十六條 行政官廳ハ水産動植物ノ蕃殖保護ニ必要アリト認ムルトキハ公有水面ニ通スル私有水面ニ前二條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 漁業ニ従事スル雇人及雇主ノ取締ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 一定ノ區域内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官
 廳ノ認可ヲ得テ漁業組合ヲ設置スルコトヲ得
 漁業組合ノ地區ハ濱、浦、漁村其ノ他漁業者ノ部落ノ
 區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ
 前項ノ區域ニ依リ難キ場合ニ於テハ市町村又ハ之ニ準
 スヘキ區域内ニ於テハ其ノ地區ヲ定ムルコトヲ得
 北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ
 得
 第十九條 漁業組合ハ漁業權ノ享有及行使ニ付權利ヲ有
 シ義務ヲ負フ但シ自ラ漁業ヲ爲スコトヲ得ス
 第二十條 漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ノ專用ノ免許ヲ
 受クルトキハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ
 漁業ヲ爲サシムヘシ
 第二十一條 漁業組合ノ設置、管理及監督ニ關スル規定
 ハ主務大臣之ヲ定ム
 第二十二條 漁業者又ハ水産動植物ノ製造若ハ販賣ヲ業
 トスル者ハ水産業ノ改良發達及水産動植物ノ蕃殖保護
 其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲水産組合ヲ設
 置スルコトヲ得
 水産組合ニ關シテハ重要物産同業組合法ノ規定ヲ準用
 ス但シ同法中農商務大臣ニ關スル職權ハ主務大臣之ヲ

行フ
 第二十三條 漁業免許若ハ其ノ更新ヲ拒否セラレタル者
 又ハ第八條、第九條若ハ第十四條第二項ノ處分ヲ受ケ
 タル者其ノ處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコト
 ヲ得
 前項ノ處分ニ依リ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスル
 トキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第二十四條 漁業免許ノ違法許可若ハ其ノ更新ニ依リ權
 利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコ
 トヲ得
 第二十五條 漁場ノ區域、漁業權ノ範圍又ハ漁業ノ方法
 ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ
 裁決ヲ申請スルコトヲ得
 前項ノ裁決ニ依リ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスル
 申請者又ハ爭議ノ相手方ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ
 得
 第二十六條 免許ニ依ラスシテ免許ヲ受クヘキ漁業ヲ爲
 シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス免許ノ停止中又ハ免
 許ノ條件若ハ制限ニ違背シテ漁業ヲ爲シタル者亦同シ
 前項ノ場合ニ於テハ漁獲物及何人ノ所有ヲ問ハス漁具
 ヲ沒收ス但シ沒收スヘキ漁獲物ヲ既ニ讓渡シ又ハ消費

シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス
 第二十七條 使用人、漁夫其ノ他ノ從業者ノ所爲ハ漁者
 ノ所爲ト看做シ前條ノ罰則ハ之ヲ漁業者ニ適用ス
 第二十八條 第三條、第四條ノ權利ヲ侵害シタル者ハ被
 害者ノ告訴ニ依リ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十九條 漁場ノ標識ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル者ハ三
 十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十條 明治三十三年法律第五十二條ノ規程ハ本法又
 ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ依リ犯罪ニ之ヲ適用ス
 附 則
 第三十一條 本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行
 ス
 第三十二條 本法ノ規定ハ臘虎臘臘獸獵法ノ效力ヲ妨ケ
 ス
 第三十三條 本法施行前ニ受ケタル漁業ノ免許又ハ公有
 水面使用免許ニ依ル第三條ノ漁業者ハ本法施行ノ日ニ
 於テ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ
 免許期間ハ第六條ノ期間内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム
 第三十四條 從來ノ慣行ニ因ル第三條又ハ第四條ノ漁業
 者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ出願スルトキハ之
 ニ免許ヲ與フヘシ

前項ノ漁業者ハ其ノ免許ヲ出願シタル者ニ在リテハ許
 否ノ處分ヲ受クル迄ノ間其ノ他ニ在リテハ本法施行後
 一箇年間仍從前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得
 第三十五條 本法施行前ニ於テ水産業ノ改良發達及水産
 動植物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖
 ル爲行政官廳ノ認可ヲ得テ設置シタル組合ニシテ本法
 又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ抵觸セザルモ
 ノハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依ル水産組合ト看做ス
 ● 漁業法施行規則 (明治三十五年五月農
 商務省令第七號)
 第一章 總則
 第一條 本則ニ於テ定置漁業ト稱スルハ漁具ヲ定置シテ
 爲ス漁業ヲ謂ヒ、區劃漁業ト稱スルハ水面ヲ區劃シテ
 爲ス漁業ヲ謂ヒ、特別漁業ト稱スルハ漁業法第三條第
 二項ニ依リ主務大臣ニ於テ免許ヲ必要ト認ムル漁業ヲ
 謂ヒ、專用漁業ト稱スルハ定置漁業、區劃漁業及特別
 漁業ニ非スシテ水面ヲ專用シテ爲ス漁業ヲ謂フ
 第二條 定置漁業ノ種類左ノ如シ
 一 敷網及垣網又ハ敷網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ
 水面ニ敷設スルモノ(臺網類漁業)
 二 落網、上網及垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水

面ニ敷設スルモノ(落網類漁業)
 三 側網及垣網ヲ碇、土俵若ハ支柱ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(樹網類漁業)
 四 曲網及垣網又ハ刺網ヲ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(建網類漁業)
 五 垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(出網類漁業)
 六 張網又ハ立回網ヲ支柱若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ建設シテ敷設スルモノノ張網類漁業
 七 一定ノ水面ニ支柱ヲ以テ若シハ網ヲ建設シ又ハ竹木、石堤等ヲ建設シテ陷罪ノ装置若ハ魚堰ヲ設クルモノ(帆籠類漁業)

第三條 區劃漁業ノ種類左ノ如シ
 一 一定ノ區域内ニ於テ瓦、石、竹、木等ヲ沈設シ又ハ築ヲ建設シテ爲ス養殖業(第一種)
 二 土、石、竹、木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業(第二種)
 三 前二號ノ外一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業(第三種)

第四條 特別漁業ノ種類左ノ如シ
 一 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業(第一種)

二 一定ノ追込場ヲ有スル海豚漁業(第二種)
 三 一定ノ曳揚場ヲ有スル地曳網地漕網漁業(第三種)
 四 一定ノ曳寄場ヲ有スル船曳網漁業(第四種)
 五 一定ノ網場ヲ有スル獲待網漁業(第五種)
 六 一定ノ網場ヲ有スル敷網漁業(第六種)
 七 一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業(第七種)
 八 一定ノ水面ニ漬場ヲ設クル鱈漁業(第八種)
 九 一定ノ水面ニ築磯ヲ設クル漁業(第九種)

第五條 前三條ニ該當スル漁業ノ名稱ハ別ニ之ヲ告示ス
 第六條 本則ニ於テ漁場ト稱スルハ定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域ヲ謂ヒ、區劃漁業ニ在リテハ區劃スル區域ヲ謂ヒ、專用漁業ニ在リテハ專用スル區域ヲ謂ヒ、特別漁業中第一種ノ漁業ニ在リテハ網場又ハ捕獲場ノ區域ヲ謂ヒ、第二種ノ漁業ニ在リテハ追込場ノ區域ヲ謂ヒ、第三種及第四種ノ漁業ニ在リテハ網ノ使用區域ヲ謂ヒ、第五種及第六種ノ漁業ニ在リテハ網場ノ區域ヲ謂ヒ、第七種ノ漁業ニ在リテハ飼付ヲ爲ス區域ヲ謂ヒ、第八種ノ漁業ニ在リテハ漬場ノ區域ヲ謂ヒ、第九種ノ漁業ニ在リテハ築磯ノ區域ヲ謂フ

第七條 同一漁場ニ於テハ同一時期ニ於テ同一名稱ノ漁業ヲ免許セズ但シ第三種乃至第六種ノ特別漁業ニ付テ

ハ此ノ限ニ在ラス
 第八條 前條ノ外水産動植物ノ蕃殖保護其他公益ニ害アリト認ムル漁業又ハ免許ヲ受ケタル漁業ト相容レスト認ムル漁業ハ之ヲ免許セス公益上必要アリト認ムルトキハ制限又ハ條件ヲ附シテ漁業免許ヲ與フルコトヲ得
(三十九年農商務省令第七號ヲ以テ本項追加)
 第九條 市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區ハ從來ノ慣行アルニ非サレハ漁業免許ヲ受クルコトヲ得ス
 第十條 同一漁場ニ於テ二以上ノ漁業免許アリタルトキハ關係漁業權者ハ命令書ノ定ムル所ニ依リ交互ニ其ノ權利ヲ制限セラルルモノトス
 第十一條 漁業權者ハ其ノ漁場内ニ於ケル他人ノ漁業ガ直接ニ自己ノ漁業ニ妨害アルニ非サレハ其ノ漁業ヲ拒ムコトヲ得ス
 第十二條 他人ノ專用漁場ニ入漁スルノ權利ヲ有スル者ハ漁業權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレバ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ズ但シ別段ノ慣行又ハ契約アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第十三條 前條ノ規定ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス
 第十四條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ漁場ヲ管轄

スル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農商務大臣ニ之ヲ爲スヘシ
 一 專用漁業ニ關スルトキ
 二 二以上ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル漁場ニ於ケル漁業ニ關スルトキ
 三 漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ニ關スルトキ

前項第二號又ハ第三號ニ該當スル場合ニ於テハ主務大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得
 第十五條 農商務大臣ニ出願、申請又ハ届出ヲ爲サムトスルトキハ漁場ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ但シ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサルトキハ住所地方長官ヲ經由スヘシ
 第十六條 漁業ニ關スル行政行爲ニ付テハ關係地方長官ハ交互ニ補助スルモノトス
 第十七條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 書面ハ專用漁業ニ在リテハ漁場毎ニ其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁業ノ名稱漁場毎ニ一通ヲ作り差出人ノ住所及差出ノ年月日ヲ記載シ差出人ノ記名捺印スヘシ
 第十八條 二人以上共同シテ漁業ニ關スル權利ヲ享有行

使シ又ハ漁業ニ關シ出願若ハ申請ヲ爲ストキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ之ヲ行政廳ニ届出テ又ハ出願若ハ申請ノ書面ニ記載スヘシ代表者ノ變更アリタルトキ亦同シ

代表者ハ行政官廳ニ對シ共同シテ漁業ニ關スル權利ヲ享有行使スル者又ハ共同出願者若ハ共同申請者ヲ代表ス
代表者ノ變更ハ第一項ノ手續ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ニ依ル代表者ノ届出又ハ記載ナキハ行政官廳ハ代表者ヲ指定スヘシ(三十九年農商務省令第七號ヲ以テ本項追加)

第十九條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ漁業ニ關シ出願申請若ハ届出ヲ爲シタル者又ハ漁業權者ノ借主ニ對シ漁業ニ關スル目論見書其ノ他ノ書類ノ提出、訂正又ハ補充ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ指定シタル期間内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ依リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ハ慣行ノ公布式ニ依リ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ此場合ニ於テハ公告ノ終リタル日ヨリ起算シテ三十日ヲ經

過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第二章 漁業免許

第二十一條 漁業免許ヲ受ケタル者ハ願書ニ漁場正副二通ヲ添附シ行政官廳ニ出願スヘシ
從來ノ慣行ニ依リ漁業免許ノ出願ヲ爲ストキハ前項ノ外慣行ノ事實ヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第二十二條 漁業免許ヲ受ケムトスル漁場ノ敷地ガ他人ノ所有ニ係ルトキハ前條第一項ノ外所有者又ハ關係人ノ承諾ヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ從來ノ慣行ニ因ル出願ニハ之ヲ適用セズ

第二十三條 漁業免許ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 專用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁業ノ種類及名稱

- 二 漁獲物ノ種類
- 三 漁業時期
- 四 免許期間

第二十四條 漁場圖ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 漁場ノ位置
- 二 定置漁業ニ在リテハ漁具建設又ハ敷設ノ形狀及間數、區劃漁業ニ在リテハ漁場ノ區域及面積其ノ他

ノ漁業ニ在リテハ漁場ノ區域

第二十五條 從來ノ慣行又ハ契約ニ因リ共有ノ性質ヲ有スル入會ヲ爲シタル者力從來ノ慣行ニ因リ專用漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ入會漁業者連印シテ出願スヘシ但シ連印ヲ爲ササル者アルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ願書ニ添附スヘシ

前項但書ノ場合ニ於テハ入會漁業者連印シテ出願シタルモノト認ムルコトヲ得(同上ヲ以テ本條追加)

第二十六條 從來ノ慣行又ハ契約ニ因リ他人ノ專用漁場ニ入漁シタル者ハ入會其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ專用漁業ノ免許ニ因リテ其ノ權利及ヒ義務ニ變更ヲ生スルコトナシ(三十六年農商務省令第五號ヲ以テ但シ削除)

但シ入漁者ニ於テ專用漁業免許ノ告示アリタル後一箇年以内ニ免許漁業原簿ノ登録ヲ申請シテ其ノ登録ヲ受ケサルトキハ此ノ限ニアラス(四十二年農商務省令第十九號ヲ以テ更ニ但書追加)

第二十七條 前條ノ入漁者又ハ本則施行後ノ契約ニ因リ他人ノ專用漁場ニ入漁スル者ハ專用漁業權者ノ變更又ハ專用漁業免許期間ノ更新ニ因リテ其ノ權利及義務ニ變更ヲ生スルコトナシ但シ入漁者ニ於テ免許漁業原簿

ノ登録ヲ受ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス(全上ヲ以テ但書改正)

第二十八條 漁業免許ヲ與フルトキハ免許狀ニ漁場圖ノ副本ヲ添附シ之ヲ下付スヘシ

免許狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 免許番號
 - 二 免許年月日
 - 三 漁業權者又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
 - 四 漁場ノ位置
 - 五 漁業ノ種類及名稱
 - 六 漁獲物ノ種類
 - 七 漁業時期
 - 八 免許期間
 - 九 免許ニ條件又ハ制限ヲ附シタルトキハ其ノ條件又ハ制限ノ事項
 - 十 免許ヲ與ヘタル官廳名
- 但シ行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ新ニ漁場圖ヲ調製シ其ノ副本ニ添附シ之ヲ下付スルコトヲ得(三十九年農商務省令第七號ヲ以テ但書追加)
- 第二十九條 前條第二項第六號及第七號ニ掲ケタル事項又ハ漁場ノ區域ヲ變更セムトスルトキハ願書ニ免許狀

ヲ添附シ變更ノ免許ヲ行政官廳ニ出願スヘシ但シ漁場ノ區域ヲ變更セシムトスルトキハ第二十四條ノ規定ニ依リ漁場圖正副二通ヲ作製シ之ヲ添附スヘシ
前項ノ出願ヲ免許スルトキハ更ニ免許狀ヲ下付スヘシ但シ漁場ノ區域ノ變更ヲ免許スルトキハ之ニ漁場圖ノ副本ヲ添附スヘシ
前項但書ノ場合ニ關シテハ前條第一項但書ノ規定ヲ準用ス(全上ヲ以テ本項追加)

第三十條 從來ノ慣行ニ因ル専用漁業權者ハ前條ノ規定ニ依リ變更ノ免許ヲ出願スルコトヲ得ス

第三十一條 第二十八條第二項第三號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ免許狀ヲ添附シ三十日以内ニ免許狀ノ訂正ヲ行政官廳ニ申請スヘシ

第三十二條 免許期間更新ノ免許ヲ得ムトスルトキハ更新期間及事由ヲ具シ願書ニ免許狀ヲ添附シ免許期間満了ノ日ヨリ三箇月前ニ行政官廳ニ申請スヘシ
前項ノ出願ヲ免許スルトキハ更ニ免許狀ヲ下付スヘシ

第三十三條 漁業權ノ相續、讓渡若ハ共有アリタルトキハ相續人又ハ當事者雙方ハ申請書ニ其ノ事由ヲ證スヘキ書面及免許狀ヲ添附シ三十日以内ニ免許狀ノ書換ヲ行政官廳ニ申請スヘシ

前項ノ規定ハ代表者ニ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス
第三十四條 免許狀ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ事由ヲ具シ行政官廳ニ再下付ヲ申請スヘシ

第三十五條 漁業權消滅シタルトキハ三十日以内ニ行政官廳ニ免許狀ヲ返納スヘシ

漁業權ノ拋棄ニ因ル免許狀ヲ返納スル 非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十六條 地先水面専用漁業權ノ處分ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ事由ヲ具シ行政官廳ニ申請スヘシ

第三十七條 漁業休業ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ免許ヲ受ケタル日、休業ノ日又ハ認可期限満了ノ日ヨリ六箇月以内ニ事由ヲ具シ行政官廳ニ申請スヘシ
前項ノ認可ヲ受ケタル者漁業ニ著手シ又ハ再ヒ漁業ニ従事シタルトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ此ノ届出ヲ爲ササルトキハ休業シタルモノト看做ス

第三章 漁業權登録

第三十八條 行政官廳ハ免許漁業原簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登録スヘシ

一 漁業免許ヲ與ヘタルトキハ第二十八條第二項第一號乃至第九號ニ掲ケタル事項

八 休業ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ事由、年月日及休業期間

九 漁業權ヲ制限又ハ停止シタルトキハ其ノ事由及年月日

十 漁業權又ハ入漁ノ權利ノ消滅ニ關シテハ其ノ事由及年月日 (同上改正)

十一 漁業權又ハ入漁者若ハ借主ノ權利ノ差押假差押又ハ假處分ニ關シテハ其ノ事由及年月日

前項第五號乃至第六號ニ掲ケタル事項ハ申請ニ因リ之ヲ登録スルモノトス(全上)

第三十九條 行政官廳ハ免許漁業共同人名簿ヲ備ヘ漁業權共有者、共同入漁者及共同借主ノ氏名若ハ名稱及住所、持分ノ定マリタルトキハ其ノ持分並ニ之ニ關スル相續、讓渡、貸付變更、差押、假差押、假處分ノ登録ヲ爲スヘシ
第四十條 第三十八條第一項第四號、第五號及第十一號ノ規定ハ前條第一項ノ相續、讓渡、貸付、差押、假差押、假處分ノ登録ニ之ヲ準用ス

持分ノ變更ニ關シテハ其ノ事由及年月日ヲ登録スヘシ
前條第一項ノ相續、讓渡、貸付若ハ變更ノ登録ハ申請ニ因リ之ヲ爲スモノトス

二 變更ノ免許ヲ與ヘタルトキハ其ノ事項及年月日
三 免許狀ノ訂正ヲ許可シタルトキハ其ノ事項及年月日
四 免許狀ノ書換ヲ許可シタルトキハ相續又ハ讓渡ニ關シテハ其ノ事由、年月日及相續人若ハ讓受人又ハ其ノ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所、共有又ハ代表者ノ變更ニ關シテハ其ノ事由、年月日及代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
五 漁業權ノ貸付ニ關シテハ其ノ事由、年月日、期間及借主又ハ其代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
六 入漁登録ニ關シテハ第四十二條ノ第二項第二號乃至第五號ニ掲ケタル事項
六ノ二 第四十三條第一項ニ依ル變更ノ登録ニ關シテハ其ノ事項及年月日
六ノ三 登録證ノ訂正ニ關シテハ其ノ事項及年月日
六ノ四 登録證ノ書換ニ關シテハ相續又ハ讓渡ニ在リテハ其ノ事由、年月日及相續人若ハ讓受人又ハ其ノ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所、共有又ハ代表者ノ變更ニ在リテハ其ノ事由、年月日及代表者ノ氏名若ハ名稱住所(三十九條商務省令第七號ヲ以テ本項追加)
七 免許期間更新ノ免許ヲ與ヘタルトキハ其ノ年月日及期間

第四十一條 行政官廳ハ免許ヲ與ヘタル漁業ノ漁場圖正
本ヲ編綴シテ之ヲ備ヘ置クヘシ

前項ノ漁業圖ハ免許漁業原簿ノ一部トス

第四十二條 他人ノ專用漁場ニ入漁スル權利ヲ有スル者

登錄ヲ受ケムトスルトキハ漁場圖正副二枚ヲ添附シ當

事者雙方連印シテ之ヲ申請スヘシ但シ連印ヲ得ルコト

能ハサルトキハ事由ヲ具シテ之ヲ申請スヘシ(全上ヲ以

テ條中改正)

第二十六條ノ入漁者前項ノ登錄ヲ申請スルトキハ申請

書ニ其權利ヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第四十二條ノ二 入漁申請ニ對シ登錄アリタルトキハ登

錄證ヲ下付スヘシ (全上ヲ以テ本條追加)

登錄證ニハ左ノ事項ヲ記スヘシ

一 免許番號

二 登錄番號

三 登錄年月日

四 入漁者又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所

五 入漁者ノ權利義務

六 登錄シタル官廳名行政官廳ニ於テ必要ト認ムルト

キハ登錄證ニ漁場圖ヲ添附シ下付スルコトヲ得

第四十三條 登錄シタル入漁者ノ權利義務ニ變更ヲ生シ

タルトキハ申請書ニ其ノ事由ヲ具シタル書面及登錄證

ヲ添附シ變更ノ登錄ヲ三十日以内ニ申請スヘシ

前項ノ登錄ニ關シテハ第二十九條第一項但書、第二項、

第三項及第四十二條ノ規定ヲ準用ス(全上改正)

第四十三條ノ二 第三十一條第三十三條第三十四條及第

三十五條第一項ノ規定ハ登錄證ニ關シテ之ヲ準用ス(全上

ヲ以テ追加)

第四十四條 漁業權又ハ漁業權共有者ノ持分ノ貸付アリ

タルトキハ當事者雙方ハ其ノ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添

ヘ三十日以内ニ登錄ヲ申請スヘシ

第四十五條 漁業權ノ差押、假差押又ハ假處分ノ命令ア

リタルトキハ其ノ申請ヲ爲シタル者ハ之ヲ證スヘキ書

面ヲ添ヘ十五日以内ニ行政官廳ニ届出ツヘシ其ノ取消

ノ命令アリタルトキ亦同シ

第四十六條 借主ノ利權並漁業共有者、登錄シタル共同

入漁者及共同借主ノ持分ニ相續、讓渡若ハ共有アリタ

ルトキハ相續人又ハ當事者雙方ハ其ノ事由ヲ證スヘキ

書面ヲ添ヘ三十日以内ニ登錄ヲ申請スヘシ (全上ヲ以テ

本條中改正)

前項ノ規定ハ登錄シタル入漁者ノ權利並ニ前項ノ權利

持分ニ之ヲ準用ス(同上改正)

第四十七條 漁業權共有者、登錄シタル共同入漁者及共

同借主ノ氏名若ハ名稱又ハ住所ニ變更アリタルトキハ

之ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ三十日以内ニ變更ノ登錄ヲ申

請スヘシ

前項ノ規定ハ民法第二百五十五條及第二百六十四條ノ

規定ニ依リ其ノ持分ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用

ス

第四十八條 第四十三條及第四十四條乃至第四十七條ノ

外當事者ノ申請ニ因リテ登錄シタル事項ニ變更ヲ生シ

又ハ其ノ事項カ消滅シタルトキハ當事者ハ之ヲ證スヘ

キ書面ヲ添ヘ三十日以内ニ變更又ハ消滅ノ登錄ヲ申請

スヘシ但シ代表者ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス(全上)

第四十九條 行政官廳ニ於テ第三十八條第一項第一號、

第二號第四號乃至第六號ノ二第六號ノ四乃至十一號ニ

掲ケタル事項ヲ登錄シタルトキハ慣行ノ公布式ニ依リ

之ヲ告示スヘシ(全上)

第五十條 漁業權者其ノ他ノ利害關係者ハ免許漁業原簿

ノ閲覧又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ下付ヲ行政官廳ニ申請

スルコトヲ得

第四章 養殖保護及漁業取締

第五十一條 水産動物ヲ疲憊若ハ斃死セシムヘキ有毒物

又ハ爆發物ヲ使用シテ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ス

但シ捕鯨ノ爲メ爆發物ヲ使用スルハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 前條ノ規定其ノ他漁業法第十三條ニ依リ命

令ハ官署又ハ公署ニ於テ調査又ハ試驗ノ爲水産動物

ノ採捕又ハ養殖ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第五十三條 漁業法第十三條ニ依リ命令ハ養殖學術研究

其ノ他特別ノ理由ニ因リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ水産動

植物ノ採捕ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第五十四條 遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキ

ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ魚道ヲ開通スヘシ

第五十五條 定置漁業及特別漁業ニ關シテハ行政官廳ハ

漁業取締ノ爲命令ヲ以テ保護區域ヲ設クルコトヲ得

保護區域内ニ於テ漁業ノ妨害トナルヘキ行為ノ禁止又

ハ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

地方長官前二項ノ命令ヲ發スルトキハ農商務大臣ノ認

可ヲ命クヘシ

第五十六條 左ニ掲ケタル漁業ハ其漁業ヲ爲ス水面ヲ管

轄スル地方長官ノ許可ヲ受ルニ非サレハ之ヲ爲スコ

トヲ得ス

一 藻手線網漁業 二 藻打瀬網漁業

三 藻曳網漁業

四 潛水器漁業

五 空釣繩漁業

前項漁業ノ地方名稱ハ地方長官之ヲ告示スヘシ
地方長官第一項ノ漁業ヲ許可シタルトキハ鑑札ヲ下付
スヘシ

第五十七條 前條ノ漁業者漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携帶
スヘシ

第五十八條 漁場ノ標識ヲ建設スル爲他人ノ土地ニ立入
リ又ハ之ヲ使用セムトスル者ハ事由ヲ具シ其ノ土地ヲ
管轄スル島司又ハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ土地カ島司又ハ郡長ノ管轄ニ屬セサルトキハ所
轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ漁場標識ノ建設ヲ命セラレタル場合ニ
ハ之ヲ適用セス

第五十九條 漁場ノ標識ヲ建設スル爲他人ノ土地ニ立入
リ又ハ之ヲ使用スル者ハ其ノ認可書又ハ命令書ヲ携帶
スヘシ

第六十條 漁場標識ヲ建設シタルトキハ其ノ漁場標識タ
ルコトヲ明示スヘシ

第六十一條 地方長官禁漁區ヲ設ケタルトキハ適當ノ場

所ニ其ノ標示ヲ爲スヘシ

第五章 裁決

第六十二條 漁業法第二十五條第一項ニ依リ爭議ノ裁決
ヲ受ケムトスル者ハ免許ヲ與ヘタル行政官廳ニ申請ス
ヘシ但シ關係者ニ免許ヲ與ヘタル行政官廳異ナルトキ
ハ農商務大臣ニ申請スヘシ

第六十三條 前條ノ裁決ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載ス
ヘシ

一 申請者及爭議ノ相手方ノ氏名若ハ名稱及住所

二 申請ノ目的及理由

三 立證

第六十四條 爭議ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由
ヲ附スヘシ裁決ノ申請ヲ却下スルトキ亦同シ

第六章 罰則

第六十五條ノ一 第五十一條ノ規定ニ違背シタル者ハ二
十五日以下ノ禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ漁具及漁獲物ヲ沒收ス但シ沒收ス
ヘキ漁獲物ヲ既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代
金ヲ追徴ス(四十一年農商務省令第十九號ヲ以テ本條追加)

第六十五條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十五圓
以下ノ罰金ニ處ス

一 第三十三條第一項、第五十四條、第五十六條ノ規
定ニ違背シ又ハ入漁者ノ權利ニツキ相續ノ讓渡若

ハ共有アリタル場合ニ登録證ノ書換ヲ申請セサル
トキ (三十九年農商務省令第七號及七十四一年同令第十九號ヲ
以テ本條改正)

二 第四十四條又ハ第四十六條ニ依リ漁業權ノ貸付又
ハ漁業權共有者ノ持分ノ相續、讓渡、共有若ハ貸

付ノ登録ヲ申請セサルトキ
三 第四十五條又ハ第四十六條ニ依リ漁業權、登録シ
タル入漁者若ハ借主ノ權利又ハ漁業權共有者登録

シタル共同入漁者若ハ共同借主ノ持分ノ差押、假
差押又ハ假處分ニ關スル届出ヲ爲ササルトキ
四 禁漁區内ニ於テ其ノ禁止シタル水産動植物ヲ採捕
シタルトキ

五 禁漁區ノ標示ヲ移轉シ又ハ毀壞シタルトキ
第六十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一 第五十七條ノ規定ニ違背シ又ハ第四十二條ノ二第二
項第四號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタル場合若
ハ代表者ニ變更アリタル場合ニ訂正若ハ書換ヲ申
請セス入漁ノ權利ガ消滅シタル場合ニ於テ登録證
ヲ返納セサル片(三十九年農商務省令第七號ヲ以テ本條改正)

二 前條第二號ノ場合ヲ除クノ外本則ノ規定ニ依リ登
録スヘキ事項ノ申請ヲ怠リタルトキ

附 則

第六十七條 本則ハ漁業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十八條 本則施行前ニ於テ漁業ニ關シ地方長官ノ發
シタル命令ノ規定ニシテ漁業法又ハ本則ノ規定ニ抵觸

セサルモノハ漁業法又ハ本則ニ依リ發シタルモノト看
做ス
第六十九條 漁業法第三十三條ニ該當スル者ハ本則施行
ノ日ヨリ六箇月以内ニ行政官廳ニ免許期間ノ指定ヲ申
請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ササル者ハ廢業シタルモノト看做ス
第七十條 第二十一條第一項、第二十三條、第二十四條
第二十八條、第三十八條、第三十九條及第四十一條ノ

規定ハ前條ノ申請ノ場合ニ之ヲ準用ス
第七十一條 獨立シタル區ヲ爲ササル濱、浦、漁村又ハ
漁業者ノ部落ニシテ從來ノ慣行ニ因リ漁業免許ヲ受ケ
ムトスルトキハ漁業組合ヲ組織シテ本則施行ノ日ヨリ

一箇年以内ニ出願スヘシ
第七十二條 本則施行前ヨリ行政官廳ノ許可ヲ受ケ第五
十六條第一項ノ漁業ヲ爲ス者ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケ

タルモノト看做ス但シ鑑札ノ下付ヲ受ケサルモノハ本則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ管轄地方長官ニ鑑札ノ下付ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ鑑札ノ下付ヲ受ケル迄ノ間鑑札ヲ携帶セスシテ漁業ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 本則施行前ヨリ第五十六條第一項ノ漁業ヲ爲ス者ニシテ前條ノ規定ニ該當セサルモノハ本則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ管轄地方長官ニ許可ヲ出願シタルトキハ許可ノ處分ヲ受クル迄ノ間仍從前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 地方長官ハ本則ニ規定スルモノノ外農商務大臣ノ認可ヲ得テ漁業ニ關スル出願、申請又ハ届出ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第七十五條 本則中市、町、村、町村組合及市町村内ノ區ニ關スル規定ハ北海道ニ於テハ區、町、村及區町村内ノ部沖繩縣ニ於テハ區、間切、島、間切島組合及區間切島内ノ部ニ之ヲ適用ス

第七十六條 明治四十年九月三十日以前ニ專用漁業免許ノ告示アリタル専用漁場ニ對スル第二十六條ノ入漁ノ登録申請ハ明治四十一年九月二十日迄之ヲナスコトヲ得(四十一年農商務省令第十九號ヲ以テ追加)

●漁業組合規則 (明治三十五年五月農商務省令第八號)

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ漁業組合ト稱スルハ漁業法第十八條ニ依リ設置スル組合ヲ謂フ

第二條 組合ノ名稱ニハ其ノ地區ノ名稱及漁業組合ナル文字ヲ附スヘシ

漁業組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ漁業組合ナル文字ヲ附スルコトヲ得ス

第三條 組合ノ地區ハ互ニ重複スルコトヲ得ス

第四條 組合ハ理事其ノ他ノ代理人カ其ノ職務ヲ行フニ付他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責任ス

第五條 本則ノ規定ニ依リ地方長官ニ屬スル職權ノ一部ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ下級行政官應ニ之ヲ委任スルコトヲ得

第二章 組合ノ設置

第六條 組合ヲ設置セムトスルトキハ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者五名以上發起人ト爲リ其ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ規約ヲ議定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

特別ノ事由ニ因リ前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキ

ハ地方長官ノ認可ヲ得テ創立總會ヲ開クコトヲ得

第七條 發起人前條第一項ノ同意ヲ求メムトスルトキハ左ノ事項ヲ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ニ通知スヘシ

一 地區

二 享有行使セムトスル漁業權

三 施設ノ概要(三十九年農商務省令第三十二號ヲ以テ追加)

四 同意表示ノ方法及期間(全上ヲ以テ本號下ケ)

第八條 第六條第一項ノ同意又ハ同條第二項ノ認可アリタルトキハ發起人ハ規約並初年度ニ於ケル經費ノ豫算及賦課徴收法ニ關スル議案ヲ作り遲滞ナク創立總會ヲ召集スヘシ

第九條 發起人創立總會ヲ召集スルニハ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的、日時及場所並規約案備附ノ場所及閱覽ノ時間ヲ組合員タルヘキ者ニ通知スヘシ

第十條 規約ニハ在ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 目的
- 二 名稱、地區及事務所ノ位置
- 三 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 四 役員ニ關スル規定
- 五 會議ニ關スル規定
- 六 會計ニ關スル規定

七 漁業權ノ享有行使及之ニ對スル組合ノ漁業ニ關スル規定

八 違約者處分ニ關スル規定

九 組合ノ目的ヲ達スル爲必要ナル施設ヲ爲サムトスルトキハ之ニ關スル規定(全條ヲ以テ改正)

十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第十一條 規約ハ組合員タルヘキ者三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議決スルコトヲ得ス

第十二條 創立總會ニ於テハ組合員タルヘキ者ハ他ノ組合員タルヘキ者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ受任者ハ委任狀ヲ發起人ニ差出スヘシ

第十三條 創立總會ヲ終リタルトキハ發起人ハ組合設置ノ認可申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ規約、初年度ニ於ケル經費ノ豫算及賦課徴收法、第六條ニ定メタル同意アリタルコトヲ證スル書類及創立總會ノ決議録ノ原本ヲ添付スヘシ

第十四條 組合ノ設置ヲ認可シタルトキハ地方長官ハ其ノ名稱、地區及事務所ノ位置ヲ公告スヘシ之ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

第十五條 組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ初回ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ組合員タルヘキ者ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

理事及監事ノ選任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ規約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 理事及監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第十八條 理事ハ組合ノ事務ニ付組合ヲ代表ス但シ組合ノ利益相反スル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

理事數人アル場合ニ於テハ組合ノ事務ハ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス但シ規約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 理事ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得

- 一 經費ノ豫算及賦課徴收法ヲ定ムルコト
- 二 漁業權又ハ不動産ニ關スル權利ノ得喪、變更ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト
- 三 基金ノ利用方法ヲ定メ又ハ其ノ支出ヲ爲スコト
- 四 豫算外ノ支出ヲ爲シ又ハ負債ヲ起スコト

五 組合員ニ非サル者ニ漁業權ヲ貸付シ又ハ之ト入漁ノ契約ヲ爲スコト

六 組合員ヲ除名スルコト

七 訴訟行爲又ハ和解ヲ爲スコト

八 基金ヲ預入ルヘキ銀行ヲ定ムルコト

第二十條 理事ハ經費ノ決算、財産目録、事業報告書並基金ノ積立及剩餘金ノ處分ニ關スル議案ヲ調製シ監事ノ意見書共ニ之ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ(全上ヲ以テ條中改正)

前項ノ承認ヲ得タルトキハ理事ハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 理事ハ規約、前年度ニ於ケル經費ノ決算、其ノ年度ニ於ケル經費ノ豫算財産目録事業報告書漁業免許狀入漁登錄證組合員名簿及總會ノ決議録ヲ事務所ニ備ヘ置クヘシ(全上ヲ以テ條中改正)

組合員ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條 監事ハ理事又ハ事務員ト相乘スルコトヲ得

第二十三條 監事ハ組合ノ財産及事務執行ノ狀況ヲ監査ス

第二十四條 監事財産ノ狀況又ハ事務ノ執行ニ付不整ノ

廉アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク之ヲ總會又ハ監督官廳ニ報告スヘシ

監事ハ前項ノ報告ヲ爲ス爲必要アルトキハ總會ヲ招集スルコトヲ得

第二十五條 理事其ノ職務ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ理事ノ缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三箇月以上ニ亘ルコトヲ得

第二十六條 前條ノ規定ニ依リ理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ地方長官ハ組合員中ヨリ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十七條 理事ハ毎年度少クトモ一回通常總會ヲ開クヘシ

第二十八條 理事ハ必要アリト認ムルトキハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

組合員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スヘシ但シ此ノ定數ハ規約ヲ以テ減スルコトヲ得

第二十九條 總會ヲ招集スルニハ少クトモ會日ノ三日前ニ各組合員ニ對シテ其ノ通知ヲ發スヘシ
前項ノ通知ニハ會議ノ目的及事項ヲ記載スヘシ
總會ニ於テハ前二項ニ依リテ通知ヲ爲シタル事項ニ付

テノミ決議ヲ爲スコトヲ得但シ規約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 組合員ハ各一箇ノ決議權ヲ有ス

第三十一條 組合ト或組合員トノ關係ニ付決議ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ組合員ハ決議權ヲ有セス

第三十二條 總會ノ決議ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十三條 左ノ決議ハ組合員三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得

- 一 規約變更ノ決議
- 二 解散ノ決議

第三十七條、第十九條第二號乃至第六號及第五十八條ノ決議

四 訴訟行爲又ハ和解ヲ爲スコトノ決議

前項第一號乃至第三號ノ決議並經費ノ豫算及賦課徴收法ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十四條 第十二條ノ規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第三十五條 總會カ決議ヲ爲サス又ハ爲スコト能ハサルトキハ理事ハ事情ヲ具シテ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ總會ノ決議ニ代ルヘキ命令ヲ爲スコトヲ得

第三十五條ノ二 組合規約ヲ以テ總會ニ加ハルヘキ總會ヲ設ケルコトヲ得

漁會ニ關スル規定ハ總會ニ之ヲ準用ス但シ第三十四條ノ規定ハ此ノ限ニアラス

漁業權又ハ不動産ニ關スル權利ノ得喪基金ノ支出起債理事及監事ノ解任組合員ノ除名及解散ノ決議ハ總會ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

總會ヲ設ケントスルトキハ規約中ニ總會ノ選任及解任ノ方法員數並任期ニ關スル規定ヲ設ケルコトヲ要ス

(三十九年農商務省令第三十二號ヲ以テ追加)

第三十六條 總會ノ決議法令若ハ規約ニ違背シ又ハ組合員共同ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ理事ハ其ノ執行ヲ停止シ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第四章 組合ノ會計

第三十七條 組合ニハ收入役ヲ置クヘシ但シ收支寡少ナル組合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ得テ之ヲ置カサルコトヲ得

收入役ハ總會ニ於テ之ヲ選任シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ初回ノ收入役ハ創立總會ニ於テ之ヲ選任スル

コトヲ得

第十七條及第三十三條ノ規定ハ收入役ノ解任ニ之ヲ準用ス

第三十八條 收入役ハ理事、監事又ハ事務員ト相兼スルコトヲ得ス

第三十九條 收入役其ノ職務ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ收入役ノ缺ケタルトキハ理事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三箇月以上ニ亘ルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ收入役ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ地方長官ハ假收入役ヲ選任シ收入役ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十條 收入役ハ組合ノ出納ヲ掌リ會計ノ事務ヲ整理ス

第四十一條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ收入役ヲシテ身元保證金ヲ供セシムルコトヲ得

第四十二條 收入役ハ規約及豫算ニ違ヒタル支出ヲ爲スコトヲ得ス

理事ノ規約及豫算ニ違ヒタル支出ヲ命シタルトキハ收入役ハ之ヲ地方長官ニ具申シ其ノ指揮ヲ請フヘシ

第四十三條 組合ノ事業年度ハ一箇年トス

第四十四條 組合ノ經費ノ豫算及決算ハ別ニ定ムル所ノ

方式ニ從ヒテ之ヲ調製スヘシ

第四十五條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合ノ漁業權ニ依リテ特別ノ利益ヲ受クル組合員ヨリ漁業料ヲ徵收スルコトヲ得

第四十六條 組合ノ收入其ノ經費ヲ支辨シテ剩餘アルトキハ剩餘金額十分ノ一以上ヲ基金トシテ之ヲ積立ツヘシ

基金ハ公債若ハ地方債ヲ買得シ又ハ郵便貯金若ハ一定ノ銀行ニ預入ルノ外他ニ之ヲ利用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條 基金ハ天災、地變其ノ他必要止ムヲ得サル場合又ハ組合員ノ共同ノ利益ヲ増進スルコト顯著ナリト認メラルル場合ノ外之ヲ支出スルコトヲ得ス

第五章 組合員ノ加入脱退及違約處分

第四十八條 組合ノ地區内ニ一箇年以上住所ヲ有スル者ニシテ組合ニ加入セムトスルトキハ組合ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒ミ又ハ其ノ加入ヲ困難ナル條件ニ繋ラシムルコトヲ得ス

第四十九條 組合員ノ家督相續人カ相續ノ日ヨリ三十日以内ニ加入ノ申込ヲ爲シタルトキハ相續ノ日ヨリ組合員タリシモノト看做ス但シ隱居シタル被相續人カ組合

ヲ脱退セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ規約ニ違背シタル組合員ヲ除名シ又ハ之ニ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第五十一條 不當ニ加入ヲ拒マレタル者又ハ不當ニ除名セラレ若ハ過怠金ヲ課セラレタル者ハ地方長官ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第六章 組合ノ解散及清算

第五十二條 組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存定期ノ滿了其ノ他規約ニ定メタル事由ノ發生
- 二 組合ノ目的タル漁業權享有行使ノ不能
- 三 組合員ノ數カ其ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ノ三分ノ一未滿ト爲リタルトキ但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 四 組合員ノ數カ五人未滿ニ減シタルトキ
- 五 總會ノ決議

前項第一號乃至第四號ノ事由ニ因リ解散シタルトキハ理事ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ地方長官ニ届出ツヘシ

第五十三條 組合ノ解散アリタルトキハ行政官應ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第五十四條 組合ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存続スルモノト看做ス

第五十五條 組合カ解散シタルトキハ理事其ノ清算人ト爲ル但シ規約ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキ又ハ清算人缺ケタルトキハ地方長官之ヲ選任ス

第五十六條 清算人ノ選任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
第五十七條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同
一ノ權利義務ヲ有ス

第五十八條 清算人ハ清算及財算處分ノ方法ヲ定メ總會ノ決議ヲ經ヘシ

第五十九條 組合債務完済後ノ剩餘金ハ公共團體又ハ水産組合ニ寄附スヘシ

第六十條 清算力結了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り總會ノ承認ヲ經タル後之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ決算報告書ニハ組合ノ帳簿其ノ他ノ書類及清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添附スヘシ
第七章 組合ノ監督
第六十二條 組合ハ農商務大臣、地方長官及郡長之ヲ監督ス

督ス

第六十二條 監督官廳ハ何時ニテモ理事若ハ清算人ヲシテ組合ノ事業若ハ清算事務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ組合ノ事業、清算事務及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他必要ナル命令ヲ發シ及處分ヲ行フ
郡長前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第六十三條 組合ノ行爲法令又ハ規約ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スト認ムルトキハ監督官廳ハ總會ノ決議若ハ組合ノ行爲ノ取消、役員若ハ清算人ノ解任又ハ組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得

郡長前項ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六十四條 地方長官設置ノ認可若ハ規約變更ノ認可ヲ與ヘ又ハ解散ヲ命シ若ハ前條第二項ニ依リ解散ノ處分ノ認可ヲ與ヘタルトキハ遲滞ナク之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第八章 罰則
第六十五條 組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 官廳又ハ總會ニ對シテ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實

ヲ隠蔽シタルトキ

二 第二十一條ノ書類ヲ備ヘス又ハ其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

三 第十九條又ハ第五十八條ニ違背シタルトキ
四 第六十二條ノ報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他監督官廳ノ命令若ハ處分ニ從ハサルハキ

第六十六條 組合ノ理事、監事又ハ清算人本則ニ規定シタル届出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十七條 本則ハ漁業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第六十八條 本則ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ北海道ニ於テハ支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

● 漁業法施行規則ニ依ル漁業ノ名稱

定置漁業
一 臺網類漁業
鯨大敷網

(明治三十五年六月農商務省告示第百十八號)

鯨大敷網

鯨臺網一名麻苧臺網

鯨大敷網一名鯨臺網

鯨大敷網

鯨大敷網一名鯨臺網(京都府及兵庫縣下ノ越中網ヲ含ム)

鯨臺網

柔魚大敷網

前八種以外ノ大敷網(臺網ヲ含ム)

根拵網

小臺網一名三小臺網(神奈川縣下ノ名稱ニシテ改良三艘張網ヲ含ム)

艘張根拵網(三艘張根拵網ハ靜岡縣下ノ名稱)

小敷網

待網一名額網(鹿兒島縣下川邊ノ郡地方ノ名稱)

大越網

小越網

取大敷網

鯨大敷網

三艘張網(神奈川縣下ノ名稱ニシテ神奈川縣下及靜岡縣下ノ四艘張網ヲ含ム)

二艘張網(靜岡縣ノ名稱)

鯨張揚網

鯨大謀網一名鯨大網(秋田縣及夏)

五

鯛刺網一名鱸ノ塔
やまごみづん切網
出網類漁業
鮪出網
網代網
建切捕網(三重縣下及宮崎縣下ノ小網ヲ含ム)
張切地曳網(鹿兒島縣大島地方ノ待網ヲ含ム)
張切網
鮪刺大網(靜岡縣下ノ名稱)
立網
離折網
鮪出網(福井縣下ノ網ヲ含ム)
六
張網類漁業
鯨沖建網
魚來籠網
鮪瓢網
檜木張網一名檜木漁
張網一名越中網
無雙網一名劔先網
立張網
伏網

七

扇網
長袋網
鮪股引網
張網(滋賀縣下ノ名稱)
白魚間手網
鮪刺建干網
建干網
七
鮪刺類漁業
鮪刺名實建、實圍、實卷、ぐれ、八陣、實網
網鮪(秋田縣下ノ名稱ヲ含ム)
水晶形器械網
囊羽瀨
囊卷羽瀨
釜羽瀨
八重簀
八重床
海御簀
八重浜
笹干見
石干見(〇すくい)
簀建持網(秋田縣下ノもつぱ及もつぱがヲ含ム)

張切網

網代漁(千葉縣下ノ及茨城縣下ノ名稱)
籠(前橋縣下ノ落袋、神奈川縣下ノ楓袋、長野縣下ノ半網ノ切袋及新潟縣下ノ打切袋ヲ含ム)
かつとり籠
網袋(福井縣下ノ天ノ網ヲ含ム)
鯨袋
白魚籠
鮪刺張網
鮪刺張網(廣島縣下ノ切川、岡山縣下ノしんどり、東京府下及神奈川縣下ノまらヲ含ム)
鮪刺留(茨城縣下ノ網留及竹留ヲ含ム)
鮪留地曳網
鮪刺張單
鮪張網(福井縣下ノ張網及長野縣下ノ鮪刺張網ヲ含ム)
張待網(島根縣下ノ柴手網ヲ含ム)
堰四手網(新潟縣下ノ持網及徳島縣下ノ氷魚堰ヲ含ム)
魚堰(埼玉縣下ノ渡田、徳島縣下ノ流魚堰、宮崎縣下ノ待堰、秋田縣下ノ川留、宮城縣下ノ麻手縣下及福島縣下ノ待留、網留、實堰架堰ヲ含ム)
鮪刺掛

區畫漁業

一 第一種漁業
海苔浜建養殖業
青苔浜建養殖業
牡蠣浜建養殖業
ぢめき浜建養殖業
牡蠣養殖業
眞珠介養殖業
藻類養殖業
二 第二種漁業
魚類養殖業
魚籠類養殖業
三 第三種漁業
介類養殖業

堰釜(大阪府下ノ竹しんどり、愛媛縣下ノうさ、廣島縣下ノ竹島根縣下及大分縣下ノ釜、石川縣下ノ釜、群馬縣下ノ釜、山梨縣下ノ釜、奈良縣下ノ釜、徳島縣下ノ釜、香川縣下ノ釜、高松縣下ノ釜、愛媛縣下ノ釜、高知縣下ノ釜、宮崎縣下ノ釜、鹿児島縣下ノ釜、沖縄縣下ノ釜ヲ含ム)

- 八 漁業法第二十五條ニ依ル裁決ノ申請 每一件金五圓
- 九 漁業免許期間指定ノ申請 每一件金一圓

附 則

本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●漁業ニ關シ差出ス申請書ニ要スル

手数料ノ件 (明治三十五年六月農務省令第十二號)

- 漁業ニ關シ差出ス申請書ニ要スル手数料左ノ通相定ム
- 第一條 漁業ニ關シ左ニ掲クル書類ヲ差出ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ
 - 一 漁業免許狀ノ訂正申請書 每一件金二十錢
 - 二 漁業免許狀ノ書換申請書 每一件金五十錢
 - 三 漁業免許狀ノ再下付申請書 每一件金五十錢
 - 四 漁業法施行規則第二十六條又ハ第二十七條ニ依ル入漁者ノ權利ノ登錄申請書 每一件金一圓
 - 五 入漁ノ權利義務變更ノ登錄申請書 每一件金五十錢
 - 六 入漁登錄證ノ訂正申請書 每一件金十錢

- 七 入漁登錄證ノ書換申請書 每一件金二十錢
- 八 入漁登錄證ノ再下付申請書 每一件金二十錢
- 九 免許漁業原簿ノ閱覽申請書 每一件金十錢
- 十 免許漁業原簿ノ謄本又ハ抄本下付ノ申請書謄本、抄本ハ三行二十五字詰一枚ニ付金十錢一枚ニ滿タサルモノ亦同シ

附 則

圖面ハ一枚ニ付金三十錢以上金五圓以下ニ於テ謄寫ノ難易ニ從ヒ行政官廳ノ定ムル金額

第二條 手数料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

附 則

第三條 本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●水産組合規則 (明治三十五年五月農務省令第九號)

- 第一條 本則ニ於テ水産組合又ハ水産組合聯合會ト稱スルハ漁業法第二十二條ニ依リ設置スル組合又ハ聯合會ヲ謂フ
- 第二條 組合及聯合會ニハ漁業法及本則ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外重要物産同業組合法施行規則ノ規定ヲ準用ス

第三條 組合又ハ聯合會ノ名稱ニハ其ノ地區ノ名稱及水産組合又ハ水産組合聯合會ナル文字ヲ附スヘシ

水産組合又ハ水産組合聯合會ニ非スシテ其ノ名稱中ニ水産組合又ハ水産組合聯合會ナル文字ヲ附スルコトヲ得ス但シ外國領海水産組合法ニ依ル組合又ハ聯合會ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 組合又ハ聯合會ハ漁業權ヲ享有行使スルコトヲ得ス

第五條 組合又ハ聯合會ノ地區一地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ其ノ設置、定款ノ變更、役員ノ選任經費ノ豫算並徵收法及解散ノ認可ハ地方長官ニ之ヲ申請スヘシ

地方長官前項ノ組合又ハ聯合會ノ設置、定款ノ變更及解散ノ認可ヲ與ヘムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六條 前條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ重要物産同業組合法第十四條及第十五條ノ處分ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ行フコトヲ得

第七條 第五條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ經費ノ決算又ハ業務成績ノ報告及定款又ハ業務ノ執行ニ關

スル規則ノ届出ハ之ヲ地方長官ニ爲スヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

附 則

第八條 本則ハ漁業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 本則施行以前ニ於テ水産業ノ改良發達及水産動物ノ蕃殖保護其他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲行政官廳ノ認可ヲ得テ設置シタル組合ニシテ漁業法及本則ノ規定ニ抵觸セサルモノハ本則ノ規定ニ依リ定款ヲ變更シ本則施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ認可ヲ管轄行政官廳ニ申請スヘシ

第四章 特許 意匠 商標 實用新案

●特許法 (明治三十二年三月法律第三十六號)

第一條 工業上ノ物品及方法ニ關シ最先ノ發明ヲ爲シタル者若ハ其ノ承繼人ハ此ノ法律ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

發明ノ物品ヲ製作、使用、販賣若ハ擴布スルノ權利ヲ有セシム

方法ノ發明ニ係ル特許ハ特許ヲ受ケタル者ニ限り之ヲ使用若ハ擴布スルノ權利ヲ有セシム但其ノ特許ノ效力ハ同一方法ニ依リ製作セラレタル物品ニ及ブモノトス

第二條 左ニ掲クル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得ス
一 飲食、嗜好物
二 醫藥又ハ其ノ調合法

三 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ
四 特許出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタルモノ
但シ試驗ノ爲ニ二年以内公ニ知ラレタルモノハ此ノ限ニアラス

第三條 特許年限ハ十五年トシ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第四條 特許ハ制限ヲ付シ若ハ付セスシテ讓渡シ、共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五條 特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ有スルコトヲ得ス但シ相續ニ因リ之ヲ取得シ又ハ在職前ヨリ之ヲ有スルトキハ此ノ限ニアラス

第六條 特許ニ關シ出願若ハ請求ヲ爲サントスル者又ハ

見本ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十二條 特許ヲ出願シタルトキハ特許局審査官其ノ發明ヲ審査ス

第十三條 審査官ニ於テ特許ヲ與フヘキモノト決定シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登錄シ特許證ヲ下付ス
特許證ニハ特許局長之ニ署名シ明細書及必要ノ圖面ヲ添付ス

第十四條 工業所有權保護同盟條約國ニ於テ發明ノ特許ヲ出願シタル者條約ニ定メタル期間内ニ同一發明ニ付テ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス(三十五年法律第二號ヲ以テ條中改正)

第十五條 政府若ハ府縣ノ開設シタル博覽會若ハ共進會ニ出品スル者ニシテ他日其ノ物品ニ付發明ノ特許ヲ出願セントスルトキハ出品前ニ於テ其ノ旨ヲ特許局長ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ博覽會若ハ共進會ニ於テ其ノ物品ヲ受領セシ日ヨリ六箇月以内ニ特許ヲ出願シタル者ニ限り最初届出ノ日ニ於テ其ノ出願ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス
工業所有權保護同盟條約國ニ於テ萬國博覽會ノ開設ア

特許證主ニシテ帝國内ニ住所ヲ有セザルトキハ帝國内ニ住居ヲ有スル者ニ就キ代理人ヲ定ムヘシ

前項代理人ハ此ノ法律及之ニ基キテ發スル命令ノ定ムル所ニ依リ特許局ニ對シテ爲スヘキ手續又ハ特許ニ關スル民事訴訟及告訴ニ付本人ヲ代表スルモノトス

第七條 特許局長ハ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

第八條 特許ニ關スル代理ヲ常業トスル者ハ特許局長ニ願出登錄ヲ受クヘシ

代理業者ノ登錄ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 前條ニ依リ登錄ヲ受ケタル代理業者ニシテ其ノ業務ニ關シ犯令又ハ不正ノ行爲アリタルトキハ特許局長ハ其ノ代理業ヲ停止又ハ禁止スルコトヲ得

第十條 特許ニ關シ出願又ハ請求ヲ爲シタル者此ノ法律若ハ之ニ基キテ發スル命令ノ定ムル期間内又ハ此ノ法律若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許局長若ハ審判長ノ定ムル期間内ニ成規又ハ指定ノ手續ヲ爲サザルトキハ其ノ出願又ハ請求ハ無効トス

第十一條 特許ヲ受ケントスル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ特許局長ニ出願スヘシ
特許局長ハ出願者ニ對シ必要ト認ムルトキハ雛形若ハ

ルニ當リ其ノ國ニ於テ出品ニ對シ與ヘタル特許出願ノ期間ハ帝國内ニ於テモ有效トス

第十六條 公益ノ爲普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若ハ秘密ヲ要スルモノニ係ル發明ニシテ特許局長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ主務官廳ヨリ請求アリタルトキハ特許局長ハ特許ニ制限ヲ付シ若ハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ニタル特許ヲ制限シ若ハ之ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ政府ハ相當ノ報酬ヲ特許出願者又ハ特許證主ニ與フヘキモノトス

第十七條 他人ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ付特許ヲ出願シタル者特許ノ査定ヲ得タルトキハ原特許證主ニ協議シ其ノ發明ヲ使用スルノ承諾ヲ受クヘシ
發明者前項ノ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ其事由ヲ具シ特許局長ニ申告スヘシ特許局長ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ其ノ利用發明ニ對シ特許ヲ得ルコトヲ得但シ原特許證主ニ對シ特許局長ノ相當ト認ムル報酬ヲ仕拂フニ非サレハ其ノ特許ヲ實施スルコトヲ得ス

第十八條 前二條ノ報酬額ニ對シ不服アル者ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ第十六條ノ場合ニ於テハ之カ爲處分ヲ停止セス

第十九條 特許證主ハ自己ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ對シ追加特許ヲ受クルコトヲ得

追加特許ハ原特許ニ從ヒ移轉若ハ消滅スルモノトス

第二十條 特許ヲ受ケタル發明ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ其ノ特許ヲ無効トス

- 一 第一條及第二條ニ違反シタルモノ
- 二 發明ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セザリシモノ
- 三 發明ノ實施ニ必要ナラサル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セシモノ

第二十一條 審査官ニ於テ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第二十二條 審査官ニ於テ特許出願ノ發明カ他人ノ特許出願中ノ發明又ハ他人ノ特許發明ト抵觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第二十三條 前二條ノ査定ニ不服アル者ハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ前査定ニ干與セザル審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ

審査官其ノ不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ特許局

長ハ其ノ査定書ヲ不服者ニ送附スヘシ

第二十四條 發明抵觸ノ査定確定シタルトキハ特許局長ハ關係人ヨリ發明ニ關スル始末書ヲ徴シ審査官ヲシテ發明完成ノ前後ヲ審査セシメ其ノ査定書ヲ關係人ニ送附スヘシ

第二十五條 前條ニ依リ既ニ與ヘタル特許ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルトキハ其ノ特許年限ハ前特許登録ノ日ヨリ起算ス

第二十六條 特許證主其ノ明細書若ハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ改訂明細書若ハ圖面ヲ添エ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得一箇ノ特許證ヲ分割シテ二箇以上ト爲スノ必要アルコトヲ發見シタルトキハ亦同シ但シ發明ノ要部ヲ變更スルモノハ此ノ限ニアラス

第二十七條 前條ノ出願アリタルハ審査官之ヲ審査ス前項ノ場合ニ於テ審査官ノ査定ニ不服アル者ハ第二十三條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 第二十三條及第二十七條ノ再査定ニ不服アル者ハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ特許局ニ審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條ノ査定ニ不服アル者亦前項ニ同シ

第二十九條 二箇以上ノ特許發明互ニ撞著シ又ハ特許發明ト特許ヲ受ケサル物品若ハ方法ト撞著スルコトヲ發見シタルトキハ利害關係人ハ權利ヲ確認スル爲メ特許局ニ審査ヲ請求スルコトヲ得

第三十條 特許ヲ受ケタル發明第二十條ニ該當スルコトヲ發見シタル者ハ其ノ特許ヲ無効トスル爲メ特許局ニ審査ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條 特許局ノ審査、審判及報酬額ノ決定ニ關シ必要アルトキハ特許局ハ當事者ノ申立ニ因リ證據調ヲ爲シ又ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ證據調ヲ囑託スルコトヲ得

前項證據調ニ關シテハ民事訴訟法第二編第一章第五節乃至第十一節ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 特許局ニ於テ審判スヘキ事件ハ審判官三人若ハ五人ヲ以テ之ヲ審判ス其ノ三人若ハ五人中ノ一人ヲ審判長トス

審判ノ審決ニハ理由ヲ付スルコトヲ要ス

第三十三條 審判ハ正副二通ノ審判請求書ヲ以テ之ヲ請求スヘシ審判請求書ニハ理由ヲ付スルコトヲ要ス

答辯書ヲ差出サシムヘシ

特許局ハ必要ト認ムル場合ニ於テ期限ヲ付シテ更ニ請求人、被請求人ヨリ辯駁書、答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

審判長ハ職權又ハ當事者雙方ノ申立ニ因リ口頭審判ヲ爲スコトヲ得

口頭審判ハ公開スルモノトス

第三十四條 請求人若ハ被請求人成規又ハ指定ノ期間内ニ答辯書若ハ辯駁書ヲ差出ササルトキ又ハ辯論期日ニ出頭セザルトキハ審判長ハ相手方ノ意見ヲ聽キ審判ヲ終結スルコトヲ得

第三十五條 第二十八條第二項第二十九條及第三十條ノ請求ニ因ル審決ニ對シ不服アル者ハ其ノ審決カ法律ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルコトヲ理由トスルトキニ限り審決書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ訴及裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條 大審院ニ於テ出訴ノ理由アリト認ムルトキハ原審決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ特許局ニ差戻スヘシ

大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付表シタル意見ハ其ノ事件ニ關シ特許局ヲ羈束スルモノトス

第三十七條 第二十八條第二項第二十九條及第三十條ノ請求ニ因ル審判ニ關スル費用ノ負擔及其ノ費用額ハ審判長之ヲ決定ス

大審院ニ於テ費用ノ負擔ヲ言渡シタル場合ニ於ケル費用額ニ付テモ亦同シ

前二項ノ費用ニ關シテハ民事訴訟法第七十二條乃至第八十二條第八十六條及民事訴訟法ヲ準用ス

第三十八條 特許ヲ受ケタル發明ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ特許局長ニ於テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

一 特許證主正當ノ事故ナクシテ特許證ノ日付ヨリ三年ヲ經ルモ帝國内ニ於テ其ノ發明ヲ實施公行セサル場合又ハ三年以上其ノ實施公行ヲ中止シタル場合ニ於テ第三者ヨリ相當ノ條件ヲ付シテ其ノ讓受若ハ使用ヲ請求スルモ之ヲ拒絕シタルトキ

二 特許證主特許料納付期限後六十日ヲ經過スルモ仍其ノ納付ヲ忘リタルトキ

三 特許證主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第六條ノ代理人ヲ置カサルトキ

第三十九條 特許證主ハ特許料トシテ各特許ニ付毎年金十圓ヲ納ムヘシ

前項特許料ハ三年毎ニ金五圓ヲ増スモノトス
特許證主追加特許ヲ受ケタルトキハ追加特許料トシテ一時金二十圓ヲ納ムヘシ

第四十條 特許料ハ毎年一年分ヲ特許證ノ日付ニ應當スル日ニ於テ前納スヘシ第一年ニ係ルモノ及追加特許料ハ特許査定到達ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ
前納セシ特許料ハ之ヲ還付セス但シ一時ニ二年分以上ノ特許料ヲ前納シタル場合ニ於テハ未タ其ノ納付期限ニ至ラサルモノニ限り之ヲ還付ス

第四十一條 特許證主ハ其ノ特許品ニ特許ノ標記ヲ付スヘシ

第四十二條 特許局ハ特許公報ヲ發行シテ特許發明ノ明細書、圖面特許證ノ改訂、特許ノ異動其ノ他特許ニ關スル必要ノ事項ヲ公示スヘシ但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニアラス

第四十三條 特許ニ關スル書類ノ謄本、圖面ノ調製又ハ特許原簿ノ一覽ヲ要スル者ハ特許局ニ請求スルコトヲ得但秘密ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第四十四條 證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ囑託ヲ受

ケタル裁判所ニ對シ偽證又ハ詐偽ノ鑑定ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定ヲ爲サシメタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定、審決若ハ決定ニ至ラサル前特許局若ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第四十五條 他人ノ特許品ヲ偽造シタル者又ハ情ヲ知りテ偽造特許品ヲ使用シ販賣シタル者又ハ他人ノ特許方法ヲ竊用シタル者又ハ情ヲ知り其ノ竊用シテ製造シタル物品ヲ使用若ハ販賣シタル者ハ十五日以上三年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ特許ヲ侵害スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ輸入シタル物品ヲ使用シ販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十六條 前條ノ場合ニ於テ沒取シタル物件ハ之ヲ特許證主ニ給付ス

第四十七條 詐偽ノ所爲ヲ以テ特許ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知り其ノ物品ヲ販賣シタル

者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許ヲ受ケサル物品ヲ販賣スル爲廣告、看板、引札等ニ於テ特許品タルニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十八條 第四十五條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第四十九條 特許證主標記ヲ付スルコトヲ忘リタルトキハ其ノ特許品タルコトヲ知りテ其ノ權利ヲ侵害シタル者ニ對シテノミ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第五十條 特許證主其ノ特許品ノ要部ヲ分離シテ販賣シタルトキハ其ノ販賣シタル部分ニ對シ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第五十一條 此ノ法律ニ定メタル書類ノ送付ハ書留郵便又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テ郵便配達人及特許局ノ使丁ハ民事訴訟法ノ送達吏ト準視ス

附 則

第五十二條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條 明治二十一年勅令第八十四號特許條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

專賣特許條例及特許條例ニ依テ受ケタル專賣特許若ハ特許ハ其ノ年限間此ノ法律ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ效アルモノトス
特許ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ此ノ法律ニ依リタル出願又ハ請求ト看做シ處分スヘシ

●特許法施行細則 (明治三十二年六月農務省令第十三號)

第一章 總則

第一條 特許ニ關スル出願、請求、届出ヲ爲スモノハ一件毎ニ書面一通ヲ作り住所及ヒ差出ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名捺印シテ差出スヘシ但書類ノ謄本圖面ノ調製特許原簿其ノ他ノ書類、雛形又ハ見本閱覽ノ請求ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得 (三十八年農商務省令第一號ヲ以テ本條改正)

關係人又ハ相手方アル場合ニ於テハ其員數ニ應スル副本ヲ添付スヘシ

第二條 本則ニ書式ノ定アル場合ニ在リテハ書面ハ其書式ニ依リテ之ヲ作ルヘシ

第三條 書面ハ日本語ヲ以テ之ヲ認ムヘシ
委任狀、國籍證明書等ニシテ外國語ヲ以テ認メタルモ

ノニハ其譯文ヲ添付スヘシ

第四條 特許ノ出願後、特許改訂若クハ分割ノ出願後又ハ特許後其出願若クハ特許ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ其願書番號若クハ特許番號及ヒ發明ノ名稱ヲ記載シ審判請求中ノ事件ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ審判番號ヲ記載スヘシ (三十八年農商務省令第一號ヲ以テ本條改正)

第五條 (同上ヲ以テ本條削除)

第六條 書留郵便ヲ以テ特許ニ關スル願書、請求書、特許法第十五條第一項ノ規定ニ依ル届書及ヒ特許法又ハ本則ノ規定ニ依リ差出期間ヲ定メタル書類ヲ特許局ニ差出シタルトキハ其差出日時ハ發送郵便局ヨリ交付シタル書留郵便物受取證ニ記載シタル日時ニ依リテ之ヲ定ム (同條ヲ以テ本條改正)

第七條 (同條ヲ以テ本條削除)

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル書類、雛形又ハ見本ハ之ヲ受理セス
一 特許法又ハ本則ニ定メタル方式ニ違背シタルモノ
二 登録稅又ハ手数料ヲ納附セザルモノ
三 特許法若クハ本則ニ定メタル期間又ハ特許法若ハ本則ノ規定ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定メタル期日若クハ期間ヲ過キタルモノ

特許局ニ於テ受理シタル書類、雛形又ハ見本カ前項第一號若クハ第二號ニ該當スルトキ又ハ不明瞭若クハ不完備ナルトキハ特許局長又ハ審判長ハ其訂正、補充又ハ改造ヲ命スルコトヲ得但出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ特許願ヲ追加特許願又ハ利用發明特許願ニ、追加特許願又ハ利用發明特許願ヲ特許願ニ、追加特許願ヲ利用特許願ニ、利用發明特許願ヲ追加特許願ニ變更シ又ハ書類及ヒ之ニ類スル著シキ誤謬ヲ訂正若クハ補充スルハ出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノト看做サス

書類ノ損及及ヒ之ニ類スル著シキ誤謬アルトキハ特許局長又ハ審判長ハ適宜之ヲ訂正又ハ補充スルコトヲ得 (同上ヲ以テ本條改正)

第九條 特許ニ關スル出願、請求、届出ヲ爲シタル者ハ其差出シタル書類、雛形又ハ見本ヲ訂正、補充又ハ改造スルコトヲ得但出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノ又ハ審査若クハ審判ノ繫屬中ニアラサルモノハ此限ニ在ラス

審査中特許願ヲ追加特許願又ハ利用發明特許願ニ追加特許願又ハ利用發明特許願ヲ特許願ニ利用發明特許願

ヲ追加特許願ニ變更シ又ハ明細書ニ記載シタル事項ノ範圍内ニ於テ特許ノ請求範圍ヲ増減變更シ又ハ審査若クハ審判ノ繫屬中書類及ヒ之ニ類スル著シキ誤謬ヲ訂正若クハ補充スルハ出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノト看做サス (同上)

第十條 外國人又ハ外國法人ニシテ特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ外國人ニ在リテハ國籍證明書、外國法人ニ在リテハ國籍及ヒ法人タルコトノ證明書ヲ差出スヘシ但帝國内又ハ萬國工業所有權保護同盟條約國內ニ住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若クハ商業的ノ營業所ヲ有スルコトヲ證明スル者ハ國籍證明書ヲ差出スコトヲ要セス (同上)

第十條ノ二 萬國工業所有權保護同盟條約國又ハ帝國ト發明ニ付キ相互保護ヲ約セシ國以外ノ國ノ臣民、人民又ハ法人ニシテ特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ帝國内又ハ萬國工業所有權保護同盟條約内ニ住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若クハ商業的ノ營業所ヲ有スルコトノ證明書ヲ差出スヘシ (同條ヲ以テ本條追加)

第十條ノ三 同時ニ數箇ノ出願、請求其他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ前二條ニ依リ差出ス證明書ハ一通ヲ差出シ

之ヲ添付セサル書面ニハ其旨ヲ附記スルコトヲ得(同上)
第十條ノ四 前三條ノ場合ニ於テ他ノ事件ニ付キ特許局ニ對シ既ニ證明書ヲ差出シタルモノナルトキ其他特許局長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ證明書ノ差出ヲ免除スルコトヲ得(同上)

第十一條 發明者ノ承繼人ヨリ其發明ノ特許以前特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲スルハ其承繼人タルコトヲ證明スル書面ヲ差出スヘシ但其事由ヲ附記シ被承繼人ト連署スルトキハ此限ニ在ラス(同上ヲ以テ本條改正)

第十二條 代理人カ特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ其代理權ヲ證明スル書面ヲ差出スヘシ但法人ノ代表者其法人ノ名義ヲ以テスルトキハ此限ニ在ラス(同上ヲ以テ但書追加)

第十三條 特許法第六條ノ規定ニ依リ代理人ヲ定メタルトキハ其旨ヲ届出ツヘシ出願ノ際届出テタル前項代理人ノ代理權ハ別段ノ明記ナキトキハ特許後尙ホ存續スルモノト推定ス(同上ヲ以テ本項追加)

第十四條 特許法第七條ノ規定ニ依リ代理人ノ改任ヲ命シタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ代理人ニ通知スヘシ
第十五條 特許局長又ハ審判長ハ職權ヲ以テ又ハ當事者ノ請求ニ因リ本則ニ定メタル期間又ハ特許法若ハ本則

ノ規定ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定メタル期日若クハ期間ヲ變更スルコトヲ得但相手方其他ノ關係人アル事件ノ期日若クハ期間變更ノ請求ニ對シテハ當事者合意ノ申立ニ因リ又ハ顯著ナル理由アリト認ムル場合ノ外之ヲ許可セス(廿八年農商務省令第一號ヲ以テ本條改正)

第十五條ノ二 特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ニ關シ特許局長又ハ審判長ノ命ニ依リ差出スヘキ圖面ノ調製ヲ特許局ニ請求シ成規ノ手数料ヲ納付シタルモノニ付テハ其手数料納付ヨリ特許局ニ於テ圖面ノ發送ヲ爲ス迄ノ期間ハ特許局長又ハ審判長ノ指定シタル期間ニ之ヲ算入セス(同上ヲ以テ本條追加)

第十六條 特許局ニ差出シタル雖形見本又ハ證據物件ノ還付ヲ受ケントスル者ハ其差出ノ際豫メ其ノ旨ヲ申出ツヘシ
前項ノ申出ヲ爲シタル者ハ事件確定ノ日ヨリ六十日以内ニ其受取ノ手續ヲ爲スヘシ但雖形又ハ見本ニシテ特許局長ニ於テ必要ト認ムルモノハ之ヲ還付セス
差出人前項ノ手續ヲ忘ルルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘシ(同上ヲ以テ本條改正)

第十七條 數人共同シテ出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキ又一特許ヲ所有スルトキハ代表者一人ヲ選定シテ其

旨ヲ届出テ又ハ之ヲ書類ニ記載スヘシ其届出又ハ記載ナキトキハ各人互ニ代表スルモノト看做ス

前項ノ代表者ハ處分行爲ヲ除クノ外特許局ニ對シ全權ヲ有スルモノト看做ス(同上)

第十八條 特許法ニ依リ特許局ニ於テ爲スヘキ書類ノ送付ニシテ書留郵便ニ依ルモノハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スヘシ(同上)

第十九條ノ一 特許局ノ使丁ヲ以テ書類ノ送付ヲ爲ストキハ使丁ハ其書類ノ封皮ニ送付ノ日時ヲ記載シテ之ニ捺印スヘシ

書類ノ送付ヲ受ケタル者ハ其受領ノ日時ヲ記載シタル受取證ヲ使丁ニ交付スヘシ

第十九條ノ二 第十三條ノ届出ヲ忘リタルモノニ對スル送付ハ郵便ニ付シタル日ヲ以テ完了シタルモノト見做ス(三十八年農商務省令第一號ヲ以テ本條追加)

第二十條 住所又ハ居所ノ不分明其他ノ事由ニ因リテ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ特許局長又ハ審判長ハ官報ヲ以テ其事由ヲ公告スヘシ此場合ニ於テハ官報掲載ノ日ヨリ起算シテ二十日ヲ經過シタルトキハ其末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第二十一條 (三十八年農商務省令第一號ヲ以テ本條削除)

第二十二條 特許ニ關スル出願、請求届出等ヲ爲シタル者特許證主又ハ其代理人若クハ代表者カ其氏名若クハ印章ヲ變更シタルトキ又ハ其代理人若クハ代表者ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク特許局ニ届出ツヘシ

氏名又ハ印章變更ノ届書ニハ證明書ヲ添付スヘシ
(同上ヲ以テ本條改正)

第二十三條 特許法第十五條第一項ノ規定ニ依リ届書ニハ説明書及ヒ圖面ヲ添付スヘシ(同上ヲ以テ第二項削除)

第二十四條 何人ト雖モ其利害關係ヲ説明スルトキハ特許ニ關スル事項ノ證明書類雖形若クハ見本ノ閱覽又ハ特許證複本ノ下付ヲ請求スルコトヲ得但特許局長ニ於テ秘密ヲ要スト認ムルモノニ付テハ此限ニ在ラス(同上ヲ以テ本條改正)

第二章 出願

第二十五條 特許法第十四條ノ規定ニ依リ特許願書ニハ最初出願ノ當時差出シタル願書、明細書及ヒ圖面ノ謄本ニシテ其出願ヲ爲シタル國ノ政府ニ於テ認證シタルモノ又ハ其ノ出願ヲ爲シタル國ノ政府ニ於テ發行シタル公報若クハ特許證ニシテ其出願ノ年月日發明ノ明細書及ヒ圖面ヲ掲載シタルモノヲ添付スヘシ(同上)

第二十六條ノ一 特許法第十五條第二項ノ規定ニ依リ特

許ニハ博覽會又ハ共進會ノ物品受領證ヲ添附スヘシ
特許法第十五條第三項ノ規定ニ依ル特許願書ニハ萬國
博覽會ヲ開設シタル國ニ於テ特許出願ノ期間ヲ與ヘタ
ル證明書ヲ添附スヘシ

第二十六條ノ二 特許法第二十六條ノ規定ニ依ル特許法
ノ改訂又ハ分割ノ願書ニハ特許證ヲ添附スヘシ
第六十七條ノ三 第一項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ出願
ニ之ヲ準用ス(三十八年農商務省令第一號ヲ以テ本條追加)

第二十七條 特許ノ出願アリタルトキハ之ニ番號ヲ附シ
帳簿ニ其番號、發明ノ名稱、出願人及ヒ代理人ノ氏名
並ニ願書差出ノ年月日等ヲ記載スヘシ
前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ其番號ヲ出願人ニ通知
スヘシ(同條ヲ以テ本條改正)

第二十七條ノ二 特許以前其ノ出願ノ發明ニ關スル權利
ヲ承繼シタルモノハ願書ノ名義變更ヲ特許局ニ請求ス
ルコトヲ得
前項ニヨリ願書ノ名義變更アリタルトキハ其出願ニ關
シ差出シタル請求書其他ノ書類モ變更アリタルモノト
見做ス(同上ヲ以テ本條追加)

第二十八條 明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 發明ノ名稱

二 發明ノ性質及ヒ目的ノ要領

三 圖面ノ略解

四 發明ノ詳細ナル説明

五 特許ノ請求範圍

他ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ付テノ出願ナ
ルトキハ其發明ト原發明トノ關係ヲ發明ノ詳細ナル説
明中ニ明記スヘシ(同上ヲ以テ本條改正)

第二十九條 特許ノ請求範圍ハ發明ノ要部ニ限り之ヲ記
載スヘシ

第三十條 圖面ニハ發明ノ説明ニ必要ナル部分ヲ示シ特
許證明ヲ利用シテ爲シタル發明ナルトキハ其發明ト原
特許發明トノ關係ヲモ示スヘシ

第三十一條 雛形及ヒ見本ハ堅牢ナル材料ヲ用非曲尺一
尺立方以内ニ於テ之ヲ作ルヘシ但此制限ニ從ヒ難キト
キハ此限ニ在ラス

製品ノ原料カ發明ノ要部ヲ爲ストキハ雛形及ヒ見本ハ
其原料ヲ用非之ヲ作ルヘシ
物質ノ發明ニ付キ見本ヲ提出スルトキハ試驗用ニ供ス
ルニ足ル分量及ヒ其成分ヲ差出スヘシ

第三十二條 雛形又ハ見本カ破損又ハ變化シ易キモノナ
ルトキハ差出人ハ相當ノ手當ヲ爲シテ之ヲ差出スヘシ

第三十三條 雛形又ハ見本ノ滅失、毀損ニ付テハ特許局
ハ其責ニ任セス

第三十四條 特許出願ヲ分割セントスル者ハ其分割部分
ニ對シ新ナル出願ヲ爲シ同時ニ前出願ヲ訂正スヘシ
前項ノ場合ニ於テ新ナル出願ハ最初出願ノ日ニ於テ爲
シタルモノト看做ス(卅八年農商務省令第一號ヲ以テ本條改正)

第三章 審査

第三十五條 (同上ヲ以テ本條削除)

第三十六條 (同上)

第三十七條 審査官カ發明ノ審査ニ關シ出願人ヲシテ其
試驗ヲ爲サシムル必要アリト認ムルトキハ其旨ヲ特許
局長ニ報告スヘシ此場合ニ於テハ特許局長ハ出願人ヲ
シテ試驗ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十八條 査定書ニハ左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署
名スヘシ

- 一 願書ノ番號
- 二 發明ノ名稱
- 三 出願人ノ氏名
- 四 (卅八年農商務省令第一號ヲ以テ本條削除)
- 五 査定ノ主文及ヒ理由
- 六 査定ノ年月日

第三十九條 再審査査定書ニハ前條第一號、第二號、第
五號及ヒ第六號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ

- 一 再審査請求人及ヒ關係人ノ氏名
- 二 不服理由要領

第四十條 左ノ場合ニ於テハ發明牴觸ノ査定ヲ爲スヘカ
ラス

- 一 特許ヲ與フヘカラサル他ノ理由ノ存スルトキ
- 二 出願人ニ於テ其發明ノ完成カ牴觸スヘキ發明ノ完
成後ナルコトヲ自認シタルトキ
- 三 審査官ニ於テ其發明ノ完成カ明カニ牴觸スヘキ發
明ノ完成後ナルコトヲ認ムルトキ (三十八年農商務省令
第一號ヲ以テ本條改正)

第四十一條 觸牴査定書又ハ發明完成ノ前後ニ關スル査
定書ニハ第三十八條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記
載シ審査官之ニ署名スヘシ

- 一 牴觸番號
- 二 牴觸スヘキ發明ノ願書又ハ特許ノ番號
- 三 牴觸スヘキ發明ノ名稱
- 四 牴觸スヘキ發明ノ出願人又ハ特許證主ノ氏名住所
(同上ヲ以テ本條改正)

第四十八條 審判請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 請求人及ヒ被請求人ノ氏名、住所
- 二 審判事件ノ表示
- 三 請求ノ要旨及ヒ理由

第四十九條 答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 審判番號
- 二 請求人及被請求人ノ氏名住所
- 三 審判事件ノ表示
- 四 答辯又ハ辯駁ノ要旨及ヒ理由

第五十條 審判ノ請求アリタルトキハ之ニ番號ヲ附シ帳簿ニ其番號、審判事件當事者及ヒ代理人ノ氏名並ニ請求書差出人ノ年月日等ヲ記載スヘシ

前項ノ請求書ヲ受理シタルトキハ其番號ヲ當事者ニ通知スヘシ(三十八年農商務省令第一號ヲ以テ本條改正)

第五十條ノ二 數人ノ所有ニ係ル一特許ニ付キ特許證主ニ對シ審判ヲ請求セントスルハ其各所有者ヲ以テ被請求人ト爲スヘシ(同上ヲ以テ本條追加)

第五十條ノ三 特許ニ付キ審判ノ請求アリタル後其特許カ他人ニ移轉スルモ審判ニ影響ヲ及ホスコトナシ
前項ノ場合ニ於テ其移轉カ全部ナルトキハ承繼人ハ相

五 牴觸スヘキ發明ノ要領又ハ關係人ノ陳述ノ要領

第四十二條 發明牴觸ノ査定確定シタルトキハ特許局長ハ關係人ニ通知シ三十日以内ニ其發明ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ(同上ヲ以テ本條改正)

第四十三條 始末書ニハ牴觸番號及ヒ發明ノ完成ニ關スル事實ノ詳細ナル説明ヲ記載スヘシ

第四十四條 特許局長カ始末書ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ相手方ニ送付スヘシ

審判官カ答辯ヲ爲サシムル必要アリト認ムルトキハ其旨ヲ特許局長ニ報告スヘシ此場合ニ於テハ特許局長ハ相當ノ期間ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ關係人カ始末書又ハ答辯書ヲ訂正又ハ追加シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 始末書又ハ答辯書ニハ之ヲ記載シタル事實ノ證明ニ必要ナル證據物件ヲ添附スヘシ

第四十六條 特許證主カ指定ノ期間内ニ始末書又ハ答辯書ヲ差出サルトキハ審判官ハ直ニ査定ヲ爲スコトヲ得(卅八年農商務省令第一號ヲ以テ本條改正)

第四十七條 牴觸ノ原因カ消滅シタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ關係人ニ通知スヘシ

第四章 審判

手方ノ同意ヲ得テ被承繼人ニ代リ當事者ト爲リ其移轉カ一部ナルトキハ承繼人ハ相手方ノ同意ヲ得テ被承繼人ト共ニ當事者ト爲リ以後ノ手續ヲ續行スルコトヲ得但承繼カ相續ニ原因スルトキハ其承繼人ハ當然當事者ト爲ルモノトス

前項ノ場合ニ於テハ其承繼及ヒ相手方ノ同意ヲ證スル書面ヲ添ヘ其旨ヲ審判長ニ届出ツヘシ但前項但書ノ場合ニ於テハ相手方ノ同意ヲ證スル書面ノ添附ヲ要セス(同上)

第五十條ノ四 審判長必要ト認ムルトキハ關係人ニ對シ訊問書ヲ發シ相當ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

審判長カ前項ノ答辯書ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ相手方ニ送付スヘシ關係人カ任意ニ差出シタル答辯書、辯駁書其他ノ申立書ニシテ審判長カ必要ト認メタル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ相手方ニ對シ答辯書又ハ意見書ノ提出ヲ命スルコトヲ得(同上)

第五十條ノ五 第四十五條ノ規定ハ審判請求書、答辯書、辯駁書、意見書其他ノ申立及ヒ其訂正又ハ追加ニ之ヲ準用ス(同上)

第五十條ノ六 他人ノ間ニ成立セル審判ノ結果ニ因リ權利上利害關係ヲ有スル者ハ其審判ノ終結スル迄其一方ヲ補助スル爲其審判ニ參加センコトヲ特許局ニ請求スルコトヲ得

參加人ハ其參加ノ時ニ於ケル審判ノ程度ヲ妨ケサル限ハ其主タル請求人又ハ被請求人ノ爲ニ攻撃又ハ防禦ノ方法ヲ施用シ其他審判ニ關スル總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得但其補助スル當事者ノ行爲ト牴觸スルモノハ其效ナシ(同上)

第五十條ノ七 參加ノ請求ヲ爲サントスル者ハ當事者、審判事件利害關係及ヒ參加ノ申立ヲ記載シタル請求書ヲ審判長ニ差出スヘシ

審判長前項ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ當事者ニ送付スヘシ(同上)

第五十條ノ八 請求人又ハ被請求人參加ニ付キ異議ヲ述フルトキハ當事者及ヒ參加請求人ヲ審訊シタル後參加ノ許否ヲ決ス(同上)

第五十條ノ九 特許局ハ當事者ノ雙方又ハ一方ノ同一ナル審判ニ付キ其審判若クハ審決ヲ併合シ又ハ之ヲ分離スルコトヲ得(同上)

第五十一條 審判ノ請求人カ其請求ヲ取消シタルトキハ

特許局長ハ其旨ヲ相手方ニ通知スヘシ
第五十二條 口頭審判ヲ爲ストキハ審判長ハ期日ヲ定メ之ヲ當事者雙方ニ通知スヘシ

第五十三條 口頭審判ニ於テハ日本語ヲ用ユヘシ但日本語ニ通セサル者ハ通事ヲ用エルコトヲ得

第五十四條 口頭審判ニ於テハ調書ヲ作り審判長及ヒ之ヲ作りタル官吏署名捺印スヘシ

第五十五條 審決アリタルトキハ特許局長ハ其審決書ノ謄本ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ

第五十六條 審決書ニハ左ノ事項ヲ記載シ審判官之ニ署名スヘシ
一 審判番號

二 當事者氏名、住所(三十八年農商務省令第一號ヲ以テ本號改正)

三 審判事件ノ表示

四 當事者陳述ノ要領(廿八年農商務省令第一號ヲ以テ本號改正)

五 審決ノ主文及ヒ理由

六 審決ノ年月日

第五十七條 審判官カ査定ヲ不當ナリト審決シタルトキハ特許局長ハ更ニ審査ヲ爲サシムヘシ

第五十八條 審判ニ關スル費用ノ負擔又ハ其費用額ノ決定ヲ受ケントスル者ハ申請書ヲ作り報酬ノ金額及ヒ其計算ニ關スル書類ヲ添附シテ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

前項ノ申請アリタルトキハ特許局長ハ副本ヲ相手方ニ送付シ相當ノ期間ヲ定メテ其意見ヲ聽クコトヲ得

第六十三條 特許局長カ報酬ノ決定ヲ爲シタルトキハ其決定書ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ

第六十四條 審査官カ特許證ノ改訂又分割ヲ許可スヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許原簿ニ登錄シ且其査定書ヲ出願人ニ送附シ改訂特許證又ハ分割特許證ヲ下付スヘシ(廿八年農商務省令第一號ヲ以テ本號改正)

第六十五條 特許證第六十七條ノ三第二項ニ依ル下付及ヒ再下付ノ場合ヲ除クノ外第九號乃至第十三號ノ書式ニ依リ之ヲ作ルヘシ(同上)

第六十六條 相續ニ因リテ特許ヲ取得シタル者ハ其證明書ヲ特許局長ニ差出シ特許證ノ書換ヲ申請スヘシ

第六十七條 特許法第四條第二項ニ定メタル登錄ヲ受ケントスル者ハ請求書ヲ作り登錄原因ヲ證スル書面及ヒ特許證ヲ添附シテ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

但特許ノ共有者又ハ制限附屬受人ニシテ特許證ヲ所持セサル者ノ承繼人ハ其被承繼人ノ下付ヲ受ケタル特許證複本ヲ差出シテ特許證ノ差出ニ代フルコトヲ得

定ヲ受ケントスル者ハ申請書ヲ作り費用計算書其他必要ナル書類ヲ添附シテ之ヲ審判長ニ差出スヘシ
審判長ハ必要ト認ムルトキハ相手方ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第五十九條 前條ノ決定アリタルトキハ特許局長ハ其決定書ノ謄本ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ(三十八年農商務省令第一號ヲ以テ本號改正)

第五章 特許

第六十條 審査官カ特許ヲ與フヘシト査定シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登錄シ且其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第六十一條 特許法第十七條第一項ニ定メタル査定アリタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ相當ノ期間ヲ定メテ原特許證主ノ承諾書ヲ差出サシムヘシ

出願人カ原特許證主ノ承諾書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登錄シ且査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ
原特許證主カ承諾ヲ與ヘタル場合ニ於テ特許局長カ出願人ニ特許ヲ與ヘタルトキハ特許原簿ニ登錄シ且査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ此場合ニ於テハ特許局長ハ其旨ヲ原特許證主ニ通知スヘシ

第六十二條 原特許證主ニ支拂フヘキ報酬ノ決定ヲ受ケ

前項ノ場合ニ於テ登錄原因ヲ證スル書面ノ還付ヲ受ケントスル者ハ前項ノ外登錄原因ヲ證スル書面ノ謄本ニシテ特許證主又ハ請求人ノ署名捺印シテ原本ト相違ナキコトヲ認證シタルモノ一通ヲ差出スヘシ

第一項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許原簿ニ登錄シタル後登錄事項ヲ特許證又ハ特許證複本ニ記載シ之ヲ請求人ニ還付スヘシ(三十八年農商務省令第一號ヲ以テ本號改正)

第六十七條ノ二 特許以前其出願ノ發明ニ關スル權利ヲ承繼シタル者ニシテ其特許以前願書ノ名義變更ノ請求ヲ爲ササリシ者又ハ相續、讓渡及ヒ共有以外ノ原因ニ因リ特許ヲ承繼シタル者ハ特許證ノ名義變更ヲ特許局長ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サントスル者ハ請求書ヲ作り承繼ヲ證スル書面及ヒ特許證ヲ添附シテ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ
但特許以前其出願ノ發明ニ關スル權利ヲ承繼シタル者ノ差出スヘキ承繼ヲ證スル書面ハ確定日附アル私署證書又ハ公正證書ヲ用ユヘシ

前條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ本條ノ請求ニ之ヲ準用ス(同上ヲ以テ本條追加)

第六十七條ノ三 前三條ノ場合ニ於テ特許證ヲ差出スコ

ト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ證明シテ特許證ノ書換、登録又ハ特許證ノ名義變更ノ請求ヲ爲スコトヲ得前項ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由アリト認めルトキハ特許局長ハ新ニ特許證ヲ調製シテ之ヲ請求人ニ下付スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊特許證ハ無効トス此場合ニ於テハ特許局長ハ其旨ヲ官報及ヒ特許公報ヲ以テ公告スヘシ(同上)

第六十七條ノ四 裁判所ニ於テ特許ニ對スル差押假差押又ハ假處分アリタルトキハ當事者ハ特許原簿ニ其登録ヲ請求スルコトヲ得其登録後變更者クハ消滅アリタル場合亦同シ

前項ノ請求ヲ爲サントスル者ハ請求書ニ登録原因ヲ證スル書面及ヒ其謄本ニシテ請求人ノ署名捺印シテ原本ト相違ナキコトヲ認證シタルモノヲ添附シテ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許原簿ニ登録シ登録原因ヲ證スル書面ニ其旨ヲ記入シ之ヲ請求人ニ還付スヘシ(同上)

第六十八條 特許法第十六條ノ規定ニ依リ特許ニ制限ヲ附シ若クハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限

シ又ハ取消ストキハ其理由ヲ出願人又ハ特許主ニ通知スヘシ

第六十九條 特許原簿ニハ左ノ事項ヲ登録スヘシ

- 一 特許ノ番號
- 二 發明ノ名稱
- 三 特許證主ノ氏名、住所、外國人又ハ外國法人ニ在リテハ並ニ其國籍(廿八年農商務省令第一號ヲ以テ本號改正)
- 四 特許ノ讓渡ニ付テハ其事由、制限ヲ附シタルトキハ其制限
- 五 特許ノ共有ニ付テハ其事由、持分ノ定アルトキハ各共有者ノ持分
- 六 特許ノ質入ニ付テハ債權額、其利息、辨濟期、質權ノ順位及ヒ質權設定ノ年月日
- 七 特許證ノ名義變更ニ付テハ其事由
- 八 特許ノ差押、假差押、假處分又ハ其變更者クハ消滅ニ付テハ其事由
- 九 第十七條第一項ニ依リ届出テ又ハ書類ニ記載シタル特許證主ノ代表者
- 十 帝國内ニ住所ヲ有セサル特許證主ノ代理人ノ氏名住所
- 十一 特許ノ制限ニ付テハ其事由及ヒ制限ノ範圍

十二 利用發明特許ニ付テハ原特許ノ番號、原發明ノ名稱及ヒ原特許證主ノ承諾ノ有無

十三 追加特許ニ付テハ原特許ノ番號原發明ノ名稱及ヒ原特許登録ノ年月日

十四 特許法第二十五條ノ規定ニ依ル特許ニ付テハ前特許登録ノ年月日

十五 特許證ノ改訂又ハ分割ニ付テハ其事由

十六 特許ニ係ル審判ノ請求及其確定ニ付テハ其事由及ヒ年月日

十七 特許ノ消滅ニ付テハ其事由及ヒ年月日

十八 特許證ノ再下付ニ付テハ其事由及ヒ年月日

十九 特許證複本ノ下付ニ付テハ其事由、年月日及ヒ請求人ノ氏名住所

二十 第六十七條ノ三第二項ニ依ル特許證ノ下付ニ付テハ其事由及ヒ年月日

二十一 登録ノ年月日(廿八年農商務省令第一號ヲ以テ第七號以下改正)

第七十條 特許原簿ニ登録シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事由カ消滅シタルトキハ其變更又ハ消滅ノ登録ヲ爲スヘシ

第七十一條 特許無効ノ審決カ確定シタルトキ又ハ特許カ消滅シタルトキハ特許證主及ヒ特許證複本ノ所有者

ハ遲滞ナク其特許證及ヒ特許證複本ヲ返納スヘシ(廿八年農商務省令第一號ヲ以テ本條改正)

七十二條 特許料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

七十三條 特許證主カ特許料ヲ納メタルトキハ特許局長ハ領收證ヲ交付スヘシ

七十四條 特許證カ亡失又ハ毀損シタルトキハ特許證主又ハ其承繼人ハ其事由ヲ説明シテ特許證ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得(廿八年農商務省令第一號ヲ以テ本條改正)

第七十四條ノ二 圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ請求ノ際雛形、見本又ハ下圖ヲ特許局ニ差出スヘシ但特許局ニ存スル雛形、見本又ハ圖面ニ依テ調製スルモノニ付テハ此限ニ在ラス(同上ヲ以テ本條追加)

第七十四條ノ三 特許證複本、第六十七條ノ三第二項又ハ第七十四條ニ依リ下付スル特許證ニハ第六十九條第一號乃至第三號及ヒ第六號第十一號、第十三號、第十五號、第十八號、第十九號又ハ第二十號ニ規定シタル事項並ニ特許證ノ種類、特許年限讓渡ニ付シタル制限アルトキハ其制限、共有ノ持分ノ定メアルトキハ其持分ヲ記載シ明細書及ヒ必要ノ圖面ニ添附シ其利用發明特許證ニ係ルトキハ尙原特許ノ番號原發明ノ名稱ヲ記載シ其特許證複本ニ付テハ尙ホ其複本ナルコト及其番

號ヲ記載スヘシ(同上)

附 則

第七十五條 本則ハ特許法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三十八年農商務省令第一號附則

本令ハ明治三十八年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前差出シタル雛形、見本文ハ證據物件ノ還付ヲ

受ケントスルモノハ本令施行後二箇月以内ニ特許局ニ其

旨ヲ申出テ特許局長又ハ審判長ノ指定シタル期間内ニ其

受取ノ手續ヲ爲スヘシ

前項申出又ハ受取ノ手續ヲ怠ルトキハ特許局長ハ適宜

之ヲ處分スヘシ

書式(三十八年農商務省令第一號ヲ以テ書式第一號乃至第三號改正)

第一號

特許願

收入
印紙

一發明ノ名稱

一發明完成ノ年月日

一發明者ノ氏名住所職業(本項ハ出願人カ發明者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

私(私共)儀別紙明細書ニ記載スル物品(方法)ニ付キ特許相受度特許法第十四條又ハ第十五條ニ定メタル出願ナルトキハ別紙「證明書領收證」相添ヒ此段相願候也

年月日

特許局長氏名殿

本籍(國籍)及ヒ住所
職業
氏 名印

第二號

利用發明特許願

收入
印紙

一發明ノ名稱

一發明完成ノ年月日

一發明者ノ氏名住所職業(本項ハ出願人カ發明者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

一原特許ノ番號

一原特許願主ノ氏名

私(私共)儀別紙明細書ニ記載スル物品(方法)ニ付キ特許相受度此段相願候也

本籍(國籍)及ヒ住所
職業
氏 名印

第三號

追加特許願

收入
印紙

一發明ノ名稱

一發明完成ノ年月日

私(私共)儀別紙明細書(圖面)ノ通特許證分割相受度此段相願候也

本籍(國籍)及ヒ住所

職業

氏 名印

第六號

發明品出品届

收入
印紙

一發明ノ名稱

一發明者ノ氏名

私(私共)儀別紙明細書(圖面)ニ記載スル發明品ヲ何年何月何日ヨリ何所ニ於テ政府(何府、何縣)ノ開設スル博覽會(共進會)ニ出品可致候ニ付特許法第十五條ノ規定ニ依リ此段及御届候也

本籍(國籍)及ヒ住所

氏 名印

第七號

登錄請求書

收入
印紙

一特許願主ノ氏名

一特許ノ番號

私(私共)儀何某ヨリ前記特許(持分)ヲ讓受(買取)候ニ付登錄相成度別紙契約書(遺言書)相添ヒ此段及請求候也

一發明者ノ氏名住所職業(本項ハ出願人カ發明者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

本籍(國籍)及ヒ住所
職業

氏 名印

第四號

特許證改訂願

收入
印紙

一發明ノ名稱

一特許ノ番號

私(私共)儀別紙明細書(圖面)ノ通特許證ノ改訂相受度此段相願候也

本籍(國籍)及ヒ住所
職業

氏 名印

年月日

特許局長氏名殿

第五號

特許證分割願

收入
印紙

一發明ノ名稱

一特許ノ番號

第八號

年月日 本籍(國籍)及住所 氏 名印
特許局長氏名殿
登録請求書
収入
印紙

一 特許主ノ氏名
一 特許ノ番號
私(私共)機前記特許ヲ共有ト致候ニ付登録相成度別紙契約書相添此段及請求候也
本籍(國籍)及住所
共有者 氏 名印

第九號

年月日 本籍(國籍)及住所 氏 名印
特許局長氏名殿
特許證
本籍(國籍)及住所 氏 名

第十號

一 發明ノ名稱
前記發明ハ特許局審査官ニ於テ特許ヲ與フヘキモノト査定シタリ仍テ特許原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也
年月日 特許局長 氏 名印
利用發明特許證

第十一號

一 發明ノ名稱
前記發明ハ明治何年何月何日第何號特許發明ヲ利用シタルモノニシテ特許局審査官ニ於テ利用發明ヲ與フヘキモノト査定シタリ仍テ特許原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也
年月日 特許局長 氏 名印
追加特許證
本籍(國籍)及住所 氏 名

第十二號

一 發明ノ名稱
前記發明ハ明治何年何月何日第何號特許發明ヲ利用シタルモノニシテ特許局審査官ニ追加特許ヲ與フヘキモノト査定シタリ仍テ特許原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也
年月日 特許局長 氏 名印
改訂特許證
本籍(國籍)及住所 氏 名

第十三號

年月日 特許局長 氏 名印
第何號(原特許ノ番號)ノ一、二、三、
分割特許證
一 發明ノ名稱
前記發明ハ明治何年何月何日第何號特許證ノ分割ニ係ルモノニシテ特許局審査官ニ於テ分割特許可スヘキモノト査定シタリ仍テ茲ニ本證ヲ下付スルモノ
年月日 特許局長 氏 名印

● 意匠法

(明治三十二年三月 法律第三十七號)

第一條 工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀、模様、色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタル者若ハ其ノ承繼人ハ此ノ法律ニ依リ意匠ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得
第二條 左ニ掲クル意匠ハ登録ヲ受クルコトヲ得ス
一 菊花御紋章ト同一若ハ類似ノ形狀、模様ヲ有スルモノ
二 秩序又ハ風俗ヲ案ルノ虞アルモノ
三 意匠登録出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用非ラレタルモノ若ハ之ト類似スルモノ但シ自己ノ登録意匠

ト類似スルモノハ此ノ限ニアラス

第三條 意匠専用ノ年限ハ十年トシ原簿登録ノ日ヨリ起算ス但シ類似意匠ノ専用年限ハ原意匠ノ有效年限ニ伴フ
第四條 意匠ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル類別ニ從ヒ出願人ノ指定シタル物品ニ限ル
第五條 他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ニ係ル登録出願ノ權利ハ其ノ委託者若ハ雇主ニ屬ス但シ別ニ契約アル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス
第六條 意匠専用權ハ制服ヲ付シ若ハ付セスシテ讓渡シ若ハ共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登録ヲ受クルニ非ザルハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第七條 類似意匠ヲ所有スル者ハ其ノ類似意匠ト共ニ讓渡シ共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スニ非ザレハ前項ノ登録ヲ受クルコトヲ得ス
第七條 特許局ノ官吏ハ在職中意匠専用權ヲ有スルコトヲ得ス但シ相續ニ因リ之ヲ取得シ又ハ在職前ヨリ之ヲ有スルトキハ此ノ限ニアラス
第八條 意匠ノ登録ヲ受ケントスル者ハ一意匠毎ニ其ノ意匠ヲ應用スヘキ物品ヲ明記シ雛形、見本若ハ圖面ヲ

添へ特許局長ニ出願スヘシ
特許局長ハ出願者ニ對シ雛形、見本、圖面、説明書ノ
提出ヲ命スルコトヲ得

第九條 二人以上同一又ハ相類似スル意匠ノ登録ヲ出願
スル者アルトキハ出願ノ先ナルモノヲ登録ス其ノ同時
ノ出願ニ係ルモノハ共ニ之ヲ登録セス但出願者共有ノ
目的ヲ以テ連名登録ノ申出ヲ爲シタルトキ又ハ出願者
一人ト爲リタルトキハ此ノ限ニアラス

第十條 工業所有權保護同盟條約國ニ於テ意匠登録ヲ出
願シタル者四箇月以内ニ同一意匠ニ付登録ヲ出願スル
トキハ其ノ出願ハ最初出願ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルト
同一ノ效力ヲ有ス

第十一條 登録ヲ受ケタル意匠ニシテ第一條第二條第五
條又ハ第九條ニ違反シタルモノナルトキハ其ノ登録ヲ
無効トス

第十二條 登録ヲ受ケタル意匠ニシテ左ノ場合ニ該當ス
ルモノアルトキハ特許局長ニ於テ其ノ登録ヲ取消スコ
トヲ得
一 意匠登録證主意匠料納付期限後六十日ヲ經過シ仍
其ノ納付ヲ怠リタルトキ

二 意匠登録證主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第二

十二條ニ依ル特許法第六條ノ代理人ヲ置カサルト
キ

第十三條 意匠登録證主ハ意匠料トシテ各意匠ニ付第一
年ヨリ第三年マテハ毎年金三圓第四年ヨリ第六年マテ
ハ毎年金五圓第七年ヨリ第十年マテハ毎年金七圓ヲ納
ムヘシ
類似意匠ノ登録ヲ受ケタルトキハ各類似意匠ニ付一時
ニ金三圓ヲ納ムヘシ

第十四條 意匠料ハ毎年一年分ヲ登録證ノ日付ニ應當ス
ル日ニ於テ前納スヘシ第一ニ係ルモノ及第二項ニ意匠
料登録査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ
前納シタル意匠料ハ之ヲ還付セス但シ一時ニ二年分以
上ノ意匠料ヲ納付シタル場合ニ於テハ未タ其ノ納付期
限ニ到ラサルモノニ限り之ヲ還付ス

第十五條 意匠登録證主ハ其ノ意匠ヲ應用シタル物品ニ
意匠登録ノ標記ヲ付スヘシ

第十六條 證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ囑託ヲ受ケ
タル裁判所ニ對シ偽證又ハ詐偽ノ鑑定ヲ爲シタルトキ
ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以
下ノ罰金ヲ附加ス
賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シ偽證又ハ詐偽ノ鑑

定ヲ爲サシメタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定若ハ審決ニ至
ラサル前特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ自首シタ
ルトキハ本刑ヲ免ス

第十七條 他人ノ登録意匠ヲ模擬シタル者又ハ情ヲ知り
テ其ノ模擬シタル物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一
年以下ノ重禁錮又ハ十日以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
他人ノ登録意匠ヲ侵害スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ
外國ヨリ輸入シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ物品ヲ販賣
シタル者ハ罰前項ニ同シ

第十八條 前條ノ場合ニ於テ沒收シタル物品ハ之ヲ意匠
登録證主ニ給付ス

第十九條 詐偽ノ所爲ヲ以テ意匠ノ登録ヲ受ケタル者又
ハ登録ヲ受ケタル意匠ヲ應用シタル物品ニ登録標記ヲ
付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知り
テ其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重
禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
登録ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ヲ販賣スル爲廣
告、看板、引札等ニ於テ其ノ意匠ノ登録ヲ受ケタルニ
紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十條 第十七條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪

ヲ論ス

第二十一條 意匠登録證主登録標記ヲ付スルコトヲ怠リ
タルトキハ其ノ登録意匠タルコトヲ知りテ其ノ權利ヲ
侵害シタル者ニ對シテノミ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得
第二十二條 特許法第六條乃至第十條第十二條第十三條
第十五條第二十一條第二十三條第二十八條乃至第三十
七條第四十三條及第五十一條ノ規定ハ意匠ニ關シテ之
ヲ準用ス

附 則

第二十三條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ
施行ス

第二十四條 明治二十一年勅令第八十五號意匠條例ハ此
ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

意匠條例ニ依テ受ケタル登録ハ其ノ年限間此ノ法律ニ
依テ受ケタル登録ト同一ノ效アルモノトス
意匠ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マ
テニ處分ヲ終ラサルモノハ此ノ法律ニ依リタル出願又
ハ請求ト看做シ處分スヘシ

●意匠法施行細則

(明治三十二年六月)
(農商務省令第十四號)

第一條 意匠登録願書ハ第七條ニ定メタル類別毎ニ之ヲ

作ルヘシ

意匠法登録願書ニ添附スヘキ圖面ハ二通ヲ添附スヘシ
雛形又ハ見本ヲ差出ストキハ圖面二通ヲ添附スヘシ但
雛形又ハ見本カ貼附シ得ヘキモノナルトキハ紙面ノ上
部曲尺六分下部四分左二分右一寸四分ヲ餘シ曲尺九
寸七分以内横六寸以内ノ面内ニ之ヲ貼附シテ差出人
ニ署名捺印シタルモノニ箇ヲ差出シ圖面ノ差出ヲ省略
スルコトヲ得(三十八年農商務省令第二號ヲ以テ第三項追加)

第二條 雛形及ヒ見本ハ曲尺二尺立方以内ニ於テ之ヲ作
ルヘシ但此制限ニ從ヒ難キトキハ此限ニ在ラス

第三條 圖面ニハ強靱ナル白紙若クハ覆寫布ヲ用ヒ上部
曲尺六分下部四分左二分右一寸四分ヲ餘シ曲尺八寸
横四寸八分ノ面内ニ變通シ説明ニ必要ナル部分ヲ示シ
意匠ノ名稱ヲ記載シ差出人ニ署名捺印スヘシ
寫眞ヲ以テ圖面ニ代用スルトキハ紙ヲ附セス前項ノ
例ニ依リ之ヲ作ルヘシ(三十八年農商務省令第二號ヲ以テ本條
改正)

第四條 (同上ヲ以テ本條削除)

第五條 意匠登録證ハ第八條ニ基キ特許法施行細則第六
十七條ノ第三項ニ依ル下付及再下付ノ場合ヲ除ク外
第五號又ハ第六號書式ニ依リ之ヲ作り圖面、雛形、見

本又ハ寫眞ヲ添附スベシ(同上ヲ以テ本條改正)

第六條 意匠原簿ニハ左ノ事項ヲ登録スヘシ

一 登録ノ番號

二 意匠ノ名稱

三 類別及ヒ物品

四 登録證主ノ氏名、住所、外國人又ハ外國法人ニ在
リテハ其國籍(三十八年農商務省令第二號ヲ以テ本條
改正)

五 類似意匠ニ付テハ原意匠ノ登録番號及ヒ其登録ノ
年月日

六 意匠專用權ノ讓渡ニ付テハ其事由、制限ヲ附シタ
ルトキハ其制限

七 意匠專用權ノ共有ニ付テハ其事由、持分ノ定アル
トキハ各共有者ノ持分

八 意匠專用權ノ質入ニ付テハ債權額、其利息、辨濟
期、質權ノ順位及ヒ質權設定ノ年月日

九 登録證ノ名義變更ニ付テハ其事由

十 意匠專用權ノ差押、假差押、假處分又ハ其變更若
クハ消滅ニ付テハ其事由

十一 第八條ニ基キ特許法施行細則第十七條第一項ニ
依リ届出テ又ハ書類ニ記載シタル登録證主ノ代表

者

十二 帝國内ニ住所ヲ有セサル登録證主ノ代理人ノ氏
名住所

十三 意匠專用權ニ係ル審判ノ請求及ヒ其確定ニ付テ
ハ其事由及ヒ年月日

十四 意匠專用權ノ消滅ニ付テハ其事由及ヒ年月日

十五 登録證ノ再下付ニ付テハ其事由及ヒ年月日

十六 登録證複本ノ下付ニ付テハ其事由年月日及ヒ請
求人ノ氏名住所

十七 第八條ニ基キ特許法施行細則第六十七條ノ第三
二項ニ依ル登録證ノ下付ニ付テハ其事由及ヒ年月
日

十八 登録ノ年月日(卅八年農商務省令第二號ヲ以テ第九號以下
改正)

第六條ノ二 意匠登録證複本、第八條ニ基キ特許法施行
細則第六十七條ノ第三項又ハ第七十四條ニ依リ下付
スル意匠登録證ニハ第六條第一號乃至第四號及ヒ第五
號、第八號、第十五號、第十六號又ハ第十七號ニ規定シ
タル事項並ニ意匠登録證ノ種類、意匠專用年限、讓渡
ニ附シタル制限アルトキハ其制限、共有者ノ持分ノ定
アルトキハ其持分ヲ記載シ圖面、雛形、見本又ハ寫眞

ヲ添附シ其意匠登録證複本ニ付テハ其複本ナルコト及
ヒ其商號ヲ記載スベシ(同上ヲ以テ本條追加)

第七條 出願人ハ左ノ類別ニ從ヒ意匠ヲ應用セントスル
物品ヲ指定スヘシ

第一類 被服、

衣、裳、外套、襯衣、帶、襟、領卷、肩掛等

第二類 頭飾、服飾

櫛、簪、根掛、胸飾、領飾、腕環、指環、釦鈕等

第三類 時計、附屬品

袂時計、澄時計、掛時計、鎖、下ケ物等

第四類 傘、杖、鞭

第五類 携帶品

紙入、貨幣入、名刺入、煙草入、煙管、煙管筒、手
提鞆等

第六類 家具、室内裝飾品

棚、箆笥、机、椅子、卓子、寢臺、額、屏風、衝立、

窓掛、卓被等

第七類 敷物

段通、油團、花筵等

第八類 暖室具、附屬品

暖爐、火鉢、煙草盆、炭取、石炭入、火箸等

- 第九類 燈器
 - 燭臺、手燭、行燈、燈籠、洋燈、瓦斯燈、電燈等
- 第十類 建築物ノ附屬品
 - 障子、戸、扉、棚、欄間、欄干、引手、釘隠等
- 第十一類 織物及ヒ他類ニ屬セサル織物製品
 - 絹、綿、麻、毛等各種ノ織物、服紗、手巾等
- 第十二類 他類ニ屬セサル編物、組物
 - 「レース」、打紐、飾縁等
- 第十三類 他類ニ屬セサル漆器（假漆塗、油漆塗等モ之ニ屬ス）
- 第十四類 他類ニ屬セサル陶器（煉瓦、瓦等モ之ニ屬ス）
- 第十五類 他類ニ屬セサル玻璃
- 第十六類 他類ニ屬セサル七寶
- 第十七類 他類ニ屬セサル金屬製品
- 第十八類 他類ニ屬セサル石材製品
- 第十九類 他類ニ屬セル木、竹、牙、角類製品
- 第二十類 紙及ヒ他類ニ屬セル紙製品
 - 紋紙、擬草紙、襖紙、壁紙、紙、色紙、短冊、紙箋、書簡筒等
- 第二十一類 皮革及ヒ他類ニ屬セサル皮革製品

- 第二十二類 冠物
 - 帽子、頭巾、笠等
- 第二十三類 履物、附屬品
 - 下駄、草履、靴、鼻緒、爪掛等
- 第二十四類 扇及ヒ團扇
- 第二十五類 飲食器
 - 膳、椀、茶碗、皿、鉢、杯、德利、菓子器、鐵瓶、土瓶、茶托、杯臺、紅茶具、珈琲具、匙、箸、箸箱、重箱等
- 第二十六類 文房具
 - 硯、筆筒、筆架、硯屏、文鎮、墨臺、水滴、印材、肉池、文臺、硯箱、筆、墨、「インキ」壺、「ペン」軸等
- 第二十七類 樂器、玩具及ヒ遊戯具
- 第二十八類 菓子及ヒ其他ノ食品
- 第二十九類 他類ニ屬セサル物品
- 第八條 特許法施行細則第一條乃至第二十六條、第二十七條、第二十七條ノ二、第三十二條乃至第三十四條、第三十八條、第三十九條、第四十八條乃至第六十條、第六十六條乃至第六十七條ノ四、第七十條乃至第七十四條ノ二ノ規定ハ意匠ニ關シテ之ヲ準用ス（三十八年農商務省令第二號ヲ以テ本條改正）

附 則

第九條 本則ハ意匠施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三十八年農商務省第二號附則

本令ハ明治三十八年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前差出シタル雖形見本又ハ證據物件ノ還付ヲ受ケントスル者ハ本令施行後二箇月以内ニ特許局ニ其旨ヲ申出テ特許局長又ハ審判長ノ指定シタル期間内ニ其受取ノ手續ヲ爲スヘシ
 前項ノ申出又ハ受取ノ手續ヲ怠ルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ爲スヘシ

書式（三十八年農商務省令第二號ヲ以テ書式第一（號第二號改正）
 第一號

意匠登錄願

收入
印紙

- 一意匠ノ名稱
- 一登錄ノ請求範圍
- 一意匠ヲ應用スヘキ物品
- 一案出者ノ氏名住所職業（本項ハ出願人カ案出者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス）
- 私（私共）儀前記意匠ニ付キ登錄相受度（特許法施行細則第一號書式ニ準ス）此段相願候也

本籍（國籍）及ヒ住所
職業

年月日

特許局長氏名殿

氏 名印

第二號

類似意匠登錄願

收入
印紙

- 一意匠ノ名稱
- 一登錄ノ請求範圍
- 一意匠ヲ應用スヘキ物品
- 一案出者ノ氏名住所職業（本項ハ出願人カ案出者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス）
- 一原意匠ノ番號
- 私（私共）儀前記意匠ニ付キ登錄相受度此段相願候也

本籍（國籍）及ヒ住所
職業

年月日

特許局長氏名殿

氏 名印

第三號

收入
印紙

- 登錄請求書
- 一登錄願主ノ氏名
- 一登錄ノ番號
- 私（私共）儀何某ヨリ前記意匠並用權（持分）ヲ讓受ケ（買取）候ニ付登錄相成度別紙契約書（遺言書）相添此段及請求候也

第四號

登錄請求書

年月日

特許局長氏名殿

本籍(國籍)及住居所
氏 名 印

収入
印紙

一 登録主ノ氏名

一 登録ノ番號

私(私共)儀前記意匠專用權ヲ共有ト致候ニ付登録相成度別紙契約書相
添此段及請求候也

年月日

特許局長氏名殿

本籍(國籍)及住居所
共有者 氏 名 印

第五號

第何號

意匠登録證

一 意匠ノ名稱

一 意匠ノ應用スヘキ物品

前記意匠ハ特許局審査官ニ於テ登録ヲ與フヘキモノト査定シタリ仍テ
意匠原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年月日

特許局長 氏

名 印

第六號

第何號

類似意匠登録證

一 意匠ノ名稱

一 意匠ノ應用スヘキ物品

前記意匠ハ明治何年何月何日付第何號登録意匠ト類似スルモノニシテ
特許局審査官ニ於テ登録スヘキモノト査定シタリ仍テ茲ニ本證ヲ下付
スルモノ也

年月日

特許局長 氏

名 印

本籍(國籍)及住居所
氏 名

商標法

(明治三十二年三月
法律第三十八號)

第一條 自己ノ商品ヲ表彰スル爲商標ヲ專用セントスル
者ハ此ノ法律ニ依リ其ノ登録ヲ受クヘシ

第二條 文字、圖形又ハ記號ニシテ左ノ場合ニ該當スル
モノハ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得ス

一 菊花御紋章ト同一若ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ
二 國旗、軍旗、勳章又ハ外國ノ國旗ト同一若ハ類似
ノモノ

三 秩序又ハ風俗ヲ紊リ若ハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アル
モノ

四 他人ノ登録商標又ハ其ノ登録失效後一年ヲ經過セ
サルモノト同一若ハ類似ニシテ同商品ニ使用セン
トスルモノ

五 此ノ法律施行前ヨリ他ニ使用者アル商標ト同一若

ハ類似ノモノ

六 商品ノ普通名稱、產地ヲ表彰スルモノ又ハ其ノ品
位、品質、形狀ヲ商業上慣用ノ文字圖形若ハ記號

ニ依リ表彰スルモノ及普通ニ使用セラルル氏名、
商號、會社名若ハ組合名ヲ普通ノ書體ニ依リ記載
スルモノ

七 欄、地紋其ノ他特別著明ノ外觀ナキモノ

第三條 商標專用ノ年限ハ二十年トシ原籍登録ノ日ヨリ
起算ス

外國ノ登録商標ニシテ帝國ニ於テ登録ヲ受ケタルモノ
ノ専用年限ハ原登録ノ有效年限ニ從フ但シ二十年ヲ超
ユルコトヲ得ス

第四條 商標専用年限満了ノ後其ノ商標ヲ續用セントス
ル者ハ更ニ其ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第五條 商標ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル類別ニ從ヒ出
願人ノ指定シタル商品ニ限ル

第六條 登録商標主其ノ營業ヲ讓渡シ又ハ他人ト其ノ營
業ヲ共ニスル場合ニ限リ其ノ商標ヲ讓渡シ若ハ共有ト
爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登
録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコト
ヲ得ス

登録商標主同商品ニ付類似ノ商標ヲ有スルトキハ共ニ
讓渡シ若ハ共有ト爲シ又ハ類似商標ノ使用ヲ廢止スル
ニ非サレハ前項ノ登録ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 商標ノ登録ヲ受ケントスル者ハ一商標毎ニ其ノ
商標ヲ付スヘキ商品ヲ明記シ見本ヲ添ヘ特許局長ニ出
願スヘシ

第八條 二人以上又ハ相類似スル商標ヲ同商品ニ使用セ
ントシテ登録ヲ出願スル者アルトキハ出願ノ先ナルモ
ノヲ登録シ同時ニ出願シタルモノハ共ニ之ヲ登録セス
但シ出願者一人トナリタルトキハ此ノ限ニアラス

第九條 工業所有權保護同盟條約國ニ於テ商標登録ヲ出
願シタル者四箇月以内ニ同一商標ニ付登録ヲ出願スル
トキハ其ノ出願ハ最初出願ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルト
同一ノ效力ヲ有ス

第十條 登録ヲ受ケタル商標ニシテ第二條又ハ第八條ニ
違反シタルモノナルトキハ其ノ登録ヲ無効トス但シ第
二條第四號若ハ第五號ニ該當シ又ハ第八條ニ違ヒ登録
ヲ受ケタルモノニシテ登録後三年ヲ經タルトキハ此限
ニアラス

第十一條 登録ヲ受ケタル商標ニシテ左ノ場合ニ該當ス
ルモノアルトキハ特許局長ニ於テ其ノ登録ヲ取消スコ

トヲ得

一 登録商標主登録後其ノ商標ヲ使用スル商品ノ產地、品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ

二 登録商標主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第二十条ニ依ル特許法第六條ノ代理人ヲ置カサルトキ

第十二條 商標專用權ハ登録商標主其ノ商標ヲ使用スル營業廢止ニ因リ消滅ス

第十三條 商標ノ登録ヲ受ケタル者ハ一商標ニ付商品一類毎ニ商標料金三十圓ヲ納ムヘシ續用ノ登録ニ付テモ亦同シ

第十四條 特許局ハ商標公報ヲ發行シ商標登録ニ關スル必要事項ヲ公示スヘシ

第十五條 證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ對シ偽證又ハ詐偽ノ鑑定ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シ偽證又ハ詐偽ノ鑑定ヲ爲サシメタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定若ハ審決ニ至ラサル前特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第十六條 他人ノ登録商標ナルコトヲ知り其ノ承諾ヲ經スシテ之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ製造シ之ヲ交付若ハ販賣シタル者又ハ他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同商品ニ使用シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ登録商標ヲ有スル容器、包裝等ナルコトヲ知り之ヲ同商品ニ使用シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者又ハ他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ其ノ商品販賣ノ廣告、看板、引札等ニ使用シタル者ハ罰前項ニ同シ

第十七條 詐偽ノ所爲ヲ以テ商標ノ登録ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル商標ニ登録標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ四十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

登録ヲ受ケスシテ登録標記又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ付シタル商標ヲ其ノ商品販賣ノ廣告看板引札等ニ使用シタル者ハ罰前項ニ同シ

第十八條 第十六條及第十七條ノ場合ニ於テハ商標及商標ヲ表示スヘキ原具ヲ沒收ス其ノ商標トスヘカラサル

商品、容器、包裝等ハ之ヲ分離毀壞セシム

第十九條 第十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十條 特許法第六條乃至第十條第十二條第十三條第十五條第二十一條第二十三條第二十八條乃至第三十七條第四十三條及第五十一條ノ規定ハ商標ニ關シテ之ヲ準用ス

第二十一條 主務官廳ニ於テ認可シタル同業者ノ組合ニシテ標章ヲ商標トシテ專用セントスルトキハ此ノ法律ニ依リ登録ヲ受ケルコトヲ得

前項ニ依リ登録ヲ受ケタル標章ハ登録商標ニ準ス

第二十二條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條 明治二十一年勅令第八十六號商標條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

商標條例ニ依テ受ケタル商標ハ此ノ法律ニ依テ受ケタル商標ト同一ノ效アルモノトス

商標ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マデニ處分ヲ終ラサルモノハ此ノ法律ニ依リタル出願又ハ請求ト看做シ處分スヘシ

第二十四條 明治二十一年勅令第八十六號商標條例第二條第三號ニ該當シ又ハ同第八條ニ違ヒ登録ヲ受ケタル商標ニシテ同第十條ニ依リ無効タルヘキモノニ對シテハ此ノ法律施行後二年ヲ經過スルトキハ其ノ登録無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

●商標法施行細則

(明治三十二年六月) 農商務省令第十五號

第一條 商標登録願書ハ第十五條ニ定メタル類別毎ニ之ヲ作ルヘシ

第二條 帝國ニ於テ登録ヲ受ケントスル商標カ既ニ外國ニ於テ登録ヲ受ケタルモノナルトキハ其登録願書ニ原登録證及ヒ明細書ノ謄本ニシテ其國ノ政府ニ於テ認證シタルモノヲ添附スヘシ

第三條 商標ヲ續用セントスルトキハ其專用年限滿了ノ日ヨリ三箇月以前ニ其ノ願書ヲ特許局ニ差出スヘシ

前項ノ期限後ト雖モ専用年限滿了以前ニ在リテハ別ニ手数料ヲ納付シ前項ノ願書ノ受理ヲ請求スルコトヲ得

願書ニハ登録證ヲ添附スヘシ但シ亡失毀損其他ノ事由ニ因リ添附シ能ハサルトキハ其旨ヲ證明スヘシ

外國ニ於テ商標續用ノ許可ヲ得タル後帝國ニ於テ其商標ヲ續用セントスルトキハ其國ニ於テ許可ヲ得タル旨

ヲ證明スル書面ヲ願書ニ添附スヘシ (三十八年農商務省令第二號ヲ以テ本條改正)

第四條 共有商標ノ登録ヲ受ケントスルトキハ登録願書ニ營業ヲ共ニスル事實ヲ證明スル書面ヲ添附スヘシ
第五條 商標ノ見本ハ強靱ナル紙料ヲ以テ之ヲ作ルヘシ見本ハ五通之ヲ差出スヘシ但特許局長ハ必要ト認ムルトキハ更ニ數通ノ提出ヲ命スルコトヲ得 (三十八年農商務省令第三號ヲ以テ本條改正)

第六條 (同上ヲ以テ本條削除)

第七條 審査官カ商標ヲ登録スヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ
出願人カ査定書ノ送付ヲ受ケタルトキハ商標料ヲ納付シ且同時ニ商標ノ印刷一箇ヲ差出スヘシ

第八條 商標ノ印刷ハ木、亜鉛其他活版ニ適スルモノヲ用非長サ及ヒ幅各曲尺三寸三分(十「サンチメートル」)以內、厚サ七分九厘二毛(二「サンチメートル」)四「トシ」文字ヨリ成ル商標ノ印刷ノ長サ及ヒ幅ハ各二寸一分四厘五毛(六「サンチメートル」)五)以內トスヘシ印刷ハ一箇ノ直角四邊形ノ版面ニ彫刻シテ之ヲ作ルヘシ (三十八年農商務省令第三號ヲ以テ本條改正)

第九條 特許法施行細則第十六條、第三十二條及ヒ第三

十三條ノ規定ハ商標ノ印刷ニ之ヲ準用ス (同上)

第十條 出願人カ第七條第二項ニ定メタル手續ヲ爲シタルトキハ特許局長ハ商標原簿ニ登録スヘシ
第十一條 商標登録證ハ第十七條ニ基キ特許法施行細則第六十七條ノ三第二項ニ依ル下付又ハ再下付ノ場合ヲ除クノ外第六號乃至第八號書式ニ依リ之ヲ作ルヘシ但シ商標ノ續用登録ノ場合ニ於テハ原登録證ニ其旨ヲ附記シテ之ヲ下付スルコトヲ得 (三十八年農商務省令第三號ヲ以テ本條改正)

第十二條 商標ノ讓渡又ハ共有ノ登録ヲ受ケントスルトキハ其請求書ニ營業ヲ讓受ケ又ハ營業ヲ共ニスル事實ヲ證明スル書面ヲ添附スヘシ
第十三條 商標料ハ登録許可ノ査定書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ之ヲ納ムヘシ

第十四條 商標原簿ニハ左ノ事項ヲ登録スヘシ
一 登録ノ番號
二 類別及ヒ商品
三 登録商標主ノ氏名、住所、外國人又ハ外國法人ニ在リテハ並ニ其國籍、同業組合ニ在リテハ其名稱事務所及ヒ其代表者ノ氏名 (三十八年農商務省令第三號ニ本項改正)

十七 登録ノ年月日 (三十八年農商務省令第三號ヲ以テ第六條以下改正)

第十四條ノ二 商標登録證複本、第十七條ニ基キ特許法施行細則第六十七條ノ三第二項又ハ第七十四條ニ依リ下付スル商標登録證ニハ商標見本ヲ貼附シ第十四條第一號乃至第三號及ヒ第六號、第十四號乃至第十六號ニ規定シタル事項並ニ商標登録證ノ種類、商標專用年限ヲ記載シ其商標登録證複本ニ付テハ其複本ナルコト及ヒ其番號ヲ記載スヘシ (同上ヲ以テ本條追加)

第十五條 出願人ハ左ノ類別ニ從ヒ商標ヲ使用セントスル商品ヲ指定スヘシ
第一類 化學品、藥劑及ヒ醫療補助品
酸類、鹽類、亞爾加里、漂白粉、護膜、膠、燐、酒精、偏里設林、規那鹽、莫兒比涅、丁幾劑、舍利別、煎劑、水劑、浸劑、丸藥、膏藥、散藥、錠藥、煉藥、生藥、藥油、石灰、硫黃、礦水、麝香、打粉、食鹽、艾、防腐劑、防臭劑、驅蟲劑、糊帶、綿紗、綿散絲、脫脂綿、海綿等 (三十八年農商務省令第三號ヲ以テ第一類中改正)

四 外國ノ登録商標ニ付テハ原登録ノ有效年限
五 商標ノ續用ニ付テハ其事由
六 類似商標ニ付テハ原商標ノ登録番號
七 商標專用權ノ讓渡又ハ共有ニ付テハ其事由
八 登録證ノ名義變更ニ付テハ其事由
九 商標專用權ノ差押、假差押、假處分又ハ其變更若クハ消滅ニ付テハ其事由
十 第十七條ニ基キ特許法施行細則第十七條第一項ニ依リ届出テ又ハ書類ニ記載シタル登録商標主ノ代表者
十一 帝國内ニ住所ヲ有セサル登録商標主ノ代理人ノ氏名、住所
十二 商標專用權ニ係ル審判ノ請求及ヒ其確定ニ付テハ其事由及ヒ年月日
十三 商標專用權ノ消滅ニ付テハ其ノ事由及ヒ年月日
十四 登録證ノ再下付ニ付テハ其事由及ヒ年月日
十五 登録證複本ノ下付ニ付テハ其事由、年月日及ヒ請求人ノ氏名住所
十六 第十七條ニ基キ特許法施行細則第六十七條ノ三第二項ニ依ル登録證ノ下付ニ付テハ其事由及ヒ年月日

鉛白、胡粉、金銀粉、藤黃、染齒料、綠礬、明礬等
(同上ヲ以テ第二類中改正)

第三類 塗料

漆、假漆、油漆、澁、靴墨、靴油、防鏽料、防水料等

第四類 香料、燻料及ヒ他類ニ屬セサル化粧品香水、香油、髮膏、香袋、線香、炷香、白粉、化粧下等
(三十八年農商務省令第三十號ヲ以テ第四類中改正)

第五類 金屬及其半加工品

銑鐵、鍛鐵、銅鐵、條鐵、鐵葉、鐵板、鐵線、銅板、銅線、鉛、鉛板、亞鉛、亞鉛板、錫、合金等

第六類 金屬製品

鑄物、打物、彫鏤品、編物等

第七類 利器及ヒ尖刃器

鎌、鋤、鑿、錐、鋸、斧、鉞、小刀、剃刀、庖丁、鉋、鋸、針、釘、鷲嘴等

第八類 貴金屬、其模造物及ヒ其製品並ニ彫鏤品(アルミニウム、金、「ニッケル」銀及ヒ「ブリタニヤメタル」モ之ニ屬ス)
黃金、銀、四分之一、紫銅、其他貴金屬ノ合金、鍍品、「モル」等

第九類 寶石類、其模造物及ヒ其製品並ニ彫鏤品

金剛石、珊瑚珠、眞珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉等
第十類 礦物類

第十一類 石材、其模造物及ヒ其製品並ニ彫鏤品、版石、大理石、砥石、石器等

第十二類 漆喰及ヒ土砂類

漆喰、「セメント」、石膏、土瀝青、土砂等

第十三類 陶磁器

陶器、磁器、土器、瓦、煉瓦等

第十四類 七寶燒

第十五類 玻璃及ヒ其製品(琺瑯質品モ之ニ屬ス)
玻璃板、玻璃管、玻璃壺、玻璃球等

第十六類 機械類(機械ノ各部モ之ニ屬ス)
織機、紡績機、裁縫機、製糖機、印刷機、其他諸機械、汽機、汽罐等

第十七類 農工器具

犁、鋤、鍬、稻拔、唐箕、耙、釘接、鐵槌、繩墨等

第十八類 理化學、醫術、測量及ヒ教育用器械、器具、(眼鏡及ヒ算數器類モ之ニ屬ス)

第十九類 度量衡

第二十類 運搬用機械并ニ器具類機械及ヒ器具ノ各部

モ之ニ屬ス

荷車、馬車、人力車、自轉車、小兒用車、船舶、鐵道車輛、車輪等 (卅八年農商務省令第三號ヲ以テ第二十類中改正)

第二十一類 樂器

第二十二類 時計及ヒ其附屬品

第二十三類 銃砲、彈丸及ヒ爆發物類

大砲、小銃、獵銃、短銃、火藥、綿火藥、「ダイナマイト」、雷管、煙火等

第二十四類 蠶種、天蠶種及ヒ繭

第二十五類 眞綿、木綿綿、麻、苧、羽毛類及其粗製品

第二十六類 生絲、絹絲及ヒ天蠶絲(琴絲、金絲、銀絲モ之ニ屬ス)

第二十七類 綿絲

第二十八類 毛絲

第二十九類 麻絲及ヒ第二十六類乃至第二十八類ニ屬セサル絲類

第三十類 絹織物

第三十一類 木綿織

第三十二類 毛織物

第三十三類 麻織物

第三十四類 第三十類乃至第三十三類ニ屬セサル織物

第三十五類 絲類ノ編物、組物及「レース」類(各種ノ紐類モ之ニ屬ス)

第三十六類 被服類

衣服、冠、帽子、「カラ」、「カフス」、襟飾、襯衣、「ツボン」下、手袋、足袋、目利安等

第三十七類 清酒

第三十八類 砂糖、蜜類

砂糖、氷砂糖、糖蜜、蜂蜜等

第三十九類 菓子及ヒ麵類

干菓子、蒸菓子、掛ケ物、西洋菓子、餡、砂糖漬等

第四十類 茶、珈琲及ヒ「チョコレート」類

第四十一類 煙草類

第四十二類 穀、菜、及ヒ菓物類

五穀、蔬菜、草、菓實、種子、根球、麴種、「モヤシ」等

第四十三類 挽粉、澱粉及ヒ其製品

澱粉、葛粉、山慈姑粉、麩類、湯葉、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻等

第四十四類 味噌、醬物及ヒ漬物類

第四十五類 他類ニ屬セサル食料品及ヒ加味品肉類、
越幾斯類、卵、鱈節、鰻、乾鮑、海苔、昆布、荒布、
佃煮、罐詰、雲丹、芥子、胡椒等
第四十六類 牛乳及ヒ其製品
牛乳、凝乳、乳油、乳餅、乳粉等
第四十七類 煙具及ヒ袋物
煙管、煙袋、煙管筒、懷中物等
第四十八類 紙及ヒ其製品
紙、色紙、短冊、板紙、擬革紙、壁紙、油紙、澁紙、
書筒筒、張文匣、一閑張、帳簿、元結、水引等
第四十九類 文房具
筆、墨、印肉、墨汁、石筆、鉛筆、「ペン」、「ペン」
軸、硯、墨汁壺、文鎮、筆筒、筆架等
第五十類 皮革及ヒ其製品(各種ノ靴類モ之ニ屬ス)
毛皮、柔革、馬具、文匣、革帶、靴、唐弓弦、鞆等
第五十一類 摺附木
第五十二類 油、蠟類
石油、種油、魚油、蠟、蠟燭、脂肪等
第五十三類 肥料
干鰯、鯪粕、油粕、骨粉、糠等
第五十四類 木竹材(木皮、竹皮類モ之ニ屬ス)

第五十五類 木、竹、籐類ノ製品及ヒ其漆塗、蒔繪品
類
指物、挽物、曲物、編物、組物、桶類等
第五十六類 甲、角、牙類ノ製品及ヒ其模造品
第五十七類 藁、草及ヒ他類ニ屬セサル其製品麥藁、
藁表、籬、笠、繩、麥藁真田等
第五十八類 傘、杖、履物及ヒ其附屬品
傘、蝙蝠傘、杖、下駄、草履、雪駄、鼻緒、瓜掛等
第五十九類 扇子及ヒ團扇類
第六十類 燈器(燈器ノ各部モ之ニ屬ス)
「ランプ」、燭臺、提燈等
第六十一類 齒磨及ヒ洗粉類(磨粉モ之ニ屬ス)
第六十二類 刷子及ヒ鬚類
第六十三類 玩具及ヒ遊戲具類(造花及ヒ花簪類モ之
ニ屬ス)
鞠、碁、將棊、人形、獨樂、弓、球突具、押繪、骨
牌等
第六十四類 圖書及ヒ寫真類
第六十五類 書籍、新聞紙、雜誌類
第六十六類 洋酒
葡萄酒、麥酒、「ブランデー」、「ベルモット」、「ウヰス

キー、「リキニール」等
第六十七類 他類ニ屬セル各種ノ酒類
味淋、白酒、燒酎、濁酒、龜ノ歲、直シ等
第六十八類 他類ニ屬セサル各種ノ飲料
曹達水、蜜柑水、「ラム子」、氷等
第六十九類 醬油及ヒ酢類
第七十類 燃料類
石炭、「コーク」、薪、炭、附木、燭心等
第七十一類 寢具類
寢臺、蒲團、坐蒲團、枕、蚊帳等
第七十二類 他類ニ屬セサル護謨製品
第七十三類 石鹼(三十八年農商務省令第三十號ヲ以テ第七十三
類追加)
第七十四類 他類ニ屬セル商品(同上ヲ以テ第七十三類ヲ第
七十四類ニ改ム)
第七十五類 商標法第二十一條ニ定メタル同業組合カ差出
ス書面ニハ其名稱及ヒ事務所ヲ記載シ代表者之ニ署名
捺印スヘシ
同業組合カ印章ノ登録ヲ受ケントスルトキハ其願書ニ
主務官廳ノ認可ヲ得タル旨ヲ證明スル書面ヲ添附スヘ
シ

第十七條 特許法施行細則第一條乃至第十五條、第十六
條乃至第二十六條、第二十七條、第二十七條ノ二、第
三十二條、第三十四條、第三十八條、第三十九條、第
四十八條乃至第五十九條、第六十六條乃至第六十七條
ノ四及ヒ第七十條第七十四條ノ二ノ規定ハ商標ニ關シ
テ之ヲ準用ス(三十八年農商務省令第三號ヲ以テ本條改正)
第十八條 本則ハ商標法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
三十八年農商務省令第三號附則
本令ハ明治三十八年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前登録スヘシトノ査定ヲ受ケ本令施行後ニ於テ
差出ス商標ノ印版ノ作成ニ付テハ尙ホ從前ノ規定ニ依ル
コトヲ得
本令施行前差出シタル雛形、見本又ハ證據物件ノ還付ヲ
受ケントスル者ハ本令施行後二箇月以内ニ其旨ヲ特許局
ニ申出テ特許局長又ハ審判長ノ指定シタル期間内ニ其受
取ノ手續ヲ爲スヘシ
前項ノ申出又ハ受取ノ手續ヲ怠ルトキハ特許局長ハ適宜
之ヲ處分スヘシ
書式
第一號
商標登録願

収入印紙

見本

商標ヲ附スヘキ商品
私(私共)儀前掲商標ニ付キ登録相受度(特許法施行細則第一號書式ニ準ス)此段相願候也

本籍(國籍)及ヒ住所
職業
氏 名印

年月日
特許局長氏名殿

第二號

商標續用登録願

収入印紙

見本

登録ノ番號
商標ヲ附スヘキ商品

本籍(國籍)及ヒ住所
氏 名印

年月日
特許局長氏名殿

第三號

組合標章登録願

収入印紙

見本

標章ヲ附スヘキ商品
當組合儀前掲ノ標章ヲ商標トシテ使用致度ニ付登録相受度主務官廳ノ

認可證相添此段相願候也

何府縣郡市町村番地

何々組合

何府縣郡市町村番地

代表者 氏 名印

年月日
特許局長氏名殿

第四號

登録請求書

収入印紙

一 登録商標主ノ氏名
一 登録ノ番號

私(私共)儀何某ヨリ前記商標專用權ヲ讓受ケ候ニ付登録相成度別紙契約書(遺言書)相添此段及請求候也

本籍(國籍)及ヒ住所
氏 名印

年月日
特許局長氏名殿

第五號

登録請求書

収入印紙

一 登録商標主ノ氏名
一 登録ノ番號

私(私共)儀前記商標專用權ヲ共有ト致候ニ付登録相成度別紙契約書相添此段及請求候也

本籍(國籍)及ヒ住所
共有者 氏 名印

年月日

特許局長氏名殿

第六號

商標登録證

収入印紙

見本

一 商標ヲ附スヘキ商品
前掲商標ハ特許局審査官ニ於テ登録スヘキモノト査定シタリ仍テ商標原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

本籍(國籍)及ヒ住所
氏 名

年月日

特許局長 氏 名印

第七號

外國商標登録證

収入印紙

見本

一 商標ヲ附スヘキ商品
一 專用年限
前掲商標ハ何國ノ登録商標ニシテ特許局審査官ニ於テ登録スヘキモノト査定シタリ仍テ商標原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

本籍(國籍)及ヒ住所
氏 名

年月日

特許局長 氏 名印

第八號

第何號(原登録ノ番號)

商標續用登録證

本籍(國籍)及ヒ住所
氏 名

年月日

特許局長 氏 名印

●特許意匠及商標ニ關スル手数料

(明治三十二年五月勅令第九十五號)

- 第一條 特許、意匠又ハ商標ニ關シ左ニ掲クル書類ヲ差出ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ
- 一 特許願書 每一件金五圓
 - 二 追加特許願書 每一件金三圓
 - 三 特許證改訂願書 每一件金五圓
 - 四 特許證分割願書 每一件金五圓
 - 五 意匠登録願書 每一件金一圓
 - 六 商標登録願書 每一件金三圓
 - 七 標章登録願書 每一件金三圓
 - 八 登録商標續用登録願書 每一件金二圓
 - 九 再審査請求書 每一件金三圓

十 審判請求書

每一件金十二圓

曆本十三行二十五字詰一枚ニ付金十錢、字數

一枚ニ滿タサルモノハ一枚トス

十一 書類ノ請求書

歐文書類ノ曆本ハ百語ニ付金十錢、百語ニ滿

タサルモノ亦同シ

十二 圖面ノ調製ノ請求書

圖面一枚ニ付金三十錢以上金三十圓以下ニ於

テ調製ノ難易ニ從ヒ特許局長ノ定ムル金額

十三 原簿ノ一覽ノ請求書

每一件金十錢

十四 博覽會又ハ共進會ノ出品ニ關スル屆書

每一件金二圓

第二條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附 則

第三條 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●特許、意匠又ハ商標ニ關シ差

出ス請求書、申請書ニ要スル

手数料 (明治三十八年一月)

(農商務省令第四號)

第一條 特許、意匠又ハ商標ニ關シ左ニ掲クル請求又ハ申請ヲ爲ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ

十四 相續以外ノ原因ニ因ル特許證ノ名義變更ノ請求 每一件金五圓

十五 相續以外ノ原因ニ因ル意匠登錄證ノ名義變更ノ請求 每一件金一圓

十六 相續以外ノ原因ニ因ル商標登錄證ノ名義變更ノ請求 每一件金五圓

十七 特許願書ノ名義變更請求 每一件金二圓

十八 意匠登錄願書ノ名義變更ノ請求 每一件金五拾錢

十九 商標登錄願書又ハ商標登錄願書ノ名義變更ノ請求 每一件金一圓

第二條 手数料ハ其納付スヘキ金額ニ相當スル收入印紙ヲ差出スヘキ書類ニ貼附シテ之ヲ納付スヘシ但口頭ヲ以テ前條ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ特許局官吏ノ作成シタル書面ニ貼附スヘシ

附 則

第三條 本令ハ明治三十八年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

●實用新案法 (明治三十八年二月)

(法律第二十二號)

第一章 總則

第一條 工業上ノ物品ニ關シ其ノ形狀、構造又ハ組合ハセニ係リ實用アル新規ノ考案ヲ爲シタル者又ハ之ヲ承

シ 一 期日又ハ期間變更ノ請求 每一件金二十錢

二 證明ノ請求 每一件金五十錢

三 審判ニ關スル費用ノ負擔及ヒ費用額決定ノ申請 每一件金五十錢

四 利用發明ノ特許ニ付原特許證主ニ支拂フヘキ報酬決定ノ申請 每一件金五十錢

五 相續ニ因ル特許證、意匠登錄證ノ書換又ハ名義變更ノ請求 每一件金一圓

六 特許證再下付ノ請求 每一件金三圓

七 意匠登錄證又ハ商標登錄證再下付ノ請求 每一件金一圓

八 特許證複本ノ請求 每一件金三圓

九 意匠登錄證複本又ハ商標登錄證複本下付ノ請求 每一件金一圓

十 書類雛形又ハ見本閱覽ノ請求 每一件金十錢

十一 參加ノ請求 每一件金三圓

十二 差押、假差押若クハ假處分又ハ其變更若クハ消滅登錄ノ請求 每一件金五十錢

十三 商標專用年限滿了前三箇月以内ニ於ケル商標續用登錄受理ノ請求 每一件金一圓

續シタル者ハ本法ニ依リ實用新案ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

左ノ各號ニ該當セサルモノハ新規ナルモノト看做ス

一 登錄出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ帝國内ニ於テ公ニ用非ラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二 登錄出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ公刊物ニ記載セラレタルモノ又ハ類似スルモノ

第二條 左ニ掲クル實用新案ハ之ヲ登錄セス

一 菊花御紋章又ハ之ニ類似スルモノ

二 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ

第三條 實用新案ニ關シ出願若ハ請求ヲ爲サムトスル者又ハ實用新案權者ニシテ帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ帝國内ニ住所ヲ有スル者ニ就キ代理人ヲ定メ特許局長ニ届出ツヘシ

前項ノ代理人ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ爲スヘキ手續及實用新案ニ關スル民事訟訴、私訴及告訴ニ付本人ヲ代表スルモノトス

第四條 特許局長ハ實用新案ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

第五條 特局代理者ニ非サレハ實用新案ニ關スル代理ヲ
常業トスルコトヲ得ス

第六條 實用新案ニ關シ出願又ハ請求ヲ爲シタル者本法
又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許局長又ハ審判
長ノ定ムル期間内ニ成規又ハ指定ノ手續ヲ爲ササルト
キハ特許局長又ハ審判長ハ其ノ出願又ハ請求ヲ無効ト
爲スコトヲ得

第七條 本法ニ依リ特許局ニ於テ爲ス書類ノ送付ハ書留
郵便又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條 實用新案ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ其
ノ規定ニ從フ

第二章 實用新案權

第九條 實用新案權ハ實用新案ノ登録ニ依リ發生ス

實用新案權者ハ其ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ製作、販賣、
擴布又ハ使用スル權利ヲ專有ス

第十條 實用新案權ノ存續期間ハ三箇年トス

前項ノ期間ハ三箇年間之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條 實用新案權ハ制限ヲ付シ又ハ付セスシテ之ヲ
讓渡スルコトヲ得

第十二條 實用新案權存續期間ノ延長ハ特許局長ニ請求
シテ登録ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

實用新案實施ノ許諾ヲ得タル者ニシテ特許局長ニ請求
シ其ノ登録ヲ受タルトキハ爾後其ノ實用新案權ヲ取得
シタル者又ハ其ノ實用新案權ニ付質權ヲ取得シタル者
ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第十六條 實用新案權者又ハ實用新案實施ノ許諾ヲ得タ
ル者ハ其登録實用新案ニ係ル物品ニ登録標記ヲ附スヘ
シ物品ノ性質ニ依リ之ニ標記ヲ附スルコト能ハサルト
キハ其ノ包裝上ニ之ヲ附スヘシ

標記ヲ附スルコトヲ怠リタル爲登録實用新案品ナルコ
トヲ知ラスシテ其ノ權利ヲ侵害シタル者ニ對シテハ要
償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 出願審査及登録

第十七條 實用新案ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ一實用新
案ニ付一物品毎ニ願書ニ圖面ヲ添ヘ特許局長ニ差出ス
ヘシ

特許局長ハ必要ト認ムルトキハ出願人ニ解説書、圖面、
見本又ハ雛形ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十八條 同一又ハ類似ノ實用新案ニ付テハ最先ニ出願
ヲ爲シタル者ニ非サレハ登録ヲ受クルノ權利ヲ有セス
但シ同日ノ出願ニ係ルトキハ各出願者協議シテ權利者
ヲ定ムヘシ協議調サルトキハ共ニ之ヲ登録セス

實用新案權ノ移轉又ハ質入ハ特許局長ニ請求シテ登録
ヲ受クルニ非レハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得
ス

第十三條 無効ノ審判確定シタルトキハ特許局長ハ實用
新案ノ登録ヲ取消スヘシ此ノ場合ニ於テハ實用新案權
ハ初メヨリ存立セサルモノト看做ス

實用新案權者正當ノ事由ナクシテ六箇月以上第三條ノ
手續ヲ怠リタルトキハ特許局長ハ實用新案ノ登録ヲ取
消スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ實用新案權ハ以後效力
ヲ失フ

第十四條 登録實用新案カ年ノ出願前ノ出願ニ係ル特許
發明、登録意匠又ハ登録實用新案ヲ使用スルニ非サレ
ハ實施スルコト能ハサルトキハ其ノ發明特許權者、意
匠者又ハ實用新案權者ノ許諾ヲ得タル場合ニ限り之ヲ
實施スルコトヲ得

特許發明又ハ登録意匠カ其ノ出願前ノ出願ニ係ル登録
實用新案ヲ使用スルニ非サレハ實施スルコト能ハサル
トキハ實用新案權者ノ許諾ヲ得タル場合ニ限り之ヲ實
施スルコトヲ得

第十五條 實用新案權者ハ制限ヲ付シ又ハ付セスシテ登
録實用新案ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得

第十九條 發明特許又ハ意匠登録ノ出願ヲ爲シ特許又ハ
登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル者其ノ最初ノ査定
ノ送付ヲ受ケル日ヨリ三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠
ニ係ル物品ニ付實用新案ノ登録ヲ出願シタルトキハ其
ノ發明特許又ハ意匠登録ヲ願出シタル日ニ於テ出願シ
タルモノト看做ス

第二十條 政府又ハ道府縣ノ開設シタル博覽會又ハ共進
會ニ出品スル物品ニ付其ノ出品前豫メ之ヲ特許局長ニ
届出テ博覽會又ハ共進會ニ於テ其ノ物品ヲ受領セシ日
ヨリ六箇月以内ニ其ノ實用新案ノ登録ヲ出願スルトキ
ハ先ノ届出ノ日ニ於テ登録ヲ出願シタルモノト看做ス
工業所有權ニ付帝國ト相互保護ニ關スル條約アル國ニ
於テ萬國博覽會ノ開設アルニ當リ其ノ國ニ於テ出品ニ
對シ與ヘタル登録願保護ノ期間ハ帝國內ニ於テモ有效
トス

第二十一條 實用新案登録ノ出願アリタルトキハ特許局
長ハ特許局審査官ヲシテ之ヲ審査セシムヘシ

第二十二條 特許局審査官ニ於テ査定ヲ爲シタルトキハ
特許局長ハ其ノ査定ヲ出願人ニ送付スヘシ

第二十三條 特許局審査官ハ第二條及第十八條ノ規定ニ
該當スルヤ否ニ付審査スヘシ但シ第一條ノ規定ニ該當

セサルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ理由トシテ登録拒絶ノ査定ヲ爲スヘシ

第二十四條 登録拒絶ノ査定ヲ受ケタル者之ニ不服ナルトキハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ特許局ニ再審査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ前審査ニ關與セサル特許局審査官ヲシテ之ヲ審査セシムヘシ
前條但書ニ依ル査定ニ對シ不服アル者再審査ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ特許局審査官ハ其ノ理由ニ付テモ亦審査スヘシ

第二十五條 第三十八條及第三十九條ノ規定ハ審査ニ之ヲ準用ス

第二十六條 登録スヘシトノ査定ヲ受ケタル者其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ登録ヲ請求スルトキハ特許局長ハ其ノ實用新案ヲ登録シ登録證ヲ下付スヘシ

第二十七條 實用新案ノ登録ヲ請求スル者ハ一實用新案ニ付一物品毎ニ登録料金十五圓ヲ納ムヘシ
實用新案權存續期間ノ延長ヲ請求スル者ハ一實用新案ニ付一物品毎ニ登録料金三十圓ヲ納ムヘシ

第二十八條 實用新案ニ關スル登録ハ實用新案原簿ニ之ヲ爲スヘシ

第二十九條 登録實用新案ニ關スル書類ノ謄本、登録證ノ複本、證明、圖面ノ調製又ハ書類ノ閱覽ヲ要スル者ハ其ノ事由ヲ説明シ之ヲ特許局ニ請求スルコトヲ得但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 特許局ハ實用新案公報ヲ發行スヘシ
實用新案公報ニハ登録實用新案ニ關スル重要ナル事項ヲ掲載スヘシ

第四章 審判及出訴
第三十一條 登録實用新案カ第一條第二條又ハ第十八條ノ規定ニ違フモノナルコトヲ發見シタル者ハ特許局ニ無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三十二條 登録實用新案カ互ニ撞著スルヤ否又ハ登録實用新案ト實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品ト撞著スルヤ否ニ付利害關係人ハ特許局ニ撞著ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三十三條 審判ノ請求ハ審判請求書ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ審判請求書ニハ一定ノ申立及理由ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十四條 特許局ニ於テ審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送付シ相當ノ期間ヲ指定シ答辯書ヲ差出サシムヘシ

特許局ハ必要ト認ムルトキハ相當ノ期間ヲ指定シ請求人又ハ被請求人ヲシテ辯駁書又ハ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第三十五條 審判ハ審判官三人又ハ五人ノ合議ニ依リ之ヲ行ヒ審判官中一人ヲ審判長トス

第三十六條 審判長ハ職權又ハ當事者ノ申立ニ依リ口頭審理ヲ爲スコトヲ得

口頭審理ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルトキハ此限ニ在ラス

第三十七條 審判請求人又ハ被請求人成規又ハ指定ノ期間内ニ答辯書又ハ辯駁書ヲ差出サス其ノ他指定ノ手續ヲ爲サス又ハ口頭審理期日ニ出頭セサルトキハ審判長ハ直ニ審判ヲ終結スルコトヲ得

第三十八條 審判ニ關シ必要アルトキハ特許局ハ職權又ハ當事者ノ申立ニ依リ證據調ヲ爲シ且當事者ノ申立サル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

前項證據調ハ區裁判所又ハ臺灣地方法院其ノ他裁判事務ヲ行フ官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第三十九條 證據調ニ付テハ民事訴訟法中證據調ニ關スル規定ヲ準用ス但シ特許局ニ於テ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得

第四十條 審判ニ關スル費用ノ負擔ハ終局審決ニ依リ之ヲ定ム

費用ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法中訴訟費用ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十一條 審決アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ當事者ニ送付スヘシ

第四十二條 終局審決ニ對シ不服アル者ハ其ノ審決カ法律ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルコトヲ理由トスルトキニ限り審決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ出訴及裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十三條 大審院ニ於テ出訴ヲ理由アリトスルトキハ原審決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲事件ヲ特許局ニ差戻スヘシ

大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付表シタル意見ハ其ノ事件ニ關シ特許局ヲ羈束スルモノトス

第四十四條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付實用新案權ニ關シテ爭アル場合ニ於テ裁判所ハ第三十一條又ハ第三十二條ノ請求ニ依ル審決ノ確定ニ至ル迄其ノ訴訟ヲ中止スルコトヲ得

第四十五條 審判及出訴ノ費用額ニ關シテハ民事訴訟費用法ヲ準用シ特許局長請求ニ依リ之ヲ決定ス
前項ノ決定ハ強制執行ニ關シテハ公證人ノ作リタル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ特許局官吏之ヲ付與ス

第五章 罰則

第四十六條 實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ偽造、模造シ又ハ偽造品、模造品ヲ販賣、擴布若ハ使用シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ト同一又ハ類似ノモノナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シタル者ハ罰前項ニ同シ
本條ノ犯罪ハ實用新案權者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第四十七條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ偽造品、模造品、輸入品ハ之ヲ沒收シ實用新案權者ニ給付ス

第四十八條 詐偽ノ所爲ヲ以テ實用新案ノ登録ヲ受ケタル者又ハ實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品又ハ其ノ包装上ニ實用新案登録ノ標記ヲ附シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

ノ罰金ニ處ス

實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品ヲ販賣又ハ擴布スル爲廣告、看板、引札等ニ於テ實用新案登録品タルニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十九條 證人、鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル區裁判所又ハ臺灣地方法院其ノ他裁判事務ヲ行フ官廳ニ對シ偽證又ハ詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シ偽證又ハ詐偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ
前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル區裁判所又ハ臺灣地方法院其ノ他裁判事務ヲ行フ官廳ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第五十條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第五十一條 本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

ス

第五十二條 左ノ場合ニ於テハ發明特許又ハ意匠登録ノ出願ヲ爲シタル日ヲ以テ第十四條及第十八條ノ適用上實用新案ノ登録出願ノ日ト看做ス

一 本法施行前一箇年以内ニ於テ發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シ本法施行前特許スヘカラス又ハ登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル者本法施行後三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品ニ付實用新案ノ登録ヲ出願シタルトキ

二 本法施行前發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シ本法施行後ニ於テ特許スヘカラス又ハ登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル者其ノ査定ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル物品ニ付實用新案ノ登録ヲ出願シタルトキ

●實用新案法施行規則 (明治三十八年四月農商務省令第十四號)

第一章 總則

第一條 實用新案ニ關シ出願、請求、届出等ヲ爲ス者ハ一件毎ニ書面一通ヲ作り住所及差出ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名捺印シテ差出スヘシ但シ書類ノ謄本、圖面ノ副製又ハ書類、雛形若ハ見本閱覽ノ請求ハ口頭ヲ以テ

之ヲ爲スコトヲ得

關係人又ハ相手方アル場合ニ於テハ其ノ員數ニ應スル副本ヲ添附スヘシ

第二條 書面ハ日本語ヲ以テ明瞭ニ之ヲ認ムヘシ委任狀、國籍證明書等ニシテ外國語ヲ以テ認メタルモノニハ其ノ譯文ヲ添附スヘシ

第三條 登録出願後又ハ登録後其ノ出願又ハ登録實用新案ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ其ノ願書番號又ハ登録番號及實用新案ノ名稱ヲ記載シ審判請求中ノ事件ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ヲ審判番號ニ記載スヘシ

第四條 書留郵便ヲ以テ實用新案ニ關スル願書、請求書、實用新案法第二十條第一項ノ規定ニ依ル届書及實用新案法又ハ本則ノ規定ニ依リ期間ヲ定メタル書類ヲ差出シタルトキハ其ノ書類ノ差出日時ハ發送郵便局ヨリ交付シタル書留郵便物受取證ニ記載シタル日時ニ依リ之ヲ定ム

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル書類、雛形又ハ見本ハ之ヲ受理セス

一 實用新案法又ハ本則ニ定メタル方式ニ違背シタルモノ

二 登録税又ハ手数料ヲ納付セサルモノ
 三 實用新案法若ハ本則ニ定メタル期間又ハ實用新案法若ハ本則ノ規定ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定メタル期日若ハ期間ヲ過キタルモノ
 特許局ニ於テ受理シタル書類、雛形又ハ見本カ前項第一號若ハ第二號ニ該當スルトキ又ハ不明瞭若ハ不完備ナルトキハ特許局長又ハ審判長ハ其ノ訂正、補充又ハ改造ヲ命スルコトヲ得但シ出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノハ此ノ限ニ在ラス
 書損及之ニ類スル著シキ誤謬ヲ訂正又ハ補充スルハ出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノト看做サス
 書損及之ニ類スル著シキ誤謬アルトキハ特許局長又ハ審判長ハ適宜之ヲ訂正又ハ補充スルコトヲ得
 第六條 實用新案ニ關スル出願、請求、届出等ヲ爲シタル者ハ其ノ差出シタル書類、雛形又ハ見本ヲ訂正、補充又ハ改造スルコトヲ得但シ出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノ又ハ審査若ハ審判ノ繫屬中ニ在ラサルモノハ此ノ限ニ在ラス
 審査又ハ審判ノ繫屬中書損及之ニ類スル著シキ誤謬ヲ訂正又ハ補充スルハ出願、請求、届出等ノ要旨ヲ變更スルモノト看做サス

第七條 外國人又ハ外國法人ニシテ實用新案ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ外國人ニ在リテハ國籍證明書、外國法人ニ在リテハ國籍及法人タルコトノ證明書ヲ差出スヘシ但シ帝國内又ハ萬國工業所有權保護同盟條約國內ニ住所又ハ現實且真誠ナル工業的若ハ商業的ノ營業所ヲ有スルコトヲ證明スル者ハ國籍證明書ヲ差出スコトヲ要セス
 第八條 工業所有權ニ付帝國ト相互保護ニ關スル條約アル國以外ノ國ノ臣民、人民又ハ法人ニシテ實用新案ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ帝國内又ハ萬國工業所有權保護同盟條約國內ニ住所又ハ現實且真誠ナル工業的若ハ商業的ノ營業所ヲ有スルコトヲ證明書ヲ差出スヘシ
 第九條 同時ニ數箇ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ前二條ニ依リ差出ス證明書ハ一通ヲ差出シ之ヲ添附セサル書面ニハ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ得
 第十條 前三條ノ場合ニ於テ他ノ事件ニ付特許局ニ對シ既ニ證明書ヲ差出シタルモノナルトキ其ノ他特許局長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ證明書ノ差出ヲ免除スルコトヲ得
 第十一條 實用新案ヲ承繼シタル者ヨリ其ノ承繼シタル

實用新案ノ登録前出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ其ノ承繼ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ但シ其ノ事由ヲ附記シ被承繼者ト連署スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
 第十二條 代理人カ實用新案ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ其ノ代理權ヲ證明スル書面ヲ差出スヘシ但シ法人ノ代表者其ノ法人ノ名義ヲ以テスルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第十三條 實用新案法第三條第一項ニ依リ出願ノ際届出タル代理人ノ代理權ハ別段ノ明記ナキトキハ實用新案ノ登録後尙ホ存續スルモノト推定ス
 第十四條 實用新案法第四條ニ依リ代理人ノ改任ヲ命シタルトキハ特許局長ハ其ノ旨ヲ代理人ニ通知スヘシ
 第十五條 數人共同シテ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキ又ハ實用新案權ヲ共有スルトキハ代表者一人ヲ選定シテ其ノ旨ヲ届出テ又ハ之ヲ書類ニ記載スヘシ其ノ届出又ハ記載ナキトキハ各人互ニ代表スルモノト看做ス
 前項ノ代表者ハ處分行爲ヲ除クノ外特許局ニ對シ全權ヲ有スルモノト看做ス
 第十六條 實用新案ニ關スル出願、請求、届出等ヲ爲シ

タル者、實用新案權者又ハ其ノ代理人若ハ代表者カ其ノ氏名、名稱、住所若ハ印章ヲ變更シタルトキ又ハ其ノ代理人若ハ代表者ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ツヘシ
 第九條及第十條ノ規定ハ前項ノ證明書ニ關シ之ヲ準用ス
 第十七條 特許局長又ハ審判長ハ職權ヲ以テ又ハ當事者ノ請求ニ依リ本則ニ定メタル期間又ハ實用新案法若ハ本則ノ規定ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定メタル期日若ハ期間ヲ變更スルコトヲ得但シ相手方其ノ他ノ關係人アル事件ノ期日又ハ期間ノ變更ノ請求ニ對シテハ當事者合意ノ申立ニ依リ又ハ顯著ナル理由アリト認ムル場合ノ外之ヲ許可セス
 第十八條 實用新案ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ニ關シ特許局長又ハ審判長ノ命ニ依リ差出スヘキ書面ノ調製ヲ特許局長ニ請求シ成規ノ手数料ヲ納付シタルモノニ付テハ其ノ手数料納付ヨリ特許局ニ於テ圖面ノ發送ヲ爲ス迄ノ期間ハ特許局長又ハ審判長ノ指定シタル期間ニ之ヲ算入セス

第十九條 圖面調製ノ請求ヲ爲ス者ハ同時ニ雛形、見本又ハ下圖ヲ差出スヘシ但シ特許局ニ存スル雛形、見本又ハ圖面ニ依リ調製スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 差出シタル雛形、見本又ハ證據物件ノ還付ヲ受ケシムル者ハ差出ノ際豫メ其ノ旨ヲ申出ツヘシ前項ノ申出ヲ爲シタル者ハ事件確定ノ日ヨリ六十日以内ニ其ノ受取ノ手續ヲ爲スヘシ但シ雛形又ハ見本ニシテ特許局長ニ於テ必要ト認ムルモノハ之ヲ還付セス差出人前項ノ手續ヲ怠ルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘシ

第二十一條 實用新案ニ關スル査定、審決又ハ決定ノ送付ハ査定書、審決書又ハ決定書ノ謄本ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十二條 特許局ノ使丁ヲ以テ爲ス書類ノ送付ヲ受ケタル者ハ其ノ受領ノ日時ヲ記載シタル受取證ヲ使丁ニ交付スヘシ

第二十三條 實用新案法第三條第一項ノ届出ヲ怠リタル者ニ對スル書類ノ送付ハ郵便ニ付シタル日ヲ以テ完了シタルモノト看做ス

第二十四條 住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ因リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ特許局長又ハ審判長ハ官報ヲ以テ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ

此ノ場合ニ於テハ官報掲載ノ日ヨリ二十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第二十五條 登録實用新案ニ關スル雛形又ハ見本ノ閱覽ヲ要スル者ハ其ノ事由ヲ説明シ之ヲ特許局ニ請求スルコトヲ得但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 實用新案法第二十條第一項ノ規定ニ依ル届書ニハ圖面ヲ添付スヘシ

第二十七條 實用新案法又ハ本則ノ規定ニ依リ出願、請求又ハ届出ヲ爲スニ當リ登録料又ハ手数料ヲ納付スヘキ場合ニハ出願、請求又ハ届出ノ書類ニ其ノ料金ニ相當スル收入印紙ヲ貼附シテ差出スヘシ但シ口頭ヲ以テ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ特許局官吏ノ作成シタル書面ニ收入印紙ヲ貼附スヘシ

第二章 出訴及審査

第二十八條 實用新案登録願書ニハ實用新案ノ名稱、登録請求範圍、考案者ノ氏名、住所及職業ヲ記載スヘシ

第二十九條 實用新案法第二十條第一項ノ規定ニ依ル實用新案登録願書ニハ博覽會又ハ共進會ニ於テ物品ヲ受領シタル日時ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

實用新案法第二十條第二項ノ規定ニ依ル登録願書ニハ

其ノ出願ニ係ル實用新案ニ付萬國博覽會ヲ開設シタル國ニ於テ與ヘタル登録願保護期間ヲ有スルコトノ證明書ヲ添付スヘシ

第三十條 實用新案法第十九條ノ規定ニ依ル實用新案登録願書ニハ發明特許又ハ意匠登録ノ出願ニ對スル最初ノ査定書ノ謄本ヲ添付スヘシ

第三十一條 圖面ハ左ノ各號ニ準據シテ之ヲ調製シ實用新案ヲ簡明ニ表示シ其ノ説明ヲ附記スヘシ但シ其ノ説明ハ之ヲ別紙ニ記載シ圖面ノ一部トシテ差出スコトヲ得

一 圖面ハ強靱ニシテ平滑ナル白紙又ハ トレンシングペーパー 布ヲ用非凡ソ其ノ上部曲尺六分、下部四分、左二分、右一寸四分ヲ餘シ縱曲尺八寸横四寸八分ノ面内ニ濃墨ニテ鮮明ニ調製シ著色スヘカラス

二 圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ番號ヲ附シ同一部ニシテ數圖ニ亘ルモノアルトキハ同一ノ符號ヲ用非

三 番號及符號ハ濃墨ニテ明瞭ニ記載スヘシ

符號ヲ直チニ圖ニ施スコト能ハサルトキハ其ノ部分ヨリ少シク離シテ之ヲ記載シ點線又ハ細線ヲ以テ其ノ部分ト符號トヲ接續シ陰ヲ施シタル上ニハ符號ヲ記載スルヲ得ス其ノ止ムヲ得サル場合ニ在

リテハ符號ヲ記載スヘキ部分ニ限リ陰ヲ施スヘカラス

四 截斷面ヲ現ハスニハ平行線ヲ斜ニ引キ截斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方面ヲ異ニシタル斜線ヲ用ユヘシ

五 凹凸ノ部分明ヲ瞭ナラシムル爲圖面ニ陰ヲ施ス必要アルトキハ線ヲ用非簡明ニ之ヲ畫キ射影ヲ施スヲ避クヘシ

六 圖面ニハ出願人署名捺印シ本則ニ定ムル以外ノ事項ヲ記載スヘカラス

第三十二條 雛形及見本ハ堅牢ナル材料ヲ用非曲尺一尺立方以内ニ於テ之ヲ作ルヘシ但シ此ノ制限ニ從ヒ難キ雛形及見本ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

雛形及見本カ破損、變化又ハ紛失シ易キモノナルトキハ差出人ニ於テ相當ノ手當ヲ施スヘシ

第三十三條 解説書ニハ實用新案ニ付詳細ナル説明ヲ記載スヘシ

第三十四條 實用新案登録願ヲ分割セムトスル者ハ其ノ分割部分ニ對シ新ナル出願ヲ爲シ同時ニ前出願ヲ訂正スヘシ

前項ノ場合ニ於ケル新ナル出願ハ最初出願ノ日ニ於テ

爲シタルモノト看做ス

第三十五條 發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シタル者ハ其ノ出願ニ對シ最初ノ査定ヲ受ケタル場合ニ限リ其ノ出願ヲ實用新案登録願ニ變更ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前出願ヲ訂正スヘシ
前項ニ依リ變更シタル實用新案登録願ハ最初出願ノ日ニ於テ爲シタルモノト看做ス

第三十六條 實用新案登録願書又ハ前條ノ變更請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ願書番號ヲ出願人ニ通知スヘシ

第三十七條 同日ノ出願ニ係ル同一又ハ類似ノ實用新案アリタルトキハ特許局長ハ一定ノ期間ヲ指定シ其ノ期間内ニ協議ヲ了シ権利者ヲ定メ届出ツヘキ旨ヲ關係出願人ニ通知スヘシ
前項ノ期間内ニ届出ナキトキハ協議調ハサルモノト看做ス

第三十八條 登録前其ノ出願ノ實用新案ニ關スル權利ヲ承繼シタル者ハ願書ノ名義變更ヲ特許局長ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第十一條ノ規定ヲ準用ス

前項ニ因リ願書ノ名義變更アリタルトキハ其ノ出願ニ關シ差出シタル請求書其ノ他ノ書類ノ名義モ變更アリタルモノト看做ス

第三十九條 査定書ニハ左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

- 一 願書番號
- 二 實用新案ノ名稱
- 三 出願人又ハ再審査請求人ノ氏名又ハ名稱
- 四 査定ノ主文及理由
- 五 査定ノ年月日

第三章 登録

第四十條 實用新案權存續期間ノ延長ヲ請求セムトスル者ハ存續期間満了ノ日ヨリ一箇月以前ニ登録請求書ヲ特許局長ニ差出スヘシ

前項ノ期間満了ノ後ト雖存續期間満了以前ニ在リテハ特ニ手数料ヲ納付シ前項請求書ノ受理ヲ請求スルコトヲ得

登録請求書ニハ登録證ヲ添附スヘシ

第四十九條 第一項但書ノ規定ハ本條ノ請求ニ關シ之ヲ準用ス

第四十一條 登録料ノ納付アリタルトキハ特許局長ハ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

第四十二條 實用新案權存續期間延長ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其ノ登録ヲ了セシ後第八號書式ニ依ル

登録證ヲ下付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ特許局長ハ原登録證ニ其ノ旨ヲ附記シ之ヲ下付スルコトヲ得

第四十三條 登録證ハ前條又ハ第四十五條第二項ニ依ル下付及第四十七條ニ依ル再下付ノ場合ヲ除ク外第九號書式ニ依リ之ヲ作成シ圖面ヲ添附スヘシ

第四十四條 登録前其ノ出願ノ實用新案ニ關スル權利ヲ承繼シタル者ニシテ其ノ登録前願書ノ名義變更ノ請求ヲ爲サザリシ者ハ登録證ノ名義變更ヲ特許局長ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ請求書ニ承繼ヲ證スル書面及登録證ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ但シ承繼ヲ證スル書面ハ確定日付アル私署證書又ハ公正證書ヲ用ユヘシ

第四十九條 第二項ノ規定ハ本條ノ請求ニ關シ之ヲ準用ス

第四十五條 前條第四十條及第四十九條ノ場合ニ於テ登録證又ハ登録證複本ヲ差出スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ證明シ登録證ノ名義變更又ハ登録ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由アリト認ム

ルトキハ特許局長ハ新ニ登録證ヲ作製シテ之ヲ請求人ニ下付スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊登録證又ハ登録證複本ハ無効トス此ノ場合ニ於テハ特許局長ハ其ノ旨ヲ實用新案公報及官報ヲ以テ公告スヘシ

第四十六條 登録證複本、第四十五條第二項又ハ第四十七條ニ依リ下付スル登録證ニハ第五十三條第一號乃至第三號及第四號、第十號、第十六號、第十七號又ハ第十八號ニ規定シタル事項、讓渡ニ付シタル制限アルトキハ其ノ制限、共有者ノ持分ノ定アルトキハ其ノ持分、實用新案權ノ質入アルトキハ其ノ質入ニ關シ第九號ニ規定シタル事項ヲ記載シ登録證複本ニ付テハ尙ホ其ノ複本ナルコト及其ノ番號ヲ記載スヘシ

第四十七條 登録證カ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事實ヲ疏明シ登録證ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得

第四十八條 無効審決カ確定シタルトキハ登録證又ハ登録證複本ノ所持者ハ遲滞ナク其ノ登録證又ハ登録證複本ヲ返納スヘシ

第四十九條 實用新案法第十二條第二項ニ定メタル登録ヲ受ケムトスル者ハ請求書ヲ作り登録原因ヲ證スル書面及登録證ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ但シ實

用新案權ノ共有者又ハ制限付讓受人ニシテ登録證ヲ所持セサル者ノ承繼人ハ其ノ被承繼人ノ下付ヲ受ケタル登録證複本ヲ差出シテ登録證ノ差出ニ代フルコトヲ得前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ登録シタル後登録事項ヲ登録證又ハ登録證複本ニ記載シ之ヲ還付スヘシ

第五十條 實用新案法第十五條第二項ニ依ル實施許諾ノ登録ヲ請求セムトスル者ハ請求書ヲ作り實施許諾ヲ證スル書面及登録證ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ但シ承諾ヲ爲シタル旨、制限ノ有無及其ノ範圍ヲ附記シ許諾者ト連署スル場合ニ在リテハ實施許諾ヲ證スル書面ノ添附ヲ要セス

前條第一項但書及第二項ノ規定ハ本條ノ請求ニ關シ之ヲ準用ス

第五十一條 裁判所ニ於テ實用新案權ニ對シ差押、假差押又ハ假處分アリタルトキハ當事者ハ其ノ登録ヲ請求スルコトヲ得其ノ登録後變更若ハ消滅アリタル場合亦同シ

前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ請求書ニ登録原因ヲ證スル書面及其ノ謄本ヲ添附シ特許局長ニ差出スヘシ前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ登録シ登録

原因ヲ證スル書面ニ其ノ旨ヲ記入シ之ヲ請求人ニ還付スヘシ

第五十二條 第四十四條第四十九條又ハ第五十條ニ依リ請求ヲ爲サムトスル場合ニ於テ承繼、登録原因又ハ實施許諾ヲ證スル書面ノ還付ヲ受ケムトスルトキハ實用新案權者又ハ請求人カ署名捺印シテ原本ト相違ナキコトヲ認證シタル謄本ヲ添附シテ差出スヘシ

第五十三條 實用新案原簿ニハ左ノ事項ヲ登録スヘシ

- 一 登録番號
- 二 實用新案ノ名稱
- 三 實用新案權者ノ氏名若ハ名稱及住所、外國人又ハ外國法人ニ在リテハ其ノ國籍
- 四 實用新案權存續期間ノ延長ニ付テハ其ノ事由
- 五 實用新案權ノ相續ニ付テハ其ノ事由
- 六 實用新案權ノ讓渡ニ付テハ其ノ事由、制限ヲ付シタルトキハ其ノ制限
- 七 實用新案權ノ共有ニ付テハ其ノ事由、持分ノ定マラルトキハ各共有者ノ持分
- 八 相續、讓渡、共有以外ノ原因ニ因ル實用新案權ノ移轉ニ付テハ其ノ事由
- 九 實用新案權ノ質入ニ付テハ債權額、其ノ利息、辨

第五十五條 審判請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 請求人及被請求人ノ氏名若ハ名稱及住所
- 二 審判事件ノ表示
- 三 一定ノ申立及理由
- 四 答辯書又ハ辯駁書ニハ前項第一號及第二號ノ外答辯又ハ辯駁ノ要旨及理由ヲ記載スヘシ
- 五 第五十六條 數人ノ所有ニ係ル實用新案權ニ付キ實用新案權者ニ對シ審判ヲ請求セムトスルトキハ其ノ各所有者ヲ以テ被請求人ト爲スヘシ
- 五十七條 審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ番號ヲ當事者ニ通知スヘシ

第五十八條 審判請求後實用新案權カ他人ニ移轉スルモ其ノ審判ニ影響ヲ及ボスコトナシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ移轉カ全部ナルトキハ承繼人ハ相手方ノ同意ヲ得テ被承繼人ニ代リ當事者ト爲リ其ノ移轉カ一部ナルトキハ承繼人ハ相手方ノ同意ヲ得テ被承繼人ト共ニ當事者ト爲リ以後ノ手續ヲ履行スルコトヲ得但シ承繼カ相續ニ原因スルトキハ其ノ承繼人ハ當然當事者ト爲ルモノトス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ承繼及相手方ノ同意ヲ證スル書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ審判長ニ届出ツヘシ但シ前項但書

濟期、質權ノ順位及質權設定ノ年月日

十 實用新案權ノ實施許諾ニ付テハ其ノ事由、制限ヲ付シタルトキハ其ノ制限

十一 實用新案權ノ差押、假差押、假處分又ハ其ノ變更若ハ消滅ニ付テハ其ノ事由

十二 帝國內ニ住所ヲ有セサル實用新案權者ノ代理人ノ氏名住所

十三 第十五條ニ依リ届出テ又ハ書類ニ記載シタル代表者ノ氏名及住所

十四 實用新案ニ係ル審判ノ請求及其ノ確定ニ付テハ其ノ事由及年月日

十五 實用新案權ノ消滅ニ付テハ其ノ事由及年月日

十六 登録證ノ再下付ニ付テハ其ノ事由及年月日

十七 登録證複本ノ下付ニ付テハ其ノ事由、年月日並請求人ノ氏名若ハ名稱及住所

十八 第四十五條ニ依ル登録證ノ下付ニ付テハ其ノ事由及年月日

十九 登録ノ年月日

第五十四條 登録事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項カ消滅シタルトキハ其ノ變更又ハ消滅ノ登録ヲ爲スヘシ

第四章 審判

ノ場合ニ於テハ相手方ノ同意ヲ證スル書面ノ添附ヲ要セス

第五十九條 審判長必要ト認ムルトキハ當事者ニ對シテ訊問書ヲ發シ相當ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

審判長カ前項ノ答辯書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付スヘシ關係人カ任意ニ差出シタル答辯書、辯駁書其ノ他ノ申立書ニシテ審判長カ必要ト認メタル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ相手方ニ對シ答辯書又ハ意見書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第六十條 審判請求書、答辯書、辯駁書、意見書其ノ他ノ申立書及其ノ訂正又ハ追加ニ關スル書類ヲ差出ストキハ之ニ記載シタル事實ノ證明ニ必要ナル證據物件ヲ添附スヘシ

第六十一條 他人ノ間ニ成立セル審判ノ結果ニ因リ權利上利害關係ヲ有スル者ハ其ノ審判ノ終結スル迄一方ヲ補助スル爲其ノ審判ニ參加セムコトヲ特許局ニ請求スルコトヲ得

參加人ハ其ノ參加ノ時ニ於ケル審判ノ程度ヲ妨ケサル限ハ其ノ主ナル請求人又ハ被請求人ノ爲ニ攻撃又ハ防禦

ノ方法ヲ施用シ其ノ他審判ニ關スル總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ補助スル當事者ノ行爲ト抵觸スルモノハ其ノ效ナシ

第六十二條 參加ノ請求ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ審判長ニ差出シテ之ヲ爲スヘシ

- 一 當事者
 - 二 審判事件ノ表示
 - 三 利害關係
 - 四 參加ノ申立
- 審判長前項ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ當事者ニ送付スヘシ

第六十三條 請求人又ハ被請求人參加ニ付異議ヲ述ルトキハ當事者及參加請求人ヲ審訊シタル後參加ノ許否ヲ決ス

第六十四條 特許局ハ當事者ノ雙方又ハ一方ノ同一ナル審判ニ付其ノ審理若ハ審決ヲ併合シ又ハ之ヲ分離スルコトヲ得

第六十五條 口頭審判ヲ爲ストキハ審判長ハ期日ヲ定メ之ヲ當事者雙方ニ通知スヘシ

第六十六條 口頭審判ニ於テハ日本語ヲ用ユヘシ但シ日本語ニ適セサル者ハ通事ヲ用ユルコトヲ得

第六十七條 口頭審判ニ於テハ調書ヲ作り審判長及之ヲ作リタル官吏署名捺印スヘシ

第六十八條 審判ヲ請求シタル者ハ審判請求書カ相手方ニ送付セラレサル間ハ相手方ノ承諾ヲクシテ請求ヲ取下クルコトヲ得但シ相手方ニ送付セラレタル後ハ相手方ノ承諾ヲ經スシテ其ノ請求ヲ取下クルコトヲ得ス

審判請求書カ相手方ニ送付セラレタル後ニ於テ請求ノ取下アリタルトキハ特許局長ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

第六十九條 審決書ニハ左ノ事項ヲ記載シ審判官之ニ署名スヘシ

- 一 審判番號
- 二 當事者ノ氏名若ハ名稱及住所
- 三 審判事件ノ表示
- 四 當事者陳述ノ要領
- 五 審決ノ主文及理由
- 六 審決ノ年月日

第七十條 實用新案法第四十二條ニ依リ大審院ニ出訴シタル者ハ遲滞ナク其旨ヲ特許局長ニ届出ツヘシ

第七十一條 審判及出訴ニ關スル費用額ノ決定ヲ受ケムトスル者ハ請求書ヲ作り費用計算其ノ他必要ナル書ヲ

類ヲ添附シテ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

特許局長必要ト認ムルトキハ相手方ノ意見ヲ聞クコトヲ得

費用額ノ決定アリタルトキハ特許局長ハ其ノ決定ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ

第七十二條 實用新案法第四十五條第二項但書ニ依リ執行力アル正本ヲ附與スル特許局官吏ハ特許局審判課ニ於ケル特許局屬トス

附 則

第七十三條 實用新案法第五十二條ノ規定ニ依ル實用新案登錄願書ニハ發明特許又ハ意匠登錄ノ出願ニ對スル査定書ヲ添附スヘシ

第七十四條 本則ハ實用新案法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

書式

第一號

實用新案登錄願

收入印紙

- 一 實用新案ノ名稱
- 一 登錄請求範圍
- 一 考案者氏名住所及職業(出願人カ考案者ナルトキハ記載スルヲ要セス)
- 私(私共)權利範圍(記載スル物品ニ付實用新案登錄相受度(實用新案法第

十九條又ハ第五十二條ニ依ル出願ナルトキハ別紙査定書又ハ別紙査定書ノ原本同二十條ニ依ル出願ナルトキハ別紙證明書) 相添此段及出願候也

年月日 特許局長氏名殿

本籍(國籍)住所職業 氏 名印

第二號

存續期間延長登錄請求書

收入印紙

一 登錄番號

一 實用新案ノ名稱

私(私共) 儀前記實用新案權ニ付存續期間延長ノ登錄相受度別紙登錄證(登錄證複本) 相添此段及請求候也

年月日

本籍(國籍)住所 氏 名印

第三號

實用新案出品届

收入印紙

一 實用新案ノ名稱

私(私共) 儀別紙圖面ニ記載スル實用新案ニ係ル物品ヲ何年何月何日ヨリ何處ニ於テ政府(道、何府、何縣)ノ開設スル博覽會(共進會)ニ出品可致候ニ付實用新案法第二十條ノ規定ニ依リ此段及御届候也

本籍(國籍)住所

氏 名印

第四號

出願變更請求書

收入印紙

一 願書番號

一 發明(意匠)ノ名稱

私(私共) 儀前記發明特許願(意匠登錄願)ヲ實用新案登錄願ニ變更致度候間實用新案法施行規則第三十五條ニ依リ此段及請求候也

年月日

本籍(國籍)住所 氏 名印

第五號

登錄請求書

收入印紙

一 登錄番號

一 實用新案ノ名稱

一 實用新案權者ノ氏名又ハ名稱

私(私共) 儀何某ヨリ前記實用新案權(持分)ヲ相繼(讓受)(買取)候ニ付登錄相受度別紙證明書(及其ノ謄本)並登錄證(登錄證複本) 相添此段及請求候也

本籍(國籍)住所

氏 名印

第八號

第 號(原 登錄番號)

存續期間延長登錄證

本籍(國籍)住所

氏 名(名稱)

一 實用新案ノ名稱

前記實用新案權ニ付存續期間ノ延長ヲ實用新案原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年月日

特許局長 氏 名印

第九號

第 號

實用新案登錄證

本籍(國籍)住所

氏 名(名稱)

一 實用新案ノ名稱

前記實用新案ハ特許局審査官ニ於テ登錄スヘシト査定シタリ仍テ實用新案簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年月日

特許局長 氏 名印

●實用新案ニ關スル手数料ノ件

第一條 實用新案ニ關シ出願、請求又ハ届出ヲ爲ス者ハ (明治三十八年三月勅令第五十三號)

第六號

登錄請求書

收入印紙

一 登錄番號

一 實用新案ノ名稱

私(私共) 儀前記實用新案權ヲ共有ト致候ニ付登錄相受度別紙證明書(及其ノ謄本)並登錄證(登錄證複本) 相添此段及請求候也

年月日

本籍(國籍)住所 共有者 氏 名印

特許局長氏名殿

第七號

登錄請求書

收入印紙

一 登錄番號

一 實用新案ノ名稱

一 實用新案權者ノ氏名又ハ名稱

私(私共) 儀何某ヨリ前記實用新案權ニ付實施許諾ヲ得候ニ付登錄相受度別紙證明書(及其ノ謄本)並登錄證(登錄證複本) 相添此段及請求候也

●實用新案ニ關シ差出ス請求

書ニ要スル手数料 (明治三十八年四月農商務省令第十五號)

一六〇

左ニ掲クル所ニ依リ手数料ヲ納付スヘシ

- 一 登録出願 每一件金二圓
 - 二 再審査請求 每一件金三圓
 - 三 審判請求 每一件金十二圓
 - 四 費用額決定ノ請求 每一件金五十錢
 - 五 費用額決定ノ請求ノ執行アル正本ノ請求 每一件金五十錢
 - 六 書類謄本ノ請求
 - 謄本十三行二十五字詰一枚ニ付金十錢字數一枚ニ滿タサルモノハ一枚トス歐文書類ノ謄本ハ百語ニ付金十錢百語ニ滿タサルモノ亦同シ
 - 七 登録證複本ノ請求 每一件金一圓
 - 八 證明ノ請求 每一件金五十錢
 - 九 圖面ノ調製ノ請求
 - 圖面一枚ニ付金三十錢以上金三十圓以下ニ於テ調製ノ難易ニ從ヒ特許局長ノ定ムル金額
 - 十 書類閱覽ノ請求 每一件金十錢
 - 十一 博覽會又ハ共進會ノ出品ニ關スル屆出 每一件金二圓
- 第二條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ
- 附 則
- 本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 第一條 實用新案ニ關シ左ノ請求ヲ爲ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納付スヘシ
- 一 登録願書ノ名義變更ノ請求 每一件金一圓
 - 二 出願變更ノ請求 每一件金一圓
 - 三 期日又ハ期間ノ變更ノ請求 每一件金二十錢
 - 四 參加ノ請求 每一件金三圓
 - 五 相續ニ因ル登録ノ名義變更請求 每一件金一圓
 - 六 相續以外ノ原因ニ因ル登録證ノ名義變更ノ請求 每一件金五圓
 - 七 登録證再下付ノ請求 每一件金二圓
 - 八 存續期間滿了前一箇月以内ニ於ケル存續期間延長登録ノ請求 每一件金一圓
 - 九 差押、假差押假廢ノ請求 其ノ變更若ハ消滅ノ登録ノ請求 每一件金五十錢
 - 十 雛形又ハ見本ノ閱覽ノ請求 每一件金十錢
- 第二條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ
- 附 則
- 第三條 本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

